| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 吉田絃二郎 | 山家日記 | 四六判並製 | 277 | 一、五〇 | 早稻田大學出版部 | 十二月 | ▲秋の山をたづねて、日本の土と人の言葉、山家日記、大隅のかなたへ、一茶の故郷まで天城の春外卅篇。 | |
| 荻原井泉水 | 京洛小品 | 四六判上製函入 | 307 | 一、八〇 | 創元社 | 十二月 | ▲嵯峨散策、月二夜、時雨の頃、御庭拜見、大原まで、納涼二題、梅咲く頃、桃を尋ねて晩春半日其他の小品集。 | |
| 前田河廣一郎 | 惡漢と風景 | 四六判並製 | 325 | 一、二〇 | 改造社 | 八月 | ▲日本そこ此處、近世大盜女盜傳、脫獄囚の研究、スパイ考、剝製の紐育、大きく動く支那其他の隨筆集。 | |
| 西條八十 | 哀しき破片 | 菊半截並製 | 196 | 五〇 | 資文堂 | 七月 | ▲博多人形（博多人形、瓜、蛾外十三篇）波浮の女（印度洋の星、氷外六篇）おもひ出の土地（卅、夜の詩外四篇）の隨筆感想集。 | 昭和文庫(1)　隨筆感想 |
| 文藝家協會編 | 詩と隨筆第二集 | 四六判並製 | 346 | 一、五〇 | 新潮社 | 五月 | ▲生田春月外十四氏の詩及散文詩、上海的隨筆（井東憲）實寫映畫の歸趨（飯島正）獨活の立山溫泉（石川欣一）外十九氏の隨筆を收む。 | 昭和四年版 |
| 内田魯庵 | 蠹魚之自傳 | 四六判布函入 | 331 | 一、八〇 | 春秋社 | 十月 | ▲文獻の保存上心得べき事を克明に述べたもので、蠹魚の自傳、永遠に償はれない文化的損失外十一篇。 | |
| 法學博士 信夫淳平 | 反古草紙 | 四六判布函入 | 423 | 二、七〇 | 有斐閣 | 七月 | ▲英國の皇帝と新聞記者、乘馬の流行を奬む東西風俗の採長補短、歐米外交家の日本人祖先研究其他評論隨筆七十五章。 | |
| 理學博士 三宅恒方 | 學者ひざくりげ | 四六判上製函入 | 303 | 二、〇〇 | 富士書房 | 六月 | ▲私の電車觀、私の汽車觀、私の宿屋觀、旅信ところ〴〵、學者の眼等に分けて感想隨筆旅信百餘篇蒐載。 | |
| 尾崎行雄 | 咢堂漫談 | 四六判布函入 | 443 | 二、〇〇 | 日本評論社 | 十月 | ▲山莊閑話（花薫る高原、勝ても敗けても亡國狀態、板垣伯外一四七篇）水莊閑話（天候と政情、改元廢止の議外百篇）。 | |
| 薄田斬雲編著 | 半峯・春城・逍遙・三翁熱海漫談 | 四六判布函入 | 310 | 一、八〇 | 富士書房 | 十月 | ▲坪内・高田・市島三翁の双柿舍に於ける回顧談（九十三項）と「熱海の屋上庭園十圖幷」「熱海古老の清暑漫談」「熱 | |





| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 笹川臨風・金松桂譯 | 逍遙遺稿 | 菊半截並製 | 208 | 四〇 | 岩波書店 | 十月 | ▲中野逍遙子の遺稿を譯したもので、偶成、近江を過ぎて琵琶湖を見る、歸鄕、房州白濱客舍に題す外百四十篇。 | 岩波文庫(532—533)　附原文 |
| 伊藤金次郎 | 新聞氣焰 | 四六判上製函入 | 291 | 一、二〇 | 刀江書院 | 七月 | ▲珍文章規範、新聞人とその個性、與太ものがたり、新聞入社地獄外新聞及新聞人に關する八篇と「私の隨筆」五篇を收む。 | |
| 德富猪一郎 | 新聞記者と新聞 | 四六判並製 | 230 | 五〇 | 民友社 | 七月 | ▲世界の新聞と日本の新聞、新聞と歷史、新聞及び新聞記者の變遷、ハウス先生の思出外講演二篇及國民新聞社の眞相を述ぶ。 | 蘇峰叢書(10) |
| 德富猪一郎 | 關西遊記 | 四六判並製 | 221 | 五〇 | 民友社 | 八月 | ▲昭和御大典と上方雜信廿一篇、上方の春色十篇、關西二十遊記卅篇、關西雜信十二篇中京遊記六篇を收む。 | 蘇峰叢書(11) |
| 德富猪一郎 | 讀書と散歩 | 四六判並製 | 238 | 五〇 | 民友社 | 八月 | ▲貝平親王の撰述「弘決外典鈔」、德川家康と身延山の本朝文粹、寬齋先生餘稿、武藏野の春色外書物と散歩に關する廿三篇。 | 蘇峰叢書(12) |
| 德富猪一郎 | 人間界と自然界 | 四六判布函入 | 720 | 二、五〇 | 民友社 | 十一月 | ▲杜翁訪問の回顧、ラスキン、英國先帝の傳記、現代に稀なる典型の政治家、ブース第二世の近著外六十四篇。 | 蘇峰叢書(10) |
| 德富猪一郎 | 生活と書籍 | 四六判並製 | 483 | 一、三〇 | 民友社 | 十二月 | ▲讀書と生活、古典及び美術、政治及社會、史學及び地誌、傳記及び紀行、文藝及隨筆、詩等に分け十七篇收載。 | |
| 下村海南 | 鯖を讀む話 | 四六判布函入 | 362 | 一、八〇 | 日本評論社 | 七月 | ▲鯖を讀む話（時間ゲーム外十一篇）苦樂放言（藤八拳外百五十四篇）世相百眼（危い哉日本外九十篇）現代放言（昭和の秋外七十五篇） | |
| 下村海南 | 落穗集 | 菊半截並製 | 438 | 一、八〇 | 博文館 | 七月 | ▲朝鮮滿洲北支の紀行十篇百四十九項及び空の旅エピソード、乃木寺とゴルフ、にきび野郎、死花物語外隨筆十六篇。 | —六番茶— |
| 下村海南 | さし潮ひき汐 | 四六判並製 | 298 | 一、六〇 | 日本評論社 | 九月 | ▲經濟漫筆（生活の向上以下八篇）今昔社會相（古事記傳以下十八項）及岡本一平氏の漫畫入り「漫畫讀本」（十九篇）を收む。 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 杉村楚人冠 | その他 | 三六判 洋布 | 422 | 一、二〇 六 | 朝日新聞社 三月 |
| 藤田進一郎 | 一記者の頭 | 四六判 函入 布裝 | 365 | 一、八〇 一二 | 大阪屋號 九月 |
| 瀧本誠一 | 乞食袋 | 四六判 函入 布裝 | 414 | 二、〇〇 一二 | 日本評論社 十二月 |
| 市島春城 | 春城漫華 | 四六判 函入 布裝 | 452 | 二、五〇 一二 | 早稻田大學出版部 十二月 |
| 五高教授 八波則吉 | 隨筆詩味情味 | 三五判 布裝 | 364 | 八五 六 | 教育研究會 七月 |
| 清水芳太郎 | 人間の改作 | 四六判 並製 | 233 | 五〇 四 | 平凡社 十一月 |
| 幸德秋水 | 秋水文藝創作集 | 四六判 並製 | 180 | 一、〇〇 六 | 解放社 五月 |
| 解放社編 | 解放パンフレット 幸德秋水文集 | 四六判 並製 | 166 | 二〇 四 | 解放社 十二月 |
| 幸德秋水 | 痛罵諧謔茶文集 | 四六判 並製 | 263 | 一、〇〇 六 | 解放社 五月 |
| 幸德秋水 | 改造文庫第一部(36) 幸德秋水集 | 菊半截 布裝 | 184 | 二〇 四 | 改造社 三月 |

▲有名なる無名氏、不思善不思惡、ふくろの中のなやみ、明窓淨几、西洋よばはり、旅に寄せて等感想隨筆廿八篇。

▲黨人根性の亂舞、報裝の魅力、自殺の原因女學校出、自らを辱むる男子、試驗地獄、迷信外四十三篇。

▲乞食袋、源氏物語は不義亂逆の書、家康は無學文盲、九十九里の名稱、圖書館の嚆矢、太申の賣名外雜錄三百六十七篇。

▲走馬燈（良寛禪師の逸事、文藝と金融外廿五篇）訪書餘談（夷狄の國へ外十六篇）竹頭木屑錄（雨の詩趣外卅八篇）

▲感話あり寓話あり傳說あり長短六十九篇の隨筆を收めたもの。

▲人間の改作（食物の卷、光線の卷、生命の卷、ホルモンの卷）老子を讀みて、五十年の眠の隨筆三篇。

▲小說飜譯記行日記隨筆雜錄文學評論等を收めたもので、大洋の祕密、土佐紀遊、小田原日記外二十八篇。

▲書簡及び隨筆を收めたもので、堺利彥氏へ木下尙江氏へ、夏草、小山久之助君を哭す其他を收む。

▲擬新自由黨報告書、戌歲を迎ふる辭、べ卿の來遊、迎子歲辭、御目出たさの說、慌てること勿れ外二百七十篇。

▲巢鴨の詩、世田ヶ谷の繿縷市、夏草（泉州紀行）（緑雨に就て、文藝上に於ける陶庶侯と早稻田伯其他四十四篇を收む。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 岡田時彥 | 春秋まぼろし草紙 | 四六判 布裝 | 304 | 二、二〇 八 | 前衞書房 一月 |
| 伊澤蘭奢遺稿 鷹羽司 | 素裸な自畫像 | 四六判 函入 上製 | 352 | 一、六〇 一二 | 世界社 五月 |
| 松井千枝子 | 死の舞臺 | 新四六判 函入 上製 | 130 | 一、八〇 八 | 寶文館 七月 |
| 高岡辰子 | 照葉始末書 | 四六判 函入 上製 | 432 | 一、八〇 一二 | 萬里閣 九月 |
| 依田秋圃 | 山にて聞いた話 | 四六判 函入 布裝 | 190 | 一、八〇 一〇 | 三浦書店 三月 |
| 德川夢聲 | 現代ユーモア叢書(5) 夢聲半代記 | 四六判 函入 上製 | 302 | 一、二〇 一二 | 資文堂 四月 |
| 江戶川亂步 | 新青年叢書(4) 惡人志願 | 四六判 並製 | 318 | 一、二〇 六 | 博文館 六月 |
| 新青年編輯部編 | 新青年叢書(5) 近代戀愛術 | 四六判 並製 | 318 | 一、二〇 六 | 博文館 七月 |

▲日活のスターとして全國のファンに知られる著者の憶出の數篇で、幻を描く、見物を觀る、風流一夕話其他を收む。

▲我國新劇運動に活躍した新劇協會の女優故伊澤蘭奢の遺稿集で、人妻の危險時代以下十五篇及卅一氏の「蘭奢の人と藝」。—發賣禁止

▲松竹映畫の花形女優として輝いてゐた故松井千枝子の遺作集で、感想小品十四篇、歌八十餘首、シナリオ三篇、寫眞六十餘。

▲白粉地獄、冷たい灯、不良外人の告白、ざんげ帳の中から、目白日記、戀占等十四篇と「始末書」を收む。

▲山旅瑣事、山にて聞いた話、或る旅信、古代劇、顏、大森林の冬の夜、瓜坊、月下の登山其他山林に關する一篇。

▲映畫說明界の第一人者たる夢聲氏の自傳「夢聲半代記」及び漫談「アヒル競騷曲」「たから酒は有害である」を收む。

▲私の探偵趣味、吸血鬼、精神分析學と探偵小說、映畫橫好き、ラムール、不木氏のこと淺草趣味其他隨筆四十篇。

▲實用艷書文範、夫婦喧嘩術入門、細君戀愛犯探偵術、西洋戀愛讀本、接吻の種々相、近代戀愛表情術外戀愛に關する十五篇。

## 海外遊記

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 本間久雄 | 滯歐印象記 | 四六判 函入 背洋布 | 363 | 二、二〇 一八 | 東京堂 十二月 |

▲ヴイルドの墓、英國に於ける日本趣味、倫敦の鋪石畫家、英國芝居見物、西洋人形芝居外歐米の見聞記卅餘篇。

## 讀本

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 松尾邦之助 | 巴里 | 四六判並製 | 268 | 一、五〇 | 六 | 新時代社 | 五月 | ▲巴里の姿、種々相、女權論、巴里夜曲、文學、劇・映畫・レヴュ、東西兩洋文明論、巴里から東京まで等四十三篇。 |
| 柳澤健 | 巴里を語る | 四六判並製 | 397 | 八〇 | 六 | 中央公論社 | 十月 | ▲巴里を去りて巴里を語る、佛蘭西文藝雜景（マダム・ピエラと語る外十六篇）愛怨遺事三篇（シャトーブリアンが最後の戀外二篇） |
| 藤田嗣治 | 巴里の横顔 | 四六判並製 | 261 | 一、五〇 | 一三 | 實業之日本社 | 十二月 | ▲パリの年中行事、海水浴、パリの百貨店、キヤツフエと踊り場、藝術家の家、パリの畫家、パリ點景外十三篇。 |
| 吉江喬松 | 南歐の空 | 四六判並製 | 220 | 二、三〇 | 一三 | 早稻田大學出版部 | 一月 | ▲巴里に五回冬を迎へた著者の回想記で、他に文藝評論、農民文藝の感想評論と自然美・美身群像を收む。 |
| 丸木砂土 | 青春獨逸男 | 新四六判上製 | 428 | 二、九〇 | 八 | 文藝春秋社出版部 | 四月 | ▲伯林明暗記、金髪、日本男兒、黑い踊り子、獨逸の風呂、接吻、肥つた女、歐洲變態性慾文學と同性愛文學外廿三篇。 |
| 秋田雨雀 | 若きソウエートロシヤ | 四六判並製 | 334 | 一、五〇 | 八 | 叢文閣 | 十月 | ▲ソヴエート・ロシヤ概觀、モスクワへ、十週年紀念祭前後、ソヴエート・ロシヤの勞働者生活、ソヴエートの文學外六篇。 |
| 土岐善麿 | 外遊心境 | 菊判洋裝布入 | 250 | 二、五〇 | 一八 | 改造社 | 四月 | ▲行く先々の土地の人々の心に觸れた旅らしからぬ旅の心境を描いた海外印象記で、第一夜、一人のモナコ其他四十七篇。 |
| 木下杢太郎 | えすばにや・ぼるつがる記 | 四六判上製 | 535 | 三、〇〇 | 一三 | 岩波書店 | 八月 | ▲えすばにや・ぼるつがるの旅行記及び初期日本吉利支丹宗門に關する雜纂を收めたもの。插圖トレド風景外四十二圖。 |
| 吉江喬松 | 自然讀本第一卷—春夏 | 四六判洋裝布入 | 407 | 一、五〇 | 一二 | 春秋社 | 七月 | ▲自然に關する隨筆感想を收載した書で、春（地平線、若葉の夜の森外四十二篇）夏（印度洋上の月外十二篇） |





## 國文學（附評釋）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 吉江喬松 | 自然讀本第二卷—秋冬 | 四六判布裝 | 528 | 一、八〇 | 一三 | 春秋社 | 七月 | ▲秋來（自然の寂光、自然と母性愛、自然美と女性外十八篇）。冬來（自然美の心象、病床の冬外廿五篇） |
| 吉江喬松 | 自然讀本第三卷—自然論 | 四六判布裝 | 236 | 一、〇〇 | 一〇 | 春秋社 | 七月 | ▲自然美觀の發達（原始及び古代人の自然外九章）近代文學に現れたる自然（露西亞文學に現はれたる自然外一章）。—新自然美論改題版— |
| 島崎藤村作 山崎斌編 | 藤村田園讀本卷一春から夏へ | 四六判上製 | 339 | 一、八〇 | 一二 | 富士書房 | 八月 | ▲藤村氏の感想隨筆其他を季節向きに分け收めた書で第一卷は「春から夏へ」で、太陽の言葉、山陰紀行、生活外八十九篇。 |
| 島崎藤村作 山崎斌編 | 藤村田園讀本卷二秋から冬へ | 四六判上製 | 356 | 一、八〇 | 一二 | 富士書房 | 九月 | ▲九月より二月までに分け收めたもので、土秋風の歌、小春の岡部、雪國のクリスマス、樹木の言葉外百篇。 |
| 太田水穗 | 和歌讀本 | 四六判洋布入 | 209 | 一、五〇 | 一二 | 富士書房 | 十二月 | ▲紀記歌集に現はれた古代の歌、萬葉集の和歌、古今集を中心とした平安朝の和歌、新古今集の歌外三章。 |
| 遠藤佐市郎 藤田德太郎 | 上代歌文新抄 | 菊判洋裝 | 225 | 一、三〇 八 | | 中興館 | 十一月 | ▲萬葉集、佛足石碑歌、日本書紀、古事紀、祝詞、宣命、風土記から最も樞要な而も興趣の豐かなものを拔粹した讀本。 |
| 兒山信一 | 上代歌謠集 水甕歌書叢刊(12) | 四六判並製 | 132 | 五〇 四 | | 水甕社 名古屋 | 十月 | ▲萬葉集以外の諸文獻によつて傳へられてゐる歌謠を集成したもので、古事記及び日本書記以下廿項。 |
| 武田祐吉編 | 上代文學集 校註日本文學類從 | 菊判洋裝布入 | 640 | 四、五〇 二四 | | 博文館 | 一月 | ▲古事記、日本書記、古語拾遺、風土記、祝詞、佛足跡歌碑、歌經標式、琴歌譜等上代の文學書十五卷を網羅す。 |
| 藤村作 | 古事記 東京帝國大學教授 文學博士 | 菊判洋裝布入 | 203 | 二、〇〇 一八 | | 至文堂 | 四月 | ▲日本上代に於ける最も重要な文獻である「古事記」の研究で、名古屋の眞福寺寶生院所藏の國寶書を底本とす。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京帝國大學教授 文學博士 藤村作編 | 校訂 頭註 萬葉集 上卷 | 菊判 洋函入布 | 293 | 一、八〇 一二 | 至文堂 十一月 |
| 東京帝國大學教授 文學博士 藤村作編 | 校訂 頭註 萬葉集 下卷 | 菊判 洋函入布 | 262 | 一、八〇 一二 | 至文堂 十一月 |
| 松村英一校訂 | 紅玉堂文庫 新訂 萬葉集 | 菊半截 背洋布 | 724 | 一、八〇 一〇 | 紅玉堂 九月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校註 | 萬葉集略解 第一冊 | 四六判 函入 背洋布 | 412 | 一、三〇 一二 | 博文館 四月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校註 | 萬葉集略解 第二冊 | 四六判 函入 背洋布 | 426 | 一、三〇 一二 | 博文館 四月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校註 | 萬葉集略解 第三冊 | 四六判 函入 背洋布 | 426 | 一、三〇 一二 | 博文館 四月 |
| 文學博士 藤井乙男編輯解說 | 萬葉集略解 中卷 | 四六判 函入 布裝 | 739 | 二、〇〇 一二 | 文献書院 八月 |
| 奥里將建 | 詳註 口譯 萬葉長歌全集 | 菊判 函入 洋布 | 561 | 三、八〇 一八 | 大同館 三月 |
| 加藤玄智校訂 | 岩波文庫(410) 古語拾遺 | 菊半截 並製 | 102 | 二〇 二 | 岩波書店 二月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校註 | 竹取物語・伊勢物語・土佐日記・枕草子・紫式部日記 | 四六判 函入 背洋布 | 341 | 一、二〇 一二 | 博文館 十一月 |

▲萬葉假名で書かれた原書を今通讀に便する爲め大部分を假名書きに改め上欄に校異と譯とを記し下欄に本文を收めたもので、上卷は泊瀨朝倉宮御宇多天皇時代より第十卷の冬相聞迄、下卷は古今相聞往來歌類之上より第二十卷迄を收む。

▲我國最古の歌集たる「萬葉集」の複刻で、嘗つて短歌雜誌社編輯部の校訂で刊行し好評を博したものゝ新版。

▲萬葉集卷第一泊瀨朝倉宮御宇天皇代天皇御製歌より卷第五戀男子名古日歌一首幷短歌迄を校註したもの。

▲卷第六養老七年癸亥夏五月幸于吉野離宮時笠朝臣金村作歌一首幷短歌より卷第十冬相聞寄夜一首迄を校註したもの。

▲卷第十一古今相聞往來歌類之上より卷十五中臣朝臣宅守寄花鳥陳思作歌七首返を校註したもの。

▲加藤千蔭の萬葉集略解三十册のうち、卷七卷八、卷九、卷十、卷十一、卷十二、卷十三迄を收めたもの。

▲『萬葉集』中の長歌二百六十二首を初心者にも分り易く歌を中欄に口譯を下欄に上欄に頭註を掲げて訓釋した書。

▲古語拾遺概說、平敍古語拾遺、前田家所藏亮順本古語拾遺本文、前田家所藏亮順、無貳凞允三本文字同攷等を輯む。

▲我國最古の物語である竹取物語をはじめ伊勢物語、土佐日記、枕草子、紫式部日記に校註を施せるもの。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校註 | 濱松中納言物語 とりかへばや物語更科日記 | 四六判 函入 背洋布 | 388 | 一、三〇 一二 | 博文館 十二月 |
| 島津久基校訂 | 岩波文庫(525) 竹取物語 | 菊半截 並製 | 98 | 二〇 二 | 岩波書店 六月 |
| 文學士 坂井衡平 | 國民傳說 今昔百話新譯 | 四六判 函入 洋布 | 505 | 三、〇〇 一二 | 雄山閣 十一月 |
| 吉澤義則監修 | 頭註 定本堤中納言物語 | 四六判 函入 布裝 | 117 | 一、〇〇 八 | 立命館大學出版部 七月 |
| 文學士 清水泰 | 堤中納言物語評釋 | 菊判 函入 洋布 | 281 | 二、〇〇 一二 | 文献書院 十月 |
| 板橋倫行 | 日本靈異記 | 菊判 函入 上製 | 224 | 二、三〇 一二 | 春陽堂 六月 |
| 早稻田大學教授 永井一孝編 | 源氏物語諸抄大成 第二卷 | 菊判 函入 洋布 | 597 | 四、五〇 特四、〇〇 二四 | 斯文書院 十二月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校訂 | 源氏物語 上卷 | 四六判 函入 背洋布 | 412 | 一、二〇 一〇 | 博文館 三月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校訂 | 源氏物語 中卷 | 四六判 函入 背洋布 | 410 | 一、二〇 一〇 | 博文館 三月 |
| 笹川種郎 藤村作 尾上八郎 校訂 | 源氏物語 下卷 | 四六判 函入 背洋布 | 420 | 一、二〇 一〇 | 博文館 三月 |

▲菅原孝標の女の作と言はれてゐる濱松中納言物語をはじめとりかへばや物語、更科日記を校註せるもの。

▲現存の古代物語中最古の作品であり又平安朝の物語文學の始祖である竹取物語を校訂せるもので、外に附錄四篇。

▲我國最大の傳說集である今昔物語から趣味があり又國民的に喜ばれた話一百篇を選んで譯註を施し原文を添へたもの。

▲王朝時代に於ける現在中唯一の單篇小說集として古文學中に特異の光彩を放つてゐる「堤中納言物語」の註釋書。

▲短篇小說の鼻祖といはれてゐる堤中納言物語を評釋せるもので、花櫻折る少將、このついで、蟲めづる姫君外七篇。

▲佛教文學怪異文學として創始のもので、南都藥師寺の沙門景戒が說法の材料として編んだ說話百十二番を收む。

▲さか木、花ちる里、すま、あかし、みをつくし、よもぎふ外五篇の原文を收め上欄に譯を施せるもの。

▲獨り平安朝文學を代表するばかりでなく日本文學を代表する唯一の源氏物語を、上中下の三卷に校訂し收めたもので、上卷には桐壺帚木、空蟬、夕顏、若紫、未摘花、紅葉賀、花宴、葵、賢木其他十一篇。中卷は玉鬘、初音、胡蝶、螢、常夏、篝火、野分、行幸、藤袴、眞木桂、梅枝其他八篇。下卷にはまぼろし、雲隱、匂宮、紅梅、竹河、橋姫、椎木、あげまき其他七篇。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 島津久基校訂 | 源氏物語二卷 | 岩波書店 | 三月 | ▲須磨、明石、澪標、蓬生、關屋、繪合、松風、薄雲、槿、少女、玉鬘の十一篇を校訂し收めたもの。 | |
| 文學博士 | 碧波文庫(352—353) | 菊半截並製 | 213 | 四〇 | 四 |
| 吉澤義則校 | 枕草紙春曙抄下卷 | 四六判洋布 | 621 | 三、三〇 | 一二 |
| | | | | ▲下卷は枕草子春曙抄卷八から始つて卷十二までと「清少納言枕草子裝束撮要抄目錄」とを收む。 | |
| | | 文獻書院 | 八月 | | |
| 御歌所寄人國學院大學教授 | 枕草紙通解 | 菊判洋布入 | 583 | 三、五〇 | 一三 |
| 金子元臣 | | 明治書院 | 二月 | ▲曩に發表した金子氏の大著『枕草子評釋』の中より口譯を殆どそのまゝに取り解釋を簡潔に拔萃して成れる書。 | |
| 文學博士 | 繪卷枕草紙上下合本 | 菊判布袖珍裝 | 450 | 二、〇〇 | 八 |
| 尾上八郎校訂 | 冨山房名著文庫 | 冨山房 | 九月 | ▲淺野侯爵祕藏の實物をコロタイプ版に縮寫し、尾上博士が校註を加へたるもの。 | |
| 永野忠一 | 紫式部日記評釋 | 四六判洋布 | 287 | 一、五〇 | 八 |
| | | 健文社 | 十月 | ▲才媛紫式部の筆になつた日記を評釋せるもので、秋のけはひ、五壇の御修法、辨宰相のひろね其他八十九篇。 | |
| 東京帝國大學教授文學博士 | 平家物語 | 菊判洋布入 | 662 | 三、二〇 | 一八 |
| 藤村作編 | | 至文堂 | 四月 | ▲高等諸學校の教科用及び中等教育卒業者の自習用として編纂されたもので、萬治版本を底本とし頭註を附す。 | |
| 山田孝雄校訂 | 平家物語上卷 | 菊半截並製 | 206 | 四〇 | 四 |
| | 碧波文庫(411—412) | 岩波書店 | 三月 | ▲我が散文詩中最大の產物たる有名な『平家物語』(卷第一以下卷第四まで六十八項)の覆刻、卷頭に解說を附す。 | |
| 山田孝雄校訂 | 平家物語下卷 | 菊半截並製 | 341 | 六〇 | 四 |
| | 碧波文庫(413—415) | 岩波書店 | 六月 | ▲下卷は卷第五都遷より第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二の灌頂卷の女院御往生までを收む。 | |
| 御橋悳言 | 平家物語略解 | 菊判布入 | 1078 | 七、八〇 | 二四 |
| | | 寶文館 | 九月 | ▲平家物語の證註書で、事實の證據あるものは其記錄を拔き、詞句の典據あるものは其出典を擧げて解說詳解せる書。 | |
| 宮地直一校訂 | 神皇正統記 | 菊半截並製 | 300 | 三〇 | 六 |
| | 改造文庫第二部(16) | 改造社 | 五月 | ▲神代から後村上天皇に至る迄の事歷を北畠親房が神系皇統に依つて記した神皇正統記の平易なる校訂本。 | |





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 今小路覺瑞編 | 吉野拾遺 | 四六判洋布 | 130 | 一、〇〇 | 一三 |
| | | 冨山房 | 十一月 | ▲吉野に於ける南朝の皇居を中心に大凡延元元年頃からの南朝の逸事佳話を筆錄した「吉野拾遺」二卷本を收錄。 | |
| 山田孝雄校訂 | 方丈記 | 菊半截並製 | 72 | 二〇 | 二 |
| | 碧波文庫(417) | 岩波書店 | 一月 | ▲隨筆中の異彩として又和文漢文融和の文體の先驅をなせるものゝ一として我文學史上に重要な地位を占むる方丈記を收めたもの。 | |
| 塚本哲三 | 通解方丈記 | 四六判洋布 | 205 | 一、〇〇 | 六 |
| | | 有朋堂 | 十一月 | ▲方丈記を詳細に解釋せるもので、行く川の流、安元の大火、治承の辻風、都うつり、養和の飢饉外七篇。 | |
| 文學博士 | 新譯日本文學叢書(6) | 三六判洋布入 | 613 | 二、〇〇 | 一〇 |
| 幸田露伴校訂 | 新譯太平記上卷 | 中央出版社 | 二月 | ▲第一卷御醍醐天皇御治世の事附武家繁昌の事より第十卷高時竝一門以下東勝寺に於て自害の事迄の十卷を收めたもの。 | |
| 文學博士 | 新譯日本文學叢書(8) | 三六判洋布 | 761 | 二、五〇 | 一二 |
| 寺田露伴校訂 | 新譯大平記下卷 | 中央出版社 | 四月 | ▲第三篇の第十八卷「先帝芳野へ潛幸の事」より第五篇の第四十卷「細川右馬頭四國より上洛の事」迄を校訂し收めたもの。 | |
| 早稻田大學教授 | 徒然草新釋 | 四六判洋布 | 568 | 一、五〇 | 八 |
| 永井一孝校定 | | 京都文獻書院 | 六月 | ▲序段つれ〴〵なるまゝにより第二百四十三段八つになりし年までを、助動詞助詞の解釋に意を用ひて通釋を施せるもの。 | |
| 早稻田大學教授 | 詳解徒然草 | 四六判洋布 | 542 | 一、八〇 | 八 |
| 竹野長次 | | 有精堂 | 四月 | ▲序段徒然なるまゝにより第二百四十三段八つになりし年を、本文、要旨、口語譯、語釋にて收む。 | |
| 文學士 | 古今和歌集 | 菊判布裝 | 530 | 三、八〇 | 二七 |
| 佐野保太郎 | | 中興館 | 十月 | ▲二段組にして下段に明快な口譯を附し、終りに難語句の解釋、年表系圖等を附し、新しい展望と鑑賞法を齎したもの。 | |
| 安田喜代門池田正俊著 | 口譯對照古今和歌集上卷 | 菊判背革入 | 949 | 五、八〇 | 二四 |
| | | 啓文社 | 十二月 | ▲負應本系統の流布本を底本とし一首毎に考釋、譯、評の四欄を設けて研究せるもので、卷頭に文學史的位置以下十篇を收む。 | |
| 弘前高等學校教授 | 綜合古今和歌集新講上卷 | 菊判洋布入 | 542 | 一、八〇 | 八 |
| 三浦圭三 | | 有精堂 | 四月 | ▲序段徒然なるまゝにより第二百四十三段八つになりし年を、本文、要旨、口語譯、語釋にて收む。 | |
| 佐佐木信綱校訂 | 新古今和歌集 | 菊半截並製 | 320 | 六〇 | 四 |
| | 碧波文庫(526—528) | 岩波書店 | 六月 | ▲平安朝優美の文化が漸く末になつた時代の華麗なうちに一種の哀調ある新古今の和歌を校訂せるもの。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 齋藤茂吉校訂 | 短歌雜誌社編輯部校訂 | 短歌雜誌社編輯部校訂 | 文學士 島津久基編 | 文學博士 藤村作編 | 東京帝國大學教授 文學博士 尾山篤二郎編 | 飯田季治 | 相馬御風譯編 | 大島清作編著 |
| 岩波文庫（492—493） 新訂 金槐和歌集 | 新葉和歌集 | | 近世文學選 | 俳文學集 | 稿本叢書 第二卷 | 和歌祕傳詳解 | 訓譯良寬詩集 | 良寬全集 |
| 菊半截 並製 | 菊半截 上製 | 菊半截 上函製入 | 四六判 洋裝 | 菊函 洋入判 | 四六判 布函入裝 | 四六判 洋入判 | 四六判 布函裝 | 菊函 布入判 |
| 239 | 281 | 214 | 169 | 339 | 326 | 290 | 337 | 672 |
| 四〇 四 | 九〇 四 | 九〇 六 | 六〇 四 | 二、五〇 一八 | 二、三〇 一二 | 二、〇〇 一二 | 二、〇〇 一二 | 五、五〇 二四 |
| 岩波書店 五月 | 紅玉堂 五月 | 紅玉堂 四月 | 中興館 一月 | 至文堂 三月 | 紅玉堂 四月 | 大鐙閣 六月 | 春陽堂 十二月 | 岩波書店 三月 |
| ▲鎌倉三代將軍源實朝の歌集たる「金槐和歌集」を貞享本金槐集及び羣書類從本金槐集によつて校訂複刻したもの。 | ▲元弘以後弘和に至る南朝の歌をお撰びになつた「新葉集」の複刻で、春歌上より賀部まで二十項。 | ▲閑寂な歌境と枯淡に徹した自然とで古來から名高い西行法師の六家集中の山家集によつて翻刻したもの。 | ▲德川時代の文學作品の中から趣味の豐かな内容のあるものを一人にて一二篇づつ拔き高等程度の教科書にしたもの。 | ▲奥の細道、猿蓑集、續明烏集、新花摘、うづら衣、おらが春等俳文學の代表的なものを選び全本を採錄した書。 | ▲蓬廬集、續蓬廬集、後蓬廬集、よつのとも、老の繰言、正木の葛、山下水、忘草等より成る齋藤彦麻呂の歌集「葦假庵集」の複刻。 | ▲歌道の祕書とされた古今傳授、三島三木傳を始め和歌師範家たる二條冷泉兩家の祕書等を評釋せるもの。 | ▲良寬和尚の詩に訓譯を施せるもので、投宿秋日與天華上人遊雲崎、春夜對雪懷友人、寄曲老人其他。 | ▲明哲な理性と深遠な思索と豐な感情と親しみ易い性格とを天眞素朴のまゝに描いた良寬上人の生活藝術錄。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 馬場錦江 萩原藾月校訂 | 萩原藾月校訂 | 東京帝國大學教授 文學博士 藤村作編 | 尾山篤二郎編 | 飯田季治 | 相馬御風譯編 | 大島清作編著 | 短歌雜誌社編輯部校訂 | 短歌雜誌社編輯部校訂 |
| 奥の細道通解 | 改造文庫第二部(17) 奥の細道 芭蕉翁 | 俳文學集 | 稿本叢書 第二卷 | 和歌祕傳詳解 | 訓譯良寬詩集 | 良寬全集 | 山家集 | 新葉和歌集 |
| 四六判 上製 | 菊半截 布裝 | 菊函 洋入判 | 四六判 布函入裝 | 四六判 洋入判 | 四六判 布函裝 | 菊函 布入判 | 菊半截 上函製入 | 菊半截 上製 |
| 160 | 259 | 339 | 326 | 290 | 337 | 672 | 214 | 281 |
| 一、〇〇 八 | 三〇 六 | 二、五〇 一八 | 二、三〇 一二 | 二、〇〇 一二 | 二、〇〇 一二 | 五、五〇 二四 | 九〇 六 | 九〇 四 |
| 紅玉堂 九月 | 改造社 二月 | 至文堂 三月 | 紅玉堂 四月 | 大鐙閣 六月 | 春陽堂 十二月 | 岩波書店 三月 | 紅玉堂 四月 | 紅玉堂 五月 |
| ▲俳聖芭蕉翁の紀行文中の白眉たる「奥の細道」を最も親切に丁寧に通解した錦江の安政版の復刻。 | ▲古來狂口の名文に一致する芭蕉の奥の細道及び、六番句合跋、常盤屋の句合跋外七十篇より成る文集を收む。 | ▲奥の細道、猿蓑集、續明烏集、新花摘、うづら衣、おらが春等俳文學の代表的なものを選び全本を採錄した書。 | ▲蓬廬集、續蓬廬集、後蓬廬集、よつのとも、老の繰言、正木の葛、山下水、忘草等より成る齋藤彦麻呂の歌集「葦假庵集」の複刻。 | ▲歌道の祕書とされた古今傳授、三島三木傳を始め和歌師範家たる二條冷泉兩家の祕書等を評釋せるもの。 | ▲良寬和尚の詩に訓譯を施せるもので、投宿秋日與天華上人遊雲崎、春夜對雪懷友人、寄曲老人其他。 | ▲明哲な理性と深遠な思索と豐な感情と親しみ易い性格とを天眞素朴のまゝに描いた良寬上人の生活藝術錄。 | ▲閑寂な歌境と枯淡に徹した自然とで古來から名高い西行法師の六家集中の山家集によつて翻刻したもの。 | ▲元弘以後弘和に至る南朝の歌をお撰びになつた「新葉集」の複刻で、春歌上より賀部まで二十項。 |





| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 井原西鶴作 和田萬吉校訂 | 文學博士 藤村作校訂 | 文學士 吉田九郎校註 | 文學士 島津久基編 | 東洋大學教授 日本大學講師 文學士 | 三田村鳶魚編 | 三田村鳶魚編 | 京都帝國大學文學部講師 顯原退藏 | 岡田稔 |
| 岩波文庫（483） 武家義理物語 | 冨山房名著文庫 珍本 柳樽 | 玉かつま | 隨筆評論選 | 若月保治 詳譯 全譯近松傑作集 第二卷 | 西鶴輪講 好色一代女 卷の六 | 西鶴輪講 好色一代女 卷の五 | 校註 日本永代藏 | 西鶴日本永代藏詳解 |
| 菊半截 並製 | 袖珍 布裝 | 菊判 布裝 | 四六判 洋裝 | 菊函 洋入判 | 四六判 並製 | 四六判 並製 | 四六判 上製 | 菊函 洋入判 |
| 98 | 280 | 124 | 193 | 607 | 81 | 66 | 164 | 336 |
| 二〇 二 | 一、〇〇 六 | 一、〇〇 八 | 六〇 四 | 五、〇〇 一八 | 七〇 四 | 七〇 四 | 八〇 六 | 二、八〇 一八 |
| 岩波書店 二月 | 冨山房 一月 | 教育研究會 五月 | 中興館 一月 | 太陽堂 九月 | 春陽堂 五月 | 春陽堂 二月 | 明治書院 八月 | 大同館 九月 |
| ▲貞享四年西鶴四十六歲の時の著作で、武家を題にした彼の作中最もよく武士氣質を描いて居ると評せられた作。 | ▲骨董的家寶となつて市場に見る事の出來ない珍本を全部凸版に轉寫したもの、藤村博士解說。 | ▲本居宣長翁の原著中より特に中等學校上級及高等學校の教科に適する部分を抄出して校註を施せるもの。 | ▲德川時代の文學作品の中から趣味の豐かな内容のあるものを一人にて一二篇づつ拔き高等程度の教科書にしたもの。 | ▲薩摩歌、心中萬年草、丹波與作、五十年忌歌念佛、夕霧阿波鳴渡、大經師昔曆、生玉心中等世話物七種を收む。 | ▲暗女晝化物、旅泊人詐、夜發附聲、皆思謂五百羅漢の四項を林、山崎、三田村、木村、鈴木、柴田六氏が輪講したもの。 | ▲林若樹、水谷不倒、三田村鳶魚外六氏の輪講で、石垣戀崩、小哥傳受女、美扇戀風、濡間屋硯の四篇を收む。 | ▲金をめぐる人間の喜劇と悲劇、金に動かされゆく世の現實相を寫した西鶴の永代藏を明快に註釋を施したもの。 | ▲西鶴の傑作「日本永代藏」の本文を考證的に解說せるもので、初午は乘つてくる仕合、世界の借屋大將其他廿八篇。 |

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 價 | 出版者 | 月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 吉村重德 | 義太夫名作 淨瑠璃註釋 第一卷 | 四六判 函入 洋布 | 432 | 二、〇〇 一二 | 大同館 | 一月 | ▲第一卷には「假名手本忠臣藏」「義經千本櫻」「菅原傳授手習鑑」の三名作を收め、詳細なる註釋を施す。 |
| 文學士 荒瀨邦介 | 校註 淨瑠璃名作選 | 四六判 函入 洋布 | 258 | 一、五〇 一〇 | 文獻書院 | 五月 | ▲近松及び近松以降の作物中名作として定評あるものゝ中から選んだもので、冥途の飛脚外六篇。附錄淨瑠璃略史。 |
| 浦和高等學校教授 藤田德太郎編 | 校註日本文學類從 近代歌謠集 | 菊判 函入 洋布 | 747 | 四、五〇 一八 | 博文館 | 六月 | ▲近代歌謠史略、隆達小唄百首、女歌舞伎踊歌、松の葉、落葉集、吟曲古今大全、麓廼塵小歌吾聞久爲志外二篇。 |
| 尾崎久彌編 | 洒落本集成 第一卷 | 四六判 函入 上製 | 607 | 三、五〇 一二 | 春陽堂 | 六月 | ▲郭中掃除、居續借金、福神粹語錄、南極驛路雀、通志選、取組手鑑、青樓眞廓誌外未飜刻の洒落本十五種及び解題。 |
| 尾崎久彌編 | 洒落本集成 第二卷 | 四六判 函入 上製 | 750 | 三、五〇 一二 | 春陽堂 | 十月 | ▲三幅對以下西落本廿五、稿本一、計二十六種を收め、年代、本の形容等に就て懇切に解說す。 |
| 織田一磨編 | 草双紙選集 第一卷 | 四六判 函入 上製 | 385 | 一、八〇 一二 | 桃林房 | 一月 | ▲敵討身代利名號（曲亭馬琴）昔語丹前風呂（式亭三馬）お夏清十郎風流伽三味線（山東京傳）等草双紙三篇及び解題を收む。 |
| 文學博士 幸田露伴校訂 | 修紫 田舍源氏 下卷 | 三六判 函入 布裝 | 522 | 一、八〇 八 | 中央出版社 | 一月 | ▲下卷は「垣の卯の花咲く頃より」の第廿一編より始つて「是よりは尙室町へ」の第卅八編迄を收む。 |
| 文學博士 幸田露伴校訂 | 新譯日本文學叢書(7) 新譯 浮世風呂 浮世床 | 三六判 函入 上製 | 421 | 一、六〇 八 | 中央出版社 | 三月 | ▲德川末期に一異彩を放てる式亭三馬の著名な作品たる「浮世風呂」竝に「浮世床」の二篇を收む。 |
| 文學博士 幸田露伴校訂 | 新譯日本文學叢書(9) 新譯 水滸傳 | 三六判 函入 布裝 | 722 | 二、三〇 一〇 | 中央出版社 | 五月 | ▲支那小說の雄として有名なる「水滸傳」の第一編卷之一より第三編卷之三十花榮大に淸風寨を鬧す迄收載。 |
| 曲亭馬琴作 和田萬吉校訂 | 岩波文庫(544—545) 胡蝶物語 | 菊半截 並製 | 214 | 四〇 四 | 岩波書店 | 八月 | ▲普通の小說といふよりも馬琴の社會觀を窺ふに足る一種の評論ともいふべき「夢想兵衞胡蝶物語」の複刻。 |



## 漢文學

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 價 | 出版者 | 月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 漆山又四郎譯註 | 岩波文庫(400—401) 譯註 杜詩 卷之一 | 菊半截 並製 | 213 | 四〇 四 | 岩波書店 | 三月 | ▲杜詩は詩史なりと昔人に評された杜甫の詩の五言古詩を紀行類、述懷類、懷古類、時事類、邊塞類其他に分けて收む。 |
| 漆山又四郎譯註 | 岩波文庫(402—403) 譯註 杜詩 卷之二 | 菊半截 並製 | 223 | 四〇 四 | 岩波書店 | 五月 | ▲卷の二は「五言古詩の下」で、雪雨類、山河類、都城類、詩文類、寄贈類、送別類、慶賀類其他。 |
| 漆山又四郎譯註 | 岩波文庫(404—405) 譯註 杜詩 卷之三 | 菊半截 並製 | 228 | 四〇 四 | 岩波書店 | 六月 | ▲七言古（紀行類、時事類其他）歌行（地理類、書畫類其他）絕句（雜賦類、花木類、詩序類其他） |
| 漆山又四郎譯註 | 岩波文庫(406—408) 譯註 杜詩 卷之四 | 菊半截 並製 | 313 | 六〇 四 | 岩波書店 | 六月 | ▲四卷は五言律詩（二百卅四篇）七言律詩（七十五篇）を紀行類述懷類時事類軍旅類其他に分けて收む。 |
| 簡野道明 | 唐詩選詳說 上卷 | 四六判 函入 洋布 | 504 | 三、〇〇 一八 | 明治書院 | 十二月 | ▲支那文化の最盛期と稱せられ多數の詩人の輩出した唐代の詩中より其の代表的傑作を撰錄して讀方、字解、故事、釋義、評言等を施せるもので、上卷は卷一五言古詩より卷四五言排律まで、下卷は卷五七言律詩より卷七七言絕句までを收む。 |
| 簡野道明 | 唐詩選詳說 下卷 | 四六判 函入 洋布 | 617 | 三、〇〇 一八 | 明治書院 | 十二月 | |
| 公田連太郎原註 田中貢太郎譯 | 聊齊志異 | 菊判 函入 布裝 | 564 | 二、八〇 二四 | 北隆館 | 十一月 | ▲古來支那に於ける妖怪奇異の話を集めたもので、考城隍、王成、竹青、汪士秀、西湖主劉海石外廿八篇。 |

## 詩論・作詩法

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 價 | 出版者 | 月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外山卯三郎 | 詩學概論 | 菊判 函入 洋布 | 240 | 二、〇〇 一八 | 第一書房 | 十月 | ▲詩學の基本的問題、詩學の對象論、如何にして詩學は學として可能なるか、ギリシヤ時代の詩學的思想外五章。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 厚生閣編 | 詩と詩論 第四冊 | 菊判上製 | 328 | 二、〇〇 | 十二 | 厚生閣 | 六月 |
| 春山行夫編 | 詩と詩論 第五冊―ヴアレリー研究 | 菊判洋布 | 374 | 二、〇〇 | 十二 | 厚生閣 | 九月 |
| 春山行夫編 | 詩と詩論 第六冊 | 菊判並製 | 378 | 二、〇〇 | 十二 | 厚生閣 | 十二月 |
| 西脇順三郎 | 現代の藝術と批評叢書(14) 超現實主義詩論 | 四六判並製 | 176 | 一、二〇 | 六 | 厚生閣 | 十一月 |
| 春山行夫 | 現代の藝術と批評叢書(4) 檢のパイプを口にして | 四六判並製 | 208 | 一、三〇 | 六 | 厚生閣 | 四月 |
| 新屋敷幸繁 | 詩の入門 現代詩の理論と評釋 | 四六判函入布裝 | 300 | 一、八〇 | 十二 | 大同館 | 二月 |
| 百田宗治 | 新しい詩の解釋とつくり方 | 新四六判上製 | 212 | 一、二〇 | 六 | 厚生閣 | 四月 |
| 田中冬山 | 作詩自在 | 四六判洋布 | 385 | 一、八〇 | 一〇 | 中央出版社 | 九月 |
| 井上康文 | 詩の作り方 | 菊半截並製 | 118 | 三五 | 四 | 素人社 | 九月 |
| 鷹取岳陽 | 作詩入門 | 四六判函入上製 | 168 | 一、五〇 | 一二 | 立命館大學出版部 | 五月 |

▲諸家の多くのエッセイや批評及び一九〇〇年より現代に至る各國の詩人の作を網羅した「世界現代詩人レーゲイヴ」を收む。

▲主知的文學論（阿部知二）地球創造說（瀧口修造）ユリシイズ（辻野久憲）外六十七篇及び「ヴアレリイの研究」五篇を收む。

▲超現實主義の詩論（春山行夫）北「詩十五篇」（安西冬衛）ギイヨオム・アポリネエル（神原泰）外五十二篇。

▲詩の消滅（表現の極限外二節）純粹藝術の批判（批判の準備外二節）超自然主義（ボエジイの價値論外四章）其他。

▲ボオの詩論、紙上建築、卓上美學、佐藤春夫小論、コレスポンダンスに就て其他詩論及び散文十三篇。

▲現代詩の理論（詩作の意味外十二項）現代詩の評釋（川路柳虹の詩、千家元麿の詩、堀口大學の詩、外卅項）

▲東西に亙りての詩を作例として引用し如何にして詩を作り如何にして詩を味ふべきかを詩の心得以下廿七項にて說く。

▲詩とは何ぞ、自らの經驗を語る、詩の構成はじめて詩をつくる人に等にて說いたもので附錄韻律解說外四篇。

▲詩の作法（詩作の用意外九項）詩の種類と其內容（自由詩外九項）詩の分野と其內容（詩劇外六項）日本詩壇の推移（六項）

▲唐の裴繼の楓橋夜泊の詩を標準として初學者の爲に詩の作法を說いたもので、月落烏啼霜滿天外六章附錄四章。



## 詩集

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 稻田正夫 | 自由詩講座 | 四六判並製 | 306 | 一、四〇 | 六 | 資文堂 | 五月 |
| 井上康文 | 自由詩の作り方と鑑賞 | 菊半截上製 | 218 | 一、〇〇 | 四 | 紅玉堂 | 二月 |
| 東亞學藝協會編 | 全日本詩集 | 四六判函入革裝 | 323 | 一、八〇 | 十二 | 文書堂 | 十二月 |
| 風卷景次郎編 | 明治大正新詩選 | 四六判布裝 | 299 | 一、五〇 | 八 | 白帝書房 | 六月 |
| 與謝野晶子 | 晶子詩篇全集 | 四六判函入布裝 | 309 | 二、〇〇 | 八 | 實業之日本社 | 一月 |
| 室生犀星 | 室生犀生詩集 | 新菊判函入上製 | 341 | 二、五〇 | 一二 | 第一書房 | 十一月 |
| 室生犀星 | 改造文庫第二部(94) 室生犀星詩集 | 菊半截布裝 | 451 | 五〇 | 一〇 | 改造社 | 十二月 |
| 横瀨夜雨 | 改造文庫第二部(96) 横瀨夜雨詩集 | 菊半截布裝 | 478 | 五〇 | 一〇 | 改造社 | 十一月 |
| 野口米次郎 | 人生詩集 | 四六判函入背洋布 | 500 | 二、五〇 | 一八 | 第一書房 | 三月 |

▲自由詩への歷史、自由詩とはなにか、自由詩のつくり方、自由詩の鑑賞等にて誰にも分り易く自由詩に就いて說いたもの。

▲自由詩の作り方を述べ現代詩人及び女性詩人の作品を鑑賞せるもので、新しい詩と詩論其他。

▲安西冬衛「百年」萩原朔太郎「吉原」、堀口大學「ヴェニュスの生誕」、北原白秋「水上」、百田宗治「光の歷史」外百廿八篇。

▲明治末期新しい詩の運動の起つた頃を界として前篇中篇に分ち譯詩を後篇に多くの詩人の作品を網羅す。

▲明治卅三年から最近までの作詩の中、四百廿一篇を選んで纂めたもので、雲片片（五十六篇）小鳥の巢（五十九篇）其他。

▲春鳥異志、秋鳥異志、朝の歌、夕の歌、都會、青い蝶、歸り花、浴泉抄、故鄉圖繪集、氷を愛する歌等百四十八篇。

▲抒情小曲抄、愛の詩集抄、寂しき都會抄、星より來れる者抄、田舍の花抄、忘春詩集抄高麗の花抄其他二百卅七篇。

▲神も佛も、ちぬの浦曲、うもれ木、うつし繪、森の家なる、人故妻を逐はれて、その夜更けて外百廿九篇。

▲坐つてゐる人間、性の谷、恥ぢよ、あなたの詩、富士山へ登つて、四疊半、秋の雨、笑と涙、櫻餅其他詩二百餘篇收載。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西條八十 | 新選西條八十集 | 四六判並製 | 534 | 一、〇〇八 | 改造社 | 七月 | ▲詩五十三篇、譯詩四十一篇、抒情小曲百廿三篇、童謠百五篇、小說二篇、戲曲二篇、詩論詩話五篇、隨筆十五篇を收む。 |
| 西條八十 | 美しき喪失 | 菊判背革入 | 218 | 三、五〇一八 | 神谷書店 | 八月 | ▲羽根（三十歲外十三篇）巴里の霧（ルイザの雀外十二篇）土偶（たわむれ外十四篇）わが家（村外八篇）美しき喪失（頹唐外十四篇） |
| 北原白秋 | 海豹と雲 | 四六倍上製函入 | 385 | 四、八〇一八 | アルス | 九月 | ▲古代新頌、白き花鳥圖、冬眠、月光の谿、風を祭る、珠數上の夜、童話の月、海豹と雲、花褪等詩百四十七篇を收む。 |
| 横瀨夜雨 | 雪燈籠 | 菊判布函裝入 | 175 | 三、二〇一八 | 梓書房 | 四月 | ▲夕の光、森の館に、湖の畔にて、野火、雪燈籠、手枕、吾唇は燥けり、お才、尾上の月人は去れり其他十四篇。 |
| 伊良子清白 | 孔雀船 | 菊判布函裝入 | 207 | 三、五〇一八 | 梓書房 | 四月 | ▲夜雨氏と共に文庫派の詩人たりし伊良子氏の詩集「孔雀船」の再刻で、漂白、旅行く人、月光日光、鬼の語外十五篇。 |
| 古賀殘星 | 煙 | 四六判上函製入 | 154 | 一、五〇一二 | 中西書房 | 七月 | ▲望鄉（崎戸の島外十九篇）オリンピック時代（祝祭日本選手外二篇）越路の雪（越後から外卅一篇）村松小唄等を收む。 |
| 大島庸夫 | 列風風景 | 四六判並製 | 136 | 六〇四 | 行人社 | 十月 | ▲早朝から薄暮までの勞働の中から書いた詩集で、夢を捨てる、屑屋時代、列風々景、デパート爭議外四十七篇。 |
| 林芙美子 | 蒼馬を見たり | 四六判並製 | 96 | 六〇四 | 南宋書院 | 六月 | ▲蒼馬を見たり（蒼馬を見たり、赤いマリ外九篇）鯛を買ふ（醉醒外十二篇）いとしのカチウシヤ（情人外六篇）朱帆は海へ出た六篇を收む |
| 加藤郁哉 | 詩集逃水 | 菊判上函製入 | 106 | 一、五〇一八 | 素人社 | 八月 | ▲時雨集（圓窓外六篇）ある風景（春外八篇）タブロウ詩篇（灘外八篇）霧のある海景（秋外九篇）ある朝（夕刻外三篇）其他。 |
| 山村暮鳥 | 詩集土の精神 | 四六判上函製入 | 219 | 二、〇〇一〇 | 素人社 | 二月 | ▲永遠の子どもに就て、郊外小景、朝餉の食卓、遠いふるさと、春、妻と語る外卅三篇の詩を收む。 |



| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前島美幹 | 詩集晴れた味爽 | 四六判上函製入 | 115 | 一、二〇一〇 | 素人社 | 四月 | ▲醜味な感覺（頬すり以下八篇）慈悲（山以下十七篇）晴れた味爽（海の贈物以下十九篇）月夜の海（春夜の海邊以下八篇） |
| 佐藤惣之助 | 新詩集トランシット | 四六判上製 | 175 | 一、八〇八 | 素人社 | 九月 | ▲ひとりごと、山茶花、街上裝身、詩を買つて涙を買ふ、詩人、葡萄の葉、千里の旅より歸りて五十三篇。 |
| 森下春三 | 詩集野良の敎師 | 菊半截判上函製入 | 98 | 八〇六 | 大地舍 | 七月 | ▲飾らざる生れたるまゝの農民詩抄で、野良の敎師七篇、歡喜の收穫三篇、海四篇、野良の歡喜二篇、雨風二篇、外八篇。 |
| 德憲義 | 詩集愛は甦る | 四六判並製 | 219 | 一、三〇六 | 新生堂 | 六月 | ▲異境に愛の行者として働く德氏の詩集で、私の心、南加州を去るに當り、おゝ愛よ聖愛よ其他に分けて數十篇收載。 |
| 田中清一 | 詩集馬糞と星 | 菊判上函製入 | 70 | 一、〇〇一二 | 春陽堂 | 十二月 | ▲雲、馬糞、ゆふぐれ、秋のひかり、しゆんかん、ものおもふ日、ちひさいこども、ゆめみること外卅二篇。 |
| 井上康文 | 愛子詩集 | 四六判上製 | 95 | 一、〇〇六 | 紅玉堂 | 十二月 | ▲人生の挿話（秋の庭を造る外十三篇）聖母マリヤを燒く（破れ戸外六篇）若き母とその子（その小さい手に外七篇） |
| 田中冬二 | 詩集靑い夜道 | 菊判上函製入 | 206 | 二、五〇一二 | 第一書房 | 十二月 | ▲皿、家根に鳶尾科の花の咲いた家、麥粉をはかる夢、輕井澤の氷菓子、明るい雨等八十八篇の詩を收む。 |
| 澁谷榮一 | 新進詩人叢書（2）詩集眞冬 | 四六判上函製入 | 196 | 一、五〇一二 | 中西書房 | 一月 | ▲眞冬（ぬかるみ外十二篇）秋晴（都會の憂鬱外十二篇）夕暮の空（雨後の朝外十七篇）秋の博物館（秋の博物館外十七篇）を收む。 |
| 三原昇遙 | 三原昇遙詩集（1）高原を彷徨ふ | 菊半截判並製 | 129 | 六〇四 | 近代藝術社 | 十一月 | ▲高原を彷徨ふ、光への道を行く、生活の挽歌、幸福、闇夜の空、あこがれ、田園の會話淺しき魂の爭鬪外五十九篇。 |
| 山村暮鳥 | 紅玉堂文庫詩集月夜の牡丹 | 菊半截判背洋布 | 222 | 八〇六 | 紅玉堂 | 九月 | ▲李の花二篇、月夜の牡丹十一篇、或る時五篇、月の匂ひ十篇、夕刺四篇、向日の林檎三篇の詩を收む。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 細田林藏 | 紅玉堂文庫 詩集 | けがれた王座 | 菊半截 上製 | 100 | 十月 |
| 國木田獨歩 | 紅玉堂文庫 詩集 | 獨歩詩集 | 菊半截 上製 | 180 | 六 紅玉堂 月 |
| 千家元麿 | 長篇敍事詩 | 昔の家 | 四六判 上函入製 | 456 | 二、〇〇 木星社 月 |
| 扁田正夫 | 昭和文庫(4) 敍事詩劇 | 鷗 | 菊半截 上製 | 191 | 四 五〇 資文堂 十一月 |
| 知喜代司編 | 昭和文庫(2) 純情詩選 | 夢の花束 | 菊半截 並製 | 189 | 四 五〇 資文堂 六月 |
| 安西冬衛 | 現代の藝術と批評叢書(5) 詩集 | 軍艦茉莉 | 四六判 並製 | 164 | 一、〇〇 厚生閣 四月 |
| 上田敏雄 | 現代の藝術と批評叢書(6) 詩集 | 假設の運動 | 四六判 並製 | 118 | 九〇 厚生閣 五月 |
| 北園克衛 | 現代の藝術と批評叢書(10) | 白のアルバム | 四六判 並製 | 128 | 一、〇〇 厚生閣 七月 |
| 春山行夫 | 現代の藝術と批評叢書(9) 詩集 | 植物の斷面 | 四六判 並製 | 103 | 一、〇〇 厚生閣 八月 |
| 北川冬彥 | 現代の藝術と批評叢書(12) 詩集 | 戰爭 | 新四六判 並製 | 81 | 九〇 厚生閣 十月 |

▲忘れつぼい人生、けがれた王座、娼婦の死とその頃の私、淺草の心臟になりたいのです霜枯れの街其他三十八篇。

▲嬉しき祈、再會、高峰の雲よ、友なき里、山林に自由存す、山の聲、たき火、かりがれ、水際のすみれ外五十二篇。

▲森の家、舞踏會、庭園、家庭の夜、祖母の死、冬、想像の詩人、倫理と情緒、年の暮、神祕な泉外十篇より成る長篇敍事詩。

▲鷗、虹の敍事詩二篇を始め、抒情人形（舞踊詩）影（人生詩）歌男、翼の詩劇二篇、海へ歸る男（一幕物）の七篇。

▲純情詩篇、哀傷詩篇、抒情詩篇、追憶詩篇に分けて生田春月、加藤まさを、北原白秋、西條八十其他卅七氏の作を收む。

▲軍艦茉莉、澄める町、日食、シルクハツのある卓布、自由亭、黄河の仕事、夜行列車長髪賦其他詩七十八篇。

▲醫術者の醫術臺、永遠にちゞむ生命の限界、岸の處女は孤獨であつた、自然に反したポエム外五十四篇。

▲記號說、分離派、魔女の灰、假說の宇宙、美麗な煙草、ミロンと太陽、黑い詩外六十二篇の詩と散文集。

▲水のなかの一枚の皿のやうに、野茨の垣のむかふには、異國氣分のお父さんの煙のなか外五十一篇。

▲戰爭、大軍叱咤、ラッシュ・アワー、皮膚の經營、人間の建設、女と雲、樂器、書棚、公園、地の面、女と水、外九篇。



## 飜譯詩集

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生田春月 | 抒情小曲集 | 四六判 上製 | 413 | 一、七〇 新潮社 | 六月 |
| 宮地芳葉 | 抒情詩集 美しき巡禮 | 菊半截 並製 | 128 | 一、五〇 平凡社 | 六月 |
| 勝田香月 | 抒情詩集 さびしき人々へ | 袖珍 上製 | 244 | 九五 紅玉堂 | 六月 |
| 渡邊衣子 | 抒情小曲集 とほき愛人 | 四六判 並製 | 163 | 一、三〇 資文堂 | 十一月 |
| 高畠華宵 | 華宵愛吟詩畫集 | 四六判 並製 | 79 | 一、三〇 資文堂 | 三月 |
| ホキツトマン作 長沼重隆譯 | 詩集 草の葉 | 四六判 並製 | 515 | 二、八〇 東興社 | 十一月 |
| ジヤンコクトオ作 堀口大學譯 | コクトオ詩抄 | 菊半截 並製 | 179 | 二、八〇 第一書房 | 三月 |
| ジヤンコクトオ作 堀辰雄譯 | 現代の藝術と批評叢書(1) コクトオ抄 | 四六判 並製 | 186 | 一、三〇 厚生閣 | 四月 |
| ジヤコブ作 北川冬彥譯 | 現代の藝術と批評叢書(3) 散文詩集 骰子筒 | 四六判 並製 | 114 | 一、〇〇 厚生閣 | 五月 |

▲既刊の春月小曲集、嵐の葉、夢心地を始め其後の抒情小曲民謠調未發表の和期の詩篇短歌などを網羅した書。

▲靜春宵、散るなら櫻よ、君まつ夕、慕鄉、わが心、心の弱いわたし、想ひは遠き兄上に誓れる指に外卅篇。

▲さびしき日の抒情詩、獨居の歌、空に親しむ、ある日の小唄、美しきものへの憧れ、さびしい人々へ等七十八篇。

▲赤き耳輪（赤き耳輪、ひなげし外廿篇）（翼君は泣く外十八篇）かなしき海（きみよ裳外十九篇）月のピエロ（まぼろし外四篇）。

▲堀口大學畑喜代司百田宗治福田正夫西條八十下田惟直外三詩人の作二十篇に華宵氏の繪を配したもの。

▲銘詩廿五篇、アダムの子等詩篇より十一篇カラマス詩篇より廿篇、渡り鳥詩篇より七篇其他八十四篇を譯し收む。

▲現在佛蘭西隨一の聰明な男といはるるコクトオの詩の譯で、踊子、帆船、ヴエニスの戀人、裏と表其他七十篇。

▲コクトオの初期の作より最近の作に至る全著作中より代表作を譯したる詩とエツセエと小說との選集。

▲ボエム、裏切者を求めて、イタリイの麥藁帽子、地獄の夜、死者を祀らう、眞のアネクドオト外五十六篇。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| サンドラルス作 飯島正譯 | 現代の藝術と批評叢書(7) サンドラルス抄 | 四六判 並製 | 145 | 一、〇〇 六 | 厚生閣 | 七月 |
| ボオドレエル著 三好達治譯 | 現代の藝術と批評叢書(15) 巴里の憂鬱 | 四六判 並製 | 182 | 一、二〇 八 | 厚生閣 | 十二月 |
| 黑田辰男 村田春海譯著 | ソヰーエト・ロシヤ詩選 | 四六判 並製 | 165 | 六〇 四 | マルクス書房 | 二月 |
| 尾瀨敬止譯 | サヴエート詩人全集(1) ベヅイミヨンスキイ詩集 | 四六判 函入 上製 | 167 | 一、〇〇 一二 | 素人社 | 十一月 |

## 民謠・童謠・同研究

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 松村又一編 | 古今民謠抄 | 菊半截 函入 布裝 | 409 | 一、八〇 六 | 泰文館 | 四月 |
| 孫晉泰編 | 朝鮮古歌謠集 | 四六判 函入 布裝 | 535 | 三、五〇 一二 | 刀江書院 | 六月 |
| 金素雲譯著 | 朝鮮民謠集 | 四六判 函入 上製 | 316 | 二、五〇 一二 | 泰文館 | 八月 |
| 大關五郎編 | 民謠辭典 | 小判 並製 | 287 | 一、二〇 四 | 素人社 | 五月 |
| 松村又一 | 民謠集 風と鵜 | 四六判 函入 上製 | 152 | 一、〇〇 八 | 泰文館 | 五月 |

▲サンドラルスの冒險的生活から生れたそのまゝの詩其他を收めたもので、新聞、シネマのABC、世界の終り外廿二篇。

▲異國人、二重の部屋、野蠻な妻と氣取つた戀人、暮のかたわれ、描かんとする願望、善良なる犬外四十五篇。

▲解說に革命十年間のソヰエート・ロシヤの詩の輪郭を詳述し、飲んで一言以下諸詩人の詩を譯し收む。

▲春の前奏曲、帽子について、ピヨートル・スモーロヂン、長靴のこと、同姓者、「クーヅニツア」の詩人達に外九篇。

▲閑吟集以後現代作家に及ぶ民謠中よりその粹をあつめ、發生沿革及び當代作家の作風に言及した日本民謠の鳥瞰。

▲民衆の心生活を表現してゐる朝鮮の歌謠を譯したもので、長歌篇三部、短歌篇三部、附錄二部より成る。

▲田植唄、小鳥は〳〵、三日月を始め、多くの朝鮮の民謠及び童謠を網羅したもので、他に「朝鮮民謠に就て」を收む。

▲春の部、夏の部、秋の部、冬の部、人事の部、雜の部に分けて自由に使ひこなせる樣に類語を解說し作例を收めたもの。

▲「一つ簑」以後の新作及「一つ簑」中の數篇を拔いて收めたもので、風と鵜、眞茲の歌、お





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 恩田幸夫 | 民謠集 草 | 四六判 函入 上製 | 102 | 一、二〇 六 | 民謠詩人社 | 五月 |
| 佐藤惣之助 | 民謠集 波止場むすめ | 四六判 上製 | 158 | 一、二〇 八 | 泰文館 | 九月 |
| 竹見竹雄 | 民謠集 新開田 | 菊半截 上製 | 177 | 一、二〇 四 | 神奈川 純情詩社 | 七月 |
| 時雨音羽 | 民謠詩集 君戀し | 菊半截 函入 上製 | 245 | 一、二〇 六 | ビクター出版社 | 十月 |
| 林野貞夫 | 民謠集 情痴の唄 | 四六判 函入 上製 | 129 | 一、二〇 六 | 泰文館 | 二月 |
| 野口雨情 | 民謠詩集 波浮の港 | 菊半截 函入 上製 | 228 | 一、二〇 六 | ビクター出版社 | 十月 |
| 山岸曙光子 | 提灯柿 | 四六判 上製 | 100 | 八〇 一〇 | 青葉書房 | 十二月 |
| 西崎義輝 | 民謠集 河內娘 | 菊半截 函入 上製 | 95 | 一、〇〇 八 | 泰文館 | 十二月 |
| 西條八十 | 少年詩集 | 菊半截 函入 布裝 | 401 | 一、五〇 六 | 大日本雄辯會 | 四月 |
| 鹿島鳴秋 | 鹿島鳴秋童謠小曲集 | 菊半截 函入 上製 | 193 | 一、二〇 六 | 京文社 | 七月 |

▲草笛、黃金の花、百姓の春、風に追はれて共稼ぎ、酒はよいもの、故鄕捨てゝ、はぐれ小島、しぶきの花外三十三篇。

▲波止場娘、野山、琴曲歌詞、小唄歌詞、時花唄、拗體俗謠、古疑禮子守唄、琉歌れんれん、南島人の歌其他。

▲足柄の農土に月日をおくる著者の土の唄、生活の唄を收めたもので、田舍の花、こぼれ麥、茗荷畑外八十七篇。

▲君戀し、しぼむ花びら、早稻田メロディーかちどきの唄、ちよい坂、ゑくぼ千兩、浪花小唄、指きり外卅八篇。

▲一つ星、鋏もちつゝ、一つ灯、枯草、片割れ月、枯れたすゝきに、大根洗ひ其他六十五篇の民謠を收む。

▲波浮の港、上州小唄、甲州音頭、銀座の月秩父三峰、旅の民謠、青いすゝき、小松の陰麥の芽、紅屋の娘外四十一篇。

▲富山詩人曙光子の民謠集。

▲土の匂ひ（畑打ち外十三篇）きりぎりすの唄（落椿外七篇）病める少女に（虹外十篇）工場の唄（嫁にやるにも外三篇）

▲東西の史上の著名な人物の事蹟を素材とした史詩十九篇を初め少年の日卅篇、われらの歌十三篇其他卅六篇を收む。

▲子供とお月樣卅二篇、山の仔狐廿三篇、お家忘れて十八篇、少女小曲篇廿四篇の童謠小曲を收む。

## 歌論・作歌法

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北原白秋 | 童謠集月と胡桃 | 菊判洋布入 | 329 | 四、五〇 五八 | 六月 | ▲月と胡桃廿二篇、イワンの家廿四篇、白樺の皮はぎ十八篇、鷗の塔十四篇、鷲の子十八篇、花の週間十四篇、お母さま廿九篇。 | 梓書房 | |
| 土屋由岐雄 | 童謠集朝燒空 | 菊半截上製 | 206 | 一、〇〇 六 | 九月 | ▲からつ風、坂下の小僧、箱庭の二人、氷いちご、いぢめつ兒、なめくぢ、鼠のお倉、夕燒け手其他童謠八十篇。 | 山西書店 | |
| 水谷まさる | 童謠集歌時計 | 菊半截上製 | 118 | 七〇 四 | 六月 | ▲小鳥、風と繪本、露の小人、ジャム地獄、すみれとてふ、つかまいたいな、熊其他四十六篇の童謠を集む。 | 行人社 | |
| 柳田國男 | 民俗藝術叢書 民謠の今と昔 | 四六判並製 | 146 | 一、〇〇 四 | 六月 | ▲民謠の今と昔（民謠發生の條件、何が消え何が殘る外四項）流行唄と民謠と、民謠雜記、能美郡民唄集序、東石見田謠集序。 | 地平社 | |
| 渡邊亮村 | 鄉土藝術叢書（1） 佐渡おけさ | 新四六判函入布裝 | 85 | 一、〇〇 一〇 | 十一月 | ▲佐渡おけさ發祥についての傳說、佐渡おけさは佐渡に定着性を有つ、民衆によつて作られた指導者外六章。 | ロゴス書院 | |
| 高野辰之 | 文學博士 春秋文庫（8） 民謠・童謠論 | 三六判洋布 | 186 | 五〇 六 | 三月 | ▲民謠篇—日本民謠に基づく史的考察（五項）童謠篇—童謠と教育（在來の童謠外四項）にて斯界の權威高野博士が述ぶ。 | 春秋社 | |
| 横山青娥 | 文學士 日本童謠十講 | 四六判洋函入布 | 280 | 一、五〇 一二 | 十月 | ▲日本民族がその各時代に於て所有した童謠的作品に就てその歷史と本質を明かにたしもので、童謠の胎生時代外九講。 | 交蘭社 | |
| 北原白秋 | 綠の觸角 | 四六判洋布 | 424 | 二、五〇 一〇 | 三月 | ▲童謠本論、童謠雜論、兒童自由詩鑑賞、幼き者の詩、藝術・自由・教育等に分けて四十餘篇を收めた童謠論集。 | 改造社 | |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 齋藤茂吉 土屋文明 編 | 左千夫歌論集 第二卷 | 菊判洋布入 | 642 | 四、三〇 一二 | 十一月 | ▲根岸庵訪問の記、吾が崇拜する子規子、古泉兒山兩氏歌評、歌訪行に就いて、一國の元氣を顯現せる歌ありや外六十六篇。 | 岩波書店 | |
| 齋藤茂吉 | アララギ叢書（40） 短歌寫生の說 | 四六判上製函入 | 238 | 一、七〇 一〇 | 五月 | ▲短歌に於ける寫生の說（東洋畫論の用語例外四章）寫生の說別記、歌論數則（新時代の短歌寫生といふ事外八章）。 | 鐵塔書院 | |
| 窪田空穗 | 短歌隨見 | 四六判洋布入 | 376 | 二、〇〇 一二 | 十月 | ▲評釋、批評、歌話等三編に分けて短歌に關する隨感隨錄を收錄した書で、歌と散文の境、識足らず其他卅一篇。 | 紅玉堂 | |
| 花田比露志 | 歌に就ての考察 | 四六判洋布入 | 365 | 二、〇〇 一二 | 九月 | ▲歌は何の表現、人心本來の叫び、歌を詠む氣合、あはれがる心、心の緊張其他歌に關する考察感想六十篇—改版— | 紅玉堂 | |
| 中河幹子 | 新らしい短歌の理論 | 四六判並製 | 68 | 五〇 二 | 十一月 | ▲短歌滅亡論、新短歌のいろ〳〵な型について、短歌の古典憧憬性と用語の問題、新らしさとは外十九篇。 | 世界社 | |
| 藤澤古實 | 赤彦遺言 | 四六判上製函入 | 321 | 二、〇〇 一二 | 八月 | ▲歌人島木赤彦の晩年の見聞を記述したもので、「島木赤彦臨終記」と「晩年の藝術」の二篇より成る。 | 鐵塔書院 | |
| 渡邊順三 | 紅玉堂文庫 階級戰の一隅から | 菊半截背洋布 | 188 | 八〇 六 | 九月 | ▲我らの要求する文藝、無產階級短歌の方向、プロレタリア短歌はかくあるべきだ、階級と藝術外十三篇。 | 紅玉堂 | |
| プロレタリア歌人同盟編 | プロレタリア歌論集 | 四六判洋布入 | 280 | 一、三〇 一〇 | 十二月 | ▲定型律短歌の歷史的限界性（伊澤信平）自由短歌は如何に批判さるべきか（會田毅）短歌戰線へ（淺野純一）外廿四章。 | 紅玉堂 | |
| 尾山篤二郎 | 紅玉堂文庫 明治歌壇概史 | 菊半截上製 | 109 | 五〇 六 | 八月 | ▲改革と變遷とに著しい發展をとげた明治歌壇史を述べたもので、明治歌壇概史、續明治歌壇概史の二篇より成る。 | 紅玉堂 | |
| 窪田空穗 | 紅玉堂文庫 作歌問答 | 菊半截背洋布 | 203 | 八〇 六 | 十月 | ▲歌の調子とは何ういふものか、秀歌は何うすれば作れるか其他十八項にて作歌上の疑問に答へたもの。 | 紅玉堂 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 尾山篤二郎 | 紅玉堂文庫 歌はかうして作る | 菊半截 上製 | 232 | 九〇 六 | 紅玉堂 | 八月 |
| 窪田空穗 | 紅玉堂文庫 歌の作りやう | 菊半截 背洋布 | 162 | 七〇 六 | 紅玉堂 | 十月 |
| 大島歡一 | 歌の作り方 | 菊半截 並製 | 100 | 三五 四 | 素人社 | 九月 |
| 生田蝶介 松本仁 | 生田蝶介作歌參考叢書(4) 短歌文法七十講 | 四六判 函入 洋布 | 286 | 二、二〇 一二 | 立命館大學出版部 | 十月 |
| 紅玉堂編 | 勅題詠進の仕方と心得 附—明治大正昭和豫選歌集 | 菊半截 並製 | 89 | 三五 二 | 紅玉堂 | 十一月 |
| 松村英一編 | 紅玉堂文庫 改選現代短歌用語辭典 | 菊半截 背洋布 | 342 | 一、三〇 六 | 紅玉堂 | 十月 |
| 生田蝶介 | 生田蝶介作歌參考叢書(3) 短歌用語小辭典 | 四六判 函入 洋布 | 253 | 二、二〇 一二 | 立命館大學出版部 | 四月 |
| 並木秋人編 | 現代短歌表現辭典 | 三六判 函入 洋布 | 432 | 一、九〇 八 | 資文堂 | 六月 |
| 北原白秋 | 長歌集 篁 | 菊判 函入 布裝 | 169 | 二、八〇 一二 | 梓書房 | 五月 |

▲歌の何物たるかを知らしめ、歌作の捷徑に就いて說述せるもので、歌はかうして作る、歌の格の話外四章。

▲初めて歌を詠もうとする人の爲めに歌の要領を說いたもので、作歌の大綱、歌の形式、歌の趣向外三章。

▲短歌の解剖（短歌とは何ぞや外二章）作歌夜話（作歌の機會外四章）作歌上の諸知識（之だけは讀むべし外七章）

▲短歌にあらはれてゐる助動詞、助詞、副詞接尾語等の重なるものに就いて第六十八講に互つて詳細に說述す。

▲詠進に就て千葉胤明外五氏解說外勅題詠進者の心得、歌御會始拜觀の記（植松安氏）明治大正昭和豫選歌集を收む。

▲歌を詠むに當つて第一に心懸ければならぬ言葉の用法を五十音順に配列解說す。

▲萬葉古今時代より明治初年の短歌革新以來の歌から最も廣く使はれる言葉を選んで五十音順に解說して收む。附枕詞解。

▲初心者の手引となる樣短歌に用ひる多くの言葉を單に語意を明らかにするに止まらずその用例を擧げて註解した辭典。

## 歌集（附評釋）



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川啄木 | 改造文庫第二部(43) 一握の砂 悲しき玩具 | 菊半截 布裝 | 197 | 二〇 四 | 改造社 | 二月 |
| 齋藤茂吉 | 改造文庫第二部(55) 自選歌集 朝の螢 | 菊半截 布裝 | 216 | 二〇 四 | 改造社 | 八月 |
| 古泉千樫 | 改造文庫第二部(57) 自選歌集 川のほとり | 菊半截 布裝 | 192 | 二〇 四 | 改造社 | 六月 |
| 中村憲吉 | 改造文庫第二部(58) 自選歌集 松の芽 | 菊半截 布裝 | 180 | 二〇 四 | 改造社 | 五月 |
| 釋迢空 | 改造文庫第二部(59) 自選歌集 海やまのあひだ | 菊半截 布裝 | 357 | 四〇 八 | 改造社 | 五月 |
| 木下利玄 | 改造文庫第二部(60) 自選歌集 立春 | 菊半截 布裝 | 182 | 二〇 四 | 改造社 | 五月 |
| 與謝野晶子 | 改造文庫第二部(62) 自選歌集 人間往來 | 菊半截 布裝 | 199 | 二〇 四 | 改造社 | 四月 |
| 窪田空穗 | 改造文庫第二部(63) 自選歌集 槻の子 | 菊半截 布裝 | 190 | 二〇 四 | 改造社 | 五月 |
| 若山牧水 | 改造文庫第二部(64) 自選歌集 野原の郭公 | 菊半截 布裝 | 220 | 二〇 二 | 改造社 | 五月 |
| 前田夕暮 | 改造文庫第二部(65) 自選歌集 原生林 | 菊半截 布裝 | 279 | 三〇 六 | 改造社 | 八月 |

▲啄木の聲價をして今日あらしめたその革命的文獻たる第一歌集「一握の砂」及び第二歌集「悲しき玩具」の合著。

▲「淨玻璃にあらはれにける脇差を差して女をいぢめるところ」を初め明治卅九年より大正六年迄の作三百五十餘首を收む。

▲「みんなみの嶺岡山の燒くる火のこよひも赤く見えにけるかも」を初め明治三十七年より大正十三年迄の作四百三十二首。

▲「新酒桶を伏せしかたへに割るたけの竹紙かろく春風にとぶ」以下馬鈴薯の花、林泉集、しがらみ等より三五〇首を選び收む。

▲明治三十七年頃の作たる「焚きあまし」以降大正十四年に至るまでの作品中より六百九十二首を選び收む。

▲銀の中より「うす雪は小雨にとけて鶯のさゝなきさむき藪かげの道」其他歌集「紅玉」や「一路」の中より選び收む。

▲「何となく君に待たるゝここちして出でし花野の夕月夜かな」を初め第一歌集「みだれ髮」及び「瑠璃光」の作から自ら選びたるもの。

▲泉のほとり（八十首）土を眺めて（百二十二首）朴の葉（百十六首）青水沫（百五十八首）拾遺（三十首）を收む。

▲「古池のめぐりにおふる八重葎分けて歩めば日の光さびし」外大正五年より大正十一年迄の五一五首を收む。

▲「晝と夜のさかひに咲ける花とほくたづぬる君こゝろつかれて」を初め二十五歲より四十二歲迄の作六百六十首を採錄。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 土岐善麿 | 改造文庫第二部(66) 自選歌集 空を仰ぐ | 菊半截 布裝 | 190 | 二〇 四 | 改造社 四月 |
| 高田浪吉 | アララギ叢書(39) 歌集 川波 | 四六判 函入 上製 | 352 | 二、三〇 一二 | 古今書院 四月 |
| 結城哀草果 | アララギ叢書(38) 歌集 山麓 | 四六判 函入 布裝 | 330 | 二、三〇 一二 | 岩波書店 七月 |
| アララギ同人編 | アララギ 年刊歌集 —第四— | 四六判 函入 上製 | 238 | 一、五〇 一二 | 岩波書店 五月 |
| 與謝野晶子 | 晶子短歌全集 | 新四六 判並製 | 502 | 一、〇〇 一〇 | 新潮社 六月 |
| 與謝野寛 與謝野晶子 | 霧島のうた | 四六判 函入 上製 | 232 | 一、八〇 一二 | 改造社 十二月 |
| 文學博士 佐佐木信綱 | 豐旗雲 | 新四六 判函入 上製 | 188 | 一、五〇 一〇 | 實業之日本社 一月 |
| 齋藤瀏 | 心の華叢書 霧華 | 四六判 函入 上製 | 208 | 一、八〇 一二 | 竹柏會 五月 |
| 池田序子 | 心の華叢書 ゆく雲 | 四六判 函入 上製 | 176 | 一、七〇 一〇 | 竹柏會 八月 |
| 川田順 | 心の華叢書 歌集 伎藝天 | 新四六 判函入 上製 | 204 | 一、八〇 一〇 | 竹柏會 十二月 |

▲「わがごとき世のつねびとはもだえせずめとりて生みて老いて死ぬべし」を始め、多くの歌を收む。

▲「むらぎもの心にもてる思出の久しくなれりこの日頃はも」を始め、大正八年以降大正十五年迄の作歌八五〇首收載。

▲「雪掃きに穿く藁靴をあたゝめて雪を掃かむと思ひたちをり」を初め大正三年以降昭和二年迄の歌八百首を收む。

▲「アララギ」第二十卷（昭和二年度）に掲載された短歌中より四百四十七人の千四百八十七首を收載した書。

▲明治後期以降大正の初年に至るまでの歌を製作の年代順に收載した書で、有名な「みだれ髪」以下「晶子新集」まで十五部。

▲與謝野寛氏夫妻の霧島に遊びし歌集で「はるばると薩摩までゆくなつかしき人あるがため山あるがため」其他。

▲ゆききの卷（天平懷古の歌以下一九八首）山かづら（心頭語以下一三四首）光の卷（奉頌明治天皇歌以下六一首）を收む。

▲「さ夜深きこの野に見えて霜枯の草の葉末の月は白しも」を初め早川濟南に軍務出動中の作及北海道の自然を描寫せる歌六〇九首。

▲「久方の雲井はるかにはろばろとかけりゆくかも天人のかげ」を始め青きみ空、佐々木、雨の窓等三百卅首を收む。

▲「遠つ人君によそへて見る星の光うるみぬ泣きいますらむ」以下早春の山國にて、水國記其他三百六十首—改訂版—





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 川田順 | 心の華叢書 歌集 陽炎 | 新四六 判函入 上製 | 158 | 一、五〇 一〇 | 竹柏會 十二月 |
| 九條武子 | 白孔雀 | 四六判 函入 布裝 | 209 | 二、〇〇 一二 | 太白社 十二月 |
| 石榑茂 | 石榑茂歌集 | 四六判 上製 | 221 | 一、二〇 六 | 日本評論社 八月 |
| 原阿佐緒 | 阿佐緒抒情歌集 | 四六判 函入 上製 | 292 | 一、八〇 一二 | 平凡社 四月 |
| 岡本かの子 | わが最終歌集 | 四六判 函入 上製 | 406 | 二、五〇 一二 | 改造社 十一月 |
| 中原綾子 | 歌集 みをつくし | 四六判 函入 上製 | 251 | 二、〇〇 一二 | 太白社 十一月 |
| 山名敏子 | 落葉集 | 四六判 函入 上製 | 164 | 一、二〇 一二 | 國風閣 一月 |
| 尾崎敬義 | 喫茶去 | 四六判 函入 上製 | 129 | 一、二〇 一〇 | 政治經濟時論社 二月 |
| 下村海南 | 歌集 天地 | 菊半截 函入 布裝 | 361 | 一、八〇 八 | 博文館 十月 |
| 堀口大學 | 歌集 男ごころ | 三六判 函入 上製 | 200 | 一、五〇 八 | 第一書房 五月 |

▲みなし兒の歌へる、旅の歌の中に、四季、寂寥、かたみぐさ、近畿歌鈔外二百七十九首を收む。—改訂版—

▲「百人のわれにそしりの火はふるもひとりの人の涙にぞ足る」外三百四十餘首を收めた九條武子夫人の遺稿集。

▲薄明、顏、家、五月、旅人、生の發展、轉換期等に分けて著者二十歳より三十歳までの十年間の作中より輯めた三百五首。

▲「この戀を捨つる期すでにおくれたりはた遂ぐる期のなき世ながらに」を初め八百四十四首の抒情歌を收む。

▲秋、めをと、知らぬ街、しきしん五景、子の言葉、澄心集、星空、海邊にて、するが野其他多くの歌を收む。

▲「ほのかにも袖をかすめて飛ぶ螢、あはれと見おきたゞかへり來ぬ」を初め一九二六年春以來の歌七百餘首を收む。

▲「大船が干潟の上に帆を卷きて潮をまつ磯の春のたそがれ」を始め短歌四百九十首を收載せる書。

▲「流轉の世その哀樂をみづからの姿と見るもはづかしかりや」を始め寂寞、東京の歌、旅愁、春光外三百五十三首を收む。

▲「生駒山の眞空わたれば峽にそふ棚田つゞきて池ところ〴〵」を始め天の卷地の卷に分けて大正四年よりの作七百卅三首を收む。

▲「病める子のこころ佗しき綺語と見よ癡情の人のざれごとを見よ」を初め大正八年以後の歌三百九十二首を收む。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 尾山篤二郎 | 鑑賞長塚節歌集 | 四六判上製 | 155 | 一、〇〇 六 | 素人社 | 九月 |
| 長塚節 | 歌集 鍼の如く | 四六判函入布装 | 113 | 一、二〇 八 | 富士書房 | 三月 |
| 陸軍少佐 熊坂政雄 | 歌集 蹄のあと | 四六判函入洋布 | 179 | 一、二〇 一〇 | 紅玉堂 | 十一月 |
| 桐野晉次郎 | 歌集 若き教師 | 菊半截並製 | 128 | 五〇 二 | 渡部大成堂 | 九月 |
| 井上眞一 | 自然叢書(3) 歌集 あらくさ | 四六判函入上製 | 154 | 一、二〇 八 | 自然詩社 | 四月 |
| 西村陽吉 | 歌集 第一の街 | 新四六判上製 | 339 | 一、〇〇 六 | 紅玉堂 | 十一月 |
| 渡邊順三 | 歌集 貧乏の歌 | 菊半截並製 | 128 | 四〇 二 | 紅玉堂 | 五月 |
| 後藤史郎 | 口語歌集 空に咲く花 | 新四六判上製 | 129 | 七〇 四 | 紅玉堂 | 六月 |
| 坪野哲久 | プロレタリア歌集 九月一日 | 菊半截上製 | 97 | 五〇 四 | 紅玉堂 | 十二月 |
| 大槻三好 | 歌集 白墨の粉 | 新四六判上製 | 132 | 七〇 四 | 紅玉堂 | 七月 |

▲故長塚節の多くの短歌を掲げそれを解説したもので、春の如く、病床雜詠、明治卅四年の歌外八章。

▲「白埴の瓶こそよけれ霧ながら朝はつめたき水くみにけり」を初め作者が晩年に於ける約一年間の養痾歌二百餘篇を收む。

▲現役中聯隊教育、演習、檢閲等の計畫等繁多の職務中に得た歌のうち軍隊關係のもの四百十三首を收む。

▲感謝、悲、運動會の豫習、低腦の子、臨海學校其他の歌及び通り魔、早春の林、汽車に乘りて外六篇の詩を收む。

▲大正十四年以降昭和四年に至る作歌中より選んだもので「伊勢の海に潮のはしる水脈見えて杳なるかも志摩の岬は」以下三百一首。

▲「濠端をゆく船の焚く石炭のけむり獰生の雨に迷へり」を初め街を行きて、冬より冬まで、ある年の夏等八百九十八首を收む。

▲「今日もまたしきりに胸が痛む暗い心が窓から梅雨空をながめてゐたのだ」を初め二百餘首を收む。—發賣禁止—

▲空に鳴る風車(四十二首)正しいと思ふこと(六十五首)巢だち(六十九首)夜行列車(九十二首)明暗(四十四首)の口語歌を收む。

▲「ツルハシ擔いでのつそりはいつたのでびつくらしたのかお神さんおどおどすることあねえおれはガス屋だ」其他プロ歌百六十一首。

▲追憶の花(五十六首)旅情(五十六首)アトリエ(五十八首)子供等と(百四首)等の口語歌集—改版—





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 中村孝助 | 口語歌集 土の歌 | 新四六判上製 | 202 | 七〇 六 | 紅玉堂 | 五月 |
| 中村孝助 | 歌集 野良に戰ふ | 新四六判上製 | 119 | 七〇 六 | 紅玉堂 | 十一月 |
| 淺野純一 | 無産者歌人叢書 歌集 戰の唄 | 菊半截上製 | 117 | 五〇 六 | 紅玉堂 | 八月 |
| 田邊一子 | 無産者歌人叢書 歌集 プロレタリア意識の下に | 菊半截上製 | 109 | 五〇 六 | 紅玉堂 | 九月 |
| 渡邊順三編 | プロレタリヤ短歌集 | 四六判並製 | 61 | 三五 二 | 紅玉堂 | 五月 |
| 尾山篤二郎 矢島歡一編 | 昭和一萬歌集 | 四六判函入上製 | 478 | 一、五〇 一二 | 素人社 | 六月 |
| しきしまのみち會編 | しきしまのみち叢書(2) 國民同朋和歌集 明治篇 | 四六判並製 | 112 | 三〇 二 | 原理日本社 | 九月 |
| 松村又一 | 紅玉堂叢書 現代名歌評釋 | 菊半截上製 | 119 | 五〇 六 | 紅玉堂 | 八月 |
| 兒山信一 | 水甕歌書叢刊(8) 明治大正短歌評釋 | 四六判並製 | 180 | 六〇 四 | 名古屋 水甕社 | 十月 |
| 窪田空穗 | 江戸時代名歌一選釋 | 四六判函入布装 | 293 | 二、〇〇 一二 | 理想社出版部 | 十月 |

▲「赤ん坊だ、飯だお針だ仕事だと息つく間もない百姓女だ」を始め農村の生活を歌つた五百餘首の口語歌集。—改版—

▲「米も野菜も金さへ出せば來るものといつまで思ふか都市の人達」をはじめ親と子、妹、麥秋等生活の歌を收む。

▲南國情調、罷工前後、旅役者、ある工場で、從業員表彰式、同志よ、仲間の背後から其他多くのプロレタリア短歌を收む。

▲「もう少し待つてて見ようもう少しがまんをして言はずに居て見やう」を始めプロレタリア短歌百五十三首を收む。

▲黑表紙教員(泉本三樹男)山宣の死(柳田新太郎)外十六名のプロレタリア歌人の歌二百九十二首を輯めたもの。—發賣禁止—

▲最近出版された歌集及全國の新聞雜誌等に載せられた作品から公平に採錄し題材に從うて分類收載。

▲明治三十八年より明治四十五年に亙る主として「日本及日本人」歌欄に於ける三井甲之氏選の歌を蒐載。

▲北原白秋、釋迢空、中村憲吉、尾上柴舟、太田水穗、古泉千樫、前田夕暮外現代十一歌人の歌を評釋せるもの。

▲落合直文、與謝野鐵幹其他十八氏歌人の傳記の概略を揭げ、その作品若干をあげて評釋を施せるもの。

▲江戸時代の代表的歌人賀茂眞淵、香川景樹橘曙覽等の歌を選んで評釋を施したもので、江戸時代の和歌の特質以下四項。

## 俳諧研究・作句法

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 植松壽樹 | 橘曙覽歌集 | 新釋和歌叢書(7) | 四六判並製 | 124 | 八五 | 紅玉堂 | 七月 |
| 尾山篤二郎 | 評釋平賀元義歌集 | | 四六判上製函入 | 290 | 二、〇〇 | 素人社 | 十二月 |
| 野々村修瀛 | 良寛・元政・愚庵・選集 | | 菊半截上製 | 79 | 五〇 | 紅玉堂 | 十二月 |
| 荻原井泉水 | 俳句趣味論 | 春秋文庫(13) | 三六判洋布 | 197 | 五〇 | 春秋社 | 五月 |
| 正岡子規 | 子規俳話 | 改造文庫第二部(38) | 菊半截布裝 | 274 | 三〇 | 改造社 | 九月 |
| 河東碧梧桐 | 新興俳句への道 | | 四六判並製 | 327 | 一、三〇 | 春秋社 | 十一月 |
| 野口米次郎 | 芭蕉俳諧研究 | | 四六判洋布入函 | 488 | 二、八〇 | 岩波書店 | 三月 |
| 野口米次郎 | 芭蕉論 | 春秋文庫(24) | 三六判洋布 | 174 | 五〇 | 春秋社 | 十月 |
| 野口米次郎 | 芭蕉俳句選評 | 春秋文庫(7) | 三六判洋布 | 169 | 五〇 | 春秋社 | 十一月 |

▲俳句の形式の意義、俳句趣味の本質に向つて考察したもので、些事小景趣味の說、自然と個性外六章。

▲俳諧、一口話、芭蕉雜談、俳句問答、我が俳句、俳句の初步、類題書屋俳話、隨問隨答等子規の俳論俳話八篇。

▲新興俳句の道を平易に說いたもので、自己催眠、自己信賴、感覺衝動生活希求、表現の問題外廿一講。附錄習作の實例。

▲東北大學の諸數授が餘り闡明されてゐない芭蕉の俳諧の美しさを討究して相互の意見を戰した記錄の聚積。

▲俳聖松尾芭蕉に就いて論じたもので、芭蕉の言葉、蕉門俳人論（惟然坊、乞食路通、鯉屋杉風、落柿舍去來）

▲芭蕉俳句選評、俳詩雜論、芭蕉の遺語の三編にて芭蕉の詩境を語つたもの。

▲明治十一年の出版で木版四册物たる橘曙覽の歌集「志濃夫廼舍歌集」の中より抄出し評釋したもの—改版—

▲萬葉の眞價を認め萬葉調の歌を世に殘したる備前の歌人平賀元義の歌を評釋したもので拾遺、覺書、作歌年月表附載—改訂版—

▲埋れたる詩人良寬、元政、愚庵の生涯を略記し、長歌、短歌等を收む。







## 俳句集

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 笹川種郎・藤村作・尾上八郎 | 芭蕉句選年考 | | 四六判上製函入 | 518 | 一、八〇 | 博文館 | 四月 |
| 早稻田文學社編 | 芭蕉・一茶研究 | | 菊半截布裝入函 | 333 | 一、五〇 | 東京堂 | 九月 |
| 露伴學人 | ひさご猿蓑抄 | | 菊半截布裝入函 | 243 | 二、一〇 | 岩波書店 | 十二月 |
| 西谷勢之介 | 天明俳人論 | | 四六判布裝入函 | 336 | 一、六〇 | 交蘭社 | 十一月 |
| 荻原井泉水 | 古人を說く | | 四六判布裝 | 306 | 一、八〇 | 春陽堂 | 二月 |
| 荻原井泉水 | この一筋を行く | 井泉俳話(1) | 四六判上製函入 | 326 | 一、六〇 | 春秋社 | 十二月 |
| 吉田冬葉 | 俳句の作り方 | | 菊半截並製 | 92 | 三五 | 素人社 | 九月 |
| 今井柏浦編 | 新俳諧歲事記 | 新校 | 菊半截洋布入函 | 382 | 一、〇〇 | 修省堂 | 二月 |
| 高木蒼梧編 | 新修歲事記 | | 菊半截並製 | 379 | 一、二〇 | 資文堂 | 四月 |

▲元文四年鄕筆庵華雀が輯めたる芭蕉句選「句選年考」を校訂したもの。

▲雜誌「早稻田文學」特別號「芭蕉研究號」「一茶研究號」の合本で、執筆者は勝峯晋風、沼波瓊音外十九氏。

▲芭蕉七部集中の「ひさご」及び「猿蓑」を幸田氏が評釋したもの。

▲燕村の俳境、大魯の主觀、凡董論、春泥舍召波、白雄論、樗庵麥水、俳人としての秋成曉臺俳句新見外四章。附錄二章。

▲この一筋を行く、麻布の家にて、橋畔の家にて、小言三十則、序拔十二種等井泉水の俳話集。

▲主として芭蕉、燕村、一茶に關する講話風な俳談を收めたもので、芭蕉の生活と其俳句外十篇。附錄漱石の俳句に就て外一篇。

▲俳句のつくり方を平易に說いたもので、季語（十三項）、形式、寫生、旅行吟、俳句の發達（七項）。

▲新年及春夏秋冬を通じ時候天文地理人事宗教動物植物の各門に分け、五十音順に排列し簡潔に解說した俳句歲事記—普及版—

▲現時行はれてゐる歲事一千餘に就き簡單な說明を加へ子規以後の句を採錄して參考に資したもの。—普及版—

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高木蒼梧編 | 季題別 其角俳句全集 | 四六判並製 | 73 | 五〇 | 四 | 紅玉堂 | 六月 | ▲其角自選の五元集及び旨原の五原集拾遺を骨子とし焦尾琴、綿繍緞、花摘の各集から數句を採錄し季題別にせるもの。 |
| 大橋裸木編 | 燕村俳句集 | 菊半截上製 | 152 | 五〇 | 六 | 金星堂 | 九月 | ▲與謝燕村の多くの俳句を網羅したもので、新年の部、春の部、夏の部、秋の部、冬の部、に分け收む。 |
| 河東碧梧桐編 | 燕村新十一部集 | 菊半截布裝函入 | 495 | 一、八〇 | 八 | 春秋社 | 一月 | ▲詩人としての燕村を論じ、其の代表作たる述作を十一部に纂め、「燕村句集」「燕村遺稿」を附錄とす。 |
| 大橋裸木編 | 一茶俳句全集 | 四六判布函入 | 1268 | 五、五〇 | 一八 | 春秋社 | 五月 | ▲俳句全部に亙つて年次を考證し、同案類想の辭句を對照し春夏秋冬雜の部に分けて一茶一代の俳句全部を集錄す。 |
| 荻原羅月校訂 | 俳諧七部集（改造文庫第二部(13)） | 菊半截布裝 | 333 | 三〇 | 六 | 改造社 | 二月 | ▲古來一般に推賞されてゐる七部集を校訂したもので、冬の日波留濃日阿羅野飛さこ猿蓑すみたはら續猿蓑の句及解題を收む。 |
| 荻原井泉水 | 井泉水句集（改造文庫第二部(90)） | 菊半截布裝 | 518 | 五〇 | 一〇 | 改造社 | 八月 | ▲俳句の新傾向運動の爲に努力を續けて居られる井泉水氏の最近十年間の俳句を纏めたもので、地上一路集以下十集。 |
| 數藤斧三郎 | 五城句集 | 四六判上製 | 16) | 一、五〇 | 一〇 | 岩波書店 | 七月 | ▲第一高等學校敎授五城數藤斧三郎氏の俳句を蒐載したもので、之れに短歌、小傳及び虛子氏の「五城君の俳句」を收む。 |
| 長谷川かな女 | 句集 龍膽 | 四六判布函裝 | 197 | 一、八〇 | 一三 | ぬかご社 | 七月 | ▲女流俳人として知られたかな女史の處女俳句集で、明治四十三年より昭和四年までの作品中より九百七十句を選び收む。 |
| 資文堂編 | 年刊俳句集（昭和四年度） | 四六判並製 | 428 | 一、九〇 | 一三 | 資文堂 | 四月 | ▲俳星以下三十七雜誌、東京日々新聞以下七新聞より嚴選せられたる一萬餘句を季題別として收む。附錄俳人住居錄其他。 |
| 水野六山人編 | 第一ぬかご俳句集 | 四六判布入 | 207 | 一、二〇 | 一二 | ぬかご社 | 十二月 | ▲俳誌『ぬかご』の昭和三年九月號より昭和四年九月號に至る一生活を謳ふ欄」の入選句全部を收めたもの。 |





| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高木角戀坊編 | 現代川柳名句集 | 四六判並製 | 483 | 一、五〇 | 一二 | 磯部甲陽堂 | 十一月 | ▲明治四十五年から現今に至る迄内地植民地等各方面に亙つて嚴選した句を五十音順に排列せるもの。川柳句語索を收錄。 |
| 近藤飴ン坊編 | 新川柳分類壹萬句 | 四六判並製 | 492 | 一、五〇 | 一〇 | 磯部甲陽堂 | 五月 | ▲歲事記筆初、春、夏、秋、冬、歲晩、服裝、住居、生活、飮食、軍事、學事等に分けて多くの現代川柳を網羅した書。 |
| 川上三太郎編 | 新川柳大觀—昭和・大正・明治— | 四六判並製 | 376 | 一、五〇 | 一〇 | 草文社 | 五月 | ▲明治中期に於て更生したる川柳が昭和の今日まで歩み來たつたその道程を作品の上から鳥瞰したもの。 |
| 松村篤三 | 川柳から見たユウモアの日本 | 新四六判並製函入布裝 | 1085 | 二、〇〇 | 一八 | 磯部甲陽堂 | 一月 | ▲神代の卷—神代にも男女二人の島流し—を始めに上古、中古、平安朝以下德川の卷に至る迄の川柳の日本史。 |
| 久佐太郎編 | 現代冠句大觀 | 四六判並製函入 | 282 | 一、五〇 | 八 | 素人社 | 七月 | ▲講談俱樂部、キング其他の雜誌及び新聞に掲載された冠句中より四千餘句を再選し分類收載—變遷史、作り方を記述す。 |

## 小說集・同叢書

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 泉鏡花 | 泉鏡花集 | 菊半截布裝入函 | 755 | 八、五〇 | 三〇 | 春陽堂 | 二月 | ▲名作「照葉狂言」を始め、高野聖、葛飾砂子、玄武朱雀、春晝、髯題目、三尺角、十三娘、草迷宮、歌行燈、鯛其他七篇。—豪華版— |
| 里見弴 | 里見弴集 | 菊半截布裝入函 | 747 | 八、五〇 | 三〇 | 春陽堂 | 二月 | ▲善心惡心、椿、父親、母と子、伊豫すだれ、最初の泊、雪の夜話、俄あれ、小暴君、河豚外短篇三篇と長篇「多情佛心」。—豪華版— |
| 島崎藤村 | 島崎藤村集 | 菊半截布裝入函 | 775 | 八、五〇 | 三〇 | 春陽堂 | 三月 | ▲櫻の實の熟する時、新生、千曲川のスケッチ等の有名な作品竝に明治詩境の先驅たる藤村氏の詩を收む。—豪華版— |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 菊池寬 | 夏目漱石 | 豐島與志雄 | 相馬泰三 | 島崎藤村 | 久米正雄 | 室生犀星 | 佐佐木茂索 | 里見弴 | 宇野千代 |
| 菊池寬集 | 夏目漱石集 | 豐島與志雄集 | 相馬泰三集 | 島崎藤村集 | 久米正雄集 | 室生犀星集 | 佐佐木茂索集 | 里見弴集 | 新選宇野千代集 |
| 菊判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 |
| 革函入 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 | 並製 |
| 740 | 721 | 561 | 627 | 522 | 657 | 767 | 559 | 719 | 518 |
| 八、五〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 |
| 三〇 | 一〇 | 八 | 六 | 六 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 |
| 春陽堂 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 |
| 三月 | 二月 | 四月 | 五月 | 六月 | 六月 | 七月 | 八月 | 八月 | 九月 |
| ▲恩を返す話、啓吉の誘惑、蘭學事始、眞珠夫人其他小說と、屋上の狂人、時の氏神、戀愛病患者等戲曲を收む。—豪華版— | ▲我輩は猫である（第四章以下全部）幻影の盾、一夜、二百十日、野分、夢十夜、それから、須永の話、先生と遺書其他一篇。 | ▲溺るゝもの、不肖の兄、裸木外短篇三篇と戲曲街路の人々、夫婦外六篇及び中篇野ざらし、長篇明暗の花等を收む。 | ▲短篇小說（泉水のほとり、小さき影、M避暑地より、呪はれた魂、たわむれ外四十篇）長篇小說「荊棘の路」を收む。 | ▲海へ（地中海の旅外四章）佛蘭西紀行（二章）山陰土産（大阪より城崎へ、大乘寺を訪ふ外十四篇）熱海土産を收む。 | ▲「天と地と」の長篇小說を初め、手品師、不肖の子、嫉疑、ある求婚者の話、峽中記、他人の死外廿七篇の短篇小說を收む。 | ▲童子、後の日の童子、わが一生と金蓮、お龍夫人、或女の一日、夕園の燒跡外四十篇。 | ▲魚の心、或日の日記、兄との關係、傷つく顴顬、玉城の從弟、或日歩く、母の妾宅、小畑の白銅外六十六篇。 | ▲勝負、恐ろしき結婚、彼と小娘、雨に咲く花、緣談宴、川はまり、一目惚、子ころし、三人の弟子、夜櫻其他短篇卅六篇。 | ▲おきぬと賛平、倉田仁吉の家、冬の日記から、白い木柵のある家、山あひの村での話、老女マノン外六十篇。 |



| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 片岡鐵兵 | 德田秋聲 | 吉田絃二郎 | 葛西善藏 | 文藝家協會編 | 佐藤春夫編 | 泉鏡花 | 犬養健 | 水上瀧太郎 | 水上瀧太郎 |
| 新選片岡鐵兵集 | 新選德田秋聲集 | 新選吉田絃二郎集 續篇 | 葛西善藏全集 第四卷 | 日本小說集 第五集—昭和四年版 | 十年 | 昭和新集 | 南京六月祭 | 月光集 | 果樹 |
| 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 菊判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 | 四六判 |
| 並製 | 並製 | 並製 | 上函入製 | 並製 | 函入布裝 | 函入布裝 | 上函入製 | 上函入製 | 上函入製 |
| 523 | 566 | 485 | 341 | 396 | 859 | 716 | 339 | 516 | 421 |
| 一、〇〇 | 一、〇〇 | 一、〇〇 | 二、五〇 | 一、七〇 | 九、〇〇 | 二、八〇 | 二、〇〇 | 二、五〇 | 二、〇〇 |
| 八 | 八 | 八 | 一三 | 一三 | 三〇 | 一三 | 一三 | 一八 | 一三 |
| 改造社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 新潮社 | 改造社 | 改造社 | 改造社 | 大岡山書店 | 改造社 |
| 十月 | 十月 | 十二月 | 六月 | 五月 | 九月 | 四月 | 四月 | 二月 | 五月 |
| ▲金錢に就て、雲とゴルフの球、美しき自動車、我儘を云はない仲、年少の友、あんな男こんな男外三十六篇。 | ▲何處まで、奔流の長篇二篇及び犠牲者、悲しみの後、無駄道、解嘲、黒い幕、和む、犬を逐ふ外二篇の短篇を收む。 | ▲小說（盜人の妻、濱外十九篇）戲曲（西鄉吉之助、門外一篇）感想（と弟子、信濃沓掛にて、五月の夜外廿九篇） | ▲感想（醉狸州七席七題外六篇）隨筆（近所の床屋の話外八篇）日錄二篇、作品批評（讀んだものから外四篇）人物記十一篇。 | ▲輕病兵（犬養健）競馬の如くに（池谷信三郎）無駄な入獄（石濱金作）鴨獵（葉山嘉樹）密偵（林房雄）其他二十五篇。—發賣禁止— | ▲武者小路氏の新しき村の創立十年を記念して文壇畫壇の權威六十九氏の小說感想詩論文戲曲紀行歌繪畫を網羅せるもの。 | ▲小說繪本の春外五篇、戲曲戰國茶漬外一篇隨筆紀行城崎を憶ふ外五篇、金色夜叉小解、芥川龍之介を弔ふ等を收む。 | ▲南京六月祭、松吉の立場、正義と煙草、黄いろの花、硝子玉の存在、女優、聖ピノチェット、牧歌外三篇を收めた短篇集。 | ▲十年、級友會、順風、晝布、食卓の人々等の小說と戲曲隣同志、律子と瑞枝、地下室、武士と町人と狼等を收む。 | ▲鳩、花束、女事務員、罹災者、兇刃、素人小說家の經驗、命の親、晚年、果樹など小說九篇を收む。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 芥川龍之介 | 西方の人 | 四六判上製 | 276 | 二、〇〇 | 一三 | 十 | 岩波書店 | ▲三つの窓、手紙、冬、齒車、十本の針、たゞ子の憂鬱、闇中問答、或阿保の一生、古千屋、續西方の人等晩年の作十一篇。 |
| 十一谷義三郎 | あの道この道 | 四六判上製 | 536 | 二、二〇 | 一三 | 五 | 創元社 | ▲街の犬、父と父、灯と唾、芽の出ぬ男、心の夕月、盲嬌、愛晉、眼、意地、風騒ぐ、仕立屋マリ子の一生外小說二篇。 |
| 牖田稔 | 母の最後の日 | 四六判洋布入 | 284 | 一、五〇 | 一三 | 十一 | 日本書院 | ▲中年で愛兒を失つた著者の涙の日記「一郎最後の日」及び少年時代母を愛慕した涙の記錄「母の最後の日」の創作二篇。 |
| 平林たい子 | 殿る | 四六判並製 | 344 | 一、五〇 | 六 | 十一 | 改造社 | ▲投げすてよ！、愚かなる女の日記、新婚、施療室にて、夜風、古戸棚、森の中、出札口、嘲る外プロ小說九篇。 |
| 工藤恒 | 短篇小說 横顔 | 昭和文庫(3) 菊半截並製 | 210 | 五〇 | 六 | 八 | 資文堂 | ▲霧、指、一致、エロオ物語、よく見る夢、櫻の實、露地うらの話、徒勞、歸鄉、夜、强者、壞れた頭顱等十二篇。 |
| 生田花世 | 燃ゆる頭 | 四六判布裝函入 | 324 | 一、八〇 | 一二 | 四 | 中西書房 | ▲燃ゆる頭、淺草の鐘、北風、秋の或る夕の事、群衆と母子、ともし頃の會話、繼子、櫻の町外九篇を收めた小說集。 |
| 藤森成吉 | 同志 | 四六判並製 | 286 | 八〇 | 六 | 十二 | 南蠻書房 | ▲同志、土堤の大會、應援、病床から、金目王子の話、町へ等の短篇六篇と、十萬圓事件、礫茂左衞門の戲曲二篇。 |
| 藤森成吉 | 光と闇 | 日本プロレタリア作家叢書(1) 四六判並製 | 144 | 七〇 | 六 | 九 | 戰旗社 | ▲土堤の大會、ツバサ、放す、貧乏な兵士、草間中尉、潮の音、選擧（三幕六場）光と闇（三幕五場）等を收む。 |
| 小林多喜二 | 蟹工船 | 日本プロレタリア作家叢書(2) 四六判並製 | 126 | 五〇 | 四 | 十一 | 戰旗社 | ▲蟹工船博光丸に乘り込んだ漁夫達の悲慘な生活を描いた長篇小說。—發禁改訂版— |
| 山田清三郎 | 五月祭前後 | 日本プロレタリア作家叢書(3) 四六判並製 | 208 | 七〇 | 六 | 九 | 戰旗社 | ▲街巷挿話（宵闇外五篇）與吉物語（大禍餅外三篇）新聞從業員（廻し者外二篇）五月祭前後（朝風の中で外三篇）。 |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩藤雪夫 | 賃銀奴隷宣言 | 四六判並製 | 499 | 一、五〇 | 八 | 十二 | 南蠻書房 | ▲ガトフ・フセヴダア、闘ひを襲ぐもの、吹雪海へ行く、賃銀奴隷宣言等プロ小說五篇を收む。 |
| 岩藤雪夫 | 鐵 | 四六判並製 | 378 | 一、五〇 | 八 | 十一 | 改造社 | ▲畸形兒、赤い灯、二つの心臟、賣られた彼等、黑いあざ、海の反逆、墓穴を掘る、吹雪其他プロ小說八篇。 |
| 木下尙江 | 火の柱・火宅 | 木下尙江集(1) 四六判並製 | 432 | 一、五〇 | 一二 | 八 | 春秋社 | ▲熱烈な理想と社會愛を描き木下氏の特色を最も濃厚に示したる「火の柱」及び「火宅」の二小說を收む。 |
| 木下尙江 | 良人の自白 上卷 | 木下尙江集(2) 四六判並製 | 219 | 一、五〇 | 一二 | 三 | 春秋社 | ▲民主々義者白井俊三を主人公として人生に對する眞摯な凝視と人間愛慾の試練と社會に對する正義の要求を盛つた長篇。 |
| 木下尙江 | 良人の自白 下卷 | 木下尙江集(3) 四六判並製 | 614 | 一、五〇 | 一四 | 四 | 春秋社 | ▲下卷は我とは何かといふ解き難き疑問を抱いた俊三が廢れた生活から異國へ走るまで、及び續篇が收めてある。 |
| 木下尙江 | 靈か肉か | 木下尙江集(4) 四六判並製 | 218 | 一、五〇 | 一二 | 六 | 春秋社 | ▲高官の妾腹に生れた美女の奇怪なる生ひ立ちから、數奇を極めた哀れな生涯を描いた長篇小說。 |
| 野上彌生子 | 海神丸 | 岩波文庫(479) 菊半截並製 | 91 | 二〇 | 二 | 一 | 岩波書店 | ▲九州東海岸の船乘りの實話から作つた小說で、六枚の帆を持つた運送船海神丸の海上に於ける悲劇を描く。 |
| 國木田獨歩 | 運命論者 —他二篇— | 岩波文庫(494) 菊半截並製 | 96 | 二〇 | 二 | 三 | 岩波書店 | ▲「運命論者」の外に、女難、二老人の二短篇を收む。 |
| 國木田獨歩 | 源をぢ —他二篇— | 岩波文庫(495) 菊半截並製 | 83 | 二〇 | 二 | 三 | 岩波書店 | ▲「源をぢ」を始め、酒中日記、正直者の三篇を收む。 |
| 島崎藤村 | 櫻の實の熟する時 | 岩波文庫(510—511) 菊半截並製 | 196 | 四〇 | 四 | 六 | 岩波書店 | ▲青年岸本捨吉の惱やみを描いた長篇小說。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 夏目漱石 | 草枕 | 岩波文庫(538) | 菊半截並製 | 158 | 二〇 | 岩波書店 | 七月 |
| 夏目漱石 | 坊つちやん | 岩波文庫(537) | 菊半截並製 | 140 | 二〇 | 岩波書店 | 七月 |
| 夏目漱石 | 坊つちやん | 改造文庫第二部(40) | 菊半截布裝 | 202 | 二〇 | 改造社 | 二月 |
| 夏目漱石 | それから | 改造文庫第二部(42) | 菊半截布裝 | 313 | 三〇 | 改造社 | 二月 |
| 樋口一葉 | 樋口一葉選集 | 改造文庫第二部(36) | 菊半截布裝 | 125 | 一〇 | 改造社 | 二月 |
| 二葉亭主人 | 平凡 | 改造文庫第二部(37) | 菊半截布裝 | 123 | 一〇 | 改造社 | 七月 |
| 石川啄木 | 我等の一團と彼は天才である | 改造文庫第二部(44) | 菊半截布裝 | 108 | 一〇 | 改造社 | 二月 |
| 横光利一 | 日輪 | 改造文庫第二部(49) | 菊半截布裝 | 88 | 一〇 | 改造社 | 二月 |
| 葉山嘉樹 | 勞働者の居ない船 | 改造文庫第二部(50) | 菊半截布裝 | 122 | 一〇 | 改造社 | 二月 |
| 國木田獨歩 | 少年の悲哀 | 改造文庫第二部(38) | 菊半截布裝 | 188 | 二〇 | 改造社 | 十一月 |

▲文豪漱石の世に名高き傑作長篇。

▲親讓りの無鐵砲な坊っちやんの教員生活を描いた名高い長篇。

▲學校を出たての坊ちやんの教員生活を描いた有名な「坊ちやん」を始め、カーライル博物館、文鳥、倫敦塔等を收む。

▲「三四郎」「門」と共に三部作をなすもので、漱石氏の數多い作品中最も完成味をもつた名作と稱さるゝもの。

▲一葉女子の名高い「たけくらべ」を始めとし、にごりえ、十三夜、われから等傑作四篇を收む。

▲明治文壇に於ける偉大なるパラドクスであり、未成品の巨像たりし二葉亭四迷の最後の作。

▲初期の啄木の思想傾向を最もよく表徵した「雲は天才である」と晩年の傾向をよく裏づけた「我等の一團と彼」の二傑作を收む。

▲材を太古民族にとつた現文壇の雄橫光氏の出世作で、奴國の宮の王子長羅の烈しき愛慾を描いた長篇。

▲勞働者の居ない船、淫賣婦、印度の靴、坑夫の子、港町の女、セメント樽の中の手紙、苦鬪等短篇七篇を收む。

▲源なお、酒中日記、號外、窮死、鹿狩、少年の悲哀、馬上の友、竹の木戸、春の鳥、正直者の十篇。



## 長篇小說

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 谷崎潤一郎 | 近代情痴集 | 新潮文庫(8) | 新型判並製 | 438 | 一、〇〇 | 新潮社 | 二月 |
| 宇野浩二 | 戀愛合戰 | 新潮文庫(9) | 新型判並製 | 417 | 一、〇〇 | 新潮社 | 二月 |
| 志賀直哉 | 夜の光 | 新潮文庫(1)增補 | 新型判並製 | 402 | 一、〇〇 | 新潮社 | 二月 |
| 谷崎潤一郎 | 潤一郎犯罪小說集 | 新潮文庫(14) | 新型判並製 | 484 | 一、〇〇 | 新潮社 | 四月 |
| 芥川龍之介 | 黃雀風 | 新潮文庫(15)新增補 | 新型判並製 | 416 | 一、〇〇 | 新潮社 | 五月 |
| 谷崎潤一郎 | 蓼喰ふ蟲 | | 菊判上製入函 | 391 | 二、五〇 | 改造社 | 十月 |
| 佐藤春夫 | 神々の戲れ | | 四六倍判洋裝函入 | 308 | 三、五〇 | 新潮社 | 二月 |
| 山本有三 | 波 | | 四六判上製函入 | 445 | 一、八〇 | 朝日新聞社 | 二月 |
| 里見弴 | 今年竹 | | 四六判上製函入 | 607 | 一、五〇 | 春陽堂 | 九月 |

▲お才と巳之助、富美子の足、憎念、柳湯の事件、青い花等七篇と戲曲「戀を知る頃」竝に異國綺談（三篇）附載。

▲妖艷な一女優を中心として、青年男女の性的生活を大膽に描ける長篇で、モデル小說として有名な作。

▲和解、老人、清兵衞と瓢箪、好人物の夫婦城の崎にて等十四篇に或る朝、荒絹、小僧の神樣外十篇を加へた書。

▲日本に於けるクリップリン事件、白晝鬼語、或る罪の動機、私、途上、前科者、黑白等七篇を收む。

▲著者が最も圓熟せる時代の作品集たる「黃雀風」に加ふるに「影燈籠」及び「春服」の二大集中より佳篇を選んで收めたもの。

▲靈も肉も總てを知悉した中年の夫とその妻との變態的な生活を中心とした谷崎氏の最近の長篇小說。

▲超人の面影ある畫家高木を中心に美しき處女麗子亂倫背德の醫師椿其他個性著しき人々が戀に生活に複雜な社會相を描く長篇。

▲姦通した妻の死後遺兒と共に生くる一教員を主人公とした長篇で、妻、子、父の三部より成る長篇小說。

▲青年實業家志村と藝妓春代との戀を中心とした長篇で、總見、二夫婦、たちぎき、三人上戶外十七項—普及版—

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 里見弴 | 山手暮色 | 四六判 | 布裝 | 393 | 二、三〇 | 春陽堂 十一月 |
| 廣津和郎 | 薄暮の都會 | 四六判 | 上函入製 | 450 | 二、〇〇 | 大森書房 十一月 |
| 久保田萬太郎 | 春泥 | 菊判 | 上函入製 | 206 | 一、三〇 | 春陽堂 十一月 |
| 島崎藤村 | 新生 | 四六判 | 並製 | 476 | 一、四〇 | 春陽堂 十一月 |
| 松岡讓 | 憂鬱な愛人 上卷 | 四六判 | 並製 | 390 | 一、〇〇 | 第一書房 十二月 |
| 十一谷義三郎 | 唐人お吉 | 四六判 | 布函裝 | 333 | 一、八〇 | 萬里閣 十一月 |
| 吉田絃二郎 | 長篇小說 靜夜曲 | 四六判 | 並製 | 526 | 一、八〇 | 新潮社 十一月 |
| 菊池寬 | 東京行進曲 | 四六判 | 洋布 | 332 | 一、五〇 | 春陽堂 十一月 |
| 菊池寬 | 明眸 上卷 禍 | 三六判 | 並製 | 278 | 一、二〇 | 文藝春秋社出版部 十一月 |
| 中村武羅夫 | 蒼白き薔薇 | 四六判 | 上函入製 | 375 | 一、七〇 | 新潮社 十一月 |

▲紅尾燈、清遊、秋雨、二と一、引越、陽の色、讃言、血、身代り、白衣、耳、放生等より成る最近の長篇小說。

▲新進作家の國友新造、劇作家の佐藤繁吉、キネマ俳優の富士ゆき子其他所謂藝術家と稱せられる一團の人々の生活を描いた長篇。

▲崩れ行く新派の由良一座の役者達のさまざまを描いた長篇で、向島、三羽烏、みぞれ、冬至、むほん、夕燒雲等より成る。

▲藤村氏の自傳的小說として有名な長篇で、主人公岸本とその姪の節子との戀愛を描いたもの。

▲文豪夏目漱石の令孃をめぐる有名な戀愛葛藤を材とした長篇小說—普及版—

▲長篇創作「唐人お吉」と黑船に關する狂體の文章詩歌集「くろふね耳袋」並に村松春水氏の回想記「唐人お吉を語る」を收む。

▲一種のブランドであつた青年哲學者相浦虔之助を主人公とした長篇で、東日、文藝春秋に連載されたものに新稿を加ふ。

▲華やかに富める理智と美貌の早百合と貧しく可憐に美しき道代を中心とし大東京を舞臺とした奇しき物語。

▲近代的な測り知れない感情の深さを湛へて居る美しい眸を持つた珠子を中心とした長篇で、序曲以下龍子の家出迄收載。

▲百合子と八重子の姉妹とモダンガール緋佐子の若く美しき三人の女性を中心とした長篇小說。



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 加藤武雄 | 饗宴 | 四六判 | 布函裝入 | 474 | 一、九〇 | 新潮社 九月 |
| 三上於菟吉 | 春は逝れり | 四六判 | 上函入製 | 411 | 一、三〇 | 平凡社 四月 |
| 三上於菟吉 | 情熱時代 | 四六判 | 上函入製 | 452 | 一、三〇 | 平凡社 四月 |
| 三上於菟吉 | 前編 刑火 | 四六判 | 上函入製 | 449 | 一、五〇 | 平凡社 九月 |
| 三上於菟吉 | 三上於菟吉長篇小說集(9) 惡魔の戀 | 四六判 | 布函裝入 | 636 | 二、〇〇 | 新潮社 五月 |
| 長谷川時雨 | 處女時代 | 四六判 | 上函入製 | 449 | 一、三〇 | 平凡社 六月 |
| 戸川貞雄 | 女性の復讐 | 四六判 | 上函入製 | 576 | 一、三〇 | 平凡社 七月 |
| 畑耕一 | 棘の樂園 | 四六判 | 布函裝 | 705 | 二、五〇 | 博文館 三月 |
| 菊池幽芳 | 月魄 | 新菊判 | 布函裝 | 612 | 一、五〇 | 金尾文淵堂 二月 |
| 鶴見祐輔 | 母 | 四六判 | 布裝 | 550 | 二、〇〇 | 大日本雄辯會 六月 |

▲意に滿たぬ結婚から逃れて强く生きんとする令孃萬千子の苦鬪を描いた長篇で、婚約者以下卅五項より成る。

▲青年科學者を主人公とした中篇小說「春は逝れり」の外に、少年時代、秋の戀の二短篇を收む。

▲「情熱時代」を始め、毒草、秋の一日、或る無理心中の話、女よ爾の胸は巖だ等五篇の小說が收めてある。

▲「主婦之友」連載中の長篇小說で、無名作家春日新三郎とその戀人りん子の生きんとする惱みを描く。

▲三上氏の廿五六歲時代の作たる「惡魔の戀」外に作者の最も好愛する「黑髮」及び「颱風」等を收む。

▲呪ひの家、處女時代の二長篇を收む。

▲湘南の海の夜釣に出かけた立花、小野の二青年に救はれた令孃千鶴子を中心とした長篇小說。

▲悲しき愛慾の惱やみを描いた長篇小說で、船暈、二つの扉、恐ろしき烙印、泥の冠、最後の誓外十三項。

▲陸軍少將の令孃倭文子の不幸な結婚生活を描いた通俗長篇小說で、往年新派劇として再々上演されたもの。

▲戀愛から結婚への道を辿つた朝子が夫と死別してより三人の子の母親として如何に苦難の人生と戰つたかを描いた長篇。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鶴見祐輔 | 最後の舞踏 | 四六判布装 | 408 | 一、八〇 | 講談社 | 十月 | ▲思想宣傳家としての立場より描いた鶴見氏の小説で、高山巖といふ青年を主人公とした西印度を舞臺とした長篇。 |
| 長島隆二 | 陰謀は輝く | 四六判上製函入 | 285 | 一、三〇 | 平凡社 | 九月 | ▲政界の遊星長島隆二氏が前首相政友會總裁田中義一男をモデルとして政黨のカラクリ、政界の祕事を描ける小說。 |
| 邦枝完二 | 大空に描く | 四六判布装函入 | 524 | 二、〇〇 | 博文館 | 四月 | ▲南海大學の野球選手平川長をめぐるカルメンお菊、不良令嬢慶子、可憐な千鶴子の戀の葛藤を描いた長篇小說。 |
| 國枝史郎 | 建設者 | 四六判上製函入 | 594 | 一、三〇 | 平凡社 | 八月 | ▲「週刊朝日」へ連載された國枝氏の現代物長篇小說の處女作で、或る劇團の監督木村俊市を中心とした物語。 |
| 米澤順子 | 毒花 | 四六判布装函入 | 508 | 一、八〇 | 萬里閣 | 一月 | ▲現代婦人の新、舊の二魂を一身に具へた女性庸子を中心に愛の種々相を畫いた長篇。時事新報懸賞當選小說。 |
| 井手訶六 | 新らしき生へ 上卷 | 四六判布装函入 | 338 | 一、二〇 | 大阪盛文館 | 一月 | ▲力強い、あくまで個人の人格に權威を認めた主人公小鷹牧夫を中心に、コスモスの樣な美を持つ美代子、薔薇の樣な美しさを持つ彌生、下層階級の救濟を畢生の事業とする本田正剛其他を巡つて奇しき愛の種々相を如實に描き出した長篇。—普及版— |
| 井手訶六 | 新らしき生へ 下卷 | 四六判布装函入 | 379 | 一、二〇 | 大阪盛文館 | 一月 | ▲大正十年發行された「新約」を改作したもので、上卷は第一篇エルサレム以下第八篇洗禮ヨハネ迄收載。 |
| 江原小彌太 | 新約 上卷 | 四六判布装函入 | 638 | 二、八〇 | 萬里閣 | 五月 | ▲神と人とを結ぶ媒介者の美はしい一女性が夫を感化し數十町歩の田地を悉く貧民に施してどん底生活に人間の大道を實證した創作。 |
| 三浦關造 | 黎明の聖女 | 四六判背函入布 | 500 | 一、八〇 | 平凡社 | 一月 | ▲未だ曾て一回の小作爭議も半回の階級戰も聞はれたことのない因襲觀念に眠る一農村に生起する生の種々相を描いた長篇。 |
| 寺神戸誠一 | 廢村賦 | 四六判並製 | 573 | 一、八〇 | 農民文學社 | 二月 | |



| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 宮原欣 | 未來 | 長篇小說 四六判洋裝函入 | 962 | 二、五〇 | 厚生閣 | 十月 | ▲若き人々を描いた長篇小說。 |
| 犬田卯 | 村に鬪ふ | 長篇創作 四六判並製 | 368 | 一、五〇 | 全國農民藝術聯盟 | 十一月 | ▲若い百姓作二を主人公とし慘めな農村の人人を描いた長篇小說。 |
| 山川亮 | 世紀の假面 | 四六判並製 | 280 | 一、二〇 | 改造社 | 三月 | ▲松本電氣會社を中心として、工場と家庭とに起つた悲劇喜劇を描き現代社會の一斷面を見せた長篇。 |
| 高木麟太郎 | 中學時代 | 四六判並製 | 185 | 八〇 | 汎人社 | 九月 | ▲私といふ主人公の中學時代の生活を描いた長篇創作。 |
| 青木鶴亭 | 旅 | 四六判上製 | 268 | 一、二〇 | 光學堂 | 八月 | ▲島村貞之助といふ青年の異境に於ける戀愛を描いた長篇小說。 |
| 中里介山 | 夢殿 | 四六判布装 | 320 | 一、八〇 | 春秋社 | 十二月 | ▲多年聖德太子を研究して居られる中里氏の長篇創作。 |
| 中里介山 | 大菩薩峠 第三册 | 菊判上製函入 | 520 | 三、五〇 | 春秋社 | 十一月 | ▲第三册は如法闇夜の卷、お銀さまの卷、慢心和尚の卷、道庵と鰡八の卷の四篇を收む。—特製本— |
| 中里介山 | 大菩薩峠 第二册 | 菊判上製函入 | 496 | 三、五〇 | 春秋社 | 十一月 | ▲第二册は東海道の卷、白根山の卷、女子と小人の卷、市中騷動の卷、駒井能登守の卷、伯耆安綱の卷を收む。—特製本— |
| 中里介山 | 大菩薩峠 第一册 | 菊判上製函入 | 547 | 三、五〇 | 春秋社 | 十月 | ▲大作として有名な「大菩薩峠」の特製本で第一卷には甲源一刀流の卷以下間の山の卷まで六卷を收む。—特製本— |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中里介山 | 大菩薩峠 第四冊 | 上函菊判 製入 | 537 | 三、五〇 | 春秋社 | 十二月 | ▲第四冊は黒業自業の巻、安房の國の巻、小名路の巻、禹門三級の巻の四編。—特製本— |
| 上野松峰 | 漂泊の人（春秋文庫、19） | 三六判 洋布 | 190 | 五〇 四 | 春秋社 | 八月 | ▲大日本史、西行物語、雨月物語其他多くの古書及び諸家の西行に關する評論を基に詩僧西行を描いた創作。 |
| 大佛次郎 | 赤穗浪士 下巻 | 四六判 布函 裝入 | 350 | 一、五〇 二三 | 改造社 | 八月 | ▲下巻は吉良家討入り前の「江戸座」から始つて浪人堀田隼人の最期を語る「雨の中」まで未發表の新稿を加へて收む。 |
| 大佛次郎 | ごろつき 上巻 船 | 四六判 布函 裝入 | 569 | 一、八〇 二三 | 改造社 | 四月 | ▲或る陰謀の爲に汚名を被せられ北海の原始林の白樺の幹に妻子の名を刻んでロシヤへ逃れた三木原伊織の復讐奇譚。 |
| 大佛次郎 | ごろつき 下巻 船 | 四六判 布函 裝入 | 630 | 二、〇〇 二三 | 改造社 | 十月 | ▲下巻は鰐崎、赤崎屋へ對する熾烈な復讐に八幡屋の遺兒銀之助、三木原伊織、旗本土屋主水正等の躍動を描く。 |
| 大佛次郎 | からす 前篇 組 | 四六判 布函 裝入 | 432 | 一、五〇 二三 | 改造社 | 十二月 | ▲德川幕末を背景に官軍に狙はれ愛人からは夫の仇として追はれ流轉する武士細谷十太夫の奇しき運命を描いた大衆小說。 |
| 矢田挿雲 | 太閤記 第四篇 | 四六判 布函 裝入 | 360 | 二、三〇 二三 | 寶文館 | 七月 | ▲蓋世の英雄秀吉の波瀾曲折に富める生涯を描いたもので、第四篇は出世の巻で稻葉城開城より近江源氏の十八城迄。 |
| 長谷川伸 | 股旅草鞋 | 四六判 製入 | 407 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 八月 | ▲股旅草鞋、隣す、阿部掃部と青木新兵衛、第一の春、或る晩の扇歌、柄杓酒、一人旅二人旅外七篇を收めた大衆戲曲物。 |
| 長谷川伸 | 日染月 前篇 染 | 四六判 製入 | 486 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 七月 | ▲風雲急を告ぐる暗き幕末から文明開化の明るき明治への時世の變轉期を舞臺として、旗本から大盜となつた武士親子、お探れ者の島破り、執念蛇の如き岡つ引等々入り亂れて奇しくも織りなせる一篇の哀話。前篇元旦捕物以下十三項、後篇人殺し中止以下十二篇。 |
| 長谷川伸 | 日染月 後篇 染 | 四六判 製入 | 511 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 七月 | |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 吉川英治 | 萬花地獄 | 四六判 製入 | 680 | 一、五〇 二三 | 平凡社 | 六月 | ▲秘密埋藏の場所を示す解開の鏡を探す大惡人司馬大學と忠臣小枝角太郎との爭闘物語で「砥きの賴み人」より始まる。 |
| 吉川英治 | 江戸三國史 後篇 | 四六判 製入 | 488 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 四月 | ▲老賊九兵衛の奇策によつて再び日本左衛門と相良金吾が一騎討する處から始つて大團圓までの波瀾重疊の物語。 |
| 吉川英治 | 貝殼一平 上巻 | 四六判 布函 裝入 | 639 | 一、八〇 二三 | 先進社 | 十二月 | ▲生來の美貌に幾多の女性と滑稽と悲哀を描く主人公一平と同じ運命にあやつられる澤井轉其他を扱つた大衆もの。 |
| 前田曙山 | 黑髮夜叉 前編 | 四六判 製入 | 391 | 一、五〇 二三 | 潮文閣 | 三月 | ▲御墨付の行衛を中心に强きを挫き弱きを扶くる天下無敵の俠盜義賊乾隼人と、より以上恐るべき美女お新との智と智との爭闘を描いた長篇。前篇慾の行詰り以下乾の歸獄まで百二項、後篇彌六の禮意以下落胤の女性まで九十九項—普及版— |
| 前田曙山 | 黑髮夜叉 後編 | 四六判 製入 | 386 | 一、五〇 二三 | 潮文閣 | 三月 | |
| 野村胡堂 | 美男狩 前篇 | 四六判 製入 | 511 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 三月 | ▲維新の元勳木戸孝允の前身桂小五郎とその師齋藤彌九郎の二偉人が美しき船の娘を捕へるを序幕とする長篇物語。 |
| 野村胡堂 | 美男狩 續編 | 四六判 製入 | 531 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 九月 | ▲續編は猫又婆の家を取り圍んだ佐伯東一郎の「捕物陣」から始つて狂戀地獄、男の血を、黎明等十七項。 |
| 高桑義生 | 白蝶祕門 上巻 | 四六判 製入 | 464 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 五月 | ▲德川將軍家齊愛藏の香盒胡蝶樂を巡る怪奇な物語で、上巻は「鳩の衆政」から「野生の叫び」までが收めてある。 |
| 高桑義生 | 白蝶祕門 續篇 | 四六判 製入 | 532 | 一、三〇 二三 | 平凡社 | 八月 | ▲續編は「間諜」から始つて、白日夢、哀傷無限、競艷二人女、奇怪な家、渦卷燃ゆる、神と惡魔等十六項。 |
| 土師清二 | 天明往來 | 四六判 製入 | 715 | 一、五〇 二三 | 平凡社 | 八月 | ▲心ならずも人を斬つた根來俊作と仇討ちに江戸へ出て來た田舍侍守江粂四郎とを中心とした長篇物語。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本田美禪 | 俺は男だ | 四六判上製入函 | 508 | 一、三〇 | 平凡社 | 十二月 | ▲失脚した田沼主殿頭意次の爲に奮起した一刀流の劍士各務大彌太が意次の遺言によつて大活躍する物語。 |
| 生田蝶介 | 妖說天草丸 | 四六判上製入函 | 521 | 一、三〇 | 平凡社 | 十二月 | ▲九州の一角島原に據り伴天連教徒を聚集し德川幕府覆滅を企てた小西行長の軍師森宗意軒其他を描く。 |
| 直木三十五 | 仇討淨瑠璃坂 | 四六判上製入函 | 506 | 一、三〇 | 平凡社 | 十二月 | ▲宇都宮奥平侯の家老奥平隼人と内藏允の確執から内藏允の生害となり兩門各七十餘名の悲壯な復讐を描く。 |
| 直木三十五 駿府秘史 | 由比根元大殺記 | 四六判上製入函 | 432 | 一、三〇 | 平凡社 | 十一月 | ▲駿河大納言忠長の矯勅たる不平憤懣を描いた長篇小說。 |
| 寺島柾史 | 鹿鳴館時代 前編 | 四六判布裝 | 501 | 二、〇〇 | 萬里閣 | 二月 | ▲大西郷が城山で眼を閉ぢ、伊藤博文が國會開設の準備の爲に洋行した明治十五年の秋頃から始る世相小說。 |
| 村松梢風 | 綾衣繪卷 | 四六判上製入函 | 390 | 一、三〇 | 平凡社 | 三月 | ▲尾張屋心中、時姫、琴姫物語、二人大名、堀の妾宅、福袋、死の前の家康、馬鹿囃子、綾衣繪卷等大衆文藝九篇。 |
| 平山蘆江 | 唐人船 地の巻 | 四六判上製入函 | 455 | 一、五〇 | 平凡社 | 十月 | ▲日本の黎明を育くんだ長崎の港か背景に少年浦川幸之助の數奇な運命を描いたもので、峰火岳、ロシア更紗其他十八項。 |
| 中内蝶二 | 劍豪近藤勇 續編 | 四六判上製入函 | 451 | 一、三〇 | 平凡社 | 三月 | ▲續篇は「新選組阿修羅道の巻」で、島原田圃で難を受けた刀屋五兵衞が新選組の御用勤めとなるところより始まる。 |
| 秦賢助 | 高濱常盤 | 四六判上製入函 | 548 | 一、三〇 | 平凡社 | 六月 | ▲國學者を父に持ち生れながらの皇室中心主義者で勤王黨有數の劍客でそして美男の高濱常盤之助の物語。 |
| 佐々木味津三 | 右門捕物帖 | 四六判上製入函 | 574 | 一、八〇 | 大日本雄辯會 | 七月 | ▲南蠻幽靈、生首の進物、血染の手形、青眉の女、笛の秘密、謎の八卦見、村正騷動其他むつつり右門の捕物奇談八篇。 |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐々木味津三 | 謎の人形師 | 四六判上製入函 | 472 | 一、三〇 | 平凡社 | 六月 | ▲謎の人形師、討てぬ仇討、將軍の見本、義劍春雨譚、三河武人物語、剛直一代男、死に行く武士外九篇を收む。 |
| 三上於菟吉 | 旗本風流陣 | 四六判上製入函 | 414 | 一、六〇 | 資文堂 | 十二月 | ▲旗本風流陣、貞享美少年錄、女形かつら、捕物女双六、天誅組外傳、鳥邊山右門、切支丹狩り外四篇の讀物集。 |
| 三上於菟吉 | 落花劍光錄 | 四六判上製入函 | 295 | 一、三〇 | 平凡社 | 七月 | ▲大江戸の街々を謎の如く出沒する花恥しき乙女ともみゆる濡羽に輝く若衆髷美しき八少橋若衆を中心とした物語。 |
| 三上於菟吉 | 淀君 前編 | 四六判上製入函 | 433 | 一、五〇 | 平凡社 | 九月 | ▲美女淀君を主人公とした長篇で、前篇には反間苦肉から始つて修法成就までを收む。「婦女界」連載中。 |
| 邦枝完二 | 東洲齋寫樂 | 四六判布裝入函 | 460 | 一、八〇 | 博文館 | 三月 | ▲浮世繪界の異才寫樂を描いた「東洲齋寫樂」を始め、雨中双景、反逆者光秀、師走空、菖蒲河岸等五篇を收む。 |
| 國枝史郎 | 娘煙術師 | 四六判上製入函 | 335 | 一、五〇 | 朝日新聞社 | 七月 | ▲京都所司代番士の屋敷町に謎の歌を樂書して廻る性しき女の出現から始つてさまざまの人物が活躍する物語。 |
| 尾山篤二郎 | 影繪双紙 | 四六判上製入函 | 411 | 一、三〇 | 平凡社 | 八月 | ▲安政地震の夜より筆を起し我國の歷史上最も重要なる維新時代を舞臺とし、村越平次郎及び主馬助の双生兒を圍む物語。 |
| 岡本綺堂 | 兩國の秋 | 四六判上製入函 | 450 | 一、六〇 | 資文堂 | 八月 | ▲兩國の秋、うす雪、大森彦七、不孝者、西郷星、兜、庄内の仇討、子供役者の死、磯部のやどり等讀物九篇を收む。 |
| 岡本綺堂 | 半七捕物帳 上巻 | 四六判洋裝入函 | 522 | 二、〇〇 | 春陽堂 | 一月 | ▲大江戸の面影がうかがひ知られる物語集で上巻には大正六年の一月に初めて世に出た「お文の魂」をはじめ、石燈籠、湯屋の二階、お化師匠、辨天娘外十六篇、下巻には鬼娘、異人の首、蝶合戰、小女郎狐外十九篇の興味ある探偵物語が收められてある。 |
| 岡本綺堂 | 半七捕物帳 下巻 | 四六判洋裝入函 | 520 | 二、〇〇 | 春陽堂 | 一月 | |

## 傳奇小說・探偵小說・其他

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 田中貢太郎 | 奇談全集 —歷史篇— | 四六判並製 | 568 | 一、五〇 八 | 八月 | ▲楠正行の中風、女の市、坂本龍馬の一面、龍を生捕つた話、七人の夫人、人參の精、唐人殺し、輝の痛み外物語四十七篇。 |
| 田中貢太郎 | 奇談全集 —現代篇— | 四六判並製 | 567 | 一、五〇 八 | 八月 | ▲脂取り一揆、仙術修業、一犠牲者の話、馬關街頭の刺客、明治大正濱職事件、殺人鬼横行、名畫の野猪其他物語四十二篇。 |
| 文藝家協會編 | 大衆文學集 —昭和四年版— | 四六判並製 | 386 | 一、五〇 一〇 | 五月 | ▲戀情無明佛（土師清二）運不運物語（額田六福）增長天王（吉川英二）哲學辭陣（直木三十五）沙漠の美姫（國枝史郎）外十四篇。 |
| 村上浪六 | 蜂須賀小六 | 四六判洋布入 | 369 | 一、四〇 一二 | 九月 | ▲群雄割據の亂世に大盜から後に豐臣秀吉の天下征定の業の蔭に與つて力あつた蜂須賀小六正勝の物語。 |
| 村上浪六 | 人生の旅行と海賊人の垢と人生の苦樂 | 四六判布裝入 | 841 | 一、三〇 一三 | 三月 | ▲年少客氣の少年片山長太郎を主人公にして人生の波瀾曲折を描いた「人生の旅行」以下海賊人の垢、人生の苦樂等收載。 |
| 村上浪六 | いたづらものの裸體の人間 | 四六判並製 | 895 | 一、三〇 一三 | 三月 | ▲「いたづらもの」を始めとして、かはりもの、裸體の人間などの例の浪六式の痛快な人物が活躍する三篇を收む。 |
| 村上浪六 | かまいたち | 四六判布裝 | 338 | 一、四〇 一三 | 十二月 | ▲江戸が東京と改稱された當時最も許し難い無用の忍術を心得た大森兵藏がどういふ生活の道を求めたかを描いたもの。 |
| 黒岩涙香譯 | 噫無情と後の巖窟王 | 四六判洋布入 | 1030 | 一、八〇 一八 | 十一月 | ▲ユーゴー傑作「レ・ミゼラブル」及び「モンテ・クリスト」の二篇を涙香氏が記述したもの。「改版」 |
| 黒岩涙香譯 | 巖窟王 | 四六判洋布入 | 1280 | 一、八〇 一八 | 十一月 | ▲アレキサンドル・デュマの傑作を飜案した怪奇長篇小說「巖窟王」上下二卷を收む。 |
| 黒岩涙香譯 | 鐵假面と破天荒 | 四六判洋布入 | 1028 | 一、八〇 一八 | 十月 | ▲黒岩涙香氏飜案の「鐵假面」と「破天荒」の二怪奇長篇小說を改む。 |
| 黒岩涙香譯 | 幽靈塔と人の運 | 四六判洋布入 | 1076 | 一、八〇 一八 | 十一月 | ▲「幽靈塔」及び「人の運」の二長篇を改む。 |
| 黒岩涙香譯 | 野の花と白髪鬼 | 四六判洋布入 | 1028 | 一、八〇 一八 | 十一月 | ▲涙香氏飜案の「野の花」と「白髪鬼」の二篇を收む。 |
| 耽綺社同人合作 | 空中紳士 | 四六判上製 | 332 | 一、五〇 一二 | 三月 | ▲土師清二、長谷川伸、國枝史郎、小酒井不木、江戸川亂歩諸氏合作の長篇怪奇小說で、この世におさらばを告げる男以下廿八項。 |
| 探偵趣味の會編 | 創作探偵小說選集 第四輯 | 四六判並製 | 400 | 二、二〇 一二 | 二月 | ▲惡夢—江戸川亂歩、動物園の一夜—平林初之輔、海龍館事件—橋本五郎、隼のお正月—久山秀子其他十二篇を收む。 |
| 小酒井不木 | 小酒井不木傑作選集 新青年叢書(3) | 四六判並製 | 316 | 一、二〇 六 | 六月 | ▲闘爭、安心術、見得ぬ顏、虚實の證據、肉腫、桐の花、死體蠟燭、二人の思想家、二重人格者、戀愛曲線外探偵小說八篇。 |
| 藤原時三郎譯 | コナン・ドイル作 ホルムスの思ひ出 | 四六判上製 | 312 | 一、五〇 六 | 六月 | ▲銀炎、黄色い顏、仲買店員、グロリア、スコット號、マスグレーブ家の禮式、レイゲートの地主外五篇。 |
| 佐々木茂索譯 | モオリス・ルブラン作 アルセエヌ・リュパン | 四六判洋布入 | 655 | 一、五〇 一二 | 四月 | ▲强盜紳士、水晶の栓、輝く雨（黄金三角前篇）リュパンの勝利（黄金三角後篇）など痛快な巨盜ルパンの物語四篇。 |
| 桃井津根雄譯 | スティヴンスン作 ニュウアラビアンナイト | 四六判上製 | 396 | 一、五〇 一〇 | 九月 | ▲スティヴンスンの「ニューアラビアンナイト」の全譯で、自殺倶樂部、王の金剛石、海邊の樓閣外三篇。 |
| 辰野九紫 | 青バスの女 新青年叢書(1) | 四六判並製 | 314 | 一、二〇 八 | 五月 | ▲青バスの女、わしの子やろか、質屋系圖、嘆きの月給、怪盜出沒變化鏡、百十三番地の戀人、よろづ案内外五篇。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウヅドハウス作<br>梶原信一郎譯 | 新青年叢書(2)<br>どもり綺譚 | 四六判<br>並製 | 308 | 一、一〇<br>八 | 博文館 | 五月 | ▲どもり綺譚、女學校事件、猫嫉ひ、小說以上、彼女の幸運、犬の學校、巡査を殿る、怪我をする會、ポツタ氏の靜養。 | |
| 新青年編輯部編 | 新青年叢書(6)<br>佛蘭西モダンコント集 | 四六判<br>並製 | 330 | 一、一〇<br>一二 | 博文館 | 九月 | ▲三角ものがたり、豐にやるスープ、新未來派長篇小說、戀愛無電、豚乙女、初あたり、化物外コント六十篇。 | |
| 晉羽隆譯 | ほーむらん・きんぐ<br>—本顎打王— | 四六判<br>並製 | 286 | 一、五〇<br>六 | かがみ社 | 五月 | ▲球界人氣の世界的焦點となつてゐるベーブルースは何時如何にして本顎打王の名をかち得たか？に答ふる彼の自傳小說の譯。 | |
| 谷譲次 | もだん・でかめろん | 四六判<br>並製 | 372 | 一、一〇<br>八 | 改造社 | 三月 | ▲デュデボア夫人の幽靈、勇敢な惡魔、腸詰と詩人、黑い舞踏會、兎の手等アメリカを背景とした都會の不可思議な物語十篇。 | |
| 谷譲次 | テキサス無宿他三十一篇 | 四六判<br>並製 | 500 | 一、五〇<br>六 | 改造社 | 三月 | ▲ヤング東郷、喧嘩師ジミイ、脫走、戀慕やつれ、めくらの豚、二つの十字架等非の國アメリカ物語廿二篇。 | |
| 谷譲次 | 踊る地平線 | 四六判<br>上製 | 785 | 二、五〇<br>一八 | 中央公論社 | 十月 | ▲踊る地平線、テムズに聽く、黃と白の群像、虹を渡る日、白夜幻想曲、ノウトルダムの妖怪、血と砂の接吻外五篇。 | |
| 渡邊均 | 祇園風景 | 四六判<br>上製 | 437 | 一、三〇<br>一二 | 平凡社 | 十一月 | ▲内緣の妻、妾宅開業、をけら詣、不思議な辻斬、轉々する五十兩、加茂川夜話、軒行燈喜美代外三篇の短篇を收む。 | |
| 井東憲 | 上海夜話 | 四六判<br>上製 | 402 | 一、三〇<br>一二 | 平凡社 | 十二月 | ▲白蘭花の殺人、角を曲つた辻馬車、贋造銀貨と支那娘、國際的な失戀事件、ハルピンの踊りつ子外奇譚十二篇。 | |
| 米田華紅 | 支那綺談<br>黃龍船 | 四六判<br>洋裝布入 | 433 | 一、五〇<br>一三 | 日本書院 | 九月 | ▲支那に關する種々な話を蒐載した書で、小品篇（支那奥地の旅外九篇）物語篇（十萬兩の首、馬賊から將軍へ外十六篇）。 | |
| 大泉黑石 | 趣怪綺談<br>燈を消すな | 四六判<br>布裝入 | 359 | 一、八〇<br>一三 | 大阪屋號 | 九月 | ▲支那人に關する幻怪奇異な物語集で、黃夫人の手、人間料理、大狂痴、幽鬼樓、六神丸奇譚、心猿狂外二篇。 | |







| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | **飜譯小說** | | | | | | | |
| 十返舍一九作<br>島東吉譯 | 新譯<br>東海道膝栗毛 | 四六判<br>布裝 | 258 | 一、三〇<br>一二 | 資文堂 | 一月 | ▲有名な『膝栗毛』を誰にも可笑しさばかりで、容易に讀み得られる樣新譯したもの。挿繪宮尾しげを氏。 | |
| 岡本一平 | 指先人形 | 四六判<br>布裝入 | 351 | 一、五〇<br>一二 | 資文堂 | 六月 | ▲驢馬に戀を奪はれた男、喰へる帶、騎士流行、川と商賣、婆子燒庵、櫻の鹽漬、西瓜の番人外漫畫物語十篇を收む。 | |
| 畑耕一 | 現代ユーモア叢書(6)<br>陽氣な喇叭卒 | 四六判<br>上製入 | 360 | 一、三〇<br>一二 | 資文堂 | 五月 | ▲或る戀の寓話、運を盜んだ男、角燈、白銅の事件、物ぐさ太郎、桃の仙人、鍾其他小說小品、喜劇、綺譚十一篇を收む。 | |
| 山中峰太郎<br>山中ミユキ | 現代ユーモア叢書(4)<br>圓滿御家庭 | 四六判<br>上製入 | 332 | 一、三〇<br>一二 | 資文堂 | 三月 | ▲新婚旅行妨害、模範的新妻、七人の奥樣、夫婦喧嘩展覽會、良人の惡友、夫婦圓滿の奥義、穴の千里眼等諧謔小說八篇。 | |
| 山中峯太郎 | 新郎新婦 | 四六判<br>上製入 | 412 | 二、〇〇<br>一二 | 大日本雄辯會 | 二月 | ▲新らしい一少尉を人生の最も華やかなる結婚の十字路に立たせてそのさまざまな笑ひを描いた長篇諧謔小說。 | |
| 佐々木邦 | 愚弟賢兄 | 四六判<br>布裝入 | 372 | 二、〇〇<br>一二 | 大日本雄辯會 | 三月 | ▲中學から高等學校大學と中軸から少し下の成績で社會へ飛出した所謂愚弟賢二を中心とした諧謔小說。 | |
| 佐々木邦 | 諧謔小說<br>脫線息子 | 四六判<br>布裝入 | 394 | 二、〇〇<br>一二 | 大日本雄辯會 | 八月 | ▲大家の一人息子と近代的令嬢の戀と緣談を中心に、好人物の青年、苦勞人の父、子に甘い母其他の人情味を描いた諧謔小說。 | |
| 佐々木邦 | 諧謔小說<br>夫婦百面相 | 四六判<br>布裝入 | 328 | 二、〇〇<br>一二 | 弘文社 | 十二月 | ▲世話好きの家主田淵夫妻と其の店子七軒にの一疋や二疋外十一篇。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アベ・ヴレヴオ作<br>河盛好藏譯 | 岩波文庫(446—447)<br>マノン・レスコオ | 菊半截<br>並製 | 217 | 四〇 | 岩波書店 | 一 | ▲世界的高名な戀愛小說で浮氣なマノンの爲めに數々の苦勞と不名譽を重ね遂には植民地まで追つて行く一青年の物語。 |
| トウルゲエニエフ作<br>小沼達譯 | 岩波文庫(463)<br>ブウニンとバブリン | 菊半截<br>並製 | 102 | 二〇 | 岩波書店 | 二 | ▲トウルゲエニエフの名作「父と子」發表後十三年目に書かれたる最も多く自傳的要素を含んだ長篇。 |
| ホーソン作<br>佐藤清譯 | 岩波文庫(480—482)<br>緋文字 | 菊半截<br>並製 | 294 | 六〇 | 岩波書店 | 二 | ▲ネシネイル・ホーソンがその清教徒色彩を濃厚に表した長篇小說で、アメリカが生んだ世界的傑作の一つ。 |
| トルストイ作<br>中村白葉譯 | 岩波文庫(484—486)<br>復活 上卷 | 菊半截<br>並製 | 316 | 六〇 | 岩波書店 | 三 | ▲一少女と一青年の事實談を骨子とし、その愛の復活と人間としての更生の歷史を具さに描いた有名な大作。 |
| トルストイ作<br>中村白葉譯 | 岩波文庫(487—488)<br>復活 中卷 | 菊半截<br>並製 | 200 | 四〇 | 岩波書店 | 五 | ▲中卷には第二編が收めてある。 |
| トルストイ作<br>中村白葉譯 | 岩波文庫(489—490)<br>復活 下卷 | 菊半截<br>並製 | 205 | 四〇 | 岩波書店 | 五 | ▲下卷はニエフリュドフの出發用意から始まり一人となつて人間生活の一切の組織に現存する邪惡に就ての考察迄を收む。 |
| デイツケンス作<br>森田草平譯 | 岩波文庫(496)<br>クリスマス・カロル | 菊半截<br>並製 | 128 | 二〇 | 岩波書店 | 五 | ▲マアレイの亡靈、第一の精靈、第二の精靈、最後の精靈、大團圓等五章より成るデイツケンスの有名な作。 |
| メリメ作<br>杉捷夫譯 | 岩波文庫(500)<br>カルメン | 菊半截<br>並製 | 106 | 二〇 | 岩波書店 | 五 | ▲メリメが四十三歲の時の作で「コロンバ」と共にメリメの最高の傑作として有名な「カルメン」の飜譯。 |
| ピエル・ロチ作<br>野上豐一郎譯 | 岩波文庫(505—506)<br>お菊さん | 菊半截<br>並製 | 222 | 四〇 | 岩波書店 | 五 | ▲明治十八年と明治三十三年と二度我國を訪れたロチが美しい日本娘を材として描いた有名なる小說。 |
| ハウプトマン作<br>城田皓一譯 | 岩波文庫(546)<br>希臘の春 | 菊半截<br>並製 | 134 | 二〇 | 岩波書店 | 八 | ▲コリントやスパルタや雅典に希臘文明の跡をたづねて、古代希臘人の思想、藝術、生活などを回想した紀行文。 |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アルツイバーシエフ作<br>中村白葉譯 | 岩波文庫(539—541)<br>サーニン 上卷 | 菊半截<br>並製 | 317 | 六〇 | 岩波書店 | 八 | ▲生活謳歌の大本山肉慾讚美の頌歌として最も代表的なものとされてゐる世界的に有名な傑作の譯。 |
| アルツイバーシエフ作<br>武林無想庵譯 | 改造文庫第二部(91)<br>サーニン | 菊半截<br>並製 | 540 | 六〇 | 改造社 | 十二 | ▲一時我文壇をも風靡した獸のやうに力強い本能を描いたロシア文學の傑作。今回舊譯を改版したもの。 |
| ワイルド著<br>神近市子譯 | 改造文庫第二部(47)<br>獄中記 | 菊半截<br>並製 | 178 | 二〇 | 改造社 | 五 | ▲ローベルト・ロスの編纂した版によつて飜譯されたもので、深き底より、リーデイング監獄よりの手紙、寄書二つを收む。 |
| パアネツト作<br>若松賤子譯 | 改造文庫第二部(52)<br>小公子 | 菊半截<br>並製 | 233 | 二〇 | 改造社 | 七 | ▲米國の女流作家バーネツト女史の名作の飜譯で、譯もまた不朽の名譯として既に定評あるもの。 |
| アンドレ・ジッド作<br>石川淳譯 | 改造文庫第二部(70)<br>背德者 | 菊半截<br>並製 | 188 | 二〇 | 改造社 | 八 | ▲現代フランスの小說家アンドレ・ジッドの作品中第一の傑作の飜譯で、第一部第二部第三部より成る。 |
| オルセシュコ作<br>清見陸郎譯 | 改造文庫第二部(88)<br>寡婦マルタ | 菊半截<br>並製 | 312 | 三〇 | 改造社 | 七 | ▲現代に於ける婦人の抑壓された境遇から主題をとつたポオランドの一流作家オルゼシュコ女史の名作。 |
| ジョウヂ・ムウア著<br>辻潤譯 | 改造文庫第二部(92)<br>一青年の告白 | 菊半截<br>並製 | 247 | 三〇 | 改造社 | 十二 | ▲ジョウヂ・ムウアの自敍傳で、文學修業時代に於ける巴里の放浪生活を描いた彼の懺悔錄。 |
| リベデインスキイ作<br>池谷信三郎譯 | 改造文庫第二部(93)<br>一週間 | 菊半截<br>並製 | 205 | 二〇 | 改造社 | 十二 | ▲時代の生んだ三つの女性の型ナヂヤ、リザシンコワの三人を取り入れ一九二一年の春雪解けの一週間の出來事を描いたもの。 |
| ロンドン作<br>和氣律次郎譯 | 改造文庫第二部(113)<br>奈落の人々 | 菊半截<br>並製 | 268 | 三〇 | 改造社 | 十二 | ▲ジヤツク・ロンドンがイースト・エンドへ入り込んで貧民と共に生活しつゝ親しく視察せる事實を材料に描いたもの。 |
| ダンテ作<br>山川丙三郎譯 | 四六判<br>函入<br>洋布<br>新生 | 菊半截<br>並製 | 378 | 二、八〇<br>二三 | 岩波書店 | 十 | ▲ダンテの最初期の作品で自傳體の物語たる「新生」の飜譯で、外に新生に就て、註、索引等が收めてある。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| バンヤン作 益本重雄譯 | 全譯 天路歷程 | 四六判 函入 洋布 | 507 | 二、五〇 一二 | 太陽堂 | 九月 |
| エミル・ゾラ作 三上於菟吉譯 | ゾラ叢書(1) 獸人 | 四六判 函入 背革 | 552 | 二、〇〇 一二 | 改造社 | 十月 |
| ギッシング作 藤野滋譯 | 春秋文庫(16) ヘンリ・ライクロフトの手記 | 三六判 洋布 | 226 | 五〇 四 | 春秋社 | 七月 |
| デ・クエンシイ作 辻潤譯 | 春秋文庫(17) 阿片溺愛者の告白 | 三六判 洋布 | 200 | 五〇 四 | 春秋社 | 七月 |
| アナトオル・フランス作 草間貞之譯 | エピキユルの園 | 新菊判 函入 背洋布 | 353 | 二、〇〇 一八 | 第一書房 | 十月 |
| 小牧近江 堀口大學 神部孝 井上勇 譯 | フイリップ全集 第一卷 | 四六判 函入 上製 | 436 | 一、七〇 一二 | 新潮社 | 十月 |
| マルセル・シユオブ作 矢野目源一譯 | 古希臘風俗鑑 | 四六判 函入 背洋布 | 123 | 一、八〇 一二 | 第一書房 | 四月 |
| 堀口大學譯 | 佛蘭西短篇集 詩人のなぷきん | 菊判 函入 背洋布 | 285 | 一、八〇 一八 | 第一書房 | 九月 |
| モルナアル作 鈴木善太郎譯 | 短篇集 お互に愛したら | 菊判 函入 上製 | 275 | 一、八〇 一八 | 第一書房 | 四月 |
| トルストイ作 山内封介譯 | 未發表作品集 | 四六判 洋布 | 393 | 一、八〇 一〇 | 新潮社 | 五月 |

▲清教徒時代に於ける文學者中最も傑出したる散文家ジヨウン、バンヤンの代表的傑作として有名な作。

▲怖るべき異常な變態人を描いた文豪ゾラの作品中屈指の傑作たる長篇「獸人」を新に譯したもの。

▲自由な感想錄であり勝れた自然描寫であると同時に情味のあるエツセイで、春、夏、秋、冬等より成る。

▲阿片溺愛者の告白、後の阿片溺愛者の手記より。外に著者の小傳、註、蛇足などを收む。

▲エピキユルの園、尼僧修道院について、昨夜アルフアベツトの起源について論じた幽靈との談話の事外五篇。

▲小さな町（小牧譯）短篇物語集（堀口譯）若き日の手紙（神部譯）ベルドリ爺さん（井上譯）フイリツプの藝術（吉江喬松）

▲佛蘭西騷壇にその象徴的なる幻想的なる作風をもつて獨歩の地位を占むるシユオブの處女作たる散文詩廿三篇。

▲オノレ・シユブラツク滅形（アポリネエル）詩人のなぷきん（アポリネエル）水いろの目（グウルモン）其他十三篇。

▲息づまるやうな近代情痴や縱橫の機智を喚發したモルナアルの名篇を收めたもので、お互に愛したら、帽子ピン外廿六篇。

▲トルストイの「未發表小說戲曲集」の飜譯で昨日の話、愛は如何に滅びるか、或る村での談話、ニヒリスト外九篇。



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 | カラマーゾフの兄弟 第二卷 | 新四六判 並製 | 304 | 七〇 八 | 新潮社 | 十月 |
| ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 | カラマーゾフの兄弟 第三卷 | 新四六判 並製 | 308 | 七〇 八 | 新潮社 | 十月 |
| ゴリキー作 村田春海譯 | 母 | 四六判 上製 | 677 | 一、六〇 一〇 | マルクス書房 | 九月 |
| マクシム・ゴルキー作 村田春海譯 | 母 第一部 | 四六判 並製 | 317 | 一、〇〇 六 | マルクス書房 | 一月 |
| マクシム・ゴルキー作 村田春海譯 | 母 第二部 | 四六判 並製 | 360 | 一、〇〇 八 | マルクス書房 | 三月 |
| ベ・ロマノフ作 落合文雄譯 | 愛する權利 | 四六判 並製 | 265 | 一、〇〇 六 | 世界社 | 十一月 |
| エス・グリゴリエフ作 廣岡光治譯 | ソヴエート女教師日記 | 四六判 並製 | 351 | 一、五〇 六 | 世界社 | 四月 |
| グミリヨイフスキ作 黑田辰男譯 | ソヴエート大學生の私生活 | 四六判 並製 | 395 | 一、六〇 八 | 世界社 | 三月 |
| ウエレサーエフ作 松崎啓次譯 | 勞農ロシヤ文學叢書(1) 袋街 | 四六判 並製 | 467 | 一、五〇 八 | マルクス書房 | 七月 |
| リベヂンスキイ作 黑田辰男譯 | 勞農ロシヤ文學叢書(2) コムミサール | 四六判 並製 | 469 | 一、六〇 一〇 | マルクス書房 | 十月 |

▲第二卷は第五編から始つて、露西亞の僧侶アリヨーシヤ、ミーチヤ等第八編までが收めてある。

▲第三卷は第八編の續きから始つて、豫審、少年の群れ、兄イヴン等第十一編までが收めてある。

▲飲酒と放埒の生活を捨てゝ革命鬪士となつた若き勞働者の母が遂に自覺せる殉導者としての死に至る迄を描いたもの。—合本—

▲父よりうけた飲酒と放埒との生活を捨てた一革命鬪士の母がそれに感染して自覺せる殉導者として死に至るまでの經路を描く。

▲勞働階級の間に擡頭して行く革命意識とその運動の雰圍氣の中に引き込まれて遂によき殉導者としての最後を閉ぢる母を描く。

▲愛なくして、彼女の條件、或女の心等新しい性道德の確立過程に現れたそれ〴〵特徴のある姿を描いた短篇五篇を收む。

▲共產主義者でありソヴエート教育界の先驅者である一女性を主人公とした日記體小說で九月八日の新學年より五月一日迄。

▲夜の九時が來たら黑の薄ものゝ閨衣を素裸の上に着て彼女の私生活に入る女大生コムソモルカの超小市民的戀愛事件を扱つた小說。

▲一九一七年の革命と反革命との鬪爭を背景としインテリゲンチヤ出身の一人の娘が革命の進行に追從してゆくを描いた長篇。

▲新經濟政策後ソウヰートの革命プロレタリアートの生活を軍隊コムミサール達の政治教育の學校に舞臺をとつて描いた小說。

文學（飜譯小說）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| エル・セイフリナ作 井田孝平譯 | 勞農ロシヤ農民文學集 強い女 | 四六判 並製 | 136 | 七〇 四 | 協同出版組合 | 十月 |
| コアヂエーエフ作 藏原惟人譯 | 世界社會主義文學叢書(7) 壞滅 | 四六判 並製 | 319 | 七〇 六 | 南宋書院 | 三月 |
| 木村利美的場透譯編 | 現代ロシヤ三十人集 大旋風 上卷 | 四六判 並製 | 250 | 一、〇〇 八 | 黎明社 | 十二月 |
| 廣尾猛譯 | 職工長ミック | 四六判 並製 | 491 | 一、〇〇 八 | 同人社 | 十二月 |
| シンクレア著 前田河廣一郎 長野兼一郎譯 | ボストン 上卷 | 四六判 並製 | 470 | 一、五〇 八 | 改造社 | 十月 |
| ロバート・エス・カアー作 饒平名智太郎譯 | アメリカモガモボ性の跳躍 | 四六判 並製 | 310 | 一、二〇 六 | 世界社 | 六月 |
| カンバーランドクラーク作 片倉藤次郎譯 | 社會主義夢物語 | 四六判 並製 | 208 | 一、二〇 六 | 大同館 | 九月 |
| ルマルク作 秦豐吉譯 | 西部戰線異狀なし | 四六判 函入 洋布 | 431 | 一、五〇 一二 | 中央公論社 | 十月 |
| ヘツケル著 芹澤登一譯 | 獨逸の肉彈 | 四六判 函入 並製 | 292 | 一、二〇 八 | 戰記名著刊行會 | 十二月 |
| マルドリウス編 西條八十解說 矢野目源一 | 畫譜一千一夜物語 上卷 | 四倍判 函入 背革 | 58 | 一〇、〇〇 特八、〇〇 | 國際文獻刊行會 | 十月 |

▲セイフリナの「強い女」を始め、裝甲車（ブラアトコウ）兄弟（レオーノフ）新生活（ドロホフ）文盲（ヤーゴウレフ）外短篇三篇。

▲コルチヤツクと日本軍との反革命的プロツクに反抗して立つたシベリヤの炭坑夫と農民との部隊が如何に闘爭したかを扱つた小說。

▲大旋風、サーベル少尉、ララの利益、紐育アクと人間、奴隷の誕生、六トーマン、太古の道外二篇。

▲ソヴエイト現代一流の作家十人の協力合作といふ噂のプロレタリア大衆文藝「メス・メンド」の譯。

▲唯物主義文明の行詰りに在るアメリカの近代文明の裏面を暴露した歷史小說で上卷は第十二章過去の影迄を收む。

▲アメリカのモダーンなハイスクールに於ける十五六から十七八歲の性に目覺める頃の少年男女の生活物語。—發賣禁止—

▲「ポルシー」ビル、ポルセビストと改宗、チヤリーマークスの話、國旗に救はれて、金か理想か外四篇。

▲歐洲大戰に從事した獨逸の一青年義勇兵が義血、涙、性慾、思想、母性愛、砲彈、毒瓦斯等を如實に取扱つた手記。

▲獨逸の文豪ヘツケル氏の從軍記で、いよいよ出征、慘澹たる戰の跡、敵聯隊の郵便函、雨の穴居外六十一篇。—改訂版—





文學（戲曲・脚本）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドストエーフスキイ 米川正夫 | 世界文學物語叢書(3) カラマーゾフ兄弟物語 | 四六判 函入 洋布 | 287 | 一、五〇 一二 | 婦人之友社 | 四月 |
| 楠山正雄 | 世界文學物語叢書(4) ジヤン・クリストフ物語 | 四六判 函入 洋布 | 26[illegible] | 一、五〇 一二 | 婦人之友社 | 七月 |
| レオトルストイ作 太田正一譯 | 袖珍世界文學叢書(13) トルストイ集 | 三五判 函入 洋布 | 470 | 八五 六 | 中央出版社 | 一月 |
| ユーゴー作 高野彌一譯 | 世界文學叢書(15) ユーゴー集 | 三五判 函入 洋布 | 594 | 八五 六 | 中央出版社 | 三月 |
| ゾラ著 文藝社譯編 | 世界文藝叢書(13) 巴里 | 菊半截 上製 | 92 | 三〇 四 | 文藝社 | 十二月 |
| ワイルド著 文藝社譯編 | 世界文藝叢書(14) ドリアングレー | 菊半截 上製 | 102 | 三〇 四 | 文藝社 | 十二月 |
| 文藝社編 | 萬有文庫(22) 戀愛物語 | 菊半截 並製 | 88 | 一五 二 | 文藝社 | 十二月 |

▲ドストエーフスキイの思想藝術の一大綜合として第一位を占むべき傑作「カラマーゾフ兄弟」の梗概を述べたもの。

▲ロマン・ローランの傑作「ジヤン・クリストフ」中より特に主人公をめぐる幾人かの女性とこれの戀愛の種々相を述べたもの。

▲結婚の幸福、偶然、カフカスの囚人、光は闇の中に輝く（五幕）外四篇を收む。

▲不朽の傑作「ミゼラブル」竝に五幕より成る戲曲「ルイ・ブラス」の二篇。外に「ユーゴーに就いて」を收む。

▲初めて科學的方法を文學の中に取り入れて殆ど獨力で自然主義を完成したエミール・ゾラの作「巴里」の梗概。

▲驚くべき美貌を持ち純潔無垢の青年だつたドリアングレーが其性格が惡魔的になり死に至る迄を描いた傑作の梗概。

▲戀愛を取扱つた古今の名作を收めたものでロメオとジユリエツト、サツフオ、ジヤン・クリストフ外三篇。

## 戲曲・脚本

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 坪内逍遙 | 坪内逍遙集 | 菊判 函入 革裝 | 750 | 八、五〇 三〇 | 春陽堂 | 三月 |
| 坪内逍遙 | 岩波文庫(509) 新曲浦島 新曲赫映姫 | 菊半截 並製 | 117 | 二〇 二 | 岩波書店 | 六月 |

▲名作「桐一葉」を始め、沓手鳥孤城落月、牧の方、名殘の星月夜、お夏狂亂、お七吉三、新曲浦島、寒山拾得等戲曲八篇—豪華版—

▲新曲浦島（澄の江の浦、海底、海神殿、海底、綱野神社境内、澄の江の浦）新曲赫映姫（前之幕、後之幕）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 坪内逍遙 | 良寛と子守その他 | 菊判 上函入製 | 105 | 一、五〇 一二 | 早稲田大學出版部 | 六月 |
| 武者小路實篤 | 日運 | 四六判 上函入製 | 159 | 一、二〇 一二 | 改造社 | 六月 |
| 眞山青果 | 戲曲 乃木將軍 | 四六判 布函入裝 | 408 | 一、八〇 一二 | 萬里閣 | 六月 |
| 大阪時事新報主筆 土屋大夢 | 戲曲 福澤先生 | 四六判 上函入製 | 150 | 一、二〇 一〇 | 大阪 大阪出版社 | 七月 |
| 松居松翁 | 戲曲集 高野長英 | 四六判 上函入製 | 525 | 二、四〇 一二 | 新潮社 | 十月 |
| 十菱愛彦 | 小栗上野の死 | 四六判 布函入裝 | 234 | 一、六〇 一二 | 第一出版社 | 三月 |
| 金子洋文 | 戲曲集 飛ぶ唄 | 四六判 上函入製 | 412 | 一、三〇 一二 | 平凡社 | 十二月 |
| 岸田國士 | 戲曲集 牛山ホテル | 新菊判 背函入洋布 | 298 | 一、八〇 一八 | 第一書房 | 十二月 |
| 池長孟 | 戲曲集 荒つ削りの魂 | 四六判 布函入裝 | 503 | 二、〇〇 一二 | 大阪 弘文社 | 十二月 |
| 鴇田英太郎 | 戲曲集 現代生活考 | 新菊判 上函入製 | 605 | 二、八〇 一二 | ロゴス書院 | 十月 |

▲新作舞踊劇「良寛と子守」と脚本朗讀術研究の必要、シェークスピヤ全譯顚末、澤田正二郎を弔ふ詞外六篇を收む。

▲豪僧日蓮上人を描いた「日蓮」「佐渡の日蓮」の二篇の戲曲を收む。

▲最後の武人乃木希典の心情を描いた傑作「乃木將軍」（三幕）及び「雲のわかれ路」（四幕）「城山落城の日」（一幕）を收む。

▲福澤諭吉翁を描いた四場より成る戲曲で外に追記十一箇條、甲東先生五十年、琵琶歌「愛別離」、作者口上等を收む。

▲高野長英、和田の酒盛、天海僧正、玉藻前海國兵談、西郷と大村、義經記、吉田松陰、おまん源五兵衛外五篇。

▲不遇なる幕末の大政治家小栗上野介の最後を描いた三幕六場の戲曲、外に蜷川博士の小栗上野に關する論說三篇併載。

▲飛ぶ唄、劍、髮、浪人の群、農民一揆戰、佐野次郎左衛門、孫悟空、日清談判等戲曲八篇を收む。

▲感化院の太鼓、長閑なる反目、牛山ホテル、是名優哉、ガンバハル氏の實驗、迷子になつた上等兵。

▲空中樓閣、わかれ道、佛蘭西大革命、賢明な人々、神は汝に何を授けたるか、敎會とカフェー外二篇。

▲若くして逝いた劇作家鴇田氏の遺作集で、病床日記、世紀末挿話、洋館の中、神の武具、現代生活考外に喜劇二篇。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 氣駕君子 | 戲曲集 鎌倉御所 | 四六判 布函入裝 | 331 | 二、〇〇 一二 | 歌舞伎出版部 | 八月 |
| 門脇陽一郎 | 戲曲集 お坊ちやん | 四六判 布函入裝 | 378 | 一、五〇 一二 | 萬里閣 | 一月 |
| 長谷川時雨 | 時雨脚本集 第一輯 | 新四六判 布函入裝 | 350 | 二、〇〇 一二 | 女人藝術社 | 十月 |
| 伊波普猷 | 校註 琉球戲曲集 | 四六判 布函入裝 | 834 | 三、八〇 一八 | 春陽堂 | 十月 |
| 文藝家協會編 | 日本戲曲集 第五集—昭和四年版 | 四六判 並製 | 414 | 一、七〇 一二 | 新潮社 | 五月 |

▲史劇「鎌倉御所」を始め、左門とお七、戀の黃八丈、宿命、許婚、仙術、女影ヶ原など戲曲七篇を收む。

▲諸口十九の當り藝として人氣を呼んでゐる「お坊ちやん」を始め、人生列車（一幕）サーカス（七場）外四篇を收む。

▲業火の洗禮、暗夜、つくしの空、犬、西の空、氷の雨、月に住む人、北國藥研谷、ミイの生れた朝、手古奈等十篇。

▲琉球の組踊りを網羅し註を附した書で、神歌これり、まりをどり、團躍、唐棒、女物狂外廿篇及び研究八篇附載。

▲若き世之介（池田大伍）飛びツちよ（長谷川伸）島の官女（大村嘉代子）近松半二の死（岡本綺堂）國性爺合戰（小山内薫）外十二篇。

## 飜譯戲曲

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| シラー作 櫻井政隆譯 | 岩波文庫（444—445） ヴイルヘルム・テル | 菊半截 並製 | 211 | 四〇 四 | 岩波書店 | 二月 |
| マーロウ作 松尾相譯 | 岩波文庫（464） フオースタス博士 | 菊半截 並製 | 98 | 二〇 二 | 岩波書店 | 二月 |
| バアナード・ショウ作 市川又彦譯 | 岩波文庫（497—499） 人と超人 | 菊半截 並製 | 295 | 六〇 四 | 岩波書店 | 五月 |
| ハウプトマン作 橋本忠夫譯 | 岩波文庫（501—502） 日の出前 | 菊半截 並製 | 180 | 四〇 四 | 岩波書店 | 五月 |

▲「林檎の的」で有名なシルレルの傑作で、瑞西の獨立運動に於ける主要人物を主人公にした五幕物。

▲英文學の永代の古典にしてまた最初のフアウスト戲曲なるこの劇の面影を傳へ、フアウスト傳說外二篇の解說を收む。

▲數多くのショウの作品中最も多くの人に知られショウの哲學的建設の作ともいふべき四幕の戲曲。

▲ハウプトマンの二十七歲の時の處女戲曲で獨逸の劇壇革新の因となつた五幕より成る社會劇。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア・カ・トルストイ作 | 除村吉太郎 | 皇帝フヨードル | 岩波文庫(508) | 菊半截 並製 | 130 | 二〇二 | 岩波書店 | 五月 |
| グリルパルツエル作 | 岡本修助譯 | 祖 姒 | 岩波文庫(524) | 菊半截 並製 | 95 | 二〇二 | 岩波書店 | 七月 |
| メーテルリンク作 | 若月紫蘭譯 | 青い鳥 | 岩波文庫(533—534) | 菊半截 並製 | 192 | 四〇四 | 岩波書店 | 六月 |
| 島村抱月 | | 抱月全集 第四卷 | | 四六判 洋布入函 | 934 | 三、〇〇〇 一二 | 博文館 | 四月 |
| シュニッツレル作 | 丸木砂土譯 | 西洋十夜 | | 新型判 上製函入 | 245 | 一、七〇〇 八 | 文藝春秋社出版部 | 七月 |
| モルナアル作 | 鈴木善太郎譯 | 戲曲集 芝居は誂向き | | 菊判 背洋布入 | 357 | 二、〇〇〇 一八 | 第一書房 | 九月 |
| ジャン・コクトオ作 | 堀口大學譯 | 戲曲 オルフエ 並にデッサン集 | | 四六判 背洋布入 | 259 | 一、八〇〇 一二 | 第一書房 | 四月 |
| 横山有策 | | ハムレツト物語 マクベス物語 | 世界文學物語叢書(5) | 四六判 函入 洋布入 | 167 | 一、五〇〇 一二 | 婦人之友社 | 九月 |
| 楠山正雄 | | 近代劇物語 | 世界文學物語叢書(6) | 四六判 函入 洋布入 | 289 | 一、五〇〇 一二 | 婦人之友社 | 十二月 |
| バーナアド・ショウ作 | 文藝社編輯部譯 | 惡魔の子分 | 世界文藝叢書(9) | 菊半截 上製 | 112 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |
| チエホフ作 | 文藝社編輯部譯 | 熊と犬 | 世界文藝叢書(11) | 菊半截 上製 | 100 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |
| パーナアド・ショウ作 | 文藝社編輯部譯 | 武器と人 | 世界文藝叢書(12) | 菊半截 上製 | 117 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |
| ストリンドベルヒ作 | 本野盛三譯 | ストリンドベルヒ集 | 独逸世界文學叢書(14) | 三五判 洋布入 | 518 | 八五六 | 中央出版社 | 二月 |
| ルナチヤルスキイ作 | アトルストイ作 杉本良吉譯 | 勞農ロシア戲曲集 | 勞農ロシア文學叢書(3) | 四六判 上製 | 313 | 一、〇〇〇 八 | マルクス書房 | 十二月 |
| シエクスピヤ作 | 文藝社譯編 | ハムレツト | 世界文藝叢書(1) | 菊半截 上製 | 117 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |





## 演劇・舞踊・映畫

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立教大學教授 | 吳文炳 | 日本演劇の起源 | | 菊判 洋布入 | 250 | 二、三〇 一八 | 啓明社 | 五月 |

▲一般史の材料から出發し演劇に關係あるものを採り入れた演劇の綜合研究で卷頭に歌舞伎の過去外三項より成る序論を掲ぐ。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ルナチヤルスキイ作 | アトルストイ作 杉本良吉譯 | 勞農ロシア戲曲集 | 勞農ロシア文學叢書(3) | 四六判 上製 | 313 | 一、〇〇〇 八 | マルクス書房 | 十二月 |

▲宰相と錠前工（ルナチヤルスキイ作）十場、及タルトンの死（アトルストイ作）十二場から成る二篇の譯。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ストリンドベルヒ作 | 本野盛三譯 | ストリンドベルヒ集 | 独逸世界文學叢書(14) | 三五判 洋布入 | 518 | 八五六 | 中央出版社 | 二月 |

▲ストリンドベルヒの著名な作品を網羅したもので、死の舞踏、稻妻、幽靈船（三幕）父親（三幕）パリア（一幕）を收む。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バーナアド・ショウ作 | 文藝社編輯部譯 | 武器と人 | 世界文藝叢書(12) | 菊半截 上製 | 117 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |

▲一八八五年より翌八六年へかけて起つたブルガリヤとセルビヤの戰爭に於けるプルチユリイ大尉を主人公に描く。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チエホフ作 | 文藝社編輯部譯 | 熊と犬 | 世界文藝叢書(11) | 菊半截 上製 | 100 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |

▲チエホフの輕い一幕もの〻うちの代表作「熊」と「犬」（原名結婚申込）の二篇を收む。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バーナアド・ショウ作 | 文藝社編輯部譯 | 惡魔の子分 | 世界文藝叢書(9) | 菊半截 上製 | 112 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |

▲地道に世の中を渡らず義理人情を無視してゐながら如何なる場合にも心の平靜を失はない度胸の持主デイツクを主人公に描く。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シエクスピヤ作 | 文藝社譯編 | ヴエニスの商人 | 世界文藝叢書(4) | 菊半截 上製 | 92 | 三〇四 | 文藝社 | 十一月 |

▲古くからある二つの傳說を巧にとり入れた喜劇「ヴエニス」の商人の梗概を述ぶ。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゲーテ作 | 文藝社譯編 | ファウスト | 世界文藝叢書(3) | 菊半截 上製 | 106 | 三〇四 | 文藝社 | 十月 |

▲十八世紀に於ける獨逸文學の精華たるゲーテの傑作「ファウスト」の大體を述ぶ。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ワイルド作 | 文藝社譯編 | サロメ | 世界文藝叢書(2) | 菊半截 上製 | 112 | 三〇四 | 文藝社 | 十月 |

▲聖書から題材をとつたワイルドの傑作戲曲「サロメ」の梗概を記述したもの。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒木勘藏 | 近世演劇考說 | 四六判上製 | 534 | 二、五〇 | 十一 | 一 | ▲江戸時代の演劇殊にその文學的方面たる戲曲や音曲に關する考證論說を收めたもので、歌舞伎劇の特質外十九章。 |
| 文學博士 高野辰之 | 歌舞演劇講話 | 菊判布裝入函 | 465 | 四、八〇 | 二四 | 十一 | ▲通に馳せず樂屋落に墮せず又理論に終始せずして述べた著者の歌舞演劇講話で、歌舞篇の二篇より成る。 |
| 九重左近 | 江戸近世舞踊史 | 菊判洋裝入函 | 591 | 五、五〇 | 二四 | 十二 | ▲我が國の舞踊藝術の一大分野を占むる歌舞伎の舞踊に就いて說いたもので、道成寺舞踊三番叟舞踊外十三篇、附錄四篇。 |
| アレクサンダーデイーン著 飯塚友一郎譯 | 公共小劇場 —其の方法— | 菊判洋裝布入函 | 450 | 二、八〇 | 一八 | 五 | ▲主として農村劇學校劇其の他の素人演劇の爲に新しき小劇場運動と合理的な戰術を極めて直截に指示したもの。 |
| マルコフ著 杉本良吉譯 | ロシア革命と演劇 | 四六判並製 | 258 | 一、〇〇 | 六 | 十二 | ▲革命十年間に於けるソウエート演劇の發展革命十週年記念の演劇外一篇。附錄全聯邦共産黨演劇會議に於ける報告。 |
| 伊坂梅雪 | 五代目菊五郎自傳 | 四六判並製 | 307 | 二、〇〇 | 二二 | 二 | ▲近世の名優五世尾上菊五郎が生存中口述した自傳で、技藝の卷、履歷の卷、梅の薫り、梅幸百種の俳句、役割一覽。 |
| 松田青風 | 歌舞伎俤草 | 四六判和綴入函 | 201 | 二、〇〇 | 二二 | 五 | ▲昭和三年四月より同年十二月まで都新聞紙上に「其折々似顏繪卷」と題して連載された現代俳優の似顏繪百圖を選び收む。 |
| 新國劇文藝部長 竹田敏彦編著 | 新國劇澤田正二郎 —舞臺の面影— | 菊判革裝 | 195 | 二、〇〇 | 二二 | 四 | ▲一代の偉優澤田氏の寫眞帖で、舞臺寫眞を主とし又珍重なる生活寫眞を網羅したもので映像及解題、三千六百五十日外三篇。 |
| 飯島正 | シネマのABC | 四六判並製 | 181 | 一、〇〇 | 六 | 九 | ▲映畫のリズム、映畫小論、映畫のリズムの三つの因子に就いて、シネマの自治制、映畫を繞る外五十二章。—普及版— |
| 飯島正 | 映畫の研究 | 四六判並製 | 172 | 一、一〇 | 六 | 八 | ▲映畫と批評、スタアの役目、映畫俳優の自由契約に就て、映畫の新しい道、映畫の發聲映畫の問題外廿四篇。 |





## 年鑑・名鑑

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青山雪雄 | ハリーウツド映畫王國の解剖 | 四六判上製 | 435 | 二、〇〇 | 二二 | 博文堂出版部 | 五 | ▲米國映畫事業、映畫會社と撮影所、映畫歷史、映畫興行史、映畫科學其他十二篇にて說いた米國映畫の常識書。 |
| 文藝家協會編 | 文藝年鑑 —昭和四年版— | 四六判布裝 | 414 | 一、五〇 | 二二 | 新潮社 | 一 | ▲既往一ヶ年に亙る各種の作品より人事事件大勢傾向等に及び記錄したもの。總說、小說、戲曲、雜譯其他十七項。 |
| 昭和歌人名鑑刊行會編 | 昭和歌人名鑑 —昭和五年版— | 四六判上製函入 | 233 | 三、〇〇 | 二二 | 紅玉堂 | 十一 | ▲有名無名を問はず現代歌人千八百卅名の現住所、出生地、職業、經歷、短歌等を收めたもの。 |

# 五、語學

## 言語學・國語學

| 著者 | 書名 | 形体 | 頁数 | 定価 | 送料 | 発行所 | 発行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シャルル・バイイ著<br>小林英夫譯 | 生活表現の言語學 | 四六判<br>洋装 | 504 | 四、五〇 | 二二 | 岡書院 | 六月 | ▲言語學者バイイ氏の著の譯で、言語活動と生活、文體論と一般言語學、母語教授と精神の陶冶外四篇。 |
| 駒澤大學人文學部教授<br>法政大學講師<br>石黒魯平 | 國語教育の基礎としての言語學 | 四六判<br>函入<br>洋布 | 372 | 二、九〇 | 一三 | 明治圖書<br>株式會社 | 三月 | ▲言語研究史、言語起源論、言語の精神的基礎、言語の機械的方面、音韻論、文法的概念と其表出法外四章。 |
| 神學博士<br>ジョン・バチラー | アイヌ語より見たる日本地名研究 | 菊半截<br>函入<br>洋布 | 74 | 一、〇〇 | 六 | 文錄社 | 九月 | ▲日本地名解釋を第一項に母音、第二項に地方的方言短縮語略語變語等、第三項には最も地名に應用されてある語を收む。 |
| 鬼澤福次郎 | 概觀要說 國語學史の研究 | 四六判<br>函入<br>洋布 | 592 | 二、八〇 | 二二 | 大同館 | 二月 | ▲國語學史の概觀(國語學史)の意義外二章)要說(音韻の研究外六章)學者小傳(第一期より第四期迄)著書梗概等を收む。 |
| 安藤正次 | 國語學概說 | 四六判<br>上製 | 273 | 一、五〇 | 一〇 | 廣文堂 | 三月 | ▲簡明に國語學の概要を說いた『小さい國語學』の增補版で、言語と文字、國語の音聲、國語の語詞、國語學史要等六章。 |
| 神谷敏夫 | 國語學總說 | 菊判<br>函入<br>洋布 | 471 | 三、八〇 | 一八 | 大同館 | 六月 | ▲輓近東西に於ける言語學の發達から國語の音韻、國語の語彙、國語の變遷其他を四編十六章にて說述。 |






本間久雄著

# 文學概論

菊判四二〇頁　定價三圓二十錢
函入麻布裝　送料十八錢

## 23版

本書は既に佐々木信綱、五十嵐力二博士其他諸名士より空前の名著として激賞せられたるが、今又、英國に於ける東洋文學研究の權威アアサア・エーリー氏は、著者に書を與へて曰く、「余は貴下の博學に驚く、嚴羽とクライブ・ベルとを並せ引用せること貴下の書の如きを見しことなし」と。本書は又、最近上海に於て漢譯公刊せられ多大の好評を博しつゝあり。

本間久雄著　生活の藝術化　(四版)　定價一圓八十錢
本間久雄著　滯歐印象記　(三版)　定價二圓二十錢

東京　神田　東京堂發行　振替東京二七〇番

## 國語・國文參考書

文學博士 佐久間鼎 **國語音聲學講話** 四六判上製 函入 313 九月
▲日本語の音聲學一般なわかり易く說いたもので、五語音聲學講話（音聲とは何か外十九項）音聲學の成立と其應用（五項）。

山田孝雄著 **日本文法論** 菊判並製 函入 1500 二四 寶文館 二月
▲明治四十一年に公にされたものゝ改訂再刊で、語論と句論の二部に分つて日本語の文法と特質を示した大著。

東京鐵道局教習所講師 山田彙勇 受驗標準 **國語の力と解釋の要領** 四六判洋裝 函入 300 一二 大望書院 一月
▲文の通釋に關する代表的問題卅項、文の探究に關する問題卅五項を選び、語釋、通解、應用、解答を施し其他を網羅す。

淺尾芳之助 簡明 **國文法の整理** 四六判並製 160 四五 有精堂 二月
▲前篇、後篇の二部に分ち、前篇に於て文法の原理を說き、後篇には各種問題の解說を收めた書。

東京府立第一中學校教諭 吉田辰次 受驗指導 **國文新解** 三六判洋布 354 一、五〇 六 敬文館 二月
▲現代文・近世文・近古文の主要國文書を文法・重要語の解釋の附して收めたもので、玉かつま以下多數收載。

東洋大學講師 達也 模範 **國文新解釋** 四六判並製 330 一、六〇 一〇 弘文社 一月
▲中古、近古、近世、現代文の各章に亙つて一つの纏つた文章を取り語釋、通釋を施し親切に講述す。

淺尾芳之助 受驗 **國文單語の整理** 四六判並製 142 三五 四 有精堂 二月
▲中等學校三學年以上の國文教科書に見ゆる重要なる單語を類別して列擧し、それに簡明なる解說を施す。

國漢文教授研究會編 **國文單語整理帳** —四五學年用— 菊判並製 130 四〇 四 有精堂 二月
▲中等學校の國語讀本中に出てゐる主要なる單語を分類列擧し單語に關する知識を確實ならしむる樣編纂。

安田喜代門 高等國語法 菊判洋裝 190 二、二〇 八 中興館 十二月
▲中等程度より一步進んだ日本文法を國文法從來の配列法に隨ひ論說したもの。





## 漢文參考書

東洋大學講師 達也 模範 **漢文新解釋** 四六判洋布 343 一、六〇 一〇 弘文社 一月
▲總論、漢文評釋、試驗問題解釋、用字格の各章に亙り語釋、通釋を施して解說したる指導書。

東京府立第一中學校教諭 吉田辰次 自學自習受驗準備 **漢文新釋法** 三六判洋布 565 一、六〇 八 大修館 九月
▲漢文の大體の法則を學習の方法篇で說き教訓類や歷史類の代表作を多數に選擇して解釋を施せるもの。

淺尾芳之助 受驗 **漢文單語整理** 四六判並製 262 五五 四 有精堂 九月
▲中學三年程度以上の漢文教科書及高等專門學校の入學試驗問題中より主要な單語、成語故事其他を收む。

龍澤良芳 全譯 **孟子詳解** 三六判洋布 629 一、八〇 八 健文社 九月
▲梁惠王章句、公孫丑章句、滕文公章句、離婁章句萬章章句、告子章句等孟子二六〇章を註釋せるもの。

文學士 水田勇賢 **孟子新解** 三六判洋布 746 一、七〇 一二 改進書房 十二月
▲朱子集註を主として註釋せるもので、第一篇梁惠王章句上より第七篇盡心章句までを會話體に解釋す。

殷元靜哉 四段式自習式 **現代文模範解釋** 四六判洋布 245 一、五〇 八 先進堂 三月
▲解釋篇、大意要領傍線摘譯、設問鑑賞篇、書取練習篇等、六章に分けて現代文二百餘篇を四段式に組んで解釋した書。

海野昌平 受驗用副讀本用 **平家物語選講** 四六判上製 153 一、〇〇 六 先進堂 十月
▲數奇な運命の跡を敍した平家物語を註釋せるもので、祇園精舍の事、富士川の事、敦盛最期の事外十二篇。

高木義雄 受驗用副讀本用 **增鏡選講** 四六判上製 162 一、〇〇 六 先進堂 十月
▲後鳥羽天皇の卽位に筆を起し後醍醐天皇の還幸に至る迄の百五十年間の歷史物語で、おどろの下、老のなみ外七篇。

廣瀨菅次 **徒然草の解釋と鑑賞** 菊半截洋布 325 一、五〇 八 啓文社 十月
▲前後兩編に分ち前編に徒然草の本文を載せて解釋を加へ、後篇は各章に亙つての節意、語釋、通釋、批評等を收む。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 江口天峰 | 論語明解 | 四六判 | 448 | 二、五〇 | 八月 | ▲初學者の爲めに論語の大體の意味が一讀して直ぐ分るやうに通俗的にやさしく講義せるもの。 |
| 文學士 增子懷永 | 論語訓解 | 四六判 | 188 | 八〇 | 十一月 | ▲論語の原文に句讀返り點を施し、傍に訓讀を附し、頭註を附したもの。 |
| 笠松彬雄 | 精要 唐宋八家文詳解 | 菊判 | 678 | 四、八〇 | 五月 | ▲韓愈篇、柳宗元篇、歐陽修篇、蘇洵篇、蘇軾篇外二篇にて唐宋八家文を詳說せるもの。 |
| 笠松彬雄 | 十八史略詳解 | 四六判 | 468 | 二、八〇 | 九月 | ▲文檢國漢科の指定參考書である「十八史略」を本文訓讀語釋通釋詳釋の五段に分ちて平易に講述せるもの。 |
| 第一高等學校教授 島田鈞一 | 參考 十八史略通解 | 三六判 | 487 | 一、六〇 | 三月 | ▲初學者にも分る樣十八史略の要點を拔萃して記事本末體として收めた參考書で、三皇五帝より文天祥死節迄。 |
| 清水芳德 | 學習參考 十八史略鈔本詳解 | 四六判 | 278 | 一、〇〇 | 二月 | ▲中等學校の漢文教科書に多く採り入れらてある「十八史略」を解釋したもので、太古、三皇、五帝。 |
| 磯野貞二郎 | 日本外史詳解 | 三六判 | 738 | 一、五〇 | 五月 | ▲日本外史の原本に從ひ各家別に鈔錄し中等教科書の體裁に倣つて章節を分ち主要な史實重要語句に題名を附け讀み易き樣說く。 |
| 清水芳德 | 學習參考 日本外史鈔本詳解 | 四六判 | 242 | 一、〇〇 | 二月 | ▲賴山陽の有名な「日本外史」中より鈔出し之に解釋を施したもので、平氏、源氏、豐臣氏、德川氏外八章。 |
| 浦和中學校長 文學士 井精一 | われらの經典 | 菊判 | 128 | 九〇 | 四月 | ▲卷頭に勅語及詔書次に論語の原文を收め、中學校上級及高等學校の教科書として編せられたもの。 |
| 須藤伊助 | 文の解剖と漢文典の研究 | 四六判 | 164 | 一、五〇 | 三月 | ▲國文研究の基礎とも云ふべき文の解剖、及び漢文解釋の根柢とも見るべき復文練習に重きを置いて研究した書。 |



## 作文・雄辯

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 帝國學士會院研究會編 | 試驗 故事成句總しらべ | 四六判 | 61 | 三五 | 九月 | ▲現代文と漢文に是非共必要な故事及成句をどうすれば最も要領よく記憶出來るかを研究し收めたもの。 |
| 加茂鐵城 小西鄕愁 | 獨習と受驗用 初めて漢文を學ぶ者の爲に | 四六判 | 348 | 一、二〇 | 十二月 | ▲漢文の形態より作り方等の根本法則を詳說し、嘗て試驗に出又出さうな原漢文を收めて讀み方意義語解等を施す。 |
| 芳賀矢一 杉谷代水 前田晁 | 增補改訂 作文講話及文範 | 四六判 | 1130 | 三、〇〇 | 十二月 | ▲既著「作文講話及文範」を改訂し、現代文章講話及文例を大增補なしたるもの。 |
| 芳賀矢一 杉谷代水 前田晁 | 增補改訂 書翰文講話及文範 | 四六判 | 1130 | 三、〇〇 | 十二月 | ▲既著「書翰文講話及文範」を改訂し、現代書翰文例を大增補せるもの。 |
| 森山右一編 | 現代作文の模範と練習 | 四六判 | 366 | 二、〇〇 | 五月 | ▲自然描寫文人物描寫文等十五講に亘り各々代表的な場合を五つ以上採擇し每文模式的な範例を揭げて收めたもの。 |
| 服部嘉香 | 受驗作文の作り方と答案認め方 | 三六判 | 438 | 一、五〇 | 二月 | ▲受驗作文の特色、準備法と問題、文章內容の研究其他にて文章學の根本を簡明し重要文題に關する文例を收む。 |
| 深山紅蘭 | 愛の手紙の書き方と其辭典 | 菊半截並製 | 348 | 七〇 | 七月 | ▲青年男女の心を語り合ふ愛の手紙の書き方を作例三十六篇及び用語辭典（五十音順）等にて示したもの。 |
| 日本タイピスト學校長 渡部久子 | 邦文タイプライター讀本 | 菊判 | 183 | 一、八〇 | 四月 | ▲タイピストの心得置くべき諸般の事項に關して懇切なる說明を施したもので、練習例題として商用文を收む。 |
| 雄辯學會編 | 雄辯學講座 | 菊判 | 981 | 四、八〇 | 八月 | ▲雄辯總論—永井柳太郎、雄辯概論—尾崎行雄、雄辯史—內ヶ崎作三郎、態度論—久留島武彥外卅一篇。—合本— |

# 書道・習字

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊 | 價 | 出版 | 月 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 木村剛石 | 訂正增補 新書道之研究 | 菊判 洋布入 | 334 | 三、〇〇 一八 | 柳澤書店 | 十一月 | ▲姿勢執筆腕法、基本運筆法、對位法、分位法、對應法、字體組織の要項、結構法、行書運筆の大要外二章。訂正增補版。 |
| 澁川玄耳 | 文字及書道 | 四六判 洋布入 | 452 | 二、五〇 一二 | 資文堂 | 八月 | ▲漢字の特徴、漢字と支那語、漢字の創製、秦代の文字、漢時代の文字、三國時代の文字外廿二章にて論述。 |
| 高山流月編著 | 高級ペン習字 | 四六判 上製 | 90 | 七五 六 | 博文堂出版部 | 五月 | ▲誰にも習ひ易きやう行草の二體にて日用文を排列したもので、保津川くだり、濱名湖の船遊其他廿二篇。 |
| 高山流月編著 | 實用口語 ペン手紙の文 | 四六判 上製 | 86 | 七五 六 | 博文堂出版部 | 五月 | ▲開店通知、着荷通知、支店設置を報ず其他尤も必要なる日用文を選み眞行草の三體にて收めたもの。 |
| 加藤樂山編書 | 新式 ペン字の書き方 | 四六判 洋布入 | 228 | 一、二〇 一二 | 二松堂 | 十月 | ▲詔勅をはじめ詩歌漢文古文現代文書簡文格言等一般世人の向上に資する材料を楷行草の三體にて收めたもの。 |
| 高山溪岳書 | 解說 ペン三體千字文 | 四六判 上製 | 88 | 七五 六 | 博文堂出版部 | 五月 | ▲眞行草の三體に分ち讀み方には全部振假名を附して一々解說を加へた書で、「ペン習字講話」を卷頭に掲ぐ。 |
| 金子彥二郎編 松原とよ子書 | 女子ペン字の手本 | 四六判 上製 | 62 | 三五 四 | 三明館 | 十月 | ▲葉書の表の書き方、新しい年のよろこび、高い踵の赤靴にも春が、旅から歸つて、いづれお目もじの上外廿篇。 |
| 高山溪岳書 | ペン習字 金の鈴 | 四六判 上製 | 86 | 七五 六 | 博文堂出版部 | 五月 | ▲追羽子の歌を、奈良より、おぼろ月の宵、ふるさと、短文其他乙女の爲に美しい文章をペン字にて書き收めたもの。 |
| 高山流月編 | ペン習字 かなのかきかた | 四六判 上製 | 92 | 七五 六 | 博文堂出版部 | 五月 | ▲初心の人やペン習字練習者の爲めに假名文字を系統的に眞行草の三體に分ち凡ゆる變體かなをも收めたもの。 |





| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊 | 價 | 出版 | 月 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 後閑菊野 佐々木君代 岡田起作書 | 女子書翰文 | 菊判 和綴 | 152 | 一、〇〇 八 | 三成社 | 三月 | ▲平易なる言葉を用ひ素直に感情と意志とを表はす樣、女子の常識として心得置くべき諸種の書式を收めた習字のお手本。 |
| 奈良女高師講師 大塚治六 | 行成卿かな帖 | 菊判 並製 | 80 | 二、五〇 一八 | 目黑書店 | 五月 | ▲行成のかなは古今を通じて吾が國の寶ともいふべきもの、その原書を寫眞版としたる卅六枚と外に解說書を附す。 |

# 國語辭典類

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊 | 價 | 出版 | 月 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 松岡靜雄 | 日本古語大辭典 | 菊判 背革入 | 1404 | 一〇、〇〇 三〇 | 刀江書院 | 四月 | ▲日本古語の源流を探り現代日本語の本質を理解出來るやう單に普通語のみでなく神名人名地名等を根本的に解義分析した大著。 |
| 松岡靜雄 | 日本古語大辭典 續—訓詁 | 菊判 背革入 | 1024 | 八、〇〇 三〇 | 刀江書院 | 十月 | ▲古事記日本紀及萬葉集の三大古典解讀の爲に、記紀の難讀字、兩書及萬葉集の歌詠を收めて訓詁を施す。 |
| 東京帝國大學教授 文學博士 藤村作編 | 新辭典 | 四六判 洋布入 | 1650 | 三、五〇 特三、三〇 一八 | 至文堂 | 四月 | ▲主として現代の文學、雜誌、新聞、一般讀者の爲の著述等我々日常生活に適切である語を採集し外來語新語等も收めた辭典。 |
| 文學士 橫山青娥 | 詩歌作文 類語辭典 | 三六判 洋布 | 420 | 一、五〇 六 | 交蘭社 | 四月 | ▲文を草し詩歌の制作に當つて最も困難を感ずる辭句を、適切に直ちに發見出來る樣あいうえお順に收めたもの。 |
| 塚本哲三編 | 新撰 日用辭典 | 三五判 並製 | 247 | 七〇 六 | 保立羊我堂 | 九月 | ▲大正二年五月有朋堂から「實用文字便覽」と題して刊行されたものゝ改版で、實用といふ點に重きを置いた辭典。 |
| 鈴木香雨書 | ペン字三體 新式いろは辭典 | 三六判 革裝 | 448 | 一、三〇 六 | 富文館 | 一月 | ▲ペン字眞行草三體のくづし方をいろは引にて引ける字典で、終りに書翰文用語集を收む。（洋布裝一圓） |
| 宮本光玄 | かくし言葉の字引 | 三五判 函入 革裝 | 433 | 一、二〇 六 | 誠文堂 | 十一月 | ▲軍隊語、犯罪者間の語、僧界の語、花柳界の語、相場界の語、演劇界の語、情界の語、符牒等を收め解說を附す。—發賣禁止改訂— |

岡田起作編書　草海　菊判洋布　函入　三五〇　一八　三月
▲日常須要の漢字三千五百を彙類し其中七百字を主要部として大書し之れに偏傍冠沓を附して二千八百字を崩し得る樣示した書。

加藤樂山編書　草書便覽　三五判洋布　259　一、八〇　八　文書堂　十月
▲日常必須の漢字四千二百を彙類し其中七百六十八字を大書し偏傍冠沓を附すれば三千二百字を崩し得られるやう編んだもの。

## 羅甸語

井出利一　正しく覺えられる羅甸語入門　四六判上製　276　一、五〇　六　太陽堂　七月
▲ラテン語を學ぶ人々の爲に平爲な文章でどうしても學ばればならぬ基本知識を詳說したもので、名詞以下四十四章。

## 英語

吉田幾次郎　英語入門　四六判洋布　375　一、五〇　八　研究社　五月
▲「英語の手ほどき」に修正を加へて改題したもので、ABCの最初より第一讀本程度の英語全科に通じて講述したもの。

小笠原勝　英語のをしへ　四六判洋布　361　特一、三〇　六　東華堂　二月
▲英語の初學者の手引となるやう正則的に發音や語脈を說明したもので、英語字母の諸體英文、單語文、單語表其他を收む。

岡田明達　木下芳雄　藤田廣　一・二年の英文法　四六判洋布　342　一、五〇　八　泰文堂　十一月
▲ABCの字も全く知らない人でも僅かの間に面白く英語の大體を覺えられるやう第三十日迄即ち一ヶ月に分けて說述す。

間崎勝義　ABCから始めて僅か一ケ月速成　英語の覺え方　四六判洋布　143　八五　六　先進堂　六月
▲最も學生間に難しいとされてゐる英文法を誰にも分るやうやさしく說いたもので、文の種類の話外二編。

吉田幾二郎　英文法入門　四六判洋布　294　一、二〇　八　研究社　一月
▲英文法を學ぶ人の爲に、英文の組立、其各部の要素に對する概念を得て進まれる樣やさしく說いた書。各品詞の研究に





文學士　宮下重夫　正しく覺えられる英文法學び方入門　四六判上製　140　一、〇〇　八　太陽堂　二月
▲英語の素養の淺い初學者の爲めに英文法の全般に渉つて極めて平易に書いた書で、字と語、音節、文の構造外六十餘項。

上條辰藏　國府田國一　學習受驗　英文法の學び方　三六判洋布　176　八五　六　岡村書店　三月
▲本書は語學構成上に最も必要なる熟語成句一百餘種を含む入試は勿論模範英作文三百餘を撰擇配列一々懇切なる說明を加ふ。

東京府立第五中學校前英語科主任　佐藤正治　最近の傾向を知る英文法の要領　新判洋布　410　一、六〇　八　太陽堂　十月
▲是非心得ねばならぬ英文法を通俗平易に解說せるもので、八品詞、名詞、冠詞、形容詞代名詞其他六章。

日進英語學校講師　內山常治　新英文法講義　四六判洋布　613　二、〇〇　一〇　有精堂　二月
▲英文法の要項約一千を網羅し最も平易に最も簡明に解說を加へたもので、第一講英文法第二講名詞以下卅八講。

教科書本位勉學者の爲めの　加藤莊一　自修英文法　四六判洋布　305　一、三〇　六　富文館　五月
▲一般論、九品詞とその變化、文の三部に分けて現今最も廣く行はれてゐる文法敎科書を緯として英文法を解說したもの。

東京外國語學校教授　吉岡源一郎　成蹊高等學校教授　川合友次郎　最新英文解釋の研究　三六判洋布　377　一、五〇　六　北文館　三月
▲英語の勉強法を述べ實例につき單語慣用句タイプ・イクスプンションの學び方とその練習其他說述。

第一高等學校講師　陸軍大學敎授　山田惣七　試驗に英語の解釋法　よく出る　新判洋布　245　一、二〇　六　岡村書店　三月

青山學院高等科敎授　佐伯有三　分る樣に英作文の書き方說明した　三六判洋布　320　一、三〇　八　岡村書店　一月
▲著者過去十數年間專門學校に於て英語敎授上に得たる經驗を基礎とし、英作文の綴方を最も平易懇切に說明せる參考書。

臺北高等商業學校敎授　室田有　學習受驗　英文和譯自由　新判洋布　543　二、二〇　八　培風館　六月
▲本書は構文、成句及熟語の一般的のものをABCの順に配列、更に諸種の類例及變用語等試驗によく出る問題を解釋せり。

青山學院高等科敎授　佐伯有三　分る樣に英作文の書き方說明した　三六判洋布　320　一、三〇　八　岡村書店　一月
▲著者過去十數年間專門學校に於て英語敎授上に得たる經驗を基礎とし、英作文の綴方を最も平易懇切に說明せる參考書。

第一高等學校講師　陸軍大學敎授　山田惣七　試驗に英語の解釋法　よく出る　新判洋布　245　一、二〇　六　岡村書店　三月

小野圭次郎　增訂最新研究　英文の解釋　三六判洋布　470　一、五〇　一〇　山海堂　十月
▲內容を改善し多大の增補をなし面目を一新したるもの。—改訂增補版—

加藤莊一　教科書本位勉學者の爲めの　自修英文法　四六判洋布　305　一、三〇　六　富文館　五月
▲一般論、九品詞とその變化、文の三部に分けて現今最も廣く行はれてゐる文法敎科書を緯として英文法を解說したもの。

內山常治　新英文法講義　四六判洋布　613　二、〇〇　一〇　有精堂　二月
▲英文法の要項約一千を網羅し最も平易に最も簡明に解說を加へたもので、第一講英文法第二講名詞以下卅八講。

佐藤正治　最近の傾向を知る英文法の要領　新判洋布　410　一、六〇　八　太陽堂　十月
▲是非心得ねばならぬ英文法を通俗平易に解說せるもので、八品詞、名詞、冠詞、形容詞代名詞其他六章。

東京府立第五中學校前英語科主任　佐藤正治　最近の傾向を知る英文法の要領　新判洋布　410　一、六〇　八　太陽堂　十月
▲是非心得ねばならぬ英文法を通俗平易に解說せるもので、八品詞、名詞、冠詞、形容詞代名詞其他六章。

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 價 | 出版 | 月 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岡田明達 木下芳雄 藤田美廣 | 一二年の英作文 | 四六判 洋布 | 336 | 一、五〇 八 | 泰文堂 | 八月 | ▲英語の基礎を面白く築かれるやう平易に説いたもので、主語と述語、語の順序、形容詞の位置外八十章。 |
| 文學士 宮下重夫 | 正しく覺えられる 英作文學び方入門 | 四六判 上製 | 170 | 一、〇〇 八 | 太陽堂 | 一月 | ▲誰れにもわかるやう極くやさしく英作文を親切に説明したもので、最く初歩の英作文入門書。 |
| 時文英語研究會主幹 戸沼佳元 | 最新獨創 英作文上達の鍵 第一卷 | 四六判 並製 | 215 | 八〇 四 | 弘導閣 | 五月 | ▲各卷共各學年の英語科の進度に合せ四十週に分つて正確に敏速に書き得る樣にしたもので練習問題を主として解答を卷末に附す。 |
| 時文英語研究會主幹 戸沼佳元 | 最新獨創 英作文上達の鍵 第二卷 | 四六判 並製 | 248 | 八〇 四 | 弘導閣 | 五月 | 第一卷—This is. I am. Which is mine? Can. May. Must. In Finitive. 外卅三篇。 第二卷—Past Tense. Material Noun. Proper Noun. Pronominal Adjective. 外卅六篇。 第三卷—Infinitive. Conjunction. Perfect Tense. Relative Pronoun. 外卅一篇。 |
| 時文英語研究會主幹 戸沼佳元 | 最新獨創 英作文上達の鍵 第三卷 | 四六判 洋布 | 303 | 八〇 四 | 弘導閣 | 五月 | ▲英作文を志す人の爲に適當なる練習課題を附し、構文上の注意より主要な語句の説明に入り尚語句の用例を示せるもの。 |
| 東京外國語學校教授 大橋榮三 | 詳解 新高等英作文 | 四六判 洋布 | 335 | 二、〇〇 八 | 泰文堂 | 八月 | ▲大正元年度より昭和四年度に至る文檢英語科豫備試驗とその試譯及註釋異譯例と本試驗問題の一通りを收めたもの。 |
| 宮本五郎 | 文檢 英語科問題解答集 | 四六判 函入 洋布 | 302 | 二、〇〇 一二 | 大同館 | 八月 | ▲各大學豫科、各高等學校、各高等商業、高等工業、高等農林、師範、陸海軍兵學校其他の英語入試問題を收めたもの。 |
| 中等英語研究會編 | 全國高等學校 專門學校 英語 入學試驗 問題集 —昭和四年度— | 四六判 並製 | 113 | 三〇 二 | 昇龍堂 | 四月 | ▲昭和四年度の官公私立高校及び專門學校百十餘校の英語問題を收め英文解釋、和文英譯に分けて解釋したもの。 |
| 英語通信社編 | 昭和四年度 高校 專校 英語問題詳解 | 四六判 並製 | 299 | 一、〇〇 六 | 英語通信社 | 五月 | ▲昭和四年度の官公私立高等諸專門學校入學試驗問題中英文和譯、和文英譯及英文法に關する解答集。 |
| 長沼直兄編 | 高等專門學校英語問題解釋 —昭和四年度— | 四六判 並製 | 277 | 九〇 六 | 開拓社 | 五月 | |



| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 價 | 出版 | 月 | 説明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小野圭次郎 | 英語問題集 —昭和四年度— | 四六判 並製 | 166 | 三五 四 | 山海堂 | 六月 | ▲單なる問題の集錄にあらず入試問題全部を整理按排し有益なるヒントを附し英文の解釋と對照研究に適する自習參考書。 |
| 飯塚陽平 國府田國一 | 學習受驗 和文英譯の學び方 | 三六判 洋布 | 320 | 一、一〇 六 | 岡村書店 | 三月 | ▲兩先生多年受驗生諸子の難中の難とすべき和文英譯の眞諦を獨創的の編述法を以て説明を施したる參考書。 |
| 本多孝一 | 速成暗記 英語單語一萬五千 | 三六判 洋布 | 518 | 一、四〇 八 | 岡村書店 | 三月 | ▲本書は過去十數年間の試驗問題に現れし重要單語及び現在中等學校に使用中の教科書の必要なる單語悉く蒐集せらる。 |
| 北村昇次郎 | 單語熟語の總しらべ | 四六判 並製 | 34 | 三五 二 | 京都 數學研究社 | 九月 | ▲英作用單語を中心として收めたもので、和文英譯單語總覽、英文和譯單語總覽 Idiom, Phrase 總覽。 |
| 岡倉由三郎編 | スクール英和新辭典 | 四六判 函入 革裝 | 1141 | 三、五〇 一二 | 研究社 | 八月 | ▲譯語は極めて易しく振假名を挿入し熟語慣用句を下欄に收載し一頁大の繪單語十八葉を收めた英和辭典。 |
| 研究社辭書部編 | 新英和小辭典 | 三五判 洋布 | 403 | 一、二〇 四 | 研究社 | 四月 | ▲現代の常用英語と最新語の一切を包容し、發音、同意語、反意語、語原等迄悉してゐる小辭典。—特製一圓五拾錢— |
| 日本大學講師 正則英語學校講師 鈴木芳松編 | 初めて英語を學ぶ人の 英和新辭典 | 三五判 洋布 | 441 | 一、〇〇 四 | 先進堂 | 三月 | ▲初學者の難事たる發音を片假名式にて表現し、科學文藝上の新語を取入れ、中等程度リーダ中の單語熟語を網羅す。 |
| 英語研究會編 | 新案 英單語急速暗記辭典 | 四六判 並製 | 253 | 一、〇〇 六 | 太陽社 | 十月 | ▲英語を研究するに最も大切な基本單語五千五百語を選びホネチツクを附し又一々品名詞を附せる辭典。 |
| 日本郵船會社員 加藤精 | 最新英和 國際商業用語新辭典 | 三五判 函入 革裝 | 452 | 二、五〇 六 | 太陽堂 | 四月 | ▲國際商業に關する用語竝に略語を一々正確なる發音と的確なる譯註を施して收めた商業用語の新辭典。 |
| 南信好 | 英和 法政經濟商業辭典 | 三六判 函入 洋布 | 1580 | 五、五〇 特四、八〇 一二 | 春陽堂 | 六月 | ▲外國貿易、保險、倉庫、稅關、銀行金融其他の商業用語、及財政經濟法律政治學等の諸用語を網羅せる辭典。 |

# 英文學・註釋書

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブレイク作<br>山宮允註釋 | ブレイク詩選 | 四六判<br>洋布 | 117 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲英吉利の偉大な神秘主義者、象徴的詩人ブレイクの詩を收めたもので、The Echoing Green 外六十八篇。—並製貳拾五錢— |
| 齋藤勇註釋 | スウインバーン詩選 | 四六判<br>洋布 | 103 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲ラファエル前派の詩人中興奮性の最も多いスウインバーンの詩十三篇を選んで註釋を附したもの。—並製廿五錢— |
| 齋藤勇註釋 | キーツ詩選 | 四六判<br>洋布 | 116 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲不幸にして夭折した驚歎すべき天才詩人キーツの詩を收めたもの。—並製貳拾五錢— |
| 矢野禾積註釋 | ルーバイヤット | 四六判<br>洋布 | 49 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲波斯の詩人オオマア・カイアムの有名な「ルーバイヤット」の英譯を掲げ註釋を附す。—並製貳拾五錢— |
| ハーデイ作<br>澤村寅二郎註釋 | ハーデイ詩選 | 四六判<br>洋布 | 103 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲英文學史上に異彩を放つてゐるハーデイの詩を收めたもので、The Conference of the Twoin 其他三七篇。—並製貳拾五錢— |
| 澤村寅二郎註釋 | ワーズワース詩選 | 四六判<br>洋布 | 110 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲自然詩人ワーズワースのいろ〳〵の詩集から選んで二十七篇を收め、卷末に註釋を附してある。—並製二十五錢— |
| 篠田錦策註釋 | ウオルデンの森 | 四六判<br>洋布 | 106 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲哲人ソローがウオルデンの森で林間生活をした記錄『ウオルデン』の第四章を抜萃し註釋を附す。—並製二十五錢— |
| 石川林四郎註釋 | シェイクスピア論 | 四六判<br>洋布 | 79 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲沙翁の三百年忌にハーバアト大學に於て講ぜられたキツトレツヂ教授の沙翁論を收めノートを附す。—並製二十五錢— |
| 土居光知註釋 | 衣裳哲學 | 四六判<br>洋布 | 188 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲哲人カーライルがその人生觀を表した有名な『サーター・レサータス』第二卷の原文を載せノートを附す。—並製二十五錢— |





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 豐田實註釋 | ポー短篇集 | 四六判<br>洋布 | 122 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲エドガア・アラン・ポーの怪奇幻想に滿ちた短篇集『ブロウズ・テイルズ』の中の三篇を選び註釋を附す。—並製二十五錢— |
| 石田憲次註釋 | 偉人論 | 四六判<br>洋布 | 103 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲エマスンの『レプリゼンタテイヴ・メン』中の「シエイクスピア」と「ゲエテ」の二篇を抜萃し註釋を附す。—並製二十五錢— |
| デエヴイドグレエスン作<br>平田喜一註釋 | 田園雜筆 | 四六判<br>洋布 | 82 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲平和會議に記者としての多忙な大任を果して田園生活を營むに至つたグレエスン氏の作八篇を收む。—並製二十五錢— |
| スティーヴンソン作<br>岡倉由三郎註釋 | 自殺倶樂部 | 四六判<br>洋布 | 161 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲奇想天外を以て知られた從兄弟の Robert Alan Mowbray Stevenson をモデルに描いたもの。—並製貳拾五錢— |
| 平田喜一註釋 | エリヤ隨筆選 | 四六判<br>洋布 | 113 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲チヤルズ・ラムの隨筆集『エツセイズ・オヴ・イリア』の中から優れたる八篇を選び註釋を附した書。—並製二十五錢— |
| ミルトン作<br>繁野天來註釋 | 失樂園<br>卷の一 | 四六判<br>洋布 | 105 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲第一卷は人間の叛逆と彼が置かれた樂園を失ひ墮落の主因であつた蛇に觸れ大奈落へ追拂はれる事を述ぶ。—並製二十五錢— |
| ミルトン作<br>繁野天來註釋 | 失樂園<br>卷の二 | 四六判<br>洋布 | 94 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲ミルトンの「失樂園」卷二で、前半に原文を掲げ、解題譯註を後半に收めてある。—並製二十五錢— |
| 渡邊半次郎註釋 | ホーソン短話集 | 四六判<br>洋布 | 114 | 六〇<br>研究社 | 十一月 | ▲米國が生んだ最も獨創的な然も最も天才的な文學者であるホーソンの短話六篇を註釋せるもの。—並製貳拾五錢— |
| ハーデイ作<br>岩崎民平註釋 | 妻を儆ばすために及び息子の拒否 | 四六判<br>洋布 | 77 | 六〇<br>研究社 | 十月 | ▲どこまでも眞摯な、澁み切つた文章で寫し出した巨匠の「妻を儆ばすために」「息子の拒否」の短篇二篇。—並製二拾五錢— |
| 福原麟太郎註釋 | フアーザ・ブラウン | 四六判<br>洋布 | 88 | 六〇<br>研究社 | 二月 | ▲チーケー・チエスタトンの探偵小說集『ファーザ・ブラウン』中の、聲音、目に見えぬ人の二篇にノートを附す。—並製二十五錢— |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| シング作 市河三喜註釋 | 西の國の人氣者 | 四六判 洋布 | 120 | 六〇六 | 研究社 | 十月 |
| シヨー作 堀英四郎註釋 | 運命の人 | 四六判 洋布 | 92 | 六〇六 | 研究社 | 十月 |
| ギツシング作 市川三喜註釋 | ヘンリ・ライクロフトの手記 | 四六判 洋布 | 90 | 六〇六 | 研究社 | 二月 |
| ワイルド作 青木常雄註釋 | サロメ | 四六判 洋布 | 82 | 六〇六 | 研究社 | 二月 |
| ステイーヴンスン作 岡倉由三郎註釋 | 若き人々の爲に | 四六判 洋布 | 88 | 六〇六 | 研究社 | 二月 |
| カロル作 岩崎民平譯註 | 研究社英文譯註叢書 不思議國のアリス | 菊半截 洋布 | 264 | 七〇六 | 研究社 | 四月 |
| ワイルド作 佐伯有三譯註 | 研究社英文譯註叢書 漁夫とその魂 | 菊半截 洋布 | 117 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| キングズリ作 武井亮吉譯註 | 研究社英文譯註叢書 希臘英雄傳 | 菊半截 洋布 | 299 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| 寺西武夫譯註 | 研究社英文譯註叢書 イソップ物語 | 菊半截 洋布 | 157 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| ポー作 大橋榮三譯註 | 研究社英文譯註叢書 ポー短篇集 | 菊半截 洋布 | 276 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |

▲愛蘭の劇詩人シングの代表作「西の國の人氣者」（三幕）の原文を收め註釋を附す。—並製二十五錢—

▲ナポレオン一世と愛蘭の一婦人との長い二人對話より成る劇。—並製貳拾五錢—

▲優雅洗練された文章で知られたギツシングの『ヘンリ・ライクロフトの手記』の「夏の部」を收め註釋を附す。—並製二十五錢—

▲オスカア・ワイルドの代表的傑作「サロメ」一幕の全文を掲げ、卷頭に解說を、卷末に註釋を附してある。—並製二十五錢—

▲『寶島』の作者ステイーヴンスンの論文感想集『ヴアーヂニバス・ピユエリスキ』に註釋を附したもの。—並製二十五錢—

▲夢に兎の穴に落ちた少女が不思議國を彷徨する無邪氣な冒險物語で、兎の穴下り外十五篇。—布製五十錢—

▲美しい人魚の愛を得んがために、己の魂を魔女に賣る若き漁夫の物語。—布製五十錢—

▲希臘神話に有名なるキングズリのHeroesより「パーシユーズ」「アーゴ船冒險譚」の二篇を收む。—布製五十錢—

▲世界の古今に亙つて愛讀され、各國民衆の日常生活に貴い教訓を垂れたイソップの寓話八十篇を收む。—布製五十錢—

▲米文豪ポーの散文物語の中より特に怪奇と神秘とを極むる黑猫、黃金蟲、壜中の遺書、アツシヤ家の崩壞を收む。—布製五十錢—





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ラム作 勝田孝興譯註 | 研究社英文譯註叢書 シェイクスピヤ物語 | 菊半截 洋布 | 321 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| 萩原恭平譯註 | 研究社英文譯註叢書 ワグネル物語 | 菊半截 洋布 | 159 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| 竹友藻風譯註 | 研究社英文譯註叢書 英國童謠集 | 菊半截 洋布 | 209 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| キツプリング作 福原麟太郎譯註 | 研究社英文譯註叢書 なるほど物語 | 菊半截 洋布 | 171 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| ウエルズ作 村上貢譯註 | 研究社英文譯註叢書 驚異の物語 | 菊半截 洋布 | 165 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| ダンセイニ作 舟橋雄譯註 | 研究社英文譯註叢書 バブルクンドの沒落 | 菊半截 洋布 | 195 | 七〇六 | 研究社 | 二月 |
| ステイーヴンスン作 石井正雄譯註 | 研究社英文譯註叢書 ヂエキル博士 | 菊半截 洋布 | 232 | 七〇六 | 研究社 | 四月 |
| 長澤英一郎譯註 | 研究社英文譯註叢書 聖書物語 | 菊半截 洋布 | 181 | 七〇六 | 研究社 | 十月 |
| キングズリ作 佐伯有三譯註 | 研究社英文譯註叢書 水の子等 | 菊半截 洋布 | 187 | 七〇六 | 研究社 | 十月 |
| ボールドウイン作 後藤一郎譯註 | 研究社英文譯註叢書 フイフテイ・フエイマス・ストーリズ | 菊半截 洋布 | 289 | 七〇六 | 研究社 | 十月 |

▲沙翁劇の梗概を傳へてよく古典の列に入つた名著且つラムの出世作である。四大悲劇他三篇を收む。—布製五拾錢—

▲樂聖ワグネルの歌劇の中特に有名な「白鳥の騎士」「タンノイゼル」「幻の船」の三篇を平明なる散文譯を原文として譯述。—布製五拾錢—

▲英米幾百年に涉る童謠の中現代に傳へられた所謂「マザーグースの謠」に就き特に興味深き八十七篇を選び收む。—布製五拾錢—

▲英國現代の文豪キツプリングの會心の童話を譯收したもので、駱陀に背中の瘤が出來た話外八篇。—布製五拾錢—

▲清新なる科學味を經とし、奇々怪々なる空想を緯とした Tales of Wonder の中、「魔術店」他六篇を譯し修む。—布製五拾錢—

▲自然主義文學の第廿世紀に浪漫主義の華を發かした愛蘭の作家ダンセイニ卿の寓話三篇と劇一篇。—布製五拾錢—

▲二重性格の相剋を描いた哀切且つ怪奇を極むる小說で、扉の話、手紙の出來事、最後の夜外七篇—布製五拾錢—

▲年少學生の爲に聖書の物語を平明に書き換へたものを原文として譯註を加へたもので、天地創造の話外十篇。—布製五拾錢—

▲親方に虐げられた煙突掃除の小僧が「水の子供」に成る迄と成つてからの種々の冒險譚を收めたもの。—布製五拾錢—

▲英米に於て好話される古今の美談佳話に就き五十篇を少年少女向の讀物として收めたもの。—布製五拾錢—

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 武井亮吉譯註 | 研究社英文譯註叢書 グリム物語 | 菊半截 洋布 | 205 | 七〇 六 | 研究社 | 十月 |
| ホーソン作 青木常雄譯註 | 研究社英文譯註叢書 傳記物語 | 菊半截 洋布 | 191 | 七〇 六 | 研究社 | 十月 |
| アーヴィング作 篠田錦策譯註 | 研究社英文譯註叢書 スケッチ・ブック | 菊半截 洋布 | 266 | 七〇 六 | 研究社 | 十月 |
| 清水繁譯註 | 研究社英文譯註叢書 ガリヴアの旅行記 | 菊半截 洋布 | 181 | 七〇 六 | 研究社 | 十一月 |
| 第一高等學校教師 山田惣七 | 青年英文學研究叢書(7) ハーデイ H公爵夫人と哀れ輕騎兵 | 四六判 洋布 | 320 | 一、三〇 八 | 泰文堂 | 二月 |
| ベンネット著 女子學習院教授文學士 鈴木謙一郎譯 | 青年英文學研究叢書(8) 燒き立ての馬鈴薯と其の他 | 四六判 洋布 | 198 | 一、三〇 六 | 泰文堂 | 五月 |
| 第一高等學校講師 ドクトル・オブ・フイロソフイー 山田惣七譯 | 青年英文學研究叢書(9) 變り果てた男と愛する妻故に | 四六判 洋布 | 227 | 一、三〇 八 | 泰文堂 | 五月 |
| 東京商科大學教授 中村爲治譯 | 青年英文學研究叢書(10) ヴイクトリア朝の抒情詩 | 四六判 洋布 | 212 | 一、三〇 八 | 泰文堂 | 九月 |
| 南日恒太郎 | 英詩藻鹽草 | 四六判 函入 背革 | 183 | 一、七〇 一〇 | 北星堂 | 一月 |
| 齋藤勇 | 英詩鑑賞 評註篇—隨詩篇 | 四六判 函入 上製 | 900 | 四、五〇 一八 | 研究社 | 一月 |

▲蛙の王子、忠義者のジョン、不思議なヴアイオリン彈き、十二人の兄弟外八篇の童話に對譯を施したもの。—布製五拾錢—

▲慈愛深い父が毎夜我兒の病室で偉人名士の少年時代を語る形式で米文豪自身の高潔なる教訓と批評とを語つたもの。—布製五拾錢—

▲英文學の先驅であるアーヴイングの名著から我國にも喧傳さるゝイリギスの田園生活其他を收む。—布製五拾錢—

▲ガリヴアーの大人島小人島巡りの物語たるスヰフトの傑作「ガリヴアの旅行記」を對譯したもの。—布製五拾錢—

▲英文壇の巨匠トマス・ハーデイの短篇ハムプトンシヤー公爵夫人、哀れ輕騎兵の二篇に譯註を施して收む。

▲單純さと滑稽味とを含んでゐる「燒き立ての馬鈴薯」を始め殺人具三つ、好運な絞刑吏の三篇を收めた註釋書。

▲ハーデイの短篇を原文對譯及び註を附した書で、一騎兵大尉の人道愛の物語「變り果てた男」並に「愛する妻故に」の二篇。

▲幼兒たちの墓、花、愛は生くるなり、鵜の巣、死にゆく子供、母親の夢、小川其他四十二篇を選び收む。

▲英米大家の詩作に就いて比較的入り易いものを擇び、毎篇之を國詩に譯し作者傳又は作の由來を略記し、詳註を附す。—改版—

▲評註、譯詩篇の二卷より成り、第一卷にミルトン以後今日の青年詩人に及ぶ原詩を掲げ第二卷に譯詞を收む。—改訂版—



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 若目田武次 | 英譯 古今集 | 四六判 洋布 | 279 | 二、〇〇 六 | 有朋堂 | 五月 |
| モーデル 市川三喜校訂 | 小泉八雲 アメリカ文學論 | 四倍判 函入 革裝 | 250 | 四、五〇 三〇 | 北星堂 | 九月 |
| 落合貞三郎校訂 | 小泉八雲 作詩論に就いて | 四六判 洋布 | 90 | 一、五〇 六 | 北星堂 | 十一月 |
| 中里介山著 バビヤ譯 | 英譯 大菩薩峠 | 四六判 上製 | 353 | 二、〇〇 一〇 | 春秋社 | 十二月 |
| 文學博士 齋藤勇 | シエクスピア | 四六判 洋裝 | 116 | 九〇 六 | 山海堂 | 一月 |
| 松本惟成 | 英文 日本五十傑逸話集 | 四六判 函入 洋布 | 411 | 三、五〇 一二 | 厚生閣 | 九月 |
| チャールズ・ラム著 幡谷正雄譯註 | 全譯 エリア隨筆講義 | 四六判 洋布 | 505 | 二、二〇 一〇 | 健文社 | 二月 |
| ステイーヴンスン著 鳴澤寡衍譯註 | 全譯 ワーヂニバスピユアリスクヰー講義 | 四六判 洋布 | 434 | 二、二〇 一〇 | 健文社 | 十一月 |
| ステイーヴンスン作 葉河憲吉譯註 | 全譯 自殺倶樂部講義 | 四六判 洋布 | 317 | 一、八〇 八 | 健文社 | 四月 |
| 田中饒註釋 | イソップ物語 | 四六判 上製 | 233 | 一、二〇 六 | 保立羊我堂 | 十二月 |

▲古今集の四季の部と相聞の部及び其他重なる歌を英譯したもので、小林一郎氏の英文解說を附してある。

▲小泉八雲がニユー・オルレアン洲の新聞紙"Item"及び"Time-Democrat"に執筆したエッセイ六十四篇を收む。

▲小泉八雲が一九〇一年の春作詩論について三回、特に韻律について一回の講義をしたものを纏めたもので、附錄二篇を添ふ。(英文)

▲大菩薩峠の第一册より第三册迄を英譯せるもの。

▲大學豫科、高等學校、專門學校に於ける文學趣味を主としたる教科用書。

▲古今を通じての日本の英雄五十傑の逸話を英文で收めたもので、毛利元就、豐臣秀吉、西卿隆盛其他。

▲ヒユマアに富んだ情趣豐からラムの隨筆を譯したもので、南海商會、休暇中の牛津大學の二つの人種外十篇を收む。

▲「若き男女の爲に」「片意地の老人と若者」「なまけ者の辭」「鐵石心」其他六篇のエッセイを對譯詳註す。

▲ステイーヴンスンの全作品中第一に推すべき傑作「ニユウアラビアンナイツ」中の一篇「自殺倶樂部」の對譯及註釋。

▲イソップ物語の英文に註釋を施し全譯文を參考とせるもので、仔山羊と狼、二つの壺、水邊の牡鹿外五十篇。

| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 定價 | 出版 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 藤田美廣註釋 | 趣味の英國史 | 四六判 上製 | 225 | 一、二〇 六 | 保立羊我堂 | 十二月 |
| 岡田美津註釋 | 英文小說 少女 | 四六判 洋布 | 510 | 二、五〇 八 | 研究社 | 五月 |
| 富田義介評釋 | 牧歌 漁村哀話 | 三六判 上製 | 112 | 一、〇〇 六 | 北星堂 | 九月 |
| 山崎貞譯註 | アラビアン・ナイト解釋 | 三五判 洋布 | 260 | 一、二〇 八 | 北星堂 | 八月 |
| 上井磯吉 矢口達 | 原文 ヒーマン 對譯 インターコース講義 | 三六判 上製 | 350 | 一、二〇 八 | 邦光堂 | 五月 |
| 弘前高等學校元教授 明治大學教授 松本環譯註 | スケッチ・ブック 哀話篇 | 四六判 洋布 | 181 | 八五 八 | 成武堂 | 十月 |
| 高田勝譯編 | 原文對譯 トーキー英語 ぐりーん家の慘劇 | 菊判 並製 | 70 | 二五 四 | 櫻木書房 | 十一月 |
| 高田勝譯編 | 原文對譯 トーキー英語 曲線惱まし | 菊判 並製 | 77 | 二五 四 | 櫻木書房 | 十一月 |
| 太陽堂編輯部編 | 自修 新獨逸語研究 | 四六判 洋布 | 701 | 三、五〇 一二 | 太陽堂 | 三月 |

▲昔のブリトン族、アルフレッド大王、勇敢なネルソン卿其他十二篇を辭書なしで讀みこなせるやう註釋を施し全譯せるもの。

▲高等女學校を出た位の若い女性達の自習用として平民的な家庭生活を描いた「リツトルウーマン」の全文と註釋。

▲テニスンの有名な長詩「イーノック・アーデン」の原文を收め、これに大意と評釋を附したもの。

▲最も人々に膾炙してゐるアーリ・バーバと盜賊の話、アラデインと不思議なラムプの話外一篇を譯註せるもの。

▲本書は中學上級用參考書として又高等學校程度の初級用に採用せられ著者獨特の極めて懇切なる註釋と指導を附す。

▲難句難文には詳細なる脚註を附し原文を對照せるもので、航海、ロスコオ、妻、寡婦とその息外三篇。

▲パラマウント社の新輸着トーキー「ぐりーん家の慘劇」の筋書と對話を譯せるもの。

▲クララ・ボウ主演の「曲線惱まし」のトーキーを原文對譯せるもの。

## 獨逸語

▲獨逸語發音の梗概、ドイツ語發音、冠詞について、形容詞の變化に就いて其他にて獨逸語を研究し英佛語も加味せる書。





| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 定價 | 出版 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 多田基 | 初めて學ぶ人の獨逸語 | 四六判 洋布 | 384 | 二、三〇 一二 | 先進堂 | 九月 |
| 慶應大學教授 粕谷眞洋 | 誰にも分かる獨逸語の第一歩 | 四六判 洋布 | 211 | 一、五〇 八 | 南山堂 | 三月 |
| 文學士 森儁郎 | 獨逸語四週間 | 四六判 布裝 | 290 | 一、五〇 六 | 柏葉書房 | 五月 |
| 桃井鶴夫 | 正しく覺えられる獨逸文法入門 | 四六判 上製 | 150 | 一、〇〇 六 | 太陽堂 | 九月 |
| 龜井藤太郎 | 教科用 獨逸文法要綱 | 四六判 洋布 | 266 | 二、〇〇 八 | 金刺芳流堂 | 十二月 |
| 佐久間政一 | 和文獨譯新研究 | 四六判 函入 上製 | 156 | 一、三〇 一二 | 郁文堂 | 五月 |
| 辻善定 大島俊一郎 | 添削式 和文獨譯 | 四六判 洋布 | 250 | 二、三〇 一八 | 大倉書店 | 十一月 |
| 二高教授 小池堅治 | 和文獨譯自習 —アウトデイダクト— | 四六判 洋布 | 250 | 一、八〇 一〇 | 南山堂 | 三月 |
| 八高講師 澤井要一 | 高等受驗用 獨作と和獨要語 | 四六判 洋布 | 195 | 一、五〇 八 | 南山堂 | 十一月 |
| 南江堂編輯部編 | 正しい獨文 手紙の書き方 | 菊半截 布裝 | 134 | 一、〇〇 六 | 南江堂 | 一月 |

▲一篇に文法全般の豫備知識を簡易に說き二篇を讀書研究として興味のある小品を收めて初學者の爲に獨逸語を說く。

▲第一章文字、第二章發音、第三章第一讀本講義よりなり全然外國語の素養な人きにも分るやう編せられる。

▲文法と譯讀とを併せて從來の文法主義の學習と多讀主義の學習とを有機的に調和せしめた初學者の自修書。

▲外國語の素養の殆んど無い初學者を對照として複雜な獨逸文法を平易に說いたもので、名詞外十一章。

▲高等諸學校教科用書として編んだもので、音及文字、詞の構造、文章成分外百二章、附錄動詞の變化一覽。

▲第一篇に文章構成法を解き材料はあくまで斬新、斷片的な短文を捨て、纏まつた文章によつて編まれたもの。

▲學生が書かれたる譯文を訂正して其理由と注意すべき點を說き且一々解答文を附したるもので、全頁を二色刷となす。

▲原文・語彙・譯文の三部よりなり譯文は各題數種の譯例を揭げて對比研究に便し構文上の變化と呼吸を會得せしむ。

▲從來諸學校入學試驗に出た問題を簡明直截な獨文に譯し模範的實例數百題を擧げ獨文作法の骨を會得せしめんとした書。

▲年賀狀を始め戀の怨文に至るまで人事萬般に互る多くの文例を揭げ封筒の書き方書出し結末の詞等詳細說明。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 橋本忠夫 | 獨逸語の會話と手紙 | 新型判 洋布 | 221 | 一、二〇 六 | 郁文堂 | 十月 |
| 大島俊一郎 | 實用獨逸商業通信文 | 四六判 洋布 | 270 | 二、三〇 一八 | 大倉書店 | 二月 |
| 桃井鶴夫 | 繪入自修獨逸語讀本 初級の卷 | 四六判 上製 | 137 | 一、〇〇 四 | 太陽堂 | 四月 |
| 桃井鶴夫 | 繪入自修獨逸語讀本 上級の卷 | 四六判 上製 | 149 | 一、〇〇 六 | 太陽堂 | 七月 |
| 權田保之助譯註 | 獨和對譯小品文庫(1) ハウフの童話 | 新型判 洋布 | 159 | 一、三〇 六 | 有朋堂 | 四月 |
| 權田保之助譯註 | 獨和對譯小品文庫(2) 獨逸新聞の研究 | 新型判 洋布 | 167 | 一、三〇 六 | 有朋堂 | 四月 |
| 權田保之助譯註 | 獨和對譯小品文庫(3) ルパン探偵譚 | 新型判 洋布 | 181 | 一、三〇 六 | 有朋堂 | 四月 |
| 浦和高等學校教授 上村靜延 | 獨和對譯ドストエウスキー短篇集 | 三六判 並製 | 206 | 一、〇〇 六 | 南山堂 | 三月 |
| 第二高等學校教授 佐久間政一譯註 | 對譯獨逸短篇叢書(4) 對譯クライスト短篇集 | 四六判 布裝 | 167 | 一、三〇 六 | 南山堂 | 五月 |
| ヘルマン・ヘッセ作 生駒佳年譯註 | 獨和對譯 美しきは青春 | 三六判 洋布 | 151 | 一、一〇 六 | 南山堂 | 六月 |

▲會話篇（會話の練習について、對話用語、訪問、旅行外九章）。書簡文（書簡文例、電報文例、廣告文例外三章）。

▲著者の從事する業上の經驗と現下の獨逸商人が使用しつゝある文例とを基に各場合に必須な用句、文例を掲げて詳述す。

▲全然獨逸語の智識無き者にでも理解し得るやう極めて平易な文章から漸次程度を高めて收めたもの。

▲中學二年程度より三年程度の文例を集めたもので、飢えたる亞剌比亞人、アレキサンデル王の節制外三十一課。

▲數年前獨逸の映畫會社に依つて映畫化され好評を博した「カリフの鶴」を初め一切られ片手「幽靈船」の三篇を收む。

▲新獨逸の社會事象と獨逸語とに興味が持てる樣獨逸の新聞紙に現はるゝ文體な各部門に就いて蒐錄したもの。

▲モーリスルブラン作の有名な俠盜アルセーヌルパンの活躍する「日光の戲れ」「結婚の指環」の二篇。

▲氏の傑作「降誕祭」「明るき夜」「女主人」を收む。

▲ゲーテに對照されるクライストの短篇傑作「智利の地震」「ロカルノの女乞食」「聖ツエツイリエ」「拾ひ子」を收む。

▲自然の美を背景とし短き青春の夢と戀愛の哀愁を描いた此一篇は抒情詩人ヘッセが生活の一斷片ないものである。



| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイネ原作 内藤匡譯註 | 獨和對譯 ハルツ紀行 | 三六判 洋布 | 283 | 一、七〇 六 | 南山堂 | 八月 |
| 高橋健二譯 | 獨和對譯ゼンドミールの僧院 | 三六判 上製 | 113 | 一、〇〇 六 | 郁文堂 | 九月 |
| 吹田順助譯 | ツァラトゥストラ解說 | 四六判 上製 | 431 | 二、五〇 一二 | 郁文堂 | 八月 |
| 第六高等學校教授 杉山茂譯註 | 獨和對譯 物理と化學 | 三六判 布裝 | 137 | 一、二〇 六 | 南山堂 | 十二月 |
| 片山正雄 | 雙解 獨和小辭典 | 袖珍 革裝 | 1310 | 四、五〇 一四 | 南江堂 | 四月 |
| 桃井鶴夫編 | カナ附き 獨和新辭典 | 三五判 洋布 | 517 | 一、五〇 六 | 太陽堂 | 十月 |
| 陸軍工兵大尉 栗本進 | 獨和 兵語新辭典 | 新型判 函入 洋布 | 501 | 三、五〇 一二 | 太陽堂 | 九月 |
| 文學士 宮下重夫 | 正しく覺えられる 佛蘭西語入門 | 四六判 上製 | 169 | 一、〇〇 六 | 太陽堂 | 一月 |
| 山田原實 | 佛蘭西文法詳解 | 四六判 洋布 | 231 | 二、〇〇 六 | 白水社 | 五月 |

▲本書は獨逸語學習者が必ず讀むハイネ不朽の傑作ハルツ紀行に流暢な譯文と懇切な註譯を施したもの。

▲グリルパルツエルが餘技として殘した名篇の一つで解說十二頁を附し對譯せしもの。

▲ニーチエのツアラトウストラの對譯で解說二十五頁を附す。

▲高等學校二三年程度の理科の生徒諸君が自然科學の原書讀破の指南書として又受驗準備書として編まれたもの。

▲既刊大辭典の姉妹篇として別個の使命を帶びて新に成れるもの隨て大辭典を更に增補修正し推敲洗練の極に達して居る。

▲初學者の爲めに專門學校以下の現行各教科書及童話小說類より最も使用されてゐる語彙を選擇して編む。

▲各種の書を參照收錄し之に栗本氏が參謀本部及び技術本部にて飜譯勤務に服務中に遭遇せる兵語を收めた辭典。

▲第一課アルファベー、第二課母音、第三課名詞以下二十課に亙つて初學者に分る樣親切に說明せる書。

▲佛語語法を歷史的に考察したもので、語の構成、語の意義の進展、文の elements と其の fonctions 其他十章。

## 佛蘭西語

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京外國語學校講師 陸軍大學教授 丸山順太郎 | 實用佛蘭西文法捷徑 | 四六判 洋布 | 356 | 二、五〇 一二 | 白水社 九月 |
| 大阪外國語學校講師 關西大學講師 德尾俊彥 | 佛文解釋法 —類語篇— | 四六判 洋布 | 301 | 二、五〇 八 | 白水社 十二月 |
| アルフオンスドオデ作 木村太郎譯註 | 佛蘭西文學譯註叢書(3) 風車小屋からの便り | 四六判 並製 | 217 | 一、八〇 六 | 白水社 十月 |
| 德尾俊彥編 | 佛蘭西常用五千語 | 三六判 洋布 | 255 | 一、五〇 六 | 白水社 十一月 |
| 田島清 | 片言まじりの佛蘭西ゆき | 三六判 函入背革 | 158 | 一、五〇 六 | 白水社 十二月 |
| 慶大教授 前田越嶺編 | 假名發音 最新佛和小辭典 | 袖珍 總革 | 600 | 二、三〇 一四 | 尙文堂 九月 |
| 井出利一 | カナツキ 佛和新辭典 | 三五判 洋布 | 439 | 一、二〇 六 | 太陽堂 九月 |

▲母音、子音、主調音、發音符、名詞について、冠詞について、形容詞について其他にて詳述す。

▲Synonymes の定義と形、名詞の單數、普通の動詞、代名動詞、形容詞より轉化した副詞外十七章。

▲コルコイユ親方の祕密、スガンさんの牝山羊、星、アルルの女、サンギネエルの燈臺外二篇を收む。

▲普通に使用されてゐる語を數字、季節、月週、時、宇宙、大陸、國、國民、都市、住民人其他に類別して收む。

▲田島氏の獨創的會話書で、巴里行特急、本場の修業、底拔けの間拔け、佛蘭西の海水浴場外四十五章。

▲積年の檢討考案によつて未だ世に試みられない假名發音付の新辭典。

▲佛語を學ぶに最も難易を感ずる名詞の性、動詞の變化を附錄にし發音假名を附した辭典。

## 露西亞語

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 山內封介 | 最新露西亞語獨修 | 新四六判 布裝 | 330 | 一、五〇 一八 | 尙文堂 十月 |
| 矢島義一 | 初めて學ぶ人の露西亞語 | 新四六判 洋布 | 239 | 一、五〇 八 | 先進堂 九月 |
| 太陽堂編 | 露和新辭典 | 三五判 洋布 | 345 | 一、八〇 六 | 太陽堂 十月 |

▲從來の外國語獨修とちがひ極力內容を單純化したもので全然語學の素養なき人でもすぐに覺え得るやう仕組れたもの。

▲露西亞語を初めて學ぶ人の爲に解りやすく說明した書で、綴音及び力點、名詞、會話其他を十六章に分け收む。

▲新正字法により主として初學者を對照としてカナを附して編んだ辭典。

## 支那語

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 前長崎高商教授 江口良吉 | 正しく覺えられる支那語入門 | 四六判 上製 | 126 | 一、〇〇 六 | 太陽堂 九月 |
| 宮島吉敏 | 詳註對譯 中華國語讀本 | 四六判 背洋布 | 223 | 一、八〇 八 | 太平洋書房 十月 |

▲發音篇（北京官話、聲音の區別外二章）解釋及び應用例題（簡易會話篇、應用短句解釋篇、白話短文篇外一章。）

▲支那語獨習者の爲めに發音篇と讀本篇に分け發音の規則方法を出來るだけ正確明瞭に文字を以て示せるもの。

## エスペラント

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 日本エスペラント學會理事 中央大學教授法學士 川原次吉郎 | 崇文堂語學研究叢書 初等エスペラント研究 | 四六判 洋布 | 304 | 一、八〇 八 | 崇文堂 十二月 |
| 萬國エス語協會 日本代表委員 石黑修 | 正しく覺えられるエスペラント入門 | 四六判 上製 | 131 | 一、〇〇 六 | 太陽堂 一月 |
| 法學士 金井博治編 | 和エス辭典 | 袖珍 洋布 | 188 | 一、五〇 二 | 未來社 十月 |

▲初學者にも分る樣やさしく說いたもので、第一編に文字と發音、第二編に文法、第三編に文例、第四篇に文集を收む。

▲第一課文字、第二課發音、第三課品詞以下十八課に分ち各課に互つて分り易く述べ、附錄に相關詞一覽表其他を收む。

▲著者自身のエスペラント學習の體驗に鑑みて編んだ辭典。

森口多里著

# 近代美術十二講

18版

四六判函入洋布美裝　定價三圓
口繪四十七圖挿入　送料十八錢

本書は著者が流麗纖細な筆を以てラファエル前派より新ラファエル前派、印象派、新印象派、後期印象派、立體派、幾何學派、表現派、新理想主義、未來派、コンポジショナリズム、ダダイズム等あらゆる近代美術上の新運動の意義と理論とを解說論究したものである。本書一卷は諸君が展覽會上に於て屢々出會ふところの新流派に對する疑問を立所に氷解し、新興美術に對する正しい批評眼を與へてくれるであらう。

キユルベ著　藤井昭著　美學原論（再版）　定價二圓五十錢　送料十二錢

東京　神田　東京堂發行　振替東京二七〇番






# 六、美術・音樂

## 美術一般・西洋美術研究

| 著者 | 書名 | 形体 裝幀 | 頁數 | 定價錢 送料錢 | 發行所 | 發行月 | 內容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 早稻田大學講師 森口多里 | 文化科學叢書(7) 美術概論 | 四六判 函入 洋布 | 316 | 二、五〇 一二 | 早稻田大學出版部 | 三月 | ▲美術といふ語の考察、創造されたる獨立形體としての美術、社會的發生及社會的存在としての美術、鑑賞と批評、註、挿畫二八。 |
| 外山卯三郎 | 春秋文庫(26) 現代美術論集 | 三六判 洋布 | 192 | 五〇 四 | 春秋社 | 十一月 | ▲純粹繪畫論、美術史の基本觀念、二十世紀の繪畫、ギヨム・アポリネエル、シユール・レアリスト外九章。 |
| 萩原守衛 | 生命の藝術 | 四六判 函入 洋布 | 189 | 二、五〇 一二 | 木星社 | 四月 | ▲彫刻家故萩原碌山氏の遺稿集で、東西彫刻藝術發達史觀、歐洲美術の趨勢、信仰と美術との關係外十九篇、口繪寫眞廿五圖。 |
| ベトリー著 石川徹郎譯 | 埃及美術史 | 四六判 函入 布裝 | 295 | 三、二〇 一二 | 中央美術社 | 七月 | ▲埃及美術の特徴、時代區劃と諸流派、彫像釉藥品及び硝子器、世界美術に於ける埃及の地位其他十章。 |
| ウエルフリン著 矢田部達郎譯 | 美術叢書(6) イタリア古典期美術 —樣式論— | 菊判 函入 布裝 | 227 | 三、〇〇 一八 | 岩波書店 | 二月 | ▲美術の歷史中最も光彩ある時代の一たるイタリヤ・ルネツサンスの特徴を解剖したるウエルフリンの古典期美術の譯。 |
| コリニヨン著 富永惣一譯 | 美術叢書(7) パルテノオン | 菊判 函入 布裝 | 257 | 三、〇〇 一八 | 岩波書店 | 十二月 | ▲パルテノオンの彫刻裝飾及び建物の現狀を撮影せる圖を收めて解說せるもので、歷史、建築と彫刻の二部。 |

# 東洋美術・日本美術研究

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 板垣鷹穂 | 國民文化繁榮期の歐洲畫界 | 菊判洋入 | 166 | 三、〇〇 | 一八 | 藝文書院 | 五月 |
| 板垣鷹穂 | 學藝叢書(4) フランスの近代畫 | 四六判布入 | 184 | 一、二〇 | 一二 | 岩波書店 | 一月 |
| 板垣鷹穂 | 機械と藝術との交流 | 新菊判布入 | 181 | 二、七〇 | 一八 | 岩波書店 | 十二月 |
| 岸田日出刀 | 過去の構成 | 菊倍判並製 | 63 | 二、八〇 | 二四 | 櫻成社 | 十二月 |
| 一氏義良 | 西洋美術の知識 | 四六判洋入 | 500 | 三、五〇 | 一二 | アルス | 四月 |
| 山田邦祐 | 世界名畫物語 | 四六判布入 | 262 | 二、〇〇 | 一二 | 研究社 | 十月 |
| 宮武辰夫 | アラスカに原始藝術を探る | 四六判布入 | 291 | 三、五〇 | 一三 | 萬里閣 | 十二月 |
| 板崎垣編 | 日本畫論大觀 中卷 | 菊判布入 | 1199 | 一〇、〇〇 | 五〇 | アルス | 六月 |
| 金原省吾 | 東洋畫 | 菊判洋入 | 352 | 二、五〇 | 一八 | 春秋社 | 十月 |

▲國民文化時代に於ける歐洲畫界の歷史的特質を取扱つたもので、國民文化時代とは何か形式主義と觀念主義外十七章。

▲フランス近代繪畫史上の始祖と謳はれてゐるプッサンの出た十七世紀より現代迄の特質と發展の諸相とを述ぶ。

▲造形藝術を機械文明の側面から觀察せるもので、機械文明と現代美術、航空機の形態美に就て外三篇。

▲過去の日本の造型藝術の全般を寫眞版七十五圖にて收め各圖毎に說明、批評、感想等を添へたもの。

▲西洋美術とはどんなものかを文化史的背景の前で具體的に活躍させて描いたもので、古代の美術、近代の美術、現代の美術。

▲世界名畫のうち特に人口に膾炙されてゐるものを選び作品の批評作家の評傳及びそれに絡るローマンス等を記述す。

▲極北アラスカの偉大な原始藝術を紹介せるもので、水上の町ケチケン、象徵的な假面、死假面外六十五章。

▲東洋畫の一般的性質を明らかにしたもので東洋畫の意向、東洋畫の思潮の三章十三節。

▲中卷は丹青若木集（狩野一溪）本朝畫史畫印（狩野永納）畫工便覽（新井白石）近世叢話（角田九華）其他廿七篇を收む。





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 飯塚米雨 | 日本畫の見方 | 四六判布入 | 442 | 一、八〇 | 一三 | 東方書院 | 九月 |
| 梅澤和軒 | 日本南畫史 | 菊判裝入 | 1018 | 一〇、〇〇 | 三〇 | 東方書院 | 九月 |
| 讀賣新聞社編 | 日本名寶物語 | 四六判製入 | 277 | 二、〇〇 | 一二 | 誠文堂 | 七月 |
| 坂井犀水編 | 日本木彫史 | 菊判布入 | 562 | 六、〇〇 | 一八 | タイムス出版社 | 十一月 |
| 龍居松之助 | 日本作庭資料 | 四六判布入 | 220 | 二、〇〇 | 一〇 | 雄山閣 | 十一月 |
| 木村小舟 | 天平より藤原へ | 四六判裝入 | 472 | 五、〇〇 | 一二 | 芸艸堂 | 十二月 |
| 柳宗悅 | 民藝叢書(2) 初期大津繪 | 菊判上製入 | 286 | 六、五〇 | 一八 | 工政會出版部 | 五月 |
| 田中喜作 | 學藝叢書(8) 浮世繪概說 | 四六判裝入 | 168 | 一、一〇 | 一二 | 岩波書店 | 十二月 |
| 野口米次郎 | 浮世繪解說 | 四六判裝入 | 290 | 二、五〇 | 一二 | 春秋社 | 十一月 |
| 吉川觀方 | 浮世繪の顏 | 四六判布入 | 96 | 三、〇〇 | 一二 | 中央美術社 | 六月 |

▲古畫の見方味ひ方を說いた總論（鑑賞の內容外十五項）を冠め上古時代以下明治時代に至る繪畫に就て八章に及ぶ。

▲南畫とは何ぞや、北南混淆、德川初期の南畫界、長崎港、南畫の曙光、心越禪師、元祿文教大觀外四十八章。—增補改訂版—

▲好評なりし讀賣新聞社主催名寶展覽會出品の御物國寶其他の寫眞を揭げ名寶に纏るさまざまの物語八十四篇を收む。

▲各時代の文化特に美術の概觀を敍し彫刻史より進んで木彫の沿革に及んだもので、佛敎渡來以前外十二章。挿畫百十一。

▲日本庭園設計者に缺くべからざる細部の知識を收めたもので、石組園生八重垣傳、祕本作庭傳外五章。

▲天平篇、弘仁篇の二篇に分けて天平時代より藤原時代までの歷史を美術上の遺品とを說述した趣味の美術史。

▲日本の民畫中特筆すべき大津繪の研究で、名稱と其產地、畫工、畫題、形式と手法、美と其性質、文獻等七章附錄四篇挿繪三〇。

▲浮世繪の興隆と其の性質とに關する全般的な概念を說述せるもので、初期浮世繪の發祥版畫の發達外六章。

▲浮世繪創始時代の人々、錦繪時代の人々、初代鳥居淸信、二代鳥居淸信、浮世繪版畫の種類及形狀外八篇。

▲考證家として著名な京都の畫人吉川氏が十數年來蒐集した浮世風俗畫中より特に顏のみを複寫し解說す。

## 評傳及語錄

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ゴンクウル著<br>野口米次郎譯註 | ゴンクウルの歌麿 | 哭倍判<br>函入<br>布裝 | 172 | 五、〇〇<br>二四 | 第一書房 | 六月 |
| 石井柏亭編 | 淺井忠<br>—畫業及評傳— | 哭倍判<br>上製 | 229 | 七、〇〇<br>二四 | 芸艸堂 | 十二月 |
| 高村光雲 | 光雪懷古錄 | 四六判<br>上製 | 722 | 三、五〇<br>二二 | 萬里閣 | 二月 |
| 福田久道譯 | ジャン・フランソア・ミレエ | 四六判<br>洋裝 | 609 | 三、〇〇<br>二二 | 木星社 | 五月 |
| 柳瀬正夢編著 | 無產階級の畫家 ゲオルゲ・グロッス | 哭倍判<br>上製 | 100 | 二、八〇<一八> | 鐵塔書院 | 十月 |
| 高村光太郎譯編 | ロダンの言葉 | 四六判<br>並製 | 310 | 一、〇〇<八> | 叢文閣 | 二月 |
| 高村光太郎譯編 | 續ロダンの言葉 | 四六判<br>並製 | 362 | 一、〇〇<八> | 叢文閣 | 三月 |

▲浮世繪畫家歌麿を描いたゴンクウルの著の抄註で、婦女人相十品文讀む女以下插繪六十五圖及び野口氏の解說を收む。

▲故淺井忠氏の畫及び評傳を收めたもので、生ひ立ち、滯歐外四篇。澤入驛外原色版七葉習作少女外單色版四十七葉。

▲我國彫刻界の耆宿、木彫の生みの親たる高村翁の懷舊談で、嘉永安政萬延文久元治慶應明治大正七十餘年間の藝術談。

▲偉大なる田園畫家ミレエの生涯を描いたもので、グレヰツル、巴里、バルビゾン、ミレエの手記其他。—改譯—

▲西歐獨逸の革命的畫家ゲオルゲ・グロッスの分娩、死刑、慰みの人殺し、飢え、生活を喜べ其他多くの繪を網羅す。

▲ロダンの手記ゼヌス、原則、フランスの自然、フランスの本寺等ロダン自身の書いたものとロダンの談話の筆記を收む。

▲若き藝術家達に、花について、女の肖像、庭園の朝、古代彫刻の斷片、庭園の夕べ、ゴチツクの線と構造其他。

## 畫法研究

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| アトリエ社編 | 油畫の研究 | 四六判<br>並製 | 166 | 一、二〇<六> | アトリエ社 | 九月 |

▲美術家を志す人へ（山本鼎）油繪を學ぶ初歩の人へ（奥村博）外卅七題。風景畫の構圖に就いて（大野隆徳）





## 畫集・遺墨集

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 山本鼎 | 油畫の描き方 | 四六判<br>上製 | 222 | 一、八〇<一〇> | アルス | 七月 |
| 赤城泰舒 | 水繪の手ほどき | 四六判<br>上函入<br>製 | 338 | 二、〇〇<一二> | 博文館 | 九月 |
| 横井弘三 | 樂しきスケツチ畫法 | 四六判<br>洋布 | 314 | 一、三〇<六> | 博文館 | 九月 |
| アトリエ社編 | デツサンの研究 | 四六判<br>洋布 | 92 | 一、〇〇<六> | アトリエ社 | 七月 |
| 岡野榮<br>丹葉禮介 | 學校家庭 萬有圖畫全集と其の描き方 | 菊判<br>洋布入 | 448 | 四、八〇<二四> | 中文館 | 九月 |
| 中根孝治<br>今井伴二郎 | 實用透視圖法 | 菊判<br>總布裝 | 300 | 三、〇〇<一八> | 大日本圖書株式會社 | 二月 |
| アトリエ社編 | ミレエ畫集 | 哭倍判<br>並製 | 46 | 一、五〇<一二> | アトリエ社 | 十月 |
| アトリエ社編 | 印象派畫集 | 哭倍判<br>並製 | 29 | 一、八〇<一二> | アトリエ社 | 十二月 |
| アトリエ社編 | レオナルド・ダ・ヰンチ畫集 | 哭倍判<br>並製 | 52 | 一、五〇<一二> | アトリエ社 | 十二月 |

▲油畫の起原、畫を始める心得、素描、觀畫と描寫、色、油繪具、油、其他十二章にて油畫の描き方を平易に說く。

▲水繪の用具、用紙、水繪具、素描、着彩、構圖、水繪技法、寫生旅行の注意等十四章にて初心者に俾り易く說述。

▲スケツチ畫の樂しみ、スケツチ畫とは？デツサン、彩描、スケツチ畫具の種類と說明接觸畫具其他八章。

▲立派な素描（森田恒友）素描（正宗得三郎）デツサンの話（梅原龍三郎）素描の話（倉田白羊）其他十五篇を收む。—普及版—

▲小學校各學年の各教科書に準據して題材を擇び、クレヨン畫、圖案、歷史人物、鳥獸魚貝類、草木花卉其他を收む。

▲透視圖法の理論と應用とを東西古今の美術作品を實例として平明に說述したもので興味の中に的確な知識が得られる。

▲聖母受胎、モナ・リザ外二篇の原色版及び博士の來拜、聖母子と聖アンナ、洗禮のヨハネ外廿七葉の寫眞版を收む。—普及版—

▲水浴、西班牙の踊場、赤襦袢の娘外九葉の原色版及び浴女、風景、狂人の顏、タイチの女外九葉の寫眞版を收む。—普及版—

▲落穗拾ひ外原色版三葉、杖に凭れて立つ牧牛者外寫眞版十七葉、桶を洗ふ女、森の風景外素描十八葉—普及版—

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| アトリエ社編 | セザンヌ畫集 | 菊判並製 | 33 | 38 | 一、五〇 | 十一月 |
| アトリエ社編 | ゴオホ畫集 | 菊倍判並製 | 38 | 38 | 一、五〇 | 十一月 |
| アトリエ社編 | ルノアール畫集 | 菊倍判並製 | 38 | 38 | 一、五〇 | 十一月 |
| アトリエ社編 | ドラクロア素描集（アトリエ素描選集(一)） | 菊倍判並製 | 30 | 30 | 一、五〇 | 九月 |
| アトリエ社編 | 泰西名家デッサン集 | 菊倍判並製 | 50 | 50 | 一、五〇 | 六月 |
| 正宗得三郎編 | 現代佛蘭西名家畫集 | 菊倍判並製 | 24 | 24 | 一、八〇 | 八月 |
| 石井柏亭 | 石井柏亭畫集 | 菊倍判並製 | 26 | 26 | 一、八〇 | 九月 |
| 梅原龍三郎 | 自撰梅原龍三郎畫集 | 菊倍判並製 | 27 | 27 | 一、八〇 | 六月 |
| 長谷川昇 | 滯歐作品畫 | 菊倍判並製 | 25 | 25 | 一、八〇 | 六月 |
| 藤田嗣治 | 畫集 | 菊倍判並製 | 93 | 93 | 一、八〇 | 朝日新聞社 十月 |

▲ピスクと林檎外三葉の原色版をはじめ麥帽を冠る人、村の廣場外廿八葉の寫眞版、セザンヌ小傳を收む。—普及版—

▲自畫像、ズアーブ兵外二葉の寫眞版及びゴーガンに贈つた自畫像、石竹を咬へた男、種蒔く人外廿七葉の原色版を收む。—普及版—

▲鏡に向へる女外三葉の原色版及び浴みする女と犬、少年畫家外廿八葉の寫眞版、ルノアール小傳を收む。—普及版—

▲ボナール・マチス・ピカソ・ドラン・ブラック其他現代佛蘭西に於ける有名なる畫家八氏の作及び諸家年表を收む。

▲泰西古今巨匠名家の一線一描を示したもので、デューラー、ミケランゼロ、ラフエアルダヴインチ其他。—普及版—

▲習作、馬のクロツキー、ピエレー夫人、ヴアルモンの風景、ピレネー山脈の山人、樹木の習作外二十四葉を收む。

▲荷蘭の子供、ガンの堀割、ナポリ灣外原色版七葉、運河に沿える並木、農園の一隅、伊豆山外一色版一三葉。—普及版—

▲ルノアールの畫流を汲む梅原氏の畫集で、原色版（自畫像外九葉）、寫眞版（女の顏外十四葉）を收む。—普及版—

▲オペラに於けるブルガ孃、ブランシュ・エ・ノアル・小憩、手鏡、レクチユール、二裸婦等の原色版及び其他十九葉。

▲自畫像以下三色版四圖、メイヌ町以下寫眞版八十六圖及び和田英作有島生馬二畫伯の記事と藤田氏の自傳「在佛十七年」。





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長谷川春子 | 長春畫集 | 菊判上製 | 33 | 九五 六 | 女人藝術社 | 二月 |
| 高畠華宵 | 華宵抒情畫集第一輯 | 四六四倍判上函入製 | 48 | 一、二〇 一〇 | 資文堂 | 一月 |
| 高畠華宵 | 華宵抒情畫集第二輯 | 四六四倍判上函入製 | 40 | 一、二〇 一〇 | 資文堂 | 二月 |
| 高畠華宵 | 華宵抒情畫集第三輯 | 四六四倍判上函入製 | 37 | 一、二〇 八 | 資文堂 | 八月 |
| 朝日新聞社編 | 佛展 | 菊倍判並製 | 64 | 六〇 八 | 朝日新聞社 | 十一月 |
| 二科會編 | 二科畫集 | 菊倍判並製 | 64 | 一、〇〇 六 | 二科會 | 九月 |
| 昇曙夢編 | ソヴエートロシア漫畫・ポスター集 | 菊判並製 | 130 | 二、〇〇 一〇 | 南蠻書房 | 十月 |
| 昇曙夢編 | ソヴエートロシヤ漫畫・ポスター集 | 菊判革裝入函 | 177 | 三、八〇 一八 | 南蠻書房 | 五月 |
| 佐藤吉太郎編 | 良寬遺墨集 | 四六四倍判大和綴入帙 | 270 | 一八、〇〇 三〇 | 第一書房 | 五月 |
| 鶴清氣 | 達磨百態 | 菊倍判和綴入帙 | 100 | 六、〇〇 二四 | 日本禪書刊行會 | 二月 |

▲新らしき婦人畫家として前途を囑望されてゐる長谷川女史の小畫集で、幻想以下原色版七、寫眞版八。

▲山茶花、讀み聲、花めせ君よ、幼な馴染、さすらひの旅、ともしび、涙の胡蝶其他四十一葉を收めた抒情畫集。

▲訪れ、折鶴、花びら、巡禮唄、たはむれ、ナイト、傷つける勝利者、十六の頃其他三十二葉を收めた抒情畫集。

▲女神、邂逅、誓の黑髮、エヂプト夜話、春の恨み、春宵、泣き濡れて、流浪の宿、友を待ちつゝ外廿八圖。

▲橋の風景（アドリオン）若き娘の回想（クレーラン）靜物（グラン）ロツテルダムの舟（ロート）風景（トルイユベール）外五十九圖。

▲昭和四年秋第十六回の二科美術展覽會出品を收めたもので、山莊（正宗得三郎）夏の日（津田青楓）外六十六圖。

▲國際漫畫、人物漫畫、ポスター類、時事漫畫、文壇漫畫等七部に分けて漫畫とポスター百六十餘種蒐載、記事「ロシヤ側面觀」。

▲新風俗、國際漫畫、人物漫畫、ポスター類宣傳列車、宗教漫畫、ミニヤチユール、時事漫畫、構成派其他二部。—普及版—

▲良寬會代表者耐雪佐藤吉太郎氏の苦心によつて良寬和尙の遺墨を網羅したもの。監修安田靱彥氏—並製—

▲古來修養の祖像として愛好せらるゝ達磨を三十餘年に及んで習得した著者が百種の偉態を畫き收めたもの。

## 工藝

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 柳宗悦 | 工藝美論 | 四六判並製 | 109 | 一、五〇 六 |
| 柳宗悦 | 工藝の道 | 菊判布装入函 | 371 | 五、〇〇 二四 |
| 西陣工藝協會編 | 西陣工藝 | 四六倍判上製 | 210 | 四、五〇 一八 |
| 黒川桑次郎 | 粘土細工と趣味の製陶 | 菊判布装 | 210 | 二、〇〇 一八 |
| 大森光彦 | 趣味の陶藝 | 四六判布装入函 | 238 | 二、〇〇 一三 |
| 庄司淺水 | 書籍裝釘の歴史と實際 | 菊判布装入函 | 400 | 四、八〇 一八 |
| 渡邊素舟 | 支那陶磁器史 | 四六判布装入函 | 325 | 三、五〇 一二 |
| ドクトル・フヰロソヰエ 上田恭輔 | 支那陶磁の時代的研究 | 四六判布装入函 | 233 | 三、五〇 一二 |
| 鹽田力藏 | 近代の陶磁器と窯業 | 四六判布装入函 | 310 | 三、五〇 一二 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 柳宗悦 | 工藝美論 | 四六判並製 | 109 | 一、五〇 六 |
| 柳宗悦 | 工藝の道 | 菊判布装入函 | 371 | 五、〇〇 二四 |
| 西陣工藝協會編 | 西陣工藝 | 四六倍判上製 | 210 | 四、五〇 一八 |
| 黒川桑次郎 | 粘土細工と趣味の製陶 | 菊判布装 | 210 | 二、〇〇 一八 |
| 大森光彦 | 趣味の陶藝 | 四六判布装入函 | 238 | 二、〇〇 一三 |
| 庄司淺水 | 書籍裝釘の歴史と實際 | 菊判布装入函 | 400 | 四、八〇 一八 |
| 渡邊素舟 | 支那陶磁器史 | 四六判布装入函 | 325 | 三、五〇 一二 |
| ドクトル・フヰロソヰエ 上田恭輔 | 支那陶磁の時代的研究 | 四六判布装入函 | 233 | 三、五〇 一二 |
| 鹽田力藏 | 近代の陶磁器と窯業 | 四六判布装入函 | 310 | 三、五〇 一二 |

▲工業美の意義を明晰に平易に且つ簡潔に說いた工業美論への入門書で、なぜ下手物が私の心を強く引くか外一篇。

▲雜誌「大調和」の創刊二月號より翌年正月號迄の間に「工藝の道」と題して連載した論文の集錄で、工藝の美以下八篇。

▲傳統の手法に加ふるに最近の技術、最新の學術を應用して成れる西陣織物の秋向廣帶を集錄せるもの。

▲趣味から始める人達の爲にわかりやすく說明した書で、原料、粘土細工、燒成と彩飾、姿形と意匠外二篇。

▲鑑賞より實技へ、製作、素燒、裝飾、釉藥燒成、陶器の原料等六章にて說述した陶藝家の手引書。

▲海外書籍裝釘史（獨逸の書籍裝釘外四章）工程篇（材料、下拵へ、表紙裝飾の研究、書物保存法と取扱ひ方外八章）

▲民族精神をよく表現し又藝術としての價値を發揚してゐる支那の陶磁器史を說述せるもので、支那陶磁概觀其他。

▲上代土器と古陶時代、明朝の陶史、明代の景德鎭、陶政復興の淸朝歴代御窯等にて支那陶磁を詳說す。

▲近代の陶磁器を本位とし、現代本邦重要生産物中純然たる輸出品として特長を持つ窯業に就て說述。





## 刀劍

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 淸水孝教 | 刀劍實證鑑定法 | 菊判布入函 | 537 | 六、〇〇 二四 |
| 淸水孝教 | 刀劍之新研究 | 菊判布入函 | 743 | 七、〇〇 三〇 |
| 高瀨羽皐 | 諸家秘說 續鑑刀集成 | 菊判布装 | 312 | 二、五〇 一四 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 淸水孝教 | 刀劍實證鑑定法 | 菊判布入函 | 537 | 六、〇〇 二四 |
| 淸水孝教 | 刀劍之新研究 | 菊判布入函 | 743 | 七、〇〇 三〇 |
| 高瀨羽皐 | 諸家秘說 續鑑刀集成 | 菊判布装 | 312 | 二、五〇 一四 |

▲刀劍の素性を分析解剖して實際的に鑑定の道を得しめ樣としたもので、刀忠篇、刀身篇の二篇九章より成る。

▲刀劍の語源より刀劍の時代的變遷、鐵の問題、鍛冶の有樣、支那並に東亞に於ける刀劍との比較等より論述。

▲刀劍問答、刀劍撰擧集、慶長以來新刀問答、刀劍秘寶、刀匠正良問答等の珍本を輯錄せしもの。

## 寫眞

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 中島謙吉 | 藝術寫眞の知識 | 四六判並製 | 240 | 二、五〇 一二 |
| 佐和九郎 | 整色寫眞術 | 四六判並製 | 343 | 二、〇〇 一二 |
| 鎌田彌壽治 伊東亮次 | 天然色寫眞術 | 菊判布入 | 428 | 四、五〇 一八 |
| 高山正隆 | ヴエスト・コダツク寫眞術 | 四六判並製 | 258 | 一、五〇 一二 |
| 三宅克己 | 改訂新版 寫眞のうつし方 | 四六判並製 | 300 | 一、八〇 一二 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 中島謙吉 | 藝術寫眞の知識 | 四六判並製 | 240 | 二、五〇 一二 |
| 佐和九郎 | 整色寫眞術 | 四六判並製 | 343 | 二、〇〇 一二 |
| 鎌田彌壽治 伊東亮次 | 天然色寫眞術 | 菊判布入 | 428 | 四、五〇 一八 |
| 高山正隆 | ヴエスト・コダツク寫眞術 | 四六判並製 | 258 | 一、五〇 一二 |
| 三宅克己 | 改訂新版 寫眞のうつし方 | 四六判並製 | 300 | 一、八〇 一二 |

▲主として藝術寫眞の精神を說いたもので、生活と藝術と、主觀と客觀、生活情味、表現のいろ〳〵外廿三項寫眞多數收載。

▲實技界に於ける整色寫眞の重要な事柄を述べたもので、色の明暗を正しく表現すること其他百五章。

▲一般の寫眞家に天然色寫眞術の全般を知らしめる目的で其の理論と實際とを平易に說いた書で、直接法天然色寫眞法外十章。

▲初步の寫眞家の爲めにヴエスト・コダツクの如き簡單な小型カメラによる寫眞の作り方の一般を說述せるもの。

▲寫眞機械の選擇、鏡玉、シヤツター、フロイシダー、三脚臺、セルフ・タイマー、レリーズ、乾板其他卅章。

## 音樂理論・解說

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成田隆吉 | 寫眞印畫の手ほどき | 四六判 背洋 | 412 | 二、〇〇 | 博文館 | 十月 | ▲寫眞術を總括的に記述したもので、寫眞の寫る理由、月の印畫と夜の撮影、撮影後の處置、靜物作畫に就て外卅八章。 |
| 朝日新聞社編 | 第三回國際寫眞サロン | 四六判 布裝 | 224 | 四、〇〇 一八 | 朝日新聞社 | 五月 | ▲應募寫眞凡そ二千餘點に達した第三回國際寫眞サロンに於ける世界各國人の入選作品二百十六點を收めたもの。 |
| 朝日新聞社編 | 日本寫眞年鑑 昭和三年—昭和四年 | 四六倍判 並製 | 278 | 三、〇〇 一八 | 朝日新聞社 | 十二月 | ▲昭和三年より四年迄一年間の全日本寫眞界の傑作を收めたもので、寫眞百九葉。記事八章。寫眞界主要記錄等。 |
| 文學博士 兼常清佐 | 音樂概論 學藝叢書(1) | 四六判 布裝入 | 262 | 一、二〇 一二 | 岩波書店 | 一月 | ▲音樂の聽衆—我々自身—批評家、音樂家、樂曲の形、和聲の形に就いて詳述。附錄和聲一覽表。 |
| 文學博士 兼常清佐 | 母のための音樂 | 四六判 布函 裝入 | 424 | 二、二〇 一三 | イデア書院 | 七月 | ▲日本音樂の詰（民謠、三味線、謠曲、雅樂、日本音樂の末路）西洋音樂の話（西洋音樂といふものゝ大要外二章）。 |
| 門馬直衛 | 音樂解說 | 四六判 洋布 | 320 | 一、八〇 一八 | 敬文館 | 一月 | ▲音樂のあらゆる部門と總ての種類の名曲とを懇切に解說した最も初步的な通俗的な音樂の入門書。 |
| 小泉洽 | 音樂美學の諸相 | 四六判 洋布入 | 365 | 一、八〇 一二 | 京文社 | 七月 | ▲音樂美學の研究（音樂の特異性と表現法外三章）音樂と人（ダンテと音樂外三章）其他二篇九章にて說述。 |
| 小松耕輔 | 西洋音樂の知識 | 四六判 洋布入 | 384 | 二、五〇 一二 | アルス | 四月 | ▲樂器に於ける二種の樣式、和聲法に就ての諸規則、器樂及び聲樂の作家、歌劇外九章にて初學者の爲に平易に說明す。—增補版— |
| 田邊尙雄 | 東洋音樂 春秋文庫(21) | 三六判 洋布 | 178 | 五〇 四 | 春秋社 | 九月 | ▲東洋音樂概說（東洋音樂の源泉以下五章）東洋音樂の秘庫（中東アジアの音樂以下四項）より成る東洋音樂の概說。 |





## 樂譜

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小田切信夫 | 國歌君が代講話 | 菊判 布入 | 212 | 二、〇〇 一八 | 共益商社 | 九月 | ▲國歌君が代に關する研究で、國歌制定事情、歌詞に關する研究、曲節に關する研究、取扱上の諸問題、挿話其他にて說述。 |
| 門馬直衛 | 音樂理論講義 | 菊判 布入 | 264 | 三、〇〇 一八 | 敬文館 | 九月 | ▲音樂理論の基礎たる和聲學と對位法學との大要を述べ其取扱ひ方の初步技巧を與へるために說いたもの。 |
| 成田爲三 | 初めて學ぶ人の對位法及その作曲法 | 菊判 布入 | 148 | 二、三〇 一二 | 先進堂 | 二月 | ▲第一編ではメロディに準據して新しいメロディを產み出し二音部の對位法を構成し、第二編にカノンとフーガの作曲法を說明す。 |
| 鹽入龜輔 | ジヤズ音樂 | 四六判 洋布 | 175 | 一、五〇 一二 | 敬文館 | 九月 | ▲誤解され易いジヤズに就てその發生から今日に至る迄の變遷其他を正當に觀察せるもので、ジヤズとは？外四編。 |
| ホワイトマン著 夏川太郎譯 | ジヤズ | 四六判 並製 | 264 | 一、五〇 一〇 | 田舍社 | 九月 | ▲そのはじまり、マンゴの種子、ジヤヅとは何か、ジヤヅは藝術か、アメリカに於けるジヤヅ外十項にて述ぶ。 |
| 黑澤隆朝編著 洋樂叢書(6) | オルガン奏法 | 菊判 並製 | 85 | 八〇 四 | 敬文館 | 二月 | ▲初めてオルガンを學ぶ人の爲めにそのABCから書いたもので各曲の奏法、曲の持つ由來、エピソート其他を收む。 |
| 吉田晴風 前田佳風 | 尺八の樂理と實際 | 菊判 布入 裝 | 237 | 二、五〇 一八 | 交蘭社 | 一月 | ▲第一篇音響（七章）第二篇樂典（三章）第三篇これだけは心得ておき度い西洋音樂の知識（二章）にて尺八に含れた學理を明にす。 |
| 弘田龍太郎作曲 | 童謠新曲 第一輯 | 菊倍判 並製 | 21 | 六〇 二 | 櫻木書房 | 六月 | ▲北原白秋の作詩犬のそり、里ごころ、蕗の薹、トマト、どんぐりこ、大寒小寒、ころころ帽子の七篇を作曲せるもの。 |
| 弘田龍太郎作曲 | 童謠新曲 第二輯 | 菊倍判 並製 | 27 | 六〇 二 | 櫻木書房 | 六月 | ▲星外一篇（野口雨情）いちけんぼ外一篇（水谷まさる）春がゆく（相馬御風）親子鳩外一篇（濱田廣介）等を作曲せるもの。 |

| 著者 | 書名 | 形体 | 頁 | 定價 | 發行所 | 發行月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 北原白秋 | 改造文庫第二部(67) 作曲白秋童謠集 | 菊半截 | 157 | 二〇 | 改造社 | 九 |
| 北原白秋 | 改造文庫第二部(46) 作曲白秋民謠集 | 菊半截 | 129 | 二〇 | 改造社 | 二 |
| 北原白秋 | 改造文庫第二部(88) 作曲白秋國民歌謠集 | 菊半截 | 134 | 二〇 | 改造社 | 十 |
| 北原白秋 | 改造文庫第二部(69) 作曲白秋舞踊詞集 | 菊半截 | 154 | 二〇 | 改造社 | 十 |
| 學習院教授 小松耕輔 | 中等唱歌名曲集 | 四六倍判並製 | 57 | 一、三〇 | 目黒書店 | 十一 |
| 音樂世界社編 | 音樂便覽 —一九三〇年版— | 三五判洋布 | 348 | 一、〇〇 | 敬文館 | 十一 |
| 鹽入龜輔編 | 最新音樂辭典 | 三六判洋布入 | 307 | 一、五〇 | 岡田日榮堂 | 十一 |

## 音樂便覽・辭典

▲山田耕作、弘田龍太郎、成田爲三、中山晉平、本居長世、町田喜章、草川信等七氏が作曲した白秋氏の童謠を收む。

▲白秋作の民謠を山田耕作弘田龍太郎成田爲三中山晉平外二氏が作曲したもので、鐘が鳴ります、アリヤリヤンの歌其他。

▲民族としての日本人の聲である國民の歌謠を收めたもので、頌歌挽歌園歌會歌生活讃歌其他四十四篇。山田耕作氏其他作曲。

▲劇中の小唄や三味線樂の踊物の歌謠或は新民謠等作曲され舞踊されつゝあるものを收めたもので、松島音頭外卅三篇。

▲東西大家の曲譜に名歌詞を以てしたもので獨唱曲と合唱曲に分ち收む。

▲音樂關係者錄、故人となりし著名音樂家、音樂團體總覽、音樂圖書館、外國の著名音樂雜誌外十五章。—附錄音樂日記—

▲一九二九年迄の音樂語を蒐集し歐和、和歐の二篇にて收め、附錄に簡記法及び簡略記錄法外六篇を說く。





# 七、歷史・傳記

| 著者 | 書名 | 形体 | 頁 | 定價 | 發行所 | 發行月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 早稻田大學教授 野々村戒三 | 文化科學叢書(6) 史學概論 | 菊判洋布入 | 393 | 二、五〇 | 早稻田大學出版部 | 一二 |
| 廣島史學研究會編 | 史學研究 第一卷第一號 | 菊判並製 | 184 | 七〇 六 | 中文館 | 十 |
| 東亞考古學會編 | 東方考古學叢書第一册 貔子窩 | 四六倍判並製 | 184 | 一八、〇〇 五四 | 刀江書院 | 三 |
| 文學博士 三宅米吉 | 考古學研究 | 菊判洋布入 | 226 | 七、〇〇 一八 | 岡書院 | 九 |
| 濱田青陵 | 考古游記 | 四六判並製 | 228 | 三、二〇 一二 | 刀江書院 | 七 |

## 史學一般

▲前篇を原理論とし史學の概念、歷史認識外二章を收め、後篇を方法學として總說、史料學外三章より詳述。

▲第二次日本イギリス同盟と中アジア（坪井九馬三）臺灣といふ名稱の起源及び意義（幣原坦）外七篇の史學に關する研究。

## 考古學・人類學

▲滿洲貔子窩內碧琉河畔に於て發掘された先史時代遺跡研究の學術報告で挿圖附圖等無數に挿入せる大書。

▲法隆寺四天王絞錦旗考、漢委奴國印考、上古燒物の名稱、高麗古碑考、探古考證雜抄、古代歐亞大陸交通考等の論文集。

▲考古學者として著名な濱田氏の旅行記を聚錄した書で、雲崗から明陵へ、慶州の瑞鳳塚、西佛ところ〴〵、北歐の旅外八篇挿畫七〇。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 中谷治宇二郎 | 日本石器時代提要 | 菊判 函入 洋布 | 582 | 三、八〇 一八 | 岡書院 | 九月 |
| 森本六爾編 | 日本青銅器時代地名表 | 四六判 函入 洋布 | 230 | 三、〇〇 一八 | 岡書院 | 六月 |
| 京都帝國大學教授 理學博士 近重眞澄 | 東洋錬金術 | 菊判 函入 洋布 | 107 | 二、五〇 一八 | 内田老鶴圃 | 四月 |
| 文學博士 三宅米吉評註 | 以文會筆記抄 | 四六判 函入 洋布 | 228 | 一、八〇 一二 | 雄山閣 | 九月 |
| 早稻田大學教授 西村眞次 | 人類學汎論 | 菊判 函入 布裝 | 476 | 三、五〇 一八 | 東京堂 | 四月 |
| 文學博士 鳥居龍藏 | 人類學上より見たる我が上代の文化 | 菊判 並製 | 387 | 一、五〇 一二 | 叢文閣 | 一月 |
| 鳥居龍藏 鳥居君子 鳥居幸子 | 西比利亞から滿蒙へ | 四六判 函入 布裝 | 478 | 三、五〇 一二 | 大阪屋號 | 五月 |

▲序說、遺跡及び研究方法各說、遺跡の種類、人骨の研究、遺物の種類等によつて、石器時代を研究せるもの。

▲我が國に於ける青銅器時代に屬するものと考へられたる遺物の出所等を序列表示したもので、國別地名表外二部。

▲支那に於て顯著なる古き化學者其他八節にて東洋の錬金術が化學的方面に於て諸般の事業に貢献した大要を述ぶ。

▲「以文會筆記」の中より主として考古に關する說話を抄集したもので、第一册（文化八年）より第二十册（天保嘉永間）まで。

▲序論、人類間の差異、人種の規準分類成因、人類と動物との差異、人類の祖先と其文化等十章にて人類進化全史を論述す。

▲原始時代の文化を人類學上より觀察したもので高天ヶ原の位置と其神々、鏡の神秘的威力其他十八章。—普及版—

▲極東西比利亞から滿蒙等の探査旅行記で、シベリアの旅、シベリアで調べたこと、オボ山麓の墳墓外十七篇。

## 神話學・民族學・古代史

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 堀岡文吉 | 國體起源の神話學的研究 | 菊判 函入 洋布 | 505 | 四、五〇 一八 | 培風館 | 五月 |
| 大分縣師範學校長 越川彌榮 | 内外對照 日本神話の新研究 | 四六判 函入 布裝 | 278 | 一、八〇 一二 | モナス | 七月 |

▲神典神話の研究發表で、天津日嗣の原義に就て（二章）大嘗會式と南方土俗に就て（九章）神話と土俗（二章）。

▲神話の本質及研究の必要、形式上の觀察、内容上の觀察、哲學的方面、宗教的方面外四章。附錄二章。



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小谷部全一郎 | 日本及日本國民之起原 | 菊判 函入 布裝 | 393 | 三、六〇 一八 | 厚生閣 | 二月 |
| 武田杵太郎 | 國體史觀 神代篇 | 四六判 函入 布裝 | 453 | 二、〇〇 一二 | 春秋社 | 十月 |
| 文學博士 金澤庄三郎 | 日鮮同祖論 | 菊判 函入 洋布 | 261 | 三、五〇 一八 | 刀江書院 | 四月 |
| 京城帝國大學 法文學會編 | 京大法文學會第二部論纂（1） 朝鮮支那文化の研究 | 菊判 並製 | 603 | 三、七〇 二四 | 刀江書院 | 九月 |
| ヒルト著 西山榮久譯補 | 支那古代史 | 菊判 函入 洋布 | 459 | 三、五〇 一八 | 丙午出版社 | 四月 |
| 中島峻藏 | 北方文明史話 | 四六判 函入 布裝 | 508 | 三、〇〇 一八 | 札幌 北海出版社 | 十一月 |
| 太田亮 | 日本上代に於ける社會組織の研究 | 菊判 函入 洋布 | 1043 | 六、〇〇 二四 | 磯部甲陽堂 | 四月 |
| 半谷清壽 | 農日本の新研究 | 四六判 函入 洋布 | 199 | 一、三〇 一二 | 平凡社 | 八月 |

▲「日本の文明は遙に神武天皇以前にあり」より「神聖なる大日本と國號の由來」迄日本の起因及び其民族の出處を闡明す。

▲國體精神を以て日本歴史を觀察したもので國の意識、國の柱、オノコロ島、大八洲、國の根元外九篇。

▲神國朝鮮、民族の移動、神代史の一節、地名と上古史の研究、地名人名等に關する日鮮語の比較外五章にて論述した朝鮮研究。

▲洌水考（今西龍）西洋人によつて蒐集せられた早い時代の朝鮮語彙（小倉進平）其他七篇の朝鮮支那文化の考證研究收載。

▲神話及び傳說の時代、儒教の傳說、商代、武王より康王に至る、中央權力の漸衰、五覇時代其他二章。附錄年代表。

▲趣味の話（有史以前の北海道外六十項）アイヌ十考（地名の起原外九項）神話と傳說（創生記外四十五項）判官樣は來たか（十三項）

▲既刊の「日本古代氏族制度」を基に新に調査した古代制度に關する研究を增補した書で、部、氏、カバネ、地方制度等六篇。

▲徹頭徹尾誤まれる從來の古代研究、日本國家の位置及國體、第三建國の時代等に日本を論じた書、附錄十三項。

## 民俗・鄕土研究

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 折口信夫 | 古代研究 民俗學篇—第一 | 菊判 函入 洋布 | 640 | 六、〇〇 二四 | 大岡山書店 | 四月 |

▲古代生活の研究、琉球の宗教、水の女、若水の話、最古の女性生活の根柢、神道の史的價値其他二十篇を收む。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 山中鹽編 | 共古翁記念文集 趣味と嗜好 | 菊判 函入 布装 | 321 | 三、〇〇 一八 | 岡書院 十一月 |
| 南江二郎 | 民俗藝術叢書 原始民俗假面考 | 四六判 並製 | 121 | 一、五〇 六 | 地平社 八月 |
| 中山太郎 | 民俗藝術叢書 祭禮と風俗 | 四六判 並製 | 134 | 一、〇〇 六 | 地平社書房 七月 |
| 高橋源一郎編 | 武藏野歴史地理 第二冊—東京西郊・西南郊 | 四六判 函入 布装 | 526 | 二、五〇 一二 | 武藏野歴史地理學會 九月 |
| 中道等 | 第二叢書 奥隅奇譚 附—原始漫筆風土年表抄 | 四六判 函入 背洋布 | 288 | 一、八〇 一二 | 鄕土研究社 十二月 |
| 醫學士 内田邦彦 | 第二叢書 津輕口碑集 | 四六判 函入 背洋布 | 234 | 一、五〇 一二 | 鄕土研究社 十一月 |
| 富岡丘藏 | 碑文谷誌 | 四六判 布装 | 308 | 二、〇〇 一〇 | 嵩山房 十二月 |
| 信濃教育會 東筑摩部會編 | 郡誌別篇(1) 東筑摩郡家名一覽 | 四六判 函入 洋布 | 239 | 一、五〇 一二 | 鄕土研究社 二月 |
| コフマン著 鈴木厚譯 | 世界人類史物語 上卷 | 四六判 函入 上製 | 394 | 一、五〇 一二 | 厚生閣 二月 |

▲山中共古翁生前の知遇の人々の文を收めたもので、紋章雜俎（沼田頼輔）手澤本に就て（徳富猪一郎）外十二篇。

▲原始民俗假面概論、各種原始民俗假面考の二章十五項にて假面に伴ふ儀式、舞踊等の意義、様相等を説述せるもの。

▲祭禮の語原的考察、祭の初見と土俗學的研究、祭禮に現はれたる三つの系統、祭禮の呪術的要素外八章。

▲第二册は西郊—豐多摩地方、西南郊—荏原郡地方の研究で、中野町、和田堀之内、松澤村、駒澤町其他廿章。

▲外南部と稱へられる下北半島の民譚で昔から仔細らしく語られるものを收めたもので、文字輕石と化す外廿一篇。

▲童話傳説（烏外四十九篇）俚諺、雜事（もる火外卅三篇）童戯（手ん車外七篇）歌謠（よされ節外十九篇）附錄年中行事。

▲鄕土造園の一端として著者の鄕土たる碑文谷に關する考察に就ての著述で地方計畫に根抵を置く。

▲信濃東筑摩郡三十七箇村の家名調査を整理收載した書で、卷頭に柳田國男の「家名小考」を掲ぐ。

## 世界史

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| コフマン著 鈴木厚譯 | 世界人類史物語 下卷 | 四六判 函入 上製 | 376 | 一、五〇 一二 | 厚生閣 二月 |
| ベロツク著 石川哲譯 | ウエルズ文化史大系に關する論爭 | 四六判 函入 並製 | 120 | 五〇 四 | 泰文堂 四月 |
| 文學士 吉村勝治 | 近世世界政治外交史論 | 菊判 函入 洋布 | 411 | 三、五〇 一八 | 大同館 四月 |
| 文學博士 坪井九馬三 | 最近政治外交史 下卷 | 菊判 洋装 | 860 | 五、〇〇 二七 | 冨山房 十月 |
| 文學博士 坪井九馬三 | 最近政治外交史 續卷 | 菊判 洋装 | 934 | 五、〇〇 二七 | 冨山房 六月 |

▲永い間何らの道具も武器も所有しなかつた太古の原始人の生活の有様が、どんな風に進化と文明の道を辿つて現代に至つたかを平易に面白く述べた書で、上卷には原始より中世まで、下卷には中世より現代までが收められてある。—普及版—

▲ウエルズ氏の一般的苦情、生物學者としてのウエルズ氏、予の誤謬、ウエルズ氏は卑怯に逃る其他二章。

▲佛蘭西革命よりロカルノ條約に至るまでの近世世界史の梗概を敍したもので、革命前の佛蘭西其他四十章を收む。

▲歐米近世史中の最近三十年間に亘る政治外交を説破せるもの。

▲世界大戰前に於ける列强の政治外交を十二章に亙つて詳述したもの。既刊上中下三卷の續卷である。

## 西洋史

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 橋本辰彦 | 自學自習中等參考 趣味の西洋歴史 上卷 | 四六判 函入 布装 | 473 | 一、二〇 一〇 | 三友社 四月 |
| 橋本辰彦 | 自學自習中等參考 趣味の西洋歴史 下卷 | 四六判 函入 布装 | 433 | 一、二〇 一〇 | 三友社 四月 |
| 高橋保 | 問題要解 西洋歴史の整理 | 四六判 並製 | 279 | 六五 四 | 有精堂 五月 |
| 浦和高等學校教授 文學士 桑原親通 | 最新研究 西洋歴史 | 三六判 洋布 | 530 | 一、五〇 一〇 | 山海堂 十二月 |

▲趣味ある史實や文章等を洋書等より拔萃して興味を覺えつゝ歴史の學習が出來るやう敍述したもので、上卷は上古篇、中古篇、近古篇の三篇四十二章。下卷は近世篇、世界大戰及びその後等二編三十一章より成る。—共に普及版—

▲西洋史の上古より現代に亙り過去十數年間の試驗問題及試驗問題に適當なものに解説を施したもの。

▲著者の經驗による簡明な叙述は其儘模範解答となり總て記憶に便なるやう編せらる。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 文學士 藤原龍甫 | 受驗と參考最新わかる西洋歷史 | 四六判 上製 | 544 | 二、五〇 一八 | 高岡本店 六月 |
| 山上德信 | 最新西洋歷史辭典 | 菊判 函入 洋布 | 466 | 三、九〇 一八 | 大同館 七月 |
| | | | | | ▲西洋史の要點を說き、因果關係は最も叮嚀に史實を明瞭に理解し得る樣說明したもので入試問題をも揭ぐ。 |
| | **東洋史** | | | | |
| 文學士 島田增平 | 最も覺え易き東洋史 | 三六判 洋布 | 213 | 九〇 六 | 文弘堂 二月 |
| 櫻井時太郎 | 文檢參考文化詳說綜合東洋史 | 菊判 函入 洋布 | 570 | 四、五〇 二四 | 三友社 一月 |
| 東京府立第三中學校教諭 高橋保 | 問題と考察を主眼とせる詳解東洋史 | 三六判 洋布 | 300 | 一、三〇 六 | 崇文堂 三月 |
| 橋本辰彥 | 自學自習中等參考趣味の東洋歷史 | 四六判 函入 布裝 | 423 | 一、二〇 一〇 | 三友社 四月 |
| 泉安雄 | 文部省檢定東洋史受驗準備の指導 | 四六判 函入 洋布 | 476 | 三、〇〇 一二 | 啓文社 二月 |
| 目黑禧一 | 最新東洋歷史辭典 | 菊判 函入 洋布 | 362 | 三、三〇 一八 | 大同館 六月 |
| | | | | | ▲東洋史研究上の各名辭を五十音順に配列したもので、各種學校入試問題等についても大綱を解釋したもの。 |
| | **日本史** | | | | |
| 法學博士 文學士 大川周明 | 行地社小冊(3) 國史概論 | 四六判 並製 | 98 | 五〇 四 | 行地社 八月 |
| 田口卯吉 | 改造文庫第一部(22) 日本開化小史 | 菊半截 布裝 | 214 | 二〇 四 | 改造社 二月 |
| 小林博 | 詳說日本歷史 續卷 | 菊判 函入 洋布 | 567 | 四、五〇 一八 | 大同館 五月 |
| 高田勘三 | 一日一話繪入日本歷史 | 四六判 函入 洋布 | 395 | 二、〇〇 一二 | 二松堂 九月 |
| 橫井春野 | 地理的日本歷史 | 菊判 函入 布裝 | 560 | 四、二〇 一八 | モナス 四月 |
| 文學士 島田增平 | 最も覺え易き日本史 | 三六判 洋布 | 333 | 一、三〇 特一、〇〇 六 | 文弘堂 二月 |
| 山上德信 | 最新日本歷史の要點 | 菊半截 洋布 | 582 | 一、八〇 一〇 | 啓文社 十月 |
| 高橋保 | 問題要解日本歷史の整理 | 四六判 並製 | 322 | 六五 四 | 有精堂 十二月 |
| 橋本辰彥 | 自學自習中等參考趣味の日本歷史 上卷 | 四六判 函入 布裝 | 455 | 一、二〇 一〇 | 三友社 四月 |
| 橋本辰彥 | 自學自習中等參考趣味の日本歷史 下卷 | 四六判 函入 布裝 | 456 | 一、二〇 一〇 | 三友社 四月 |
| | | | | | ▲大川博士の四回に亘つて日本國史を說いた講演を收めたもので、歷史とは何ぞや、奈良朝の文化其他。 |
| | | | | | ▲原因結果の理法に基き我が邦の變遷を記せる史論で、神道の濫觴より佛法の渡來の卷以下十三章。 |
| | | | | | ▲江戶幕府末期より明治維新までを收めたもので、國史古典の研究、尊王論、安政の大獄幕府の衰頽其他九章。 |
| | | | | | ▲一年三百六十五日に各その日に於て起れる一史話を配し圖版を加へ出來得る限り如實に國史の精神を述ぶ。 |
| | | | | | ▲歷史上の事實が如何に地理と關係深いものであるかを詳說したもので、高天原と八大州神武東征其他七十三章。 |
| | | | | | ▲理解と記憶とを容易ならしむる樣逸話詩挿繪系圖地圖等を揭げ、神代より豐臣秀吉の全國平定迄を收む。—增補訂正版— |
| | | | | | ▲現行各種の中等學校日本歷史教科書及び參考書の各材料を網羅せるもので、上古、中古近古、近世、現代史に分け收む。 |
| | | | | | ▲受驗參考書で、神代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、德川時代、現代等十二章。 |
| | | | | | ▲項を定め目を分ち各章每に記憶に至便な表解を挿入し考察問題、練習問題、概括問題を附し日本歷史の體系を會得せしめる樣編んだ參考書で、上卷は神代より豐臣秀吉までを收め下卷は德川家康より世界大戰後の諸問題までを收む。—普及版— |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文學士 大森金五郎 | 武家時代之研究 —第二卷— | 洋裝 菊判 | 760 | 三、〇〇 二七 | 冨山房 | 三月 | ▲第一卷の後を承けて源氏時代を詳細精密に研究を遂げたもので、附錄として『國海摘要』を添へてある。 |
| 岡本瓊二 | 興味中心源平・北條時代史 | 背洋布 菊判入 | 373 | 二、五〇 一八 | 日本教育學會 | 十一月 | ▲武士の興起、源義家、元寇、護良親王と楠木正成、各地に勤王の將士興る、北條氏の滅亡外七章にて論述。 |
| 岡本瓊二 | 興味中心德川時代史 | 背洋布 菊判入 | 371 | 二、五〇 一八 | 日本教育學會 | 十一月 | ▲德川家康と幕府の創立、德川家光と江戸幕府、江戸幕府の中興、外國船の來航と海防、大政奉還外十二章。 |
| 文學博士 宮地直一 神宮編纂・儀式課長 阪本廣太郎 | 神宮と式年遷宮 | 背洋布 菊判入 | 116 | 一、三〇 一八 | 四海書房 | 九月 | ▲神宮及び式年遷宮に關する典故を說明記述せるもので、殿舍と宮域、遷式年宮制の起源其他五章。 |
| 文學博士 宮地直一 富士の研究(2) 廣野三郎 | 淺間神社の歷史 | 布 菊判入 | 913 | 八、五〇 二四 | 古今書院 | 三月 | ▲祭神、鎭座、神號及社號、社階及び社格、崇敬、祭儀、社入金、攝末社、神職及び社僧外六章にて淺間神社の歷史を述べた書。 |
| 文學士 大塚久 | 政略結婚と武將の家庭 | 洋裝 菊判入 | 378 | 二、五〇 一二 | 雄山閣 | 九月 | ▲戰國時代に於ける諸英雄の婚姻關係を說述せるもので、北條今川武田上杉等の諸氏間に行はれた政略結婚其他五章。 |
| 黑正巖 | 百姓一揆史談 | 洋裝 菊判入 | 319 | 二、〇〇 一二 | 日本評論社 | 十月 | ▲德川時代の百姓一揆の事例を通俗的に又は考證的に述べたもので、美作の百姓一揆、作州の山中一揆外十編。 |
| 小田吉之丈編 | 加賀藩農政史考 | 布 菊判入 | 738 | 九、〇〇 特七、五〇〇 三〇 | 刀江書院 | 二月 | ▲天下の書府、泰平の領域を以て聞へた加賀藩の農政史實の研究錄で、加賀藩總史、鄕村制度、改作法、租稅制度其他を收む。 |
| スタイシェン著 ピーヨン譯 | 切支丹大名史 | 布 四六判 | 393 | 二、〇〇 一〇 | 三才社 | 十二月 | ▲フランシスコ・ザベリヨの渡來より切支丹子孫の出現と其將來迄廿五章を收む。附錄に切支丹大名の系圖を收む。 |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 藤井伯民 | 切支丹秘史 | 並製 四六判 | 186 | 九〇 四 | 三光出版社 | 三月 | ▲南蠻寺物語、慶長迫害記、江戸の切支丹と伊達政宗、切支丹屋敷の話、高山右近、溫泉ケ岳等切支丹に關する十六篇。 |
| フレイタス著 岡本良知譯 | 初期耶蘇教徒編述 日本語學書研究 | 洋布 菊判 | 152 | 一、八〇 六 | 日葡協會 | 四月 | ▲日葡兩國の歷史に關係深いフレイタスの「日本語研究に關するポルトガル語の文獻並にフェルナン・メンデス・ピン傳の補足」の譯。 |
| 日葡協會編 | 日葡交通 第一輯 | 並製 菊判 | 303 | 二、〇〇 一八 | 日葡協會 | 六月 | ▲日本文の部日歐交通西洋事物傳來の始（渡邊修二郎）外七篇。葡萄牙文の部南蠻美術考（カルネイロ）以下四篇。 |
| 水田稻葉 | 幕末に於ける 我海軍と和蘭 | 布 四六判 | 206 | 一、五〇 八 | 有終會 | 九月 | ▲時勢は我國の海防充實を促す、幕府海軍創設に就き和蘭の援助を求む、和蘭商館官の法的地位を自分外卅九項より成る海軍史。 |
| 德富猪一郎 | 彼理來航以前の形勢 近世日本國民史(30) | 並製 四六判 | 556 | 二、五〇 一二 | 民友社 | 二月 | ▲嘉永安政以來德川幕府はその實力實權失墜し、漸次朝廷が政治的中心の面目を發露したる孝明天皇時代を詳述。 |
| 德富猪一郎 | 彼理來航及其當時 近世日本國民史(31) | 並製 四六判 | 636 | 二、五〇 一二 | 民友社 | 八月 | ▲彼理提督日本來航の目的、彼理提督琉球小笠原島巡航、彼理提督浦賀闖入、米艦應接、久里濱會見外十四章。 |
| 德富猪一郎 | 神奈川條約締結篇 近世日本國民史(32) | 並製 四六判 | 624 | 二、五〇 一二 | 民友社 | 十二月 | ▲露使長崎を去る、彼理の再渡來、彼理の威嚇主義と幕閣の穩便主義、第一回橫濱會見、幕閣の內議外十四章。 |
| 德富猪一郎 | 維新回天史の一面 | 洋裝 菊判入 | 513 | 二、八〇 一八 | 民友社 | 五月 | ▲維新回天史の大立物の御一人たる久邇宮朝彥親王が當時如何なる重要な位置を占め給ふてゐたかを說述したもの。 |
| 東京帝國大學史學會編 | 明治維新史研究 | 洋裝 菊判 | 870 | 三、八〇 二七 | 冨山房 | 十一月 | ▲斯界の大家三十氏の協力執筆になり、各專門的立場より明治維新を研究した成果を網羅せるもの。 |
| 東京帝國大學史料編纂官 井野邊茂雄 | 明治維新史 ロゴス叢書(2) | 新四六判 | 264 | 九五〇 六 | ロゴス書院 | 二月 | ▲明治維新を以て經濟狀態の變化に伴ふ社會動因の外に獨立して行はれたる政變なりと爲す見解に基づいて明治維新史の梗概を叙述。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 篠田鑛造 | 幕末百話 | 菊四六判 | 509 | 二、〇〇 | 萬里閣 | 七月 | ▲古老の幕末世態の實話を網羅した書で、上野山門に屯集の賊徒共、大名大奥御老女の事以下百篇及び「今戸の寮」―增補版― |
| 東野善一郎 | 天誅組天誅錄 | 四六判上製入函 | 330 | 一、五〇 | 萬里閣 | 三月 | ▲幕末盛んに活躍した天誅組の物語で、本間精三郎暗殺さる、南海の風雲兒、十津川入り吉村寅太郎の最後外十五項。 |
| 子母澤寬 | 新選組遺聞 | 四六判裝入函 | 406 | 二、〇〇 | 萬里閣 | 六月 | ▲壬生屋敷、池田屋斬込前後、近藤勇の最後勇の墓を掘る、象山の悴、沖田總司其他古老に據る新選組物語五篇。 |
| 法學博士 尾佐竹猛 | 夷狄の國へ | 四六判上製入函 | 384 | 一、八〇 | 萬里閣 | 六月 | ▲陣笠を冠り大刀を横たへてロンドンパリーを濶歩した幕府からの海外派遣使節新見豐前守一行其他三使節に就て述ぶ。 |
| 山內侯爵家家史編纂部 平尾道雄 | 海援隊始末 | 四六判裝入函 | 409 | 二、〇〇 | 萬里閣 | 九月 | ▲偉傑坂本龍馬を中心とする海援隊に就て述べたもので、世界の海援隊、海舟と一翁、寺田屋の血闘外卅八項附錄四篇。 |
| 朝日新聞社編 | 開國文化大觀 | 四四倍判並製 | 67 | 一、三〇 | 朝日新聞社 | 五月 | ▲大阪朝日新聞社主催開國文化大展覽會に出品せられた各種の貴き文書、史料其他三百餘點を蒐載したもの。 |
| 朝日新聞社編 | 開國文化 | 菊洋判布入函 | 477 | 二、〇〇 | 朝日新聞社 | 十一月 | ▲東西交通上より觀たる日本の開發（桑原隲藏）開國と經濟（本庄榮治郎）鎖國の得失（辻善之助）外十二篇を收む。 |
| 法學博士 尾佐竹猛 | 明治秘史 疑獄難獄 | 四六判上製入函 | 551 | 二、七〇 | 一元社 | 七月 | ▲明治史の根本史料となるべき裁判事件の研究で、近藤勇の處刑、坂本龍馬の暗殺の下手人、湖南事件外六篇。附錄二篇。 |
| 橫瀨夜雨 | 太政官時代 | 四六判洋裝入函 | 793 | 四、六〇 | 梓書房 | 二月 | ▲慶應三年創刊の萬國新聞紙を始め多くの古新聞の記事を引用した明治初期の世相史で、上野から會津へ外卅五篇。 |
| 大野靜馬 | 大阪陣 ―昭和從軍記― | 四六判上製入函 | 311 | 一、三〇 | 平凡社 | 十二月 | ▲大阪陣に於ける波瀾重疊の顚末を從軍記風に面白く叙述したもので、冬の陣、夏の陣、落城祕話外二篇。 |



| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文學博士 櫻井秀 | 風俗史の研究 | 菊洋判布入函 | 594 | 四、二〇 | 寶文館 | 九月 | ▲平安朝兒童の精神生活、平安朝の染色工藝、平安朝の舞踊、平安朝初期の世相、白拍子管見等廿餘篇を收む。 |
| 八木靜一郎 | 服裝史 | 菊洋判布 | 338 | 三、五〇 | 杉山書店 | 十月 | ▲服飾の起原と發達について概說し、更に日本と西洋諸國の各時代服裝の變遷を略記したるもの。 |

## 風俗史

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中村久四郎 山根偉三 | 支那歷代年表 | 菊函入判背革 | 1182 | 六、五〇 | 中文館 | 一月 | ▲三皇五帝、夏世表、商世表、周世表、周末秦六國年表より清年表、中華民國年表迄を網羅した大著。 |
| 栃內曾次郎編 | 增修 洋人日本探檢年表 | 菊洋判布入函 | 178 | 二、〇〇 | 岩波書店 | 三月 | ▲千五百一年前記年表、千五百一年以降年表海軍歷史の小笠原島記事、水戸の快風丸到石狩川口記事其他七篇、索引を收む。 |

## 年表

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長島類藏編著 | 年代早見と年代記 | 三五判並製 | 108 | 五〇 | 六盟館 | 六月 | ▲年號中に如何なる事蹟のありたるやを知らんとし歷史上の重大なる事蹟を知らんとする人々の爲に年表を附したるもの。 |
| 年史刊行會編 | 昭和三年史 | 菊函入判裝 | 740 | 二、八〇 | 年史刊行會 | 二月 | ▲昭和三年の重要出來事を體系化して一年の歷史として纏めたもので、一九二八年の世界、皇室第三篇政治以下七篇。 |
| 金子堅太郎述 | 日露戰役秘錄 | 四六判裝入函 | 292 | 一、〇〇 | 博文館 | 二月 | ▲日露開戰當初政府の內命を帶びて米國に赴き講演に言論機關に我國の事情を知らしめた金子堅太郎子爵の講演を收めたもの。 |
| 陸軍中將 子爵 笠原長生 | 大海戰秘史 ―黃海海戰篇― | 四六判裝入函 | 332 | 一、五〇 | 實業之日本社 | 十一月 | ▲海戰といふものを一般的に理解出來るやう黃海戰に就いて說述せるもので、敵艦隊出現、本隊の戰況外十七章。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 上村行彰編 | 日本遊里史 | 四六判 上函入製 | 615 | 三、五〇 一二 | 春陽堂 九月 |
| 彗星編輯部編 | 江戸生活研究 第一輯 | 菊判 函入 洋布 | 351 | 二、〇〇 一八 | 春陽堂 八月 |
| 彗星編輯部編 | 江戸生活研究 第二輯 | 菊判 函入 洋布 | 457 | 二、〇〇 一八 | 春陽堂 八月 |
| 河野桐谷編 | 漫談 江戸は過ぎる | 四六判 上函入製 | 540 | 二、五〇 一二 | 萬里閣 三月 |
| 三田村鳶魚 | 江戸時代のさま〳〵 | 四六判 函入 布装 | 814 | 四、二〇 一八 | 博文館 三月 |
| 宮川曼魚 | 改訂 江戸賣笑記 | 新四六判 上函入製 | 364 | 一、九〇 一〇 | 文藝春秋社出版部 八月 |
| 寺門靜軒著 佐藤進一譯 | 江戸繁昌記 | 四六判 上函入製 | 476 | 二、七〇 一二 | 春陽堂 十一月 |
| 西原柳雨 | 川柳から見た 上野と淺草 | 四六判 上函入製 | 284 | 一、五〇 一二 | 中西書房 十月 |
| 西原柳雨編 | 川柳風俗志 上卷 | 四六判 上函入製 | 674 | 三、八〇 一八 | 春陽堂 九月 |
| 藤澤衞彦 | 明治風俗史 | 四六判 上函入製 | 503 | 二、八〇 一二 | 春陽堂 五月 |

▲遊里の歴史的變遷を詳述したもので、奈良朝時代、平安朝時代、源平時代、鎌倉時代、足利時代外五篇。

▲雜誌江戸生活研究「彗星」の第一年第一號より第一年第十號迄を合本せるもので、茶壺、一寸法師其他の輪講研究物を收む。

▲雜誌「彗星」第二年第一號より第二年第十二號迄の合本で、阿千代之傳、東海道名所記、屠龍之杖其他の輪講研究を收む。

▲維新の卷、江戸の卷の二部に分けて諸家の回顧談を收載した書で、原翁の「維新直後の市中取締」其他五十五篇。

▲江戸時代の種々なる世態の研究で、江戸藝者の研究、傾城買の二大派別、文學史に省かれたる實錄體小說其他五十七篇。

▲賣笑婦に就いて、戀の商、吾邦に於ける賣笑の沿革、江戸賣笑の第一期、外五章にて江戸時代の賣笑を說述す。

▲艷麗流暢な漢文で記述された德川末期の名著たる「江戸繁昌記」を解りやすく記述したもので五編より成る。

▲古川柳の方面より江戸時代に於ける上野淺草及其附近の變遷興廢の跡を究めたもので、上下二編より成る。附錄隅田川。

▲無遣慮にあらゆる人事を剔抉し寶曆代以後卽ち德川時代後半期に於ける江戸風俗の描寫たる川柳狂句を網羅し註を附せる書。

▲王政維新より明治末葉に至る風俗の變遷を多數の挿繪を入れて說述したもので、文明開化時代外五章、口繪一九挿繪一四〇。







| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 矢部善三 | 年中事物考 | 菊判 函入 洋布 | 325 | 二、〇〇 一八 | 素人社 十一月 |
| 植原路郎 | 社會事物 起原と珍聞 | 三六判 函入 布装 | 223 | 一、二〇 六 | 實業之日本社 一月 |
| 田中香涯 | 耽奇猥談 | 四六判 上函入製 | 318 | 二、二〇 一二 | 富士書房 九月 |

## 外國人傳記

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 室伏高信 | 新英雄傳 上卷 | 四六判 並製 | 340 | 一、五〇 一〇 | 先進社 十二月 |
| 早坂二郎 | 歴史を創る人々 | 四六判 上製 | 400 | 九〇 六 | 中西書房 五月 |
| ブーリエンヌ著 栗原古城譯 | 奈翁實傳 | 菊判 並製 | 932 | 二、六〇 一八 | 玄黃社 二月 |
| 内ヶ崎作三郎 | リンカーン | 四六判 函入 布装 | 385 | 一、五〇 一〇 | 實業之日本社 五月 |
| 永井柳太郎 | グラッドストン | 四六判 函入 布装 | 340 | 一、五〇 一〇 | 實業之日本社 五月 |
| 岡田忠一譯 | ムツソリーニ自叙傳 | 四六判 洋布 | 268 | 一、五〇 一〇 | 金星堂 九月 |

▲我が國に於ける年中行事を中心として主要な月令事物を列叙し、平易懇切に解說を施せるもので十二月事物篇迄を收む。

▲日常生活に關係の深い社會諸事物四百余項に就いての起原詮索書で、アーチ、青寫眞、朝顏等以下アイウエオ順に配列す。

▲女角力、墮胎、迷信と猥褻罪、體臭の性的意義、外東西古今の猥俗褻風を文獻的學的より考證研究せる卅七篇。—發賣禁止—

▲人類の偉大な敎師たちの殘して行つた事業と思想と人格に就いて述べたもので、英雄とは何か外四篇。

▲支那國民革命の總師蔣介石、レーニンの片腕沒落のトロツキー、フアツシヨ伊太利の礎石ムツソリニ其他十五篇。—普及版—

▲十八世紀から十九世紀初頭へかけての「ナポレオンか歐羅巴か」「歐羅巴がナポレオンか」と謳はれた大英雄奈翁實傳の譯。—普及版—

▲米國の國步艱難の秋に生れて尊き犧牲者となつたリンカーンの傳記を收めたもので、幼少年時代より晩年まで四章。

▲敬天愛人の大義を以て政治家の本領となしその名聲高きグラッドストンの傳記を收めたもので、生ひ立ちより永眠まで八章。

▲フアシズム及び其創始者ムツソリーニの自叙傳で、硫黃分を含む土地、典籍としての生活、新しき道其外十章。

# 日本人傳記

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 澤田謙 | 勞働宰相マクドナルド | 四六判背洋布入 | 391 | 一、五〇 | 平凡社 九月 |
| 加藤三郎譯補 | ハーバート・フーヴアー大統領となるまで | 四六判並製 | 421 | 一、〇〇 八 | 改造社 二月 |
| フアイフ著 日本飛行學校譯 | リンドバーグ物語 —孤獨の荒鷲— | 菊判並製 | 75 | 五〇 四 | 日本飛行學校出版部 五月 |
| 古莊國雄 | 蔣介石 世界巨人叢書(1) | 四六判並製 | 146 | 五〇 四 | 金星堂 二月 |
| 布施勝治 大阪毎日新聞記者 東京日日新聞記者 | 支那國民革命と馮玉祥 | 四六判布裝 | 500 | 二、〇〇 一二 | 大阪屋號 十二月 |
| 大竹博吉監修 史譚選輯 | 獨帝と露帝の往復書翰 附—滿州悲劇の序曲 | 四六判洋布入 | 390 | 三、〇〇 一二 | ロシヤ問題研究所 十二月 |
| 三島了忠 華正秘錄 | 光尊上人血涙記 | 四六判上製入函 | 518 | 三、〇〇 一二 | 昭和出版社 四月 |
| 椎名龍徳 | 昭憲皇太后宮 | 菊判並製 | 101 | 三五 四 | 靈岸授産場 三月 |
| 植木直一 國學院大學教授 | 承久殉難の五忠臣 | 四六判上製入函 | 148 | 一、一〇 六 | 大明堂 二月 |

▲英國の宰相マクドナルドの評傳で、本屋の立ち讀み、獨立勞働黨の成立、著述生活、勞働内閣の實績外七十一項。

▲フーヴアーの家系、慈母を失ふ迄の幼少時代、其他にて米國第三十人目の大統領として榮譽の椅子に就いたフーヴアーの傳記。

▲一介の名もなきジプシーにも等しき興業飛行士より世界の大飛行家となれるリンドバーグの苦闘史。

▲人間としての蔣介石、蔣介石の事業、蔣介石の思想等にて支那現代の大立物蔣介石に就て述べ之に蔣介石雄辯集を收む。

▲馮玉祥を中心とせる支那國民革命史で、馮玉祥と私の問答、赤露の百日修行、張作霖と馮玉祥外十三章。

▲ウイルヘム二世とニコライ二世との最も興味ある往復書翰及び電報を收めクロパトキン將軍の遺著「滿洲悲劇の序曲」附載

▲悲しき思出、御病狀の追想、哀愁の御別、櫻散る青山御所其他にて昭憲皇太后宮の五十年の御生涯を述べられたもの。

▲文久より元治慶應を經て明治十六年に至る二十有餘年間に於ける大谷光尊（本願寺明如上人）法主の實歷を敍したもの。

▲藤原光親藤原宗行藤原範茂源有雅藏原信能五卿に流て說いた「承久殉難五忠臣の事蹟」及び江木千之外二氏の「承久殉難五忠臣の事蹟」を參考として之を一書に纏めたもの。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 渡邊世祐 文學博士 | 須蜂賀小六正勝 | 菊判洋布入 | 286 | 二、三〇 一八 | 雄山閣 五月 |
| 渡邊世祐 文學博士 | 石田三成 稿本 | 菊判洋布入 | 356 | 二、五〇 一八 | 雄山閣 一月 |
| 沼田頼輔 | 大岡越前守 | 四六判布裝 | 194 | 一、三〇 一二 | 明治書院 六月 |
| 羽仁五郎 | 佐藤信淵に關する基礎的研究 | 菊判洋布入 | 209 | 二、〇〇 一八 | 岩波書店 十一月 |
| 佐伯仲藏編 | 梅田雲濱遺稿竝傳 | 菊判洋布入 | 593 | 六、〇〇 三〇 | 有朋堂 十一月 |
| 春山育次郎 | 平野國臣傳 | 菊判洋布入 | 631 | 三、八〇 二四 | 平凡社 九月 |
| 小林鷲里 | 高山彦九郎 | 四六判上製入函 | 268 | 一、二〇 一二 | 文藝社 三月 |
| 德富猪一郎 | 時勢と人物 | 四六判並製 | 406 | 一、〇〇 八 | 民友社 十月 |
| 德富猪一郎 | 赤穗義士觀 | 四六判並製 | 118 | 六〇 四 | 民友社 二月 |
| 德富猪一郎 | 土佐の勤王 | 四六判並製 | 88 | 六〇 四 | 民友社 七月 |

▲正勝の秀吉の謀臣としての偉大の功績を說きその事歷を明かにしたもので、蜂須賀家の祖先外二十四章。

▲第一章その祖先及び立身、第二章奉行となる其他廿七章にて、多年奸と罵られ邪と謗られたる石田三成の傳。

▲舊幕時代に於ける代表的名判官として知られてゐる大岡越前守の經世家、思想家としての事蹟を收めたもの。

▲佐藤信淵に對する基礎的研究で、傳記的敍述、文獻批判、歷史的理解の三章にて論述せるもの。

▲尊王の說を唱へ其の罪魁として安政の黨獄に殺戮されし梅田雲濱の功績を說述せるもので、五編より成る。

▲勤王の志士として王政復古の大偉業に功績を殘した平野二郎國臣の事蹟を說述した書で家系外二百十數項。

▲憂國勤王の士、寬政の三奇人として有名なる高山彦九郎の幼時より最後に至るまでを述べた書。

▲歷史的人物を中心としての講演集で、維新史に於ける吉田松陰先生の地位、橋本景岳先生、維新の大業と橫井小楠其他。

▲昭和三年十二月十四日、陸軍士官學校に於ける著者の講演の筆記を主とし、畠員の餘り沒却せられたる赤穗義士の眞相を說述。

▲幕末維新に於ける土佐及び土佐人の勤王に就いて述べたもので、勤王の畑、土佐の國風瑞山と東洋外十五篇。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 南洲神社五十年祭奉賛會編 | 西郷南洲先生傳 | 菊判 函入 洋布 | 253 | 一、五〇 一二 | 改造社 | 五月 | ▲史實に基づき公平を旨として述べたもので、少壯時代四章、勤王時代十二章、在朝時代四章、在野時代四章。—普及版— |
| 山路愛山 | 勝海舟 | 四六判 函入 洋布 | 198 | 一、五〇 一二 | 改造社 | 三月 | ▲勝家と家系と海舟先生の血統、海舟先生の少年時代、西洋兵學家としての海舟先生、江戸開城の顚末外五章より成る評傳。 |
| 葛生能久 | 高士山岡鐵舟 | 四六判 函入 洋布 | 596 | 二、五〇 一二 | 黑龍會出版部 | 十一月 | ▲日本武士道の權化、盡忠報國の結晶として一世の師表と仰がるゝ山岡鐵舟の言行を敍述せるもので、鐵舟の略歴以下十六章。 |
| 古閑莊主人 | 天下の人物 —維新の卷— | 四六判 函入 上製 | 476 | 二、五〇 一二 | 昭和出版社 | 七月 | ▲南洲、甲東、松菊、友山、實美、慶喜、鐵舟、龍馬、愼太郎、玄瑞、東行、龍雄、海舟等維新當時活躍した十三傑人の評傳。 |
| 兒玉庄太郎 | 偉人石川翁の事業と言行 | 菊判 函入 洋布 | 650 | 三、五〇 一八 | 平凡社 | 六月 | ▲農村救濟社會教化の偉人石川理紀之助翁の事業と言行を記述した書で、翁の青年時代、翁の研究、翁の教育外十章。 |
| 額田要三郎 | 自由黨志士五十川元吉と加波山事件 | 四六判 布裝 | 119 | 一、〇〇 四 | 額田家 | 四月 | ▲自由黨士として加波山事件の中堅となりし憂國の士五十川元吉に就て述べたもので、明治の革新、加波山事件。 |
| 陸奥廣吉 | 伯爵陸奥宗光遺稿 | 菊判 函入 洋布 | 775 | 五、八〇 二四 | 岩波書店 | 一月 | ▲日清戰役當時の外相として大手腕を發揮せられたる陸奥伯の遺稿集で、當年の外交の顚末を記せる蹇蹇錄其他を收む。 |
| 平塚篤編 | 伊藤博文秘錄 | 菊判 函入 布裝 | 524 | 三、五〇 一八 | 春秋社 | 三月 | ▲博文公を中心とした明治政界裏面史で、日露開戰と元老內議の大意以下百十二項。附錄日英同盟と日露協商、印譜。 |
| 白柳秀湖 | 西園寺公望傳 | 四六判 函入 布裝 | 630 | 二、五〇 一八 | 日本評論社 | 六月 | ▲元老西園寺公の傳記で、孝明天皇時代明治天皇時代（上中下）大正天皇時代に分け政界退隱まで多くの資料によつて記述す。 |
| 加藤伯傳記編纂委員會編 | 加藤高明 上・下 | 菊判 函入 布裝 | 1686 | 一二、〇〇 特一〇、〇〇 三〇〇 | 寶文館 | 七月 | ▲多年政界に於て活躍したる故加藤高明伯の生涯とその事蹟を論述した大著。上卷（十二編）下卷（十卷）の二冊より成る。 |





| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岡本瓊二 | 一世の風雲兒後藤新平 | 四六判 上製 | 394 | 一、二〇 一〇 | 第一出版協會 | 五月 | ▲後藤伯の一生涯に就いて述べたもので、貧乏武士の子、稀代の腕白小僧、臺灣民政長官となる、閣台に列する四度外二十六篇。 |
| 澤田謙 | 後藤新平一代記 | 四六判 函入 洋布 | 421 | 一、五〇 一二 | 平凡社 | 六月 | ▲一世の奇傑後藤新平伯の生涯を興味深く述べた評傳で、東北の奇少年、任俠兒の入獄、政治の倫理化外十二章。 |
| 東洋協會編 | 吾等の知れる後藤新平伯 | 菊判 並製 | 370 | 一、五〇 一二 | 東洋協會 | 九月 | ▲後藤新平伯（德富猪一郎）後藤さんと私（永田青嵐）性格上より觀た後藤伯（新渡戸稻造）其他諸名士の五十四篇。 |
| 橘文七 | 國士杉浦重剛 | 新四六判 函入 布裝 | 240 | 一、五〇 八 | 昭和教育社 | 三月 | ▲一世の師表故天台道士杉浦重剛先生に關するさま〴〵な物語で、この母、ふる蒲團と雁鍋、新婚の頃、帝王の師外四十八項。 |
| 海軍中將子爵小笠原長生 | 思ひ出を語る | 新四六判 函入 布裝 | 397 | 一、五〇 一〇 | 實業之日本社 | 五月 | ▲杉浦重剛翁、翁の思ひ出を語る、東郷元帥の愛刀主水正正清、二七不動尊と東郷元帥邸軍事探偵祕話其他二篇。附錄海戰日錄。 |
| 白柳秀湖 | 親分子分英雄編 | 四六判 並製 | 400 | 一、五〇 一〇 | 千倉書房 | 十二月 | ▲あらゆることがその基礎を經濟の上に置くものであるといふ道理を明にしその事實を歴史上の挿話によつて敍述したもの。—改訂版— |
| 杉山茂丸 | 俗戰國策 | 四六判 函入 布裝 | 677 | 二、五〇 一二 | 大日本雄辯會 | 三月 | ▲明治大正の重大事件の裏面物語で、生首抵當事件、星亨と强談判、政府と三菱の大經濟戰、日露開戰其他廿三篇。 |
| 澁澤榮一翁頌德會編 | 世界の驚異國寶澁澤翁を語る | 四六判 函入 革裝 | 302 | 一、五〇 一二 | 實業之世界社 | 十二月 | ▲子爵澁澤翁の傳記及び米壽祝賀會當夜の模樣、出席者その他の翁に對する感想を收めたもの。 |
| 野依秀一編 | 近世の巨人正しき成功者和田豐治を語る | 四六判 函入 背布 | 128 | 一、〇〇 一〇 | 實業之世界社 | 九月 | ▲第二世澁澤と謳はれた故和田翁の人と爲りを收めたもので、武藤山治、桑原虎治、磯村豐太郎其他十四氏執筆。 |
| 横山貞雄 | 人間大倉喜八郎 | 四六判 函入 上製 | 377 | 二、〇〇 一二 | 萬里閣 | 四月 | ▲故大倉翁の談話を中心に其日常生活を描寫し明治大正昭和の財界政界の變遷を取扱つたもので、君はえらい外百五十八項。 |

# 八、地理・紀行

## 地理學一般

| 著者 | 書名 | 形体 装幀 | 頁数 | 定價 送料 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 橋本賢康 | 國民地理通論 | 四六判 布入装 | 409 | 二、五〇 一二 | 大同館 | 四月 | ▲新らしき地文人文の學理を通俗的にし我國民として知らねばならぬ地理學の基礎知識を得る様説く。星界以下四編。 |
| 西龜正夫 | 人文地理學講義 上卷 | 菊判 洋布入 | 471 | 三、四〇 一八 | 古今書院 | 一月 | ▲第一篇序論（九章）第二篇人類地理學（七章）第三篇人口地理學（六章）第四篇生活地理學（五章）第五篇交通地理學（四章）にて詳述。 |
| 北田宏藏 理學士 | 數理地理學 | 菊判 洋布入 | 406 | 三、二〇 一八 | 古今書院 | 五月 | ▲觀察地中心系統、地球中心系統、非ユークリッド空間的考察等にて數理地理學の理論を闡明す。 |
| 飯本信之 理學士 | 政治地理學 | 菊判 布装入 | 444 | 三、五〇 一八 | 改造社 | 十二月 | ▲國家諸現象をば地理學的立脚より檢討究明せるもので、地理學及び政治地理學の概念外三編十八章。 |
| 人文地理學會編 | 都市地理研究 人文地理學報(1) | 菊判 並製 | 270 | 一、五〇 一三 | 刀江書院 | 二月 | ▲風景形態としての都市（小田内通敏）大宮處（松岡靜雄）都市概念の變遷（ポール・ムーリ）伊太利の町（大類伸）外二十三篇。 |
| 富田芳郎 奈良女子高等師範學校教授 | 經濟地理學原論 | 菊判 洋布入 | 458 | 三、五〇 一八 | 古今書院 | 十二月 | ▲現代人類の活動の大部分を占むる經濟的活動を内容とする地理的事實を系統的に配列して說述す。 |







| 著者 | 書名 | 形体 装幀 | 頁数 | 定價 送料 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 橋 輝政 | 野口英世博士傳 | 四六判 洋布入 | 199 | 一、三〇 一二 | 第一出版社 | 六月 | ▲細菌微生物學者として全世界に知られた故野口英世博士五十三年の生涯を十二章に於て記述したもの。 |
| 藤原義江 | 自畫像 | 四六判 上函入製 | 321 | 一、五〇 一二 | 春陽堂 | 五月 | ▲聲樂家藤原義江氏の自敍傳で「婦女界」に連載されたもの、喧嘩孝順、悲しき父との初對面、初戀其他廿四項。 |
| 室伏高信 | 鶴見祐輔の解剖 | 四六判 並製 | 27 | 一三 二 | 田舍社 | 十二月 | ▲當代の代表的人物の一人としての鶴見祐輔氏を解剖し、その宣傳せる思想についての批判をなせるもの。 |

## 世界地理・地圖

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川成章 | 鑛業地理 | 菊判 | 725 | 六、五〇 | 十 | ▲本邦に於ける有用鑛物の分布産狀、品質用途等を中心として廣く世界諸國に於ける狀況を敍述せるもの。 |
| 香川幹一 | 地形學原論 | 菊判 | 471 | 三、五〇 | 十一 | ▲最近建設された自然科學の一分科である地形學に就て論述せるもので、地質學的知識、カルスト地形外九章。 |
| 藤田元春 | 尺度綜考 | 菊判 | 511 | 五、八〇 | 六 | ▲尺度より里程地割都城に論及した土地の丈量に關する地理學的研究で、尺度考、里程考、地割考、都城考等挿畫七十八圖。 |
| 小林房太郎 | 火山 | 菊判 | 582 | 五、五〇 | 六 | ▲火山に關する一般の理論を論じ日本と世界の各火山につき一々之を記載し各火山の脈絡を明らかにした大著。 |
| 小林房太郎 | 世界地理精義 下卷—其の一 | 菊判 | 847 | 八、〇〇 | 五 | ▲亞弗利加州及び阿西亞尼亞州に就いて記述せるもので、亞弗利加州（地文誌外六章）阿西亞尹亞州（地文誌外九章）。 |
| ヘエウッド著 細井一六譯 | 十七世記十八世記世界地理發見史 | 四六判 | 519 | 三、二〇 | 十 | ▲初めて各大陸の輪廓を明らかにするに至つた十七、十八世記中に於ける全世界の發見の記述をなせるもの。 |
| 楠田鎭雄 | 世界構造地理學要論 | 菊判 | 416 | 三、二〇 | 六 | ▲世界の地理構造を精核に解說せるもので、アジア、歐羅巴、北米合衆國、カナダ附アラスカ、メキシコ外四編。 |
| 工藤暢須 | 最新外國地理の要點 | 菊半截 | 550 | 一、八〇 | 十 | ▲複雜な外國地理の要點急所を最も簡明に述べたもので、ユーラシヤ大陸、滿蒙地方、アジヤ州、歐羅巴州外五篇。 |
| 内田寛一 | 最新世界地圖 | 四六判上製 | 150 | 一、〇〇 | 一 | ▲昭和三年までの間に世界各地に互つて現はれた大小幾多の地理的異動を大觀して成れる新しい地理書。 |





## 日本地理

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京帝國大學助教授 辻村太郎 | 日本地形誌 | 菊判 | 455 | 四、二〇 | 二 | ▲地理學の各分科の中で極めて重要な位置を占めてゐる地誌の研究で、第一編地形論（十一章）第二編地形集（六章）。 |
| 東京文理科大學助教授 東京高等師範學校教授 田中啓爾 | 我等の國土 | 四六判 | 323 | 一、八〇 | 十一 | ▲北は北海道より南は臺灣まで我國土を地理的に述べたもので、樺太、北海道、奧羽地方關東地方其他。 |
| 角田政治 橋本辰彥 | 改訂中等參考 趣味の日本地理 | 四六判 | 417 | 一、二〇 | 四 | ▲關東奧羽中部近畿中國四國九州臺灣北海道樺太朝鮮を地方誌として總括として地文人文等を述べ關東州南洋諸島迄を說く。—普及版— |
| 工藤暢須 | 最新日本地理の要點 | 菊半截 | 523 | 一、六〇 | 十 | ▲地形を精鋭し其の地質及成因に及び更に人文地理を詳說せるもので、關東地方、奧羽地方、中部地方外十二章。 |

## 海外案內

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 廣島高等師範學校教授 前外務事務官 長倉矯介 | 最近の濠州及南太平洋 | 四六判 | 350 | 二、八〇 | 二 | ▲日本人の對南半球觀、濠洲人の對日觀、我濠洲航路、濠洲の歷史其他にて濠洲の事情を平易且つ通俗的に述べたもの。 |
| 生江孝之 | 新らしき國新西蘭と濠洲 | 四六判 | 400 | 二、〇〇 | 二 | ▲新西蘭と濠洲二國に於ける社會立法と之に伴ふ幾多の社會施設とが實際問題としてどの程度に大衆の福祉を進めるか其他を說述。 |
| 竹井十郎 | 日本人の新發展地 南洋 | 四六判並製 | 308 | 一、〇〇 | 四 | ▲氣候的にも極樂、婦人子供と南洋、生活費と食物、重要土民の農業、將來の邦人發展策外卅項にて南洋に就て述ぶ。 |
| 飯塚茂 | 南洋の雄姿 | 四六判布裝 | 603 | 三、〇〇 | 二 | ▲我等の南洋、夏一期、自由の國柄、鰐を訪れて、熱風を慕つて、トラヒイツク其他にて南洋の近況を報じたもの。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 多田惠一 | 南洋樂土 大ボルネオ | 四六判並製 | 293 | 一、五〇 一二 | 南洋開發社 | 八月 |
| 古屋敏惠 | 神祕境 大アマゾンを探る | 四六判並製 | 408 | 一、三〇 一〇 | タイムス出版社 | 七月 |
| ブラジル國在勤大使館一等書記官 野田良治 | 調査三十年 大アマゾニヤ | 四六判函入布裝 | 447 | 二、六〇 一八 | 萬里閣 | 十月 |
| 文部省地理調査前囑託 高橋勝 | 地理資料 最近のアジヤ | 四六判函入洋布 | 734 | 三、八〇 一二 | 明治圖書株式會社 | 四月 |
| 大藏大臣秘書官 上塚司 | 理想的農業國 デンマーク土產 | 四六判函入上製 | 92 | 一、〇〇 八 | 泰文館 | 二月 |
| 前南滿洲鐵道株式會社米國ニューヨルク在勤 マスタ・オブ・アーツ 瀧本二郎 | 千五百圓參ヶ月間 歐米見物案內 | 四六判函入洋布 | 396 | 三、八〇 一二 | 歐米旅行案內社 | 五月 |
| 後藤朝太郎 | 支那縱談 眠れる獅子 | 四六判函入上製 | 586 | 二、五〇 一二 | 萬里閣 | 五月 |

▲ボルネオ概觀、ボルネオ地勢、ボルネオの鑛物其他七章にて南洋を詳述せるもの。附錄南洋渡航案內十五章。

▲アマゾンの實狀踏査記で、探險旅行篇（常夏のアマゾンへ、移民當時の悲劇、森の奥を指して外七章）資料篇（三十項）

▲實地視察と諸文献を基としてアマゾニヤを紹介した書で、アマゾニヤ盆地の構成、藥用植物、動物界外十八章。

▲アジヤの現狀を知るに便ならしむる爲めに著したもので、自然地理、人類地理、政治地理、支那、アジア、ロシヤ其他五章。

▲大正十二年コンペンハーゲンに開かれた萬國議員會議に列席した著者が歸途立寄つたデンマーク農村の生活を詳述。

▲著者の經驗から八十日間に千五百圓で面白く愉快に歐米を見物視察する旅行日程表、旅費其他明細に例示したもの。

▲お隣りの支那から、新聞に毒せらるゝ誤斷見當違ひの支那人觀、下層民の生活其他支那通後藤氏が支那の眞相を述べた十九篇。

# 日本案內

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 鐵道省編 | 日本案內記 —東北篇— | 菊半截函入布裝 | 346 | 一、八〇 八 | 博文館 | 八月 |
| 明治大學講師 西田卯八 | 日本の自然と人文 | 四六判函入洋布 | 516 | 二、八〇 一二 | 古今書院 | 十一月 |

▲主として福島、宮城、岩手、青森、山形、秋田の六縣及び新潟縣の一部を加へた鐵道案內記。

▲日本の自然と人爲が如何にして今日の國情を生ぜしめたかに就て述べたもので、日本の自然と史的關係外四編。



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 日本旅行會編 | 日本溫泉名勝案內 | 四六判函入洋布 | 856 | 一、五〇 一二 | 日本書院 | 八月 |
| 今和次郎 高田保編 淺原六朗 | 新版大東京案內 | 四六判函入上製 | 380 | 一、八〇 一二 | 中央公論社 | 十一月 |
| 內山模型製圖社編 | 帝都復興區劃整理後 東京市壹萬分之一全圖 | 大判帙入 | 1枚 | 四、五〇 八 | 內山模型製圖社 | 十一月 |
| 鈴木正司編 | 東京近郊 日歸りの手引 | 三五判並製 | 160 | 四〇 四 | 西東社 | 四月 |
| 關東探勝會編 | 房總名勝案內 | 三六判並製 | 189 | 三〇 四 | 春江堂 | 八月 |
| 東京鐵道局編 | 房總一周 | 三六判並製 | 105 | 二五 二 | 日本旅行協會 | 八月 |
| 平路社編 | 伊豆大島遊覽案內 | 三五判並製 | 121 | 五〇 二 | 平路社 | 十二月 |
| 北尾鐐之助 | 近畿景觀 | 四六判函入上製 | 321 | 一、八〇 一二 | 創元社 | 十一月 |
| 大阪鐵道局編 | 大和めぐり | 三六判上製 | 138 | 五〇 四 | 日本旅行協會 | 一月 |
| 大阪鐵道局編 | 琵琶湖へ | 三六判上製 | 120 | 三五 四 | 日本旅行協會 | 一月 |

▲日本全國の溫泉、海水浴場、山岳、湖沼、神社佛閣、名勝古跡等を五十音順に排列し諸多の必要事項を說明せるもの。

▲動く東京、盛り場、遊覽の東京、特殊街、生活の東京、市政と事業外八部に分けて現在の東京の各方面を活寫したもの。

▲區劃整理後復興する大東京市の都市計畫街路、市內電車豫定線、市郡界其他を示せる一萬分之一全圖。

▲省線各驛竝に市電終點を起點として武藏野を東郊の平野西郊の丘陵南郊の海光北郊の田畑等縱橫に描出し交通機關を網羅す。

▲兩國より千葉へ、千葉より北條へ其他四項に分けて風光の絕佳にして時間旅費の經濟的なる房總の案內書。

▲安房鴨川と上總興津の間十哩の房總循環線を中心としての案內書で、房總一周、銚子磯めぐり、水鄕めぐりの三篇。

▲都人の憧憬の的となつてゐる伊豆大島の案內記で、東京より大島へ、大島の旅館、大島の風俗外十七篇。

▲阪神風景漫步、山田村千年家、尾上と高砂昆陽池附近、箕面溪谷、東高野街道、天王山の月外十六章。

▲奈良市を始め、藥師寺、法隆寺、龍田、信貴山、壺坂寺、橘寺、岡寺、神武御陵、天理教本部其他の案內書。

▲俵藤太秀鄕の百足退治、三上山と瀨田川に絡む傳說、小女郎ヶ池の傳說、三井寺、比叡山の廻其他の案內書。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 京都大學教授 文學博士 西田直二郎 ドクトル・フィロソフィー 西彦太郎 編 | 京都巡覽の栞 | 三六判 函入 洋布 | 273 | 八〇 六 | 京都 京畿協會 | 一月 |
| 松井幹雄 | 大菩薩連嶺 | 新四六判 函入 布裝 | 392 | 二、五〇 一二 | 光大社 | 九月 |
| 田部重治 | 山と溪谷 | 四六判 函入 布裝 | 572 | 二、五〇 一二 | 第一書房 | 六月 |
| 平賀文男 | 日本南アルプス | 四六判 函入 洋布 | 363 | 二、三〇 一二 | 博文館 | 六月 |
| 矢澤米三郎 河野齡藏 | 日本アルプス | 三六判 布裝 | 302 | 二、〇〇 八 | 岩波書店 | 六月 |
| 平野秀吉 | 日本アルプス登山案内記 | 新四六判 布裝 | 201 | 一、三〇 八 | 斯文書院 | 六月 |
| 冠松次郎 | 劍岳 | 四六判 函入 布裝 | 379 | 二、五〇 一二 | 第一書房 | 六月 |
| 冠松次郎 | 立山群峯 | 四六判 函入 布裝 | 367 | 二、五〇 一二 | 第一書房 | 五月 |
| 松川二郎 | 趣味の旅 新民謠をたづねて | 菊半截 函入 並製 | 484 | 一、六〇 八 | 博文館 | 五月 |
| 松川二郎 | 全國花街めぐり | 四六判 函入 上製 | 750 | 二、五〇 一二 | 誠文堂 | 七月 |

▲市内巡覽第一第二第三巡路等、巡路を分けて京都を中心とし附近に就て述べた名所舊跡探勝栞である。

▲大菩薩連嶺の山脈や谿谷の全般に互つて詳細に述べたもので、低山探勝禮讃、大菩薩連嶺の概觀と登山計畫其他。

▲日本アルプス及び秩父を中心とした山の隨筆と紀行文で、山に入る心、槍ヶ岳より日本海まで外五十六篇。

▲南アルプスと甲斐の山旅を志す初心の人々の爲に述べたもので、野呂川の奥、大井川の奥外廿六篇。—改訂版—

▲日本北アルプス、日本中央アルプス、日本南アルプスに就て詳細說述し、附錄に登山心得、八ヶ岳外六篇を收む。

▲日本北アルプス、日本中央アルプス、日本南アルプス、通過時間記錄其他各章に分けて詳述した案内記。

▲立山群峰の中より劍岳以北の紀行や研究を收めたもので、劍岳概論、劍澤、仙人山、初夏の劍岳、劍越、秋の毛勝岳其他、

▲立山を詳細に解剖した登山記であり案内書であつて、立山群峯概觀、春の立山、春の後立山、岩井谷と藥師岳外四篇。

▲道頓堀行進曲、波浮の港其他新民謠を初め武藏野の農唄、津輕のホーハイ節其他固有の鄕土民謠を蒐めて解說せるもの。

▲二十八花街を有する東京市を始め各地の主なる料亭、名物、藝妓、遊興制度などを詳述した花街案内書。







## 外國紀行

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 荒木東一郎 | 三十三日世界一週 | 四六判 洋布 | 272 | 一、三〇 六 | 誠文堂 | 六月 |
| 海外興業株式會社々長 井上雅二 | 世界を家として —偉人と山水— | 四六判 函入 布裝 | 386 | 二、〇〇 一二 | 博文館 | 五月 |
| 大阪毎日新聞主筆 高石眞五郎 | 歐米を見て | 四六判 函入 並製 | 204 | 一、二〇 八 | 大阪 大阪出版社 | 五月 |
| 野依秀市 | 野依全集(5) 歐米徹底觀 | 四六判 函入 洋布 | 240 | 一、五〇 一二 | 秀文閣 | 十月 |
| 大隈俊雄編 | 市川左團次 歌舞伎紀行 | 四六判 函入 上製 | 481 | 二、五〇 一二 | 平凡社 | 二月 |
| 市村羽左衛門 | 歐米歌舞伎紀行 | 四六判 函入 上製 | 205 | 一、五〇 一二 | 平凡社 | 二月 |
| 稻畑勝太郎 | 歐亞に使して | 四六判 函入 布裝 | 431 | 二、〇〇 一二 | 日本評論社 | 二月 |
| 櫻井忠溫 | 土の上・水の上 | 四六判 函入 布裝 | 461 | 二、〇〇 一二 | 實業之日本社 | 九月 |
| スチヴンスン著 藤田千代吉譯 | 驢馬と旅して | 四六判 函入 洋布 | 246 | 一、五〇 一二 | 文化生活研究會 | 十一月 |

▲時事新報社の世界一周競爭の計畫に世界記錄を破つて國際的の勝利を得た苦心と成果との物語を收めたもの。

▲世界各地旅行記で、維納より高架索を越えてチフリスまで、私の越えた江海、私の參加した國際會議外十一篇。

▲絕對に鎖された日本人への門戸、日本の政治家が頑冥である一例其他九十六篇より成る著者の歐米を見て得た所感集。

▲斯く英國を見て日本國民にかく警告す、斯の如き目で米國を見よ、仕事から見た歐米人と日本人外十篇。

▲現劇壇の重鎭市川左團次及びその一座のソビエート聯邦に於ける公演の記錄、劇評、歌舞伎觀其他竝に歐洲巡遊記。

▲名優市村羽左衛門夫妻の歐米漫遊日記で、奥樣同伴以下十二項、滯歐漫筆、外人の眼に映じた羽左衛門。寫眞挿入。

▲佛領印度支那へ、暹羅に入る、英領馬來の富、常夏の國へ其他にて述べた著者の當時の旅行談、經濟視察談である。

▲肉彈大佐として知られた著者の外遊記で、蛙の鳴く頃、町のともしび、蛙の手帳の三部八十九篇。

▲一頭の驢馬に荷を負はせて一八七九年の九月廿二日から十月三日に至る十二日間のセヴエンヌ地方を踏破せる旅行記。

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 定價 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 阪本霞溪 | 南米見物道中記 | 四六判 函入 上製 | 579 | 一、八〇 一二 | 創元社 | 六月 | ▲日本移住民の爲に南米の實地に就て公平に視察―其の眞相を赤裸々に發表せるもので、出發前の卷其他四十五項。 |
| 道家齊一郎 | 歐米女見物 | 四六判 函入 背布 | 404 | 一、五〇 一二 | 白鳳社 | 十二月 | ▲各國異る美人の表徴、亂れたハイドパークの夜、ニューヨークの婦人本位の新聞、ミラノの賣笑婦外五十七篇。 |
| 前滿鐵紐育在勤 瀧本二郎 マダム・ブレスト | 夜の倫敦巴里紐育 | 四六判 函入 布裝 | 311 | 二、七〇 一二 | 歐米旅行案内社 | 六月 | ▲三大都に於ける夜と晝の刺戟とを說いて旅行者の實用便宜に供した書で、米國式美人局私娼と警官、パリーの遊女屋其他。 |
| 宍戸左行 | 漫畫漫談アメリカの横ッ腹 | 四六判 函入 上製 | 417 | 一、九〇 一二 | 平凡社 | 十二月 | ▲アメリカの漫畫界、花氷と日本紳士、簡易生活の必需費、米人ホテルの中身、汽車の物賣車掌さん外一〇四篇。 |
| 村松梢風 | 新支那訪問記 | 四六判 函入 背洋布 | 270 | 一、五〇 一二 | 騷人社 | 五月 | ▲國民革命成つた支那の世態の變化を述べた見聞記で、暗い南京、新都建設、蔣介石と馮玉祥外二十五章。 |

## 日本紀行

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 定價 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イーエスモース著 石川欣一譯 | 日本その日〳〵 上・下卷 | 四六判 函入 布裝 | 1029 | 三、〇〇 一八 | 科學知識普及會 | 十一月 | ▲明治の初年我が東京大學に教鞭を執られ教育事業に貢献されたモース博士の世界に紹介せられた日本印象記。上下二册。 |
| 德富猪一郎 | 臺灣遊記 | 四六判 函入 並製 | 241 | 一、五〇 一〇 | 民友社 | 七月 | ▲德富翁の臺灣に於ける約一ヶ月間の視察記で、臺灣と予、基隆より臺北、臺灣に就ての概念外八十篇。 |
| 林學博士 田村剛 | 臺灣の風景 | 四六判 函入 上製 | 202 | 一、八〇 一〇 | 雄山閣 | 一月 | ▲著者の貴志病院に入院加療中に筆を起された臺灣旅行記で、口繪二六圖、挿圖二六圖を收めてある。 |
| 京城帝國大學豫科教授 近藤時司 | 史話傳說朝鮮名勝紀行 | 三六判 函入 並製 | 473 | 一、八〇 八 | 博文館 | 五月 | ▲史實及び原形を重んじ名勝への交通や都市の現況などを加へて趣味的に述べたもので、京城[illegible] |





| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 定價 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 荻原井泉水 | 觀音巡禮 | 四六判 函入 上製 | 283 | 一、八〇 一二 | 春陽堂 | 一月 | ▲西國三十三所を巡拜した折の著者の信仰記錄とも云ふべき紀行で、船中にて、那智山、和歌浦へ以下三十一篇。 |
| 荻原井泉水 | 旅のまた旅 | 四六判 函入 上製 | 353 | 二、二〇 一二 | 春陽堂 | 九月 | ▲紀の國二題、奈良の佛達、盂蘭盆の頃、湯田中にて、島原半島、霧島山、放哉を葬る其他俳人井泉水氏の紀行八篇。 |
| 鈴木文史郎 | 空の旅・地の旅 | 新菊判 函入 布裝 | 178 | 二、〇〇 一二 | 新潮社 | 十一月 | ▲東海道を飛ぶ、日本アルプス越え、東北を松島まで等飛行機旅行記三篇と、銚子の海と河、白馬に登る外記行三篇。寫眞多數收載。 |
| 評論隨筆家協會編 | 山水大觀 | 四六判 函入 上製 | 330 | 一、八〇 一二 | 新潮社 | 六月 | ▲諸家の山水隨筆を收めたもので、芳野山と大島沖（幸田露伴）山中湖と河口湖（德富蘇峰）上高地遊記（吉田絃二郎）外廿八篇。 |

文學博士 金子馬治著

# 藝術の本質

四六判五二〇頁
函入洋布裝
定價二圓八十錢
送料十八錢

藝術とは何んぞや。人生に於ける藝術の價値如何。
本書はこの難問題を理想主義の立脚地から縱橫に說いて明快なる解答を與へたる學界推賞の名著。

第8版

◆キユルペ著・藤井照譯・美學原論・定價二圓五十錢・送料十二錢
◆高橋禎二著・文學原論・定價二圓八十錢・送料十二錢
◆島村民藏著・戲曲の本質・定價二圓五十錢・送料十二錢
◆廣瀨哲士譯・笑の哲學・定價二圓・送料十二錢
◆金子馬治著・現代哲學概論・定價二圓八十錢・送料十二錢

發行 東京堂
東京神田
振替東京七二〇番




## 九、政治・法律

### 國家・政治一般

| 著者 | 書名 | 形體裝幀 | 頁數 | 定價送料錢 | 發行所 | 發行月 | 內容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三谷隆正 | 社會科學叢書(19) 國家哲學 | 新四六判洋布 | 181 | 九〇四 | 日本評論社 | 二月 | ▲國家哲學、國家生活、國家生活と經濟生活國家的權威外六項に於て論述。附錄宗教と法律(問題の本體以下五項)。 |
| オッペンハイマー著 廣島定吉譯 | 改造文庫第一部(20) 國家論 | 菊半截判布裝 | 217 | 二〇四 | 改造社 | 二月 | ▲國家理論、社會學的國家觀、國家の發生、原始的封建國家、海國、封建國家の發展、其他を論述した國家論の譯。 |
| アントン・メンガー著 河村又介譯 | 社會思想研究叢書(2) 新國家論 | 四六判並製 | 335 | 一、三〇八 | 春秋社 | 十二月 | ▲國家及び法律概論、民衆的勞働國家に於ける經濟生活及び性生活の秩序、民衆的勞働國家の組織外一篇。 |
| 淺井清 慶大教授 | 法學的國家論 | 菊判並製 | 208 | 一、八〇二 | 巖松堂 | 十二月 | ▲國家と法的秩序との合致、主權の相對化、國法と國際法との綜合等、國法學の最新思潮の凡てに亘り究明せしもの。 |
| 五來欣造 | 春秋文庫(11) 政治哲學 | 三六判洋布 | 238 | 五〇四 | 春秋社 | 六月 | ▲政治哲學とは何か、政治理想、政治理想と政黨との關係、政治理想外三章廿四節。 |
| 淡徳三郎 | 獨裁政治論 | 四六判並製 | 62 | 三〇二 | 上野書店 | 十一月 | ▲超階級的國家理論の發展(マルクスの國家學批判外六節)超越的國家理論の實踐的克服(新しき國家形態外一節)。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 板垣守正 | 大衆政治の新理想 | 四六判並製 | 176 | 十月 | |
| 山浦貫一 | 政治家よ何處へ行く | 四六判並製 | 513 | 二月 | ▲演口内閣と大衆政治、樞密院問題、新支那の誕生、右翼無產戰線の統一、多幸多難の日本大衆黨外十九章。 |
| 田所輝明 | 政治運動教程 | 四六判並製 | 310 | 十月 | ▲立憲政治や議會政治の大看板の反面に宿る醜き妥協政治や買收罐詰や變節鞍替等現代政治家の現實相。 |
| 野依秀一 | 貴族院廢止論 | 四六判並製 | 70 | 二月 | ▲無產政黨當面の過程は、闘爭過程であり暴露過程である。本書はそれ等の過程に應ずべき參考教本として書かれたもの。 |
| 清水芳太郎（九州日報主幹） | 國家整調主義 | 四六判並製 | 126 | 三月 | ▲國會の開設せられてより玆に四十年尙ほ議會政治の善果を實現し得ないのは政黨政治の發達を阻害する貴族院の存在にあるを論ず。 |
| 中野正剛（中野正剛大演說集） | 國民に訴ふ | 四六判背布入 | 472 | 四月 | ▲我等は斯く戰へり、孫文君の去來と亞細亞運動、錦旗を革莽の間に建てよ、對支重大問題の一問一答其他九篇を收めた演說集。 |
| 渡邊貴知郎（前萬朝報編輯長）編 | 議政壇上を直視して | 四六判上製函入 | 476 | 五月 | ▲田中首相の施政方針演說以下普選第一議會に於ける演說速記卅五篇と代議士卅三人の感想及び議會漫畫挿話等を收む。 |
| 岩野森之助 | 光明か暗黑か（政治と選擧） | 四六判並製 | 228 | 三月 | ▲立憲政治（憲法發布の意義外六章）理想選擧（七章）政治教育立憲政治と政治教育外六章 |
| 森口繁治（京大教授） | 憲政の原理と其運用 | 菊判背革入函 | 462 | 二月 | ▲立憲政治の特徵、君主、議會、內閣附樞密院、選擧、政黨、憲政と地方自治の七章より成る憲法政治論。 |
| 維新前後に於ける | 立憲思想 | 四六判上製函入 | 980 | 十月 | ▲維新前後に芽を吹いた泰西の新政治思想が時代新人に影響して明治の新政府は勿論民衆の政治思想發達の由來をも記述。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 七〇 | 新時代社 | | 十月 | ▲濱口内閣と大衆政治、樞密院問題、新支那の誕生、右翼無產戰線の統一、多幸多難の日本大衆黨外十九章。 |
| | 二、〇〇 | 日本書院 | 四六判並製 | 二月 | ▲立憲政治や議會政治の大看板の反面に宿る醜き妥協政治や買收罐詰や變節鞍替等現代政治家の現實相。 |
| | 一、五〇 | 巖松堂 | 四六判並製 | 十月 | ▲無產政黨當面の過程は、闘爭過程であり暴露過程である。本書はそれ等の過程に應ずべき參考教本として書かれたもの。 |
| | 一五 | 實業之世界社 | 四六判並製 | 二月 | ▲國會の開設せられてより玆に四十年尙ほ議會政治の善果を實現し得ないのは政黨政治の發達を阻害する貴族院の存在にあるを論ず。 |
| | 五〇 | 平凡社 | 四六判並製 | 三月 | ▲階級闘爭、勞働時間の整調、貨幣と物價との整調外六項にて整調主義の概要を述ぶ。 |
| | 一、五〇 | 平凡社 | 四六判並製 | 四月 | ▲我等は斯く戰へり、孫文君の去來と亞細亞運動、錦旗を革莽の間に建てよ、對支重大問題の一問一答其他九篇を收めた演說集。 |
| | 一、五〇 | 普選徹底會出版部 | 四六判並製 | 五月 | ▲田中首相の施政方針演說以下普選第一議會に於ける演說速記卅五篇と代議士卅三人の感想及び議會漫畫挿話等を收む。 |
| | 一、〇〇 | 良書普及會 | 四六判並製 | 三月 | ▲立憲政治（憲法發布の意義外六章）理想選擧（七章）政治教育立憲政治と政治教育外六章 |
| | 三、五〇 | 改造社 | 菊判背革入函 | 二月 | ▲立憲政治の特徵、君主、議會、內閣附樞密院、選擧、政黨、憲政と地方自治の七章より成る憲法政治論。 |
| | 一、〇〇 | 邦光堂 | 四六判上製函入 | 十月 | ▲維新前後に芽を吹いた泰西の新政治思想が時代新人に影響して明治の新政府は勿論民衆の政治思想發達の由來をも記述。 |



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 永川俊美 | 政界解剖 次の總選擧 | 四六判並製 | 377 | 十二月 | ▲既成政黨の情勢、無產黨の發生及び總選擧を目前に控へた政界に如何なる問題が論議されてあるかを解說せるもの。 |
| 山枡儀重 | 比例代表 | 四六判並製 | 98 | 十二月 | ▲比例代表の何たるかを說いたもので、英國小選擧區制批判、佛國の小選擧區制と小黨分立外七章。 |
| 犬養毅 | 箭は弦を離れたり | 四六判並製 | 144 | 十二月 | ▲政友會總裁就任以來の演說を主とし其他の講演を收めたもので、思想問題を根幹に新政策を樹立せむ外九篇。 |
| 加藤政之助（貴族院議員） | 世界大觀と新日本の建設 | 四六判洋布入 | 301 | 二月 | ▲獨逸、佛蘭西、伊太利、瑞西、丁抹、大英帝國、北米合衆國に就き政治財政經濟各方面の問題を研究調査し新日本の建設に及ぶ。 |
| 里見岸雄 | 天皇とプロレタリア | 四六判並製 | 321 | 十一月 | ▲從來の觀念的國體論の諸說を引用して其非社會性、非現代性を批判したもので、混沌たる觀念的國體論外二章。 |
| 渡邊幾治郎 | 皇室新論 | 四六判並製 | 342 | 六月 | ▲民衆思想、社會問題、國體と民衆思想、皇室と社會問題、國難と皇室、皇室の進步性、皇室と社會事業外五章。 |
| 大谷光瑞 | 帝國之前途 | 菊判並製 | 141 | 七月 | ▲わが帝國の地位、わが國民の缺陷、就職難思想の險惡、生活安定に對する消極策、現代青年の無氣力外十一章にて論ず。 |
| 室伏高信 | 日本はどうなる | 四六判並製 | 472 | 七月 | ▲日本はどうなる、社會主義者への希望、太平洋時代が來た！人口問題は何を語る、支那の目ざめと日本外十五篇。 |
| 德富猪一郎 | 日本帝國の一轉機 | 菊判並製 | 220 | 九月 | ▲善化乎惡化乎、世界の大戰の代價幾許ぞ、誰か英國を智者と云ふ乎、不戰條約に關する樂觀的考察外三十六章。 |
| 井亨（經濟學博士） | 日本思想論（國家思想より社會思想へ） | 四六判並製 | 417 | 六月 | ▲思想問題（上下）國體觀念（上中下）國民精神（上下）社會思想（上中下）等十二章にて平易に今日の日本の思想問題に就て記述す。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 清澤洌 | 轉換期の日本 | 四六判並製 | 454 | 一、八〇六 | 十月 | ▲不安相の日本（服從性の叛逆外三章）東西文化の吟味（日本と西の文明外二章）新日本への道（日本は亡びるか外八章） |
| 清澤洌 | 自由日本を漁る | 四六判背布入 | 556 | 一、八〇二 | 五月 | ▲日本の姿を書く以下六部に分けて、東洋思想西洋思想、モダーンガールの解剖、嘘だらけの政治、東京と大阪の相違外廿六篇。 |
| 猪俣津南雄 | 現代日本研究 ―マルクシズムの立場より― | 四六判洋布入 | 608 | 二、八〇二 | 十月 | ▲現代日本の政治、經濟、及び階級關係の基本的研究で、現代日本の經濟狀勢、現代日本の政治情勢外二篇十七章。 |
| 法學博士 蠟川新 | 亞細亞に生きるの途 | 四六判洋布入 | 270 | 一、八〇二 | 二月 | ▲亞細亞と日本、北亞細亞と日本、在滿蒙西二百萬鮮人の問題と其重大性其他にて對亞細亞政策を論述。 |
| 伯爵 荒芳德 | 敢然頂角を往く | 四六判布裝 | 327 | 一、五〇九 | 九月 | ▲右傾左傾の問題、私有財産制度果して是か非か、西洋の本屋の店頭と日本の本屋の店頭外廿二篇、白日夢集五篇。 |
| 早稻田大學教授 五來欣造 | 儒教の獨逸政治思想に及ぼせる影響 | 菊判洋布入 | 700 | 五、〇〇一八 | 六月 | ▲十八世紀に於ける儒教熱を論じそれと同一原因に基く儒教の現代的影響を說いた書で、政治哲學として見たる儒教以下二編十七章。 |
| プライス著 松山武譯 | 近代民主政治 第一卷 | 菊半截並製 | 322 | 六〇四 | 六月 | ▲民主政治一般に適用し得べき考察（民主政治の定義外十四章）若干の民主政治の運轉に關する研究（土地及び歷史外六章）の二編。 |
| レーニン著 長谷部文雄譯 | 帝國主義 岩波文庫（503―504） | 菊半截並製 | 204 | 四〇五 | 五月 | ▲生產の集中と獨占、銀行の新たなる役割、資本の輸出、列强間の世界分割、帝國主義の歷史的地位等十章。 |
| プライス著 松山武譯 | 近代民主政治 第二卷 | 菊半截並製 | 314 | 六〇四 | 十二月 | ▲若干の民主政治の運轉に關する研究の續きで、佛蘭西の部、瑞西の部、加奈陀の部、合衆國の部を收む。 |
| メンチエリヤコフ編 川内唯彥譯 | レーニン帝國主義論體系 | 四六判並製 | 347 | 一、五〇八 | 二月 | ▲世界資本主義經濟の總括的狀態が二十世紀の初頭に於て、その國際的相互關係が如何なるものであつたかを說述。 |





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| アンテル著 不破倫三譯 | 新帝國主義論（帝國主義叢書（3）） | 四六判並製 | 280 | 一、〇〇六 | 五月 | ▲世界戰爭後の廢墟から經濟的基礎を復興して目醒しき發展をとげつゝある新興ドイツ帝國主義に關する研究。 |
| プレブスリーグ編 内田佐久郎譯 | 近代帝國主義論（プレブス叢書（4）） | 四六判洋布 | 226 | 八〇六 | 十一月 | ▲帝國主義發展の段階への發展に應じて現はれた最近の資本主義の幾多の世界的現象を叙述せるもので、帝國主義の經濟學外十一章。 |
| レーニン著 鈴木厚編 | 組織論（改造文庫第一部（39）） | 菊半截布裝 | 318 | 三〇六 | 八月 | ▲レーニンとボルシエヴイキ黨の構成、何から始むべきか、文書の配布、組織の一般形態其他十六章。 |
| 吉野次郎 萬里信一郎譯 | ファシズム論 | 四六判並製 | 153 | 五〇四 | 五月 | ▲ファシスト獨裁の特質論（バシュカニー著）ファシズムの問題について（エルコリ著）の二編譯。附錄一篇。 |
| 藤井悌 | ファッシズム（社會科學叢書（29）） | 新四六判洋布 | 193 | 九〇六 | 六月 | ▲反動思想反動運動の社會的意義、イタリアファッシステイの成立、イタリア社會黨とファッシステイ外四章。附錄二章。 |
| 下位春吉譯 | ムッソリニの獅子吼 | 四六判洋布入 | 400 | 一、八〇二 | 十二月 | ▲ムッソリニがファシヨ運動の統帥として政權を掌握するに至る間の革命演說と首相となつてからの主要な演說を收めたるもの。 |
| マクドナルド著 小林輝次譯 | 議會と革命 | 四六判並製布裝 | 147 | 一、〇〇六 | 七月 | ▲デモクラシー、革命的民主主義、露國革命無產階級の獨裁、地方別選擧區と產業別選擧區外六章。 |
| イエリネック著 美濃部達吉譯 | 人權宣言論（社會科學叢書（24）） 外三篇 | 新六判洋裝 | 263 | 一、二〇六 | 六月 | ▲憲法の改正と憲法の變遷、人權宣言論、小數者の權利を論ず、歷史上に於ける國家の種種相外一篇 |
| 河合榮治郎 | 英國勞働黨のイデオロギー | 四六判並製 | 109 | 五〇四 | 九月 | ▲河合氏の講演速記で、英國勞働黨イデオロギーの概觀以下七項、附錄「勞働黨首領マクドーナルド。」 |
| 藤井悌 | （社會科學叢書（15）） 各國勞働黨・社會黨・共產黨 | 新六判四布 | 265 | 一、二〇六 | 二月 | ▲ドイツ社會民主黨、フランス社會黨、イギリス勞働黨、イタリヤ社會黨外二黨に就いて史要、現在の黨勢、組織及管理等を說明す。 |

## 憲法

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ヴアルカ編<br>黒部明譯 | 社會民主主義諸政黨 | 四六判並製 | 421 | 一、六〇 | 六 | 希望閣 | 九月 | ▲第二インタナショナルの政策、獨逸社會民主黨、佛蘭西社會黨、英吉利勞働黨、白耳義勞働黨外七章。 |
| 法學博士<br>吉野作造 | 日本無產政黨論<br>附—學生と思想犯 | 四六判洋布入 | 365 | 一、八〇 | 一二 | 一元社 | 八月 | ▲無產政黨問題に關し大正十四年秋より昭和三年暮迄に發表した著者の論文を收めたもの、共同戰線論を評す外廿八篇。附錄十篇。 |
| 藤井新一 | 政黨學 | 菊判洋布裝入 | 376 | 二、五〇 | 一八 | 南郊社 | 十二月 | ▲政治現象存立の基礎としての國家と政黨との法的關係及び政黨と社會との關係を分解して具體的に論述す。 |
| 早稻田大學講師<br>茗荷房吉 | 日本政黨の現勢 | 四六判洋布裝入 | 394 | 二、〇〇 | 一二 | 日本評論社 | 二月 | ▲普選を轉機とした我が國政界の諸種の變化を實地調査に基き正確な資料を提示しこれに據つて各政黨の現勢を比較解說した書。 |
| 政治的自由獲得勞農同盟編 | 勞働者・農民の代議士山本宣治は議會に於て如何に鬪爭したか？ | 四六判並製 | 150 | 六〇 | 四 | 希望閣 | 四月 | ▲第五十六議會と鬪ふ、行政警察の彈壓に抗して、勞働者災害扶助法案に對する質疑、其他六篇を收む。—發賣禁止— |
| 山榊儀重 | 歐米政治行脚 | 四六判洋布入 | 453 | 一、八〇 | 一二 | 平凡社 | 八月 | ▲政治心理の解剖、英國政黨の規律、佛國の小選擧區制と小黨分立、歐米婦選の現狀、米國市制の新傾向外卅篇。 |
| 滿川龜太郎 | ユダヤ禍の迷妄 | 四六判洋布入 | 266 | 一、五〇 | 一三 | 平凡社 | 六月 | ▲ユダヤ民族、ユダヤ禍とは何ぞ、ユダヤ禍宣傳本の批判、我國に於けるユダヤ禍說反對其他三篇より成るユダヤ民族研究。 |
| 室伏高信 | アメリカ<br>—其經濟と文明— | 四六判並製 | 473 | 一、六〇 | 八 | 先進社 | 三月 | ▲アメリカの世界征服、アメリカの繁榮、新しい經濟學への出發、アメリカ文明等九篇廿七章にてアメリカを論じた書。 |
| 池田林儀 | 獨逸復興の反動力 | 四六判並製 | 159 | 五〇 | 四 | 優生運動社 | 十月 | ▲恐ろしい勢で復興しつゝある獨逸の原動力が、那邊にあるかを說いたもので、復興の三大原動力外十一章。 |





## 地方行政

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 藤井甚太郎 | 日本憲法制定史 | 菊判洋布入 | 312 | 二、五〇 | 一八 | 雄山閣 | 八月 | ▲明治以前の憲政、廢藩置縣後の國憲編纂事業及會議、國會開設の大詔降下、政府に於ける憲法調査外五篇。 |
| マツクベーン著<br>ロツシアース<br>井出菊江譯 | 歐洲新憲法論序說 | 四六判洋布入 | 339 | 二、二〇 | 一二 | 大鐙閣 | 十月 | ▲王侯と議會、立法府と官僚、第二次的議院分權と聯合、比例代表、機能代表、民政論者と外交官外一章にて論述。 |
| 慶大教授<br>淺井清 | 獨逸憲法原論 | 菊判洋布裝 | 756 | 三、〇〇 | 一八 | 巖松堂 | 六月 | ▲現行の獨逸憲法を努めて詳密に解說したもの。 |
| 勞農ロシア叢書(3)<br>ア・ロシユテー著<br>佐田弘雄譯 | ソヴィエット憲法 | 四六判上製 | 173 | 九〇 | 六 | 上野書店 | 一月 | ▲第一編ソヴイエット憲法、第二編ソヴイエット憲法の改正及增補、第三編現行ソヴイエット憲法論（七章）を收む。 |

## 政

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京市政調査會編 | 東京市政當面の諸問題 | 菊判並製 | 25 | 五 | 二 | 東京市政調査會 | 二月 | ▲市會議員の選擧に際し市政の概況を述べたもので、財政狀態、復興事業の進捗狀況、上水道と下水道外十二篇。 |
| 本邦都市計畫事業と其財政 | 東京市政調査會編 | 菊判洋布裝入 | 651 | 四、五〇 | 二四 | 東京市政調査會 | 九月 | ▲本邦に於ける都市計畫事業を主として都市財政の見地から歷史的に概觀せるもので、都市計畫事業外一編六章。 |
| いろは引市町村名索引 | 杉田久信 | 洋菊判布入 | 270 | 一、五〇 | 一八 | 文錄社 | 十月 | ▲全國市町村名を市郡別に索引出來るやう收め、又別に朝鮮、臺灣等をも收む。 |
| 北海出版社編 | 北海道年鑑<br>—昭和四年— | 四六判並製 | 806 | 二、五〇 | 一二 | 札幌<br>北海出版社 | 一月 | ▲皇室と北海道、北海道史、地理、氣候、土地、戶口、政治、財政、租稅、警察及司法、國防、拓植等卅四篇。 |

## 國際・外交・植民

# 軍縮問題

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 青木節一 | 國際聯盟事務局東京支局主任 | 國際聯盟の組織及びその發展、國際法の發達、軍備縮少問題、安全保障竝に仲裁裁判、政治的紛爭其外十三章。附錄三篇。 | 四六判並製 | 209 | 八〇 |
| 淺野利三郎 | 文學士 | 最近國際思想史 | 菊判布裝 | 672 | 五、五〇 |
| 榎本秋村 | | 歐米外交祕史 | 四六判洋布函入 | 370 | 一、五〇 |
| 小島憲 | 明治大學教授 | 植民政策綱要 | 菊判洋布 | 330 | 二、八〇 |
| 矢內原忠雄 | 東京帝國大學教授 | 帝國主義下の臺灣 | 菊判洋布函入 | 373 | 二、八〇 |
| 井上雅二 | 海外雄飛 | 若き日本の新路 | 四六判並製函入 | 480 | 一、八〇 |
| 淺見登郎 | 早稻田大學教授大日本水產會理事 | 海外發展の實際 | 菊判布函入裝 | 502 | 五、〇〇 |
| 赤名精一 | 通俗 | 米國移民法講話 附どうしたら日本人は渡米出來るか | 四六判布函入裝 | 389 | 二、〇〇 |
| 伊藤正德 | 時事新報社編輯長 | 軍縮 | 四六判洋布 | 330 | 一、五〇 |


| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 朝日新聞社編 | 朝日新聞社調査部（12） | 軍縮問題 | 四六判並製 | 96 | 二〇 |
| 安富正造 | 太平洋問題叢書（3） | 海軍軍縮問題 | 四六判並製 | 89 | 五〇 |
| 石丸藤太 | 海軍少佐 | 倫敦軍縮會議へ | 四六判並製 | 572 | 二、五〇 |
| 池崎忠孝 | | 米國恐るゝに足らず | 四六判並製 | 300 | 一、五〇 |
| 池崎忠孝 | | 日本潛水艦 —太平洋作戰と潛水戰— | 四六判並製 | 158 | 九〇 |
| 田一郎 | 海軍少將 | 日本を守る潛水艦 | 四六判並製 | 128 | 八〇 |
| 相模次郎 | | 日米戰爭夢物語 | 菊判上製 | 219 | 一、二〇 |
| 阿比留乾二 | 法學士 | 滿洲問題とは何ぞや | 菊判並製 | 60 | 三〇 |
| 太平洋問題調査會編 | 太平洋問題叢書（1） | 滿洲問題研究 | 四六判並製 | 252 | 一、〇〇 |


## 滿洲問題・支那問題


| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 朝日新聞社 | | 國際聯盟の組織及びその發展、國際法の發達、軍備縮少問題、安全保障竝に仲裁裁判、政治的紛爭其外十三章。附錄三篇。 | 三月 | | 八〇 |
| 淺野利三郎 | 文學士 | 最近國際思想史 | 四月 | | 五、五〇 |
| 榎本秋村 | | 歐米外交祕史 | 十一月 | | 一、五〇 |
| 小島憲 | 明治大學教授 | 植民政策綱要 | 一月 | | 二、八〇 |
| 矢內原忠雄 | 東京帝國大學教授 | 帝國主義下の臺灣 | 十月 | | 二、八〇 |
| 井上雅二 | 海外雄飛 | 若き日本の新路 | 一月 | | 一、八〇 |
| 淺見登郎 | 早稻田大學教授大日本水產會理事 | 海外發展の實際 | 九月 | | 五、〇〇 |
| 赤名精一 | 通俗 | 米國移民法講話 附どうしたら日本人は渡米出來るか | 十一月 | | 二、〇〇 |
| 伊藤正德 | 時事新報社編輯長 | 軍縮 | 十一月 | | 一、五〇 |


▲國際聯盟の組織及びその發展、國際法の發達、軍備縮少問題、安全保障竝に仲裁裁判、政治的紛爭其外十三章。附錄三篇。

▲最近の國際生活及思想の發達、近代文化の特質、其中に發生した主義政策の發展過程及現代國際思想の傾向を叙す。

▲近代の初めより現代に至る迄の歐米列强の外交的祕密を赤裸々に指摘せるもので、西班牙繼承役の外交外廿二章。

▲國家と植民的活動より說き始め、人種平等と人種移住の自由に至るまで二十章に於て論述せる書。

▲我植民地としての臺灣問題の帝國主義的性質を、帝國主義下の臺灣外一篇九章にて論究せるもの。

▲第一篇は海外開拓と少壯日本に關する所壞第二篇は歐米旅行中に於ける隨所の感想、第三篇には南米移民政策の綱要其他を收む。

▲日本人とメキシコの開發、日米露三ケ國とカムチヤツカの開發等にて海外に於ける日本人の成功と失敗を討究した書。

▲新移民法の二大目標と渡米出來る日本人、非移民、訪問者通過者海員等の研究、日系市民と移民法外七講。附錄五講。

▲軍縮問題の現實の事相コンドンに展開される論爭の焦點今後への希望方面に力を注ぎ十八章にて說述。





▲軍縮に對する我等の態度（町田梓樓）、軍縮をめぐる政治外交（米田實）軍縮の話（小林勝造）の三篇を收む。

▲華府條約の現實なる效果、華府條約の三大缺陷、最大難關たる比率問題、海軍尺度問題政治的解決の五章。

▲華府會議前の形勢、華府會議の回顧、華府より壽府へ—列强の補助艦競爭、ジユネーヴの三國軍縮會議外五章。附錄一章。

▲ハリマンの夢、日米必戰、陸戰か海戰か、日米海軍の現勢、日米の海軍根據地、戰爭の時期外十四章。

▲英米兩國の潛水艦廢止論または潛水艦大縮小論なるものゝ眞相を暴露せるもので、マグドナルドの芝居外十一章。

▲我が潛水艦の威力が如何に恐るべきものなるかを力說論證せるもので、列國潛水艦の現狀外四章。

▲日本は好戰國ぢやない、米人の嫉妬心、日本は加州の恩人、最後の手段、日本の戰勝は疑ない外卅節。

▲我國と滿洲との政治的關係、我國と滿洲との經濟的關係、滿洲に於ける國際關係其他三章にて論說す。

▲滿洲に於ける我國の特殊權益の檢討（信夫淳平）特殊權益より安全保障へ（松原一雄）國際的滿洲と日本（小林俊三郎）外一篇

大平洋問題調査會編 太平洋問題叢書(2) 米國人の觀たる滿洲問題 四六判並製 130 八〇 大六 ▲米國人及ロシヤ人の見たる滿洲問題に關する論文を譯せるもので、日支の利害と滿洲問題（ウオルター・ヤング）外五篇。

長野朗 日本と支那の諸問題 四六判並製 206 一、〇〇 六 ▲排日問題（八項）營業及居住權の問題（五項）日支貿易の變遷（三項）對支投資の將來（三項）等日支の諸問題を論述す。

佐田弘治郎 日支關係の心理的研究 菊判並製 91 五〇 六 ▲對支政策の樹立に於て考慮すべき日支間に橫はる基礎的の事實を論述せるもので、隣國心理外三章十二節。

法學博士 末廣重雄 支那の對外的國民運動 四六判並製 200 一、二〇 八 ▲不平等條約廢棄運動はどうして支那に起つたか、不平等條約廢棄とは何であるか其他二節。附錄支那に關する九國條約。

東亞經濟調査局編 東亞小叢書(2) 支那排日教材集 四六倍並製 153 八〇 一〇 ▲現在支那が國民教育に使用してゐる教科書中より排日記事を選んで飜譯したもので、日支關係總說外四部十八項。

西尾信治 新興支那の國民教育 四六判並製 95 三〇 二 ▲支那を知れ、日貨排斥と支那の國民教育、國民革命後の國民教育大觀其他にて支那に就ての實相を述べたもの。

孫中山著 金井寬三譯 改造文庫第一部(40) 三民主義 菊半截布裝 288 三〇 六 ▲新興新邦建設の父孫逸仙の有名な三民主義卽ち民族主義、民權主義、民生主義に就て述べたもの。

川田友之釋述 解說三民主義 四六判並製 204 一、〇〇 六 ▲永年危險を冒しつゝ支那各地を巡歷して民族主義民權主義及民主主義卽ち三民主義を說いた孫逸仙の講演を收めたもの。

梅嵩南 三民主義と階級鬪爭 四六判函入洋布 235 二、〇〇 一二 ▲三民主義と社會主義、階級鬪爭としてのマルクス主義と三民主義、三民主義と社會政策等四章。

コンミンタン編 高山洋吉譯 武漢時代と支那共產黨 四六判並製 312 一、一〇 六 ▲支那問題（同志ブハーリンの報告）同志メラル（チェッコスロヴァキア）の演說、同志トロツキーの演說其他十六章。

アジアチクス著 別府重夫譯 廣東から上海へ —支那革命記— 四六判上製 538 一、八〇 一〇 ▲以下に示す如く分冊刊行した「廣東から上海へ」の改訂合冊本で、小ブルジョア指導の反逆と武漢政府の瓦壞外三部。

アジアチクス著 別府重夫譯 支那革命の第一段階 支那問題叢書(1) 廣東から上海へ—第一部— 四六判並製 236 八〇 六 ▲上海事件から國民革命軍の武漢占領までを取扱つた論說集で、支那革命の諸問題、支那の對外貿易其他十八篇。

アジアチクス著 別府重夫譯 農業革命の躍進 支那問題叢書(2) 支那革命に於ける農業革命 廣東から上海へ—第二部 四六判並製 135 六〇 四 ▲支那革命に於ける農業問題、廣東及び湖南に於ける農民の鬪爭、反革命的犯罪に對する國民政府の刑法外十五篇。

アジアチクス著 別府重夫譯 支那革命に於けるプロレタリアートのヘゲモニ 支那問題叢書(3) 廣東から上海へ—第三・四部 四六判並製 161 八〇 四 ▲帝國主義的干涉の危險とブルジョアジーの裏切とに對する鬪爭に於て、小ブルジョア指導の反逆と武漢政府の瓦壞。—發賣禁止—

ラインバーガー著 賴富譯 孫文と支那革命 四六判函入並製 252 一、〇〇 六 ▲革命の途上にある支那とその手創者たる孫文とに就て述べたもので、幼き時代の生活、孫文と日本等十期に分け收む。

支那問題研究所編著 支那問題辭典 四六判洋布 391 二、八〇 八 ▲第一部に支那の社會經濟政治に關する諸項を網羅し、第二部は現在支那の政界に活動せる中心人物の傳記と評論を收む。

## 法律

### 一般

バウンド著 三譯 高柳賢 岩田新 法と道徳 四六判函入背洋布 232 一、七〇 二三 岩波書店 二月 ▲法律と道徳に關する分析歷史哲學諸派の理論を詳細に點檢し現代に於ての社會的意義を批判した書の全譯。

東京帝國大學教授 高柳賢三 法律哲學原理 菊判函入洋布 566 四、二〇 一八 岩波書店 十一月 ▲初學者の爲に法律哲學の大要を論說せるもので、法律哲學の對象及び任務、法律哲學の研究方法外八章。

社會科學叢書(18) 小野清一郎 法律思想史概說 新四六判洋布 134 七〇 六 日本評論社 二月 ▲原始的文化と法律思想、中世の文化と法律思想外一篇にて歷史的考察を極めて輪郭的に叙述す。

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊数 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東北帝國大學教授 石田文次郎 | ギールケの團體法論 | 四六判 函入 布裝 | 317 | 一、八〇 一二 | ロゴス書院 | 二月 | ▲歴史的及法律的材料に對する知識として編んだギールケの團體法論の研究で、團體論、法人論、團體本質論以下七節。 |
| ヘルウイヒ著 法學士 江口新譯 | 訴訟行爲論 | 菊判 函入 洋布 | 193 | 二、〇〇 一八 | 巖松堂 | 七月 | ▲訴訟法上の事實、訴訟行爲の概念、條件の許容、意志の欠缺、權利保護の申請一般等にて詳論。附錄引用條文外一章。 |
| ベツカリーア著 風早八十二譯 | 犯罪と刑罰 —封建的刑罰制度の批判— | 菊判 函入 洋布 | 396 | 二、七〇 一八 | 刀江書院 | 十一月 | ▲刑罰の起源と刑罰權、未決拘留に就て、訴訟期間及び時效に就て、犯罪の尺度に就て、家族の精神外卅七章。 |
| 京都帝國大學名譽教授 關西大學學長法學博士 仁保龜松 | 國民法制通論 下卷—法律篇、法律關係篇 | 菊判 函入 洋布 | 286 | 二、七〇 一八 | 刀江書院 | 十一月 | ▲下卷は法律の意義、生成、分類、效力、實行、廢止等より權利と義務とを包括する法律關係に及んだもの。 |
| 法學博士 中田薫編 | 宮崎先生法制史論集 | 菊判 函入 洋布 | 766 | 八、〇〇 二四 | 岩波書店 | 六月 | ▲故宮崎道三郎博士の明治三十二年以降四十四年迄の論著廿九種を收めた書で、律令に就きて外廿八稿附錄國司の起原外四章。 |
| 法學士 瀧川政次郎 | 日本法制史 | 菊判 函入 洋布 | 666 | 五、〇〇 一八 | 有斐閣 | 二月 | ▲總論、固有法時代、支那繼受法時代、融合法時代前期（式目時代）中期（國法時代）後期（定書時代）等六編より成る。 |
| 吉本俊二 | 最新法制要論 | 菊判 函入 洋布 | 620 | 四、八〇 一八 | 大同館 | 八月 | ▲國民的教育の見地に基き最近法制の全般に渉つて平易に解說せるもので、法制通則、公法一般、私法一般等。 |
| 東洋大學教授 勝水淳行 | 刑事心理學 | 菊判 布裝 | 394 | 二、五〇 一八 | 巖松堂 | 十月 | ▲犯罪發生の原因、各種犯罪の態樣、刑罰、保護等、犯罪關係凡ての現象を細說す。 |
| 大審院判事 法學博士 尾佐竹猛 | 明治文化史としての日本陪審史 | 菊判 函入 上製 | 220 | 一、八〇 一二 | 邦光堂 | 九月 | ▲明治初年行はれし陪審制度たる參座制を中心とし陪審法の成るに至るまでの沿革を詳叙せるもの。 |
| 東京帝國大學教授 法學博士 美濃部達吉編 | 不戰條約中「人民の名に於て」の問題 | 菊判 並製 | 66 | 三〇 四 | 日本評論社 | 五月 | ▲人民ノ名ニオイテについて（高柳賢三）不戰條約字句の問題（美濃部達吉）人民の名に於て（高木八尺）外四篇。 |





| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊数 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 司法書記官 法學士 正木亮 | 法律學讀書（22） 行刑上の諸問題 | 菊判 布裝 | 233 | 二、〇〇 一二 | 有斐閣 | 三月 | ▲ソヴイエツト・ロシヤの勞働改善法を機緣として、新しい立場から考究せられた、新しい監獄學。 |
| 法學士 江口新譯 | ヘルウイヒ訴訟行爲論 | 菊判 布裝 | 193 | 二、〇〇 一二 | 巖松堂 | 六月 | ▲本書は訴訟法學の泰斗コンラド・ヘルウイヒ氏が訴訟行爲の統一的研究を試みたもの。 |

## 諸法

| 著者 | 書名 | 版本 | 頁 | 冊数 | 出版 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三省堂編輯所編 | 新制法令集 —昭和四年度— | 菊判 並製 | 343 | 九〇 一〇 | 三省堂 | 七月 | ▲昭和三年五月以降昭和四年四月までに公布せられたる法令を集錄したもので、御即位禮皇室外十八章。 |
| 法學士 河邊久雄 | 國際私法論 | 菊判 布裝 | 425 | 三、八〇 一八 | 巖松堂 | 四月 | ▲歐米先進各國の諸學者の說を參酌し、國際私法に關する凡ゆる問題に就き論及せられしもの。 |
| 山口弘一 | 日本國際私法論 下卷—一分冊— | 菊判 並製 | 184 | 一、五〇 一二 | 巖松堂 | 一月 | ▲下卷の第一分冊で、國際民法中の債權の部に就いて詳細なる究明を試み、多くの問題を解說せるもの。 |
| 法學博士 美濃部達吉 | 春秋文庫（10） 選擧法概說 | 三六判 洋布 | 165 | 五〇 六 | 春秋社 | 四月 | ▲選擧法に付いての重要な問題を論述したもので、選擧權の意義、選擧義務、選擧權に關する二つの思想外廿二篇。 |
| 法學博士 美濃部達吉 | 行政裁判法 | 菊判 函入 洋布 | 438 | 二、八〇 一八 | 千倉書房 | 五月 | ▲法律學の重要なる一分科たる行政裁判法に關する問題を詳細に論究せるもので、行政裁判の性質外九節。附錄一篇。 |
| 慶應義塾大學法學部教授 小池隆一 | 概說日本民法 | 菊判 函入 洋布 | 447 | 四、〇〇 一八 | 巖松堂 | 九月 | ▲總則、物權法、債權法、親族法、相續法、の五編三十五章にて民法全般に通ずる概念を論述す。 |
| 藤谷保 | 文檢法經科受驗用民法要論 | 四六判 函入 洋布 | 446 | 二、五〇 一二 | 啓文社 | 五月 | ▲民法の意義、民法上の權利及其類則、時效物權總論、占有權、所有權、債權の效力、不當利得、相續の承認及び拋棄外卅七章。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 法學博士 富井政章 | 民法原論 第三卷債權總論上 | 並製 | 菊判 | 272 | 二、五〇 一二 | 有斐閣 | 四月 |
| 東京帝國大學內 民事法判例研究會 | 判例民事法 第七卷—昭和二年度 | 布裝 | 菊判 | 550 | 四、〇〇 一八 | 有斐閣 | 九月 |
| 廣岡光治譯 | 露西亞民法 —正文— | 並製 | 四六判 | 193 | 一、三〇 八 | 巖松堂 | 六月 |
| 岩田新 | 物權法概論 | 洋裝布入 | 菊判 | 207 | 一、八〇 一八 | 同文館 | 五月 |
| 大審院部長 岡村玄治 | 債權法各論 | 布裝 | 菊判 | 756 | 六、五〇 二四 | 巖松堂 | 六月 |
| 帝國大學教授 法學博士 田中耕太郎 | 商法研究 第一卷 | 背革 | 菊判 | 718 | 四、八〇 三〇 | 岩波書店 | 七月 |
| 柴田建 | 新商業證書(3) 商用法律講話 | 洋裝布入 | 四六判 | 416 | 一、五〇 一二 | 博文館 | 七月 |
| 東京帝國大學教授 田中耕太郎 | 增訂改版 會社法概論 | 布裝 | 菊判 | 714 | 四、五〇 二四 | 岩波書店 | 十一月 |
| 法學博士 松本烝治 | 日本會社法論 | 背革 | 菊判 | 709 | 六、五〇 三〇 | 巖松堂 | 十二月 |
| 法學博士 松本烝治 | 日本會社法論 | 背革 | 菊判 | 694 | 六、五〇 二四 | 巖松堂 | 十月 |

▲總論、物權に續いて刊行された債權總論編の上册であつて、最近の學說判例を引照して簡明に說述されたもの。

▲大審院判例の中私法に關係ある判決一切を研究批判して集錄されたもので毎年一卷宛刊行されるもの。

▲社會主義聯邦ソヴエート共和國の民法正文を譯出したもので一九二八年一月迄の改正法文及追補を全部收錄。

▲物權法の體系を會得せしむるやう詳述したもので、用益物權、擔保物權、占有權に就て外二十一節。

▲民法各論規定の部を解說したもので從來の學說に拘泥せず獨自の新說を樹つ。就中契約法論に付ては精透の論を盡す。

▲法律體系中に於ける商法の地位、技術的法としての商法、手形關係の本質、社債の法律的特異性外四篇。

▲商人に必要な法律の一切を實際的に最も平易に述べたもので、商人及び商業取引、會社手形、商事調停法其他を收む。

▲合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社、外國會社、罰則等に亙つて會社法を論述せるもの。—改訂版—

▲會社法が實際に適用されてゐる方面より觀察して解說せるもので、株式會社、合名會社、合資會社外四章。

▲法典及通常の著書の順序を顚倒し株式合名會社の順序に說き加ふるに精細な註を附し實際に即し解說したもの。



| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中央大學教授 栗栖赳夫 | 會社法比較研究 | 布裝 | 菊判 | 180 | 一、七〇 一八 | 啓明社 | 六月 |
| 小川鄕太郎校閱 笹原正志 | 銀行法通釋 | 布裝入 | 菊判 | 440 | 四、三〇 二四 | 啓明社 | 八月 |
| 中央大學教授 栗栖赳夫 | 社債信託法原論 | 洋裝布入 | 菊判 | 462 | 四、〇〇 一八 | 日本評論社 | 十二月 |
| 立教大學商學部教授 板橋菊松 | 社債法論攷 | 背革 | 菊判 | 432 | 五、八〇 二四 | 神田書院 | 十月 |
| 法學博士 松岡義正 | 破產法 —手續規定— | 背革 | 菊判 | 1080 | 一〇、〇〇 二四 | 巖松堂 | 三月 |
| 早大教授 大濱信泉 | 手形法原論 | 並製 | 菊判 | 255 | 二、〇〇 一四 | 巖松堂 | 十月 |
| 辯護士 宮崎直二 | 手形の書き方と見方 | 布裝入 | 四六判 | 303 | 一、五〇 一二 | 實業之日本社 | 十二月 |
| 辯護士 法學士 大澤一六 | 實用手形の知識 | 洋裝布入 | 四六判 | 316 | 二、五〇 一二 | 至玄社 | 五月 |
| 平尾廉平編 | 大審院民刑手形判例全集 | 革裝 | 四六判 | 576 | 三、五〇 二二 | 大阪同書院 | 十月 |
| 京都帝國大學教授 瀧川幸辰 | 刑法講義 | 洋裝布入 | 四六判 | 321 | 二、五〇 一二 | 京都弘文堂 | 六月 |

▲英米法の長を擧げ、我會社法の解釋運用及び將來の修正に資すべき條項を指摘せるもの

▲法文を逐條的に解剖し各法文の解說に關聯して施行細則の條文及雜形を漏れなく引用す

▲學理並に實際社會の事情及要求との調和を顧慮して解說せるもので、社債篇、社債權者、集會論外六篇。

▲近來著しく發達してきた社債に就いて統一的の研究をなせるもので、社債法論、英米社債法論外二編卅七章。

▲破產手續規定につき綿密周到の論を盡し更に又獨佛の諸學說を揭げて我邦破產法と比較論及し我邦破產法の特質を明かにす。

▲手形篇總則の部につき其の法理を解說し多くの註を付して本說を補ひ疑義なからしむ。

▲手形の組織の大要と手形關係人の權利義務の有樣及その手續と手形の凡ゆる場合に於ける書方等を解說せるもの。

▲日常心得て置くべき手形法に關する事柄を平易に述べたもので、手形の種類、約束手形の振出外二十章。

▲最も事項の多い手形に關繫する民事刑事に就ての我大審院の判例を蒐集按排せるもので民事廿九項、刑事十項より成る。

▲刑法の意義、刑法の變遷、犯罪、個人の法益に對する犯罪、社會の法益に對する犯罪其他にて刑法を詳述せるもの。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京帝國大學教授 法學博士 牧野英一 | 法律學叢書(23) 刑法に於ける重點の變遷 | 菊判 布裝 | 459 | 三、五〇 一八 | 有斐閣 六月 |
| 法學博士 仁井田益太郎編 | 新法準據民事訴訟法判例集 | 菊判 布裝 | 790 | 六、五〇 二四 | 巖松堂 九月 |
| 東京地方部長 金澤潔 | 註解民事訴訟書式集 | 菊判 背革 | 194 | 二、〇〇 一二 | 巖松堂 十二月 |
| 元大阪區裁判所登記部主任 稻森啓造編著 | 逐條排擯任意並强制競賣判例全集 | 四六判 函入 洋布 | 320 | 二、二〇 一二 | 大同書院 七月 |
| 孫田秀春 | 勞働法通義 | 菊判 函入 洋布 | 376 | 二、八〇 一八 | 日本評論社 十二月 |
| 兒玉兼道 | 勞働法要論 | 菊判 函入 洋布 | 253 | 二、五〇 一八 | 中西書房 二月 |
| 孫田秀春 | 勞働法論 卷の二—各論上 | 菊判 函入 洋布 | 394 | 二、八〇 一八 | 日本評論社 一月 |
| 山中篤太郎 | 勞働組合法の生成と變轉 —英國— | 菊判 函入 洋布 | 673 | 四、八〇 一八 | 同文館 五月 |
| 文藝社編 | 出版法規總覽 | 菊判 函入 洋布 | 356 | 三、二〇 一八 | 文藝社 十月 |
| 早稻田大學教授 阪本三郎 | 日本鑛業法 | 菊判 函入 洋布 | 369 | 三、〇〇 一八 | 早稻田大學出版部 九月 |

▲我國は「淳風美俗」を標語として刑法改正を進めてゐる。本書は牧野博士が刑法の變遷を說かれたもの。

▲裁判所構成法施行以來の各裁判所の判例を網羅し各法條に立法理由及舊法を揭げ採錄の判例には關係事項の標示を附す。

▲新民事訴訟法に從つて裁判所、當事者及關係人が作成すべき一切の訴訟書類の書式を例示し且つ之に註解を加ふ。

▲不動產任意競賣事件（競賣手續と名義主の變更其他）不動產强制競賣事件（民訴施行前と公賣處分其他）

▲勞働法の基礎概念、勞働法の基本關係、勞働法の範圍及び系統、勞働調整、勞働組織、勞働協約外四章にて論述。

▲現代の社會經濟と法秩序、勞働法思想の史的發展、現代勞働法の基本觀念、社會主義及び社會政策と勞働法の關係其他にて論述。

▲第一章勞働調査（第一節失業之觀念外一節）第二章勞働契約（第一節總說、第二節勞働契約の締結外六節）にて詳述。

▲產業革命期勞働組合法、ヴイクトリア黃金時代勞働組合法、一九〇六年勞働爭議法及び一九一三年勞働組合法外一章。

▲凡ゆる出版に關する現行法規とそれに關する參考資料竝に歐米各國の出版法規等を蒐錄せるもので、出版法外卅二章。

▲鑛業法（鑛業、鑛業權、鑛業權者の權利義務外六章）砂鑛法（砂鑛業、砂鑛權外一章）にて鑛業及鑛業法の沿革を說述。







| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 奈良正路 | 市町村法律必携 | 三六判 函入 洋布 | 968 | 三、〇〇 一二 | 改造社 九月 |
| 栗栖赳夫 | 工場鐵道及鑛業抵當法論 | 菊判 函入 洋布 | 263 | 二、二〇 一八 | 日本評論社 六月 |
| 藏前工務所編 | 改正解說市街地建築物法 附—關係法令全集 | 菊半截 函入 革裝 | 390 | 三、五〇 一二 | 太陽堂 十月 |
| 警視廳交通課 笠本嘉一 | 自動車の取締標準 | 四六判 並製 | 114 | 六〇 四 | 德文堂 七月 |
| 生石眞雄編 | 各種營業取締法規 | 四六判 並製 | 179 | 一、二〇 六 | 生文社 四月 |
| 法學博士 清瀨一郎 | 改訂特許法原理 | 菊判 布裝 | 560 | 五、〇〇 一八 | 巖松堂 五月 |
| 法學士 柳井義男 | 活動寫眞の保護と取締 | 菊判 布裝 | 984 | 八、五〇 二四 | 有斐閣 六月 |
| 小副川猛編 | 官衙公署執務便覽 | 四六判 並製 | 411 | 一、九〇 八 | 臺北 杉田書店 十二月 |

▲市町村制を中心にした關係法規その他の諸問題を解說したもので、市町村制逐條研究其他三篇。附錄三篇。

▲主として鐵道抵當法工場抵當法及鑛業抵當法を通俗平易に解說し其他運河法漁業財團抵當法等の大要を併說す。

▲極めて複雜に又其範圍大なる市街地建築物法を說明せるもので、用途地域建築線及道路建築面積外十章。

▲自動車の諸規則及び構造の檢査、事故の扱方、運轉手に對する調方等を說述したもので車體の調方外五篇。

▲藝妓營業取締規則、飲食物其他物品取締に關する件、廣告物取締法、警察犯處罰令、畜犬取締法規則其他四十四篇。

▲今日の實踐的特許法、形式的特許法の眞精神を察し斯法解釋運用の原理を抽出したもの

▲著作物として活動寫眞を保護すべき法理を明かにし、進んで、我國及び各國法上の著作權竝に興行權の保護を解說す。

▲專ら實際を旨とし官衙公署の執務處理に就て述べたもので、服務、分限及懲戒、禮式、法令文書式其他十九章。

# 全國新聞雜誌廣告代理業

合資會社

# 大明通信社

東京市神田區北神保町三

電話九段（33）三五七二番






## 一〇、社會

### 社會學・社會史

| 書名 | 著者 | 形體製幀 | 頁數 | 定價送料 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新明正道 社會學（綱斯學叢書(5)） | | 四六判洋布入 | 312 | 一、五〇 一二 | 岩波書店 | 六月 | ▲社會學體系論、社會本質論、社會方法論、社會法則論、社會現象本質論其他六章にて說述した社會學入門書。 |
| 關榮吉 文化社會學概論 | | 菊判洋布入 | 301 | 二、五〇 一八 | 東京堂 | 十月 | ▲文化社會學派の立場から論じた社會學概論で、第一章文化社會學序論、第二章文化の社會性、第三章文化の受容、模倣、傳統、支配。 |
| 新明正道 獨逸社會學（社會科學叢書(16)） | | 新六洋四判布 | 233 | 一、〇〇 六 | 日本評論社 | 二月 | ▲現代の獨逸社會學の回顧、社會學の對照的傾向、方法的社會學の提唱にて獨逸社會學の現狀を論述。 |
| 今井時郎（東京帝大助教授） 社會學大綱 | | 菊判布裝 | 223 | 二、〇〇 一二 | 巖松堂 | 五月 | ▲獨自の見解と結構とにより我邦を中心として社會學の統制的全般的體系を樹立す。 |
| マックイーバー著 原實譯 社會學要論 | | 四六判並製 | 276 | 一、二〇 一〇 | 啓明社 | 七月 | ▲現代英米社會學界の權威マックイバー教授の"The Element of Social Science"の全譯。 |
| ブーヅレ著 牧野巽 本田喜代治譯 社會學入門 | | 四六判洋布入 | 259 | 一、五〇 一二 | 刀江書院 | 九月 | ▲社會學とは何か、通俗社會學と歷史、クルノ歷史と社會科學との關係論、分業論、マルクス主義と社會學等五章。 |





国立国会図書館 支部上野図書館

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三木清 | 社會科學の豫備概念 | 菊判 洋布入函 | 211 | 二、〇〇 一八 | 五月 | ▲解釋學的現象學の基礎概念、科學批判の課題、有機體說と辯證法外三篇にてマルクス主義の眞理内容を指摘したもの。 | | |
| 關榮吉 | 社會學研究 | 菊判 上製函入 | 426 | 三、五〇 二四 | 七月 | ▲第一編、形式社會學研究、第二編、歷史哲學研究、第三編、文化社會學及日本社會學研究。 | 東京帝大助教授 | |
| 今井時郎 | 社會誌學研究法 | 菊判 並製 | 193 | 一、八〇 一二 | 四月 | ▲社會誌學の原理及其の本質を概說したもので、先づ斯學の立脚點を明にし次で其理論的基準を確立せらる。 | 東京帝大助教授 | |
| 金子鷹之助 | 社會哲學史研究 | 菊判 布裝 | 1481 | 四、〇〇 一八 | 六月 | ▲英國の社會哲學について精研し研究の對象を主としてホッブス、ベンタム、マクイヴアー、コールにとる。 | 東京商大教授 | |
| 新明正道 | 群集社會學（ロゴス叢書3） | 新四六判 洋布 | 289 | 九五 六 | 五月 | ▲群集の分析（群集の概念、群集の特徴外二章）群集の問題（群集の淵源、群集の對策外一章）群集の理論を收む。 | | |
| 瀧川政次郎 | 日本社會史 | 菊判 洋布入 | 391 | 二、八〇 一八 | 十月 | ▲我國に於ける社會階級の發達變遷を論述せるもので、上古五章、中古六章、中世五章、近世六章、最近世より成る。 | | |
| 吳文炳 | 江戸社會史 | 菊判 上製函入 | 346 | 三、〇〇 二四 | 六月 | ▲全面的に江戸社會の客觀的實相を捉へたる文獻。 | 立教大學教授 | |
| ラツパポート著 山川菊榮譯 | 社會進化と婦人の地位（改造文庫第一部(32)） | 菊半截 布裝 | 221 | 二〇 四 | 二月 | ▲家族制度と國家制度の起原と發達及びそれに伴ふ婦人の地位の變遷を歷史的唯物論の立場から叙したもの。 | | |
| エンゲルス著 西雅雄譯 | 家族私有財産及國家の起原（岩波文庫(531—532)） | 菊半截 並製 | 205 | 四〇 四 | 六月 | ▲前史の文化諸階段、家族、イロクオイ人の氏族、ギリシヤ人の氏族、アテネ國家の成立と野蠻と文明其他三章。 | | |
| レヴインスキー著 貴島克己譯 | 財産起源論（改造文庫第一部(38)） | 菊半截 布裝 | 111 | 一〇 二 | 二月 | ▲財産の原始的狀態に關して社會學的經濟史的に廣汎なる立場から論究したレヴインスキーの著の譯、財産の起源以下四章。 | | |
| ボール・ラファルグ著 荒畑勝三譯 | 財産進化論（改造文庫第一部(42)） | 菊半截 布裝 | 177 | 二〇 四 | 十一月 | ▲原始時代の財産制度よりプルヂョア革命の成功に至る迄を論述せるもので、近世の財産形式外四章。 | | |
| 平林初之輔 | 近世社會思想講話 | 四六判 洋布入 | 309 | 一、八〇 一二 | 十二月 | ▲初學の人にもわかるやうな平易に叙述した書で、資本主義社會の組織、マルクスと科學的社會主義外十章。 | | |
| 室伏高信 | 社會思想批判（室伏高信集） | 四六判 並製 | 423 | 一、六〇 八 | 四月 | ▲國家社會主義、修正派社會主義、共產主義無政府主義、サンヂカリズム、モリスの藝術的社會主義外五篇。附錄社會民主主義。 | | |
| 川邊喜三郎 | 社會思想批判（早稻田大學教授 駒澤大學教授） | 四六判 洋布入 | 511 | 二、五〇 一二 | 三月 | ▲社會科學の生活原則に基き守舊思想を率直に檢討し、左傾思想の種類系統に涉り、各方面から綜合的に解剖批判したもの。 | | |
| 青野季吉 | 社會思想と中產階級（春秋文庫(20)） | 三六判 洋布 | 161 | 五〇 四 | 九月 | ▲社會思想概論（科學的社會主義外四章）中間階級論（中間階級の概念）知識階級に關する斷片二章にて論述。 | | |
| レードラー著 青野季吉譯 | 社會思想物語 上卷 | 四六判 洋布入 | 357 | 一、五〇 一二 | 六月 | ▲社會主義の重要な各派の主要學說を叙述し各派相互の影響等に就て記したもので、二編十六章より成る。 | | |
| ストダート著 山田敬德 内館忠藏譯 | 文明に對する叛逆 | 四六判 並製 | 370 | 二、〇〇 一二 | 九月 | ▲文明の負擔、不平等の鐵則、劣等者の報復原始狀態の魅惑、澎湃たる反文明の潮流、劣人の謀叛外二章。 | 立命館大學出版部 | |
| 室伏高信 | 東方人の理想 | 四六判 並製 | 312 | 一、六〇 八 | 五月 | ▲東方人の宣言、光は東方より、東洋の政治思想、東洋の社會經濟思想、東洋人の理想外七章を收む。 | | |
| 室伏高信 | 街頭の社會學 | 四六判 並製 | 343 | 一、六〇 八 | 三月 | ▲文明は何處へ行く、新しい型の生長、アメリカに眼を開け、鶴見祐輔の解剖其他廿三篇にて變轉極りなき世態を解剖批評したもの。 | | |



## 社會思想・社會主義

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 室伏高信 | 反亂の社會學 | 四六判並製 | 354 | 一、六〇 一八 | 田舍社 十一月 |
| 室伏高信 | 文明の沒落 土に還る | 四六判並製 | 325 | 一、二〇 八 | 田舍社 一月 |
| 大阪毎日新聞社編 | われ等のユートピア | 菊判並製 | 329 | 八〇 八 | 大阪毎日新聞社 二月 |
| 大山郁夫 | 嵐に立つ | 四六判函入洋布 | 559 | 二、五〇 一二 | 鐵塔書院 七月 |
| 石川三四郎 | 一自由人の放浪記 | 四六判函入洋布 | 717 | 二、五〇 一二 | 平凡社 八月 |
| 幸德秋水 | 幸德秋水思想論集（解放群書(39)） | 四六判並製 | 248 | 一、〇〇 六 | 解放社 十月 |
| 中井兆民 | 中井兆民集（改造文庫第一部(37)） | 菊半截布裝 | 212 | 二〇 四 | 改造社 三月 |
| バアナアド・シヨウ著 加藤朝鳥譯 | 社會主義と資本主義（解放群書(38)）上卷—有職婦人のために | 四六判函入背洋布 | 390 | 一、五〇 一二 | 春秋社 二月 |
| バアナアド・シヨウ著 加藤朝鳥譯 | 社會主義と資本主義（解放群書(39)）下卷—有職婦人のために | 四六判函入背洋布 | 499 | 二、〇〇 一二 | 春秋社 九月 |
| 採果汲水 | 資本主義—その存在理由批判— | 菊判函入上製 | 136 | 一、〇〇 八 | 文明社 三月 |

▲「街頭の社會學」以後に於ける著者のエッセイを集錄したもので、日本への反亂、この時代を見よ外廿九篇。

▲文明の沒落（第一章宣言以下六章）土に還る（第一章進歩乎沒落乎其一以下六章）の改訂合冊普及版。

▲加藤光一、山路貞三、土屋清外五氏の大毎東日兩新聞社の懸賞「われ等のユートピア」の當選論文八篇。

▲著者が最近約三ヶ年間に發表した諸論文のうちから特に無產階級の政治的實踐上の諸問題を論究せる卅五篇を收む。

▲思ひ出、開戰、白國脫走まで、砲聲を聞きつゝ、燃ゆる地上、歸國まで其他異邦放浪中の見聞と感想記五篇。

▲國民の麻痺、選擧法改正案、社會主義の迫害、平民と社會主義、社會主義と直接立法、余が思想の變化外卅六篇。

▲衆議院議員の一大義務、內閣と議會の勝負大臣たることは六かしきものなる乎、政治的藝人其他五十篇を收む。

▲塞れた問題が開く、分配、どれほどの分配を？働かざれば富なし其他にて知識社會の婦人に社會主義と資本主義を論述した書。

▲下卷は、分配と支配、家內資本、銀行の國營、寄生蟲的プロレタリヤの反逆、革命、ペロレーション等卅五項。

▲共產主義の降伏、社會主義の批判、社會化支配と階級、社會漸進主義等にて資本主義の存在理由批判を述べた書。







| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 山內房吉編 | 主義と思想の解說（解放群書(23)） | 四六判並製 | 187 | 一、〇〇 六 | 解放社 六月 |
| 大原社會問題研究所編 | 日本社會主義文獻 第一輯 | 菊判函入布裝 | 264 | 二、〇〇 一八 | 同人社 十月 |
| エンゲルス著 堺利彥譯 | 社會主義の發展（改造文庫一部(10)） | 菊半截布裝 | 112 | 一〇 二 | 改造社 二月 |
| 石川三四郎 | 社會主義運動史（社會科學叢書(2)） | 新四六判洋布 | 228 | 一、〇〇 六 | 日本評論社 七月 |
| 延島英一 | 南歐社會運動史（解放群書(38)）伊太利・西班牙・葡萄牙 | 四六判並製 | 232 | 一、〇〇 四 | 解放社 六月 |
| 山川均 | インタナショナルの歷史（社會科學叢書(20)） | 新四六判洋布 | 178 | 九〇 六 | 日本評論社 四月 |
| 土田杏村 | ユートピア社會主義（社會科學叢書(22)） | 新四六判洋布 | 109 | 七〇 四 | 日本評論社 六月 |
| ヰリアムモリス著 本間久雄譯 | 吾等如何に生くべきか | 四六判布裝 | 232 | 一、八〇 一二 | 東京堂 九月 |
| 室伏高信 | クロポトキン田園・工場・仕事場 | 四六判並製 | 313 | 一、六〇 一〇 | 田舍社 六月 |
| バクーニン著 本壯可宗譯 | 神と國家（改造文庫第一部(14)） | 菊半截布裝 | 125 | 一〇 二 | 改造社 二月 |

▲空想的社會主義、國家社會主義、無政府主義、サンヂカリズム、ギルド社會主義、科學的共產主義、レーニン主義。

▲明治十五年より大正三年に至る本邦社會主義文獻を發行年代順に單行本、定期刊行物を排列收錄す。

▲空想的社會主義（フランス革命の意義外八項）マルクスの二大發見（五項）科學的社會主義（唯物史觀の前提外十一項）

▲社會主義の起原、ユートピヤ社會主義、保守的反動と自由主義、社會主義思想の開花其他八章にて論述。

▲伊太利篇（若干の先驅者、合法的勞働黨外廿篇）西班牙篇（ムンツの運動、政府の壓迫外十二篇）葡萄牙一篇を收む。

▲第一インタナショナル、第二インタナショナル、第三インタナショナル、戰後の第二インタナショナル其他三章。

▲古來の一般的ユートピヤ構想とユートピヤ社會主義とを社會思想史的に叙述したものでユートピヤの構想外五章。

▲有要の仕事と無用の勞苦、藝術の目的、新時代の曙、吾等如何に生くべきか等四篇を收む。—改訂版—

▲工業の分散、農業の可能性、小工業と工業的村落、頭腦勞働と手仕事其他五章にて社會經濟の主要問題を論述せるもの。

▲流浪の空に殆どその生涯を終へた露西亞の所謂アナアキストバクウニンの手紙や報告の斷片を收めたもの、進歩と否定と以下廿三篇。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 室伏高信 | 無政府主義研究 | 四六判並製 | 374 | 五〇 | 四四 | 田舍社 | 十二 | ▲無政府主義の思想（近代無政府主義の先驅外十二章）無政府主義とは何か（クロポトキンの思想外十一章）。 |
| 室伏高信 | 共産主義と無政府主義 | 四六判並製 | 374 | 一、六〇 | 八八 | 田舍社 | 八月 | ▲共産主義—共産主義の理論、共産主義の農民政策、第三インタナショナル外四章。無政府主義—無政府主義の批判外一章。 |
| 室伏高信 | 共産主義批評 | 四六判並製 | 245 | 八〇 | 八八 | 田舍社 | 十二月 | ▲共産主義の理論、共産主義の農民政策、第三インタナショナル、勞働反對、ボルシエヰキの虐政の話外二章。 |
| 來原慶助 | 赤禍 —共産主義眞相— | 四六判上製 | 273 | 一、〇〇 | 六 | 巖松堂 | 七月 | ▲右傾にも非ず左傾にも非ざる著者が公平無私の立場より通俗的に露西亞共産主義の眞相を說述せるもの。 |
| マスタ・オヴ・ロース 宮本桂仙 | 共産主義の崩壞 | 四六判函入洋布 | 283 | 一、五〇 | 一〇 | 代々木書院 | 六月 | ▲共産主義の恐るべき理由を事實に據て闡明した書で、社會主義と共産主義、共産主義の理論的崩壞外四章。 |
| 九州帝大教授 藤澤親雄 | 共産主義排撃の根據 —國際主義と日本の新しき假想— | 四六判函入洋布 | 366 | 一、五〇 | 一二 | タイムス出版社 | 九月 | ▲國家の國際社會に對する根本的關係を究明したもので、社會哲學より觀たる日本國際の價値以下十四章。 |
| 新版 無產者新聞社編 | 無產者新聞論說集 | 四六判並製 | 374 | 一、〇〇 | 六 | 上野書店 | 十二月 | ▲分裂は無產階級の大損害、無產政黨の再建說、メーデーと總聯合、共同戰線を破る小ブルジョア黨外百十四篇。 |
| 日刊無產者新聞發刊發起人會編 | 獄窓の同志より | 四六判並製 | 126 | 七〇 | 四 | 希望閣 | 七月 | ▲警戒すべきこと（高井安太郎）元氣にエネルギッシュに（豐原五郎）其他獄窓からの通信を收めたもの。—發賣禁止— |
| 田中惣五郎 | 叛逆家列傳（解放群書(41)） | 四六判並製 | 258 | 一、〇〇 | 六 | 解放社 | 十一月 | ▲上古より最近に亙つての叛逆相を述べたもので、手研耳命、天草四郎時貞、高野長英、幸德秋水其他十篇。 |
| 天草麟太郎 | 日本共產黨大檢擧史 | 四六判並製 | 420 | 一、二〇 | 八 | 武俠社 | 十一月 | ▲一世を驚倒せしむるに足る日本共產黨の眞相を公表せるもので、日本共產黨大檢擧迄の社會狀勢外廿二章。發賣禁止改訂版 |



| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北一夫編著 | 日本共產黨始末記 | 四六判布裝 | 346 | 一、五〇 | 八 | 鹽川書店 | 十一月 | ▲日本共產黨秘密結社の發端から全國司法官憲の手によつて掃蕩的に檢擧されるまでの記錄を綴つたもの。 |
| 三井甲之 | 我等は如何にこの凶逆思想を處置すべきか！（しきしまの道叢書(1)） | 四六判並製 | 109 | 三〇 | 四 | 原理日本社 | 六月 | ▲序論、本論、結論の三篇に分けて、我等は如何にしてこの凶逆思想を處置すべきかの問題を論述せるもの。 |
| フイゲナア女史著 木村利美譯 | 黎明を目指して —女革命家の手記— | 四六判並製 | 323 | 一、二〇 | 六 | マルクス書房 | 六月 | ▲革命運動に加はり人民の意志の執行委員の一人となり後捕はれて廿年間牢獄生活を送つた女史の自叙傳。—發賣禁止— |
| 千葉命吉 | 危險思想と其の批判 | 四六判函入洋布 | 321 | 二、三〇 | 二二 | 郁文書院 | 四月 | ▲危險思想の概念、危險思想の歷史、危險思想の分析、生活の源本的姿體其他四章にて危險思想に就いて詳述す。 |
| 解放社編 | 泰西怪文書集（解放パンフレット） | 四六判並製 | 159 | 一〇 | 二 | 解放社 | 十二月 | ▲獨逸の部を收めたもので、ラザアレと其の死、フウゴオ・ハアセの遭難、クルトアイスナアア、ランドダウアの虐殺の四篇。 |
| 解放社編 | 雄辯法教程（解放群書(41) プロレタリア） | 四六判並製 | 200 | 一、〇〇 | 六 | 解放社 | 十二月 | ▲プロレタリア農民運動の有力なる武器である雄辯法を研究せるもので、プロレタリア雄辯道外五篇。 |

# マルキシズム・レーニズム

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| セム・コフスキー著 マルクス書房譯編 | 史的唯物論（マルクス學教科書(2)） | 四六判並製 | 305 | 一、〇〇 | 六 | マルクス書房 | 九月 | ▲マルクス學教科書第三册及第四册の合本でマルキシズムの史的準備、基礎及上層建築の理論外四章。—合本— |
| セム・コフスキー編 マルクス書房譯編 | 自由と必然（マルクス學教科書第六册(4)） | 四六判並製 | 188 | 七〇 | 四 | マルクス書房 | 六月 | ▲史的唯物論の例證畫—プレハノフ外十四篇）自由と必然（偉人の役割について—エンゲルス外七篇） |
| セム・コフスキー編 マルクス書房譯編 | 辯證法（マルクス學教科書(7)） 第五編 | 四六判並製 | 99 | 五〇 | 四 | マルクス書房 | 九月 | ▲ヘラクレイトスからの斷片、チエルヌイシエフスキー辯證的方法について、ヘーゲルとマルクスの辯證法外十四章。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| セム・コフスキー編<br>マルクス書房譯編 | 辯證的唯物論<br>第六編<br>（マルクス學教科書(8)） | 四六判<br>並製 | 91 | 五〇 | マルクス書房 | 九月 | ▲デモクリスの唯物論（ランゲ）十八世紀フランス唯物論者中より（ヘルウエシウス）外十九章。 | | |
| セム・コフスキー編<br>マルクス書房譯編 | 世界觀としてのマルキシズム<br>第七編<br>（マルクス學教科書(9)） | 四六判<br>並製 | 76 | 三〇 | マルクス書房 | 十月 | ▲科學の發達に於けるマルキシズムの任務（カウツキー）ベンタムの巧利主義について（マルクス）外十三篇。 | | |
| レーニン著<br>アドラツキー編<br>田村清吉譯 | 史的唯物論 | 四六判<br>並製 | 248 | 一、〇〇 | マルクス書房 | 十一月 | ▲レーニンの著作から哲學に關するものを抜萃せるもので、哲學的唯物論、唯心論との闘爭外二章。 | | |
| プレハノフ著<br>川内唯彦譯 | 史的一元論 | 四六判<br>上函入製 | 583 | 二、〇〇 | 鐵塔書院 | 十一月 | ▲十八世紀のフランス唯物論、王政復古時代のフランス史家外四章、附錄エルイーメチニコフの著者に就いて外三章。 | | |
| メーリング著<br>岡田宗司譯 | 唯物史觀 | 四六判<br>並製 | 175 | 七〇 | 叢文閣 | 六月 | ▲史的唯物論に就いて（十二章）カントデイーツゲン及びマツハと史的唯物論の二論文及び附錄二章。 | | |
| アーデボーリン著<br>永田廣志譯 | 唯物論史 | 菊判<br>上函入製 | 407 | 二、五〇 | 白揚社 | 十一月 | ▲フランシス・ベーコン、トマス・ホツブス、ベネディクトウス・スピノーザ、スピノーザの世界觀外五章を收む。 | | |
| レーニン著<br>川内唯彦譯 | ヘーゲル論理の科學大綱 | 四六判<br>並製 | 112 | 五〇 | 叢文閣 | 九月 | ▲「マルクス主義の旗の下に」から譯出せるもので、ヘーゲル論理の科學大綱及びデボーリンの緒言を收む。 | | |
| エンゲルス著<br>マルクス<br>佐野文夫譯 | フオイエルバッハ論<br>（岩波文庫(507)） | 菊半截<br>並製 | 109 | 二〇 | 岩波書店 | 八月 | ▲フオイエルバッハとドイツ古典哲學の終結（エンゲルス）フオイエルバッハ論綱（マルクス）の二篇を收む。 | | |
| エンゲルス著<br>加藤正<br>古祐二郎譯 | 自然辯證法<br>上巻<br>（岩波文庫(563—564)） | 菊半截<br>並製 | 236 | 四〇 | 岩波書店 | 十二月 | ▲自然科學の諸成果を綜合し、その理論的諸問題に解答を與へたもので、辯證法と自然科學外十五章。 | | |
| レーニン著<br>服部辨之助譯 | カール・マルクス | 菊半截<br>並製 | 108 | 七〇 | 理想社出版部 | 九月 | ▲ラスキの"Karl Marx: An Essay"の飜譯でマルクスの生涯及び思想に關しての批判的研究書。 | | |



| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ク<br>烏海<br>森濱<br>島谷<br>島<br>正克<br>己<br>金 | 一著<br>筥助<br>諤 | 改造文庫第一部(47)<br>マルクスの歴史社會竝に國家理論 | 菊半截<br>布裝 | 694 | 七〇 | 改造社 | 十一月 | ▲マルクスの民族社會竝に國家觀、社會の生活機能としての經濟方法、唯物的歷史理論の批評外七章。 | |
| ジョン・スパルゴー著<br>渡邊勇助譯 | マルキシズムと宗教 | 四六判<br>並製 | 223 | 八〇 | 内觀書房 | 六月 | ▲理想主義の宗教と唯物思想の傾向の多いマルキシズムの各々の本領を述べたもので、宗教と社會主義者の綱領外四章。 | | |
| マックス・アドラー著<br>山本琴譯 | マルキシズム國家觀<br>（改造文庫第一部(48)） | 菊半截<br>布裝 | 451 | 五〇 | 改造社 | 九月 | ▲政治と社會學・國家と社會學的統一、社會概念の發展について、マルクスに於ける社會概念の展開外十五章。 | | |
| デイツゲン著<br>石川準十郎譯 | マルキシズム認識論<br>（改造文庫第一部(11)） | 菊半截<br>布裝 | 112 | 一〇 | 改造社 | 二月 | ▲「一社會主義者の認識論の領域への征入」（デイツゲン全集第三巻所載）の全譯で、造られたる精神は自然の内部に透入せず以下四篇 | | |
| アー・デボーリン著<br>河野重弘<br>永田廣志譯 | 哲學とマルクス主義 | 四六判<br>並製 | 545 | 一、五〇 | 上野書店 | 二月 | ▲「マルクス經濟學のために」及び「經濟と權力」の二論文を收む。―改訂版― | | |
| 河上肇 | マルクス主義批判者の批判 | 四六判<br>洋布入 | 312 | 一、五〇 | 希望閣 | 十一月 | ▲土田杏村氏に答へた「辯證法的唯物論に就て」を始め、マルクス主義經濟學の爲に、經濟と權力外論文六篇。 | | |
| 高畠素之 | 批判マルクス主義 | 四六判<br>洋布入 | 340 | 一、八〇 | 日本評論社 | 九月 | ▲批判（唯物史觀の改造、社會革命と政治革命外八章）主張（大衆の心理、國家社會主義の立場外十四章）。 | | |
| 政治批判社編 | マルクス主義講座 | 四六判<br>上函入製 | 297 | 一、〇〇 | 上野書店 | 九月 | ▲「マルクス主義講座」中發賣禁止になつた十、十一の二巻の改訂版で、帝國主義論（細川嘉六）以下三篇及び資料收載。 | | |
| マルクス<br>田畑三四郎譯 | マルクス主義の基礎 | 菊判<br>洋布入 | 313 | 一、五〇 | 白揚社 | 二月 | ▲フランツ・デイーデリツヒ編纂にかゝるマルクス・プレヴイールの飜譯で、革命の認識時代資本主義的生產時代其他を說述。 | | |
| 河上肇 | マルクス主義のために | 四六判<br>並製 | 99 | 四〇 | 希望閣 | 六月 | ▲「マルクス經濟學のために」及び「經濟と權力」の二論文を收む。―改訂版― | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小泉信三 | マルクシズムとボルシエギズム | 菊判 洋装 | 258 | 二、三〇 一八 | 六月 | ▲唯物史觀と社會主義、プランキズムとマルクシズム、ボルシエギズム概論、無產階級獨裁の將來支那共產黨運動外六篇。 |
| プハーリン著 スタールリン和田英二譯 | マルクス主義文庫(13) マルキシズム的指導に對する二文獻 | 四六判 並製 | 121 | 五〇 四 | 二月 | ▲永久革命の理論に就て（プハーリン）戰爭の危險と支那革命に就て（スターリン）の二論文を譯し收めたもの。 |
| 高橋正男譯 | マルクスエンゲルスの手紙(三) | 四六判 並製 | 372 | 一、五〇 八 | 一月 | ▲主としてケルン共產黨事件、共產黨同盟の分裂と解體、バクウニンに關する中傷其他書翰集の全譯。 |
| レーニン著 廣島定吉譯 | 農業問題と「マルクス批判家」 | 四六判 並製 | 197 | 八〇 四 | 八月 | ▲收穫遞減の法則、地代理論、農業に於ける機械、都市と農村との對立の揚棄、小經營大經營の生產法外四項。 |
| ポール・ラファルグ著 齋藤鐵也譯 | マルクス主義文庫(12) マルクスエンゲルスの農民に關する見解 | 四六判 並製 | 102 | 四〇 二 | 二月 | ▲資本主義の下に於ける農民の文化に關するマルクス及びエンゲルスの見解其他九章にて論述。 |
| レーニン著 高橋一夫譯 | マルクス主義文庫(14) 農業問題とマルクス批判家 | 四六判 並製 | 213 | 八〇 六 | 十月 | ▲收穫遞減の法則、地代理論、農業に於ける機械、都市と農村との對立の止揚、小經營及大經營の生產力外四章。 |
| エンゲルス著 加田哲二譯 | 岩波文庫(554—555) 住宅問題 附—プルウドンとマルクス | 菊半截 並製 | 219 | 四〇 四 | 十二月 | ▲プルウドンは如何に住宅問題を解決するかブルジョアジイは如何に住宅問題を解決するか外一編。附錄一編。 |
| メーリング編 清水三郎譯 | マルクス主義文庫(15) 反動期に於けるマルクス・エンゲルス | 四六判 並製 | 110 | 四〇 四 | 十一月 | ▲マルクス、マルクス夫人及びエンゲルスが一八五〇—六〇年代にアメリカに在つた同志ワイデマイヤーに與へた手紙を收む。 |
| 山口信夫・吉田三郎・高山洋吉著 マルチエリヤコフ（マルチノフ）著 | マルクス主義と農民問題 | 四六判 並製 | 346 | 一、五〇 六 | 五月 | ▲農民と革命（メチエリアコフ）レーニンとロシアの農業問題（マルチノフ）の二篇を譯したもの。—改訂版— |
| 村山藤四郎 | マルクス主義と農業問題 | 四六判 洋装 | 214 | 一、〇〇 一二 | 六月 | ▲マルクス經濟學說と農業問題、地代論、零細土地所有制、社會主義的農業政策、農業と資本主義等六章。附錄二篇。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ルツボール著 松本信夫譯 | レーニンと哲學 | 四六判 並製 | 348 | 一、三〇 六 | 南蠻書房 十月 | ▲革命に對する哲學の關係の問題に就いて說述せるもので、存在と思惟の問題、唯物論的辯證法の問題外四章。 |
| 稻村順三譯 | レーニン・彼の生涯と事業 | 四六判 並製 | 300 | 一、二〇 六 | 改造社 五月 | ▲事業篇、人間篇、追憶篇の三部に分けてスターリン其他ロシア革命の中心人物廿數氏がレーニンに就いて記述した廿七篇を收む。 |
| プハーリン著 佐々木孝丸其他譯 | レーニン主義の眞髓 | 四六判 並製 | 362 | 一、〇〇 六 | 白揚社 四月 | ▲プハーリンの「社會民主主義の行方」及びスターリンの「レーニン主義の根本問題」の論文の合冊の譯である。 |
| レーニン著 藏原惟人 武藤丸楠譯 | 第一革命と其前夜 | 四六判 並製 | 116 | 一、三〇 一〇 | 白揚社 四月 | ▲二つの戰術、黨組織と黨刊行物、社會主義と無政府主義、一般的國民の××問題に就て外六項—發賣禁止— |
| レーニン著 雀川正孝譯 | 反動時代 | 四六判 並製 | 277 | 一、〇〇 六 | 白揚社 十一月 | ▲一九〇六年末—一九一〇年末のレーニンの主要論文を收めたもので、メンシエヴイズムの危機外十五章。 |
| レーニン著 廣島定吉譯 | プロレタリアートの政治的任務 | 四六判 並製 | 243 | 九〇 四 | 白揚社 十月 | ▲マルクス主義者の政治的組織的任務を究明せるもので、吾々は如何なる遺產分を拒絕するか？外十三章。 |
| レーニン著 廣島定吉 田畑三乃四郎 武藤丸楠譯 | レーニン全集(4) イスクラ時代 上卷 | 菊判 洋装 布入 | 458 | 二、五〇 一八 | 白揚社 九月 | ▲一九〇〇年より一九〇二年始めの時期に書かれたレーニンの「勞働者と農民階級」其他廿五章を收む。 |
| レーニン著 廣島定吉譯 | レーニン全集(4) イスクラ時代 上卷—第一分冊 | 菊判 並製 | 80 | 五〇 四 | 白揚社 七月 | ▲一九〇〇年春から一九〇二年の初めの論文で、イスクラ及びゾリヤー編輯部の宣言草案外三章。 |
| レーニン著 田畑三四郎譯 | レーニン全集(4) イスクラ時代 上卷—第二分冊 | 菊判 並製 | 69 | 五〇 四 | 白揚社 七月 | ▲イスクラ及びゾリヤーの論文其他、我等の運動の最も緊急なる諸任務、支那戰爭、偶々の覺え書外六章。 |
| レーニン著 武藤丸楠譯 | レーニン全集(4) イスクラ時代 上卷—第三分冊 | 菊判 並製 | 68 | 五〇 四 | 白揚社 八月 | ▲勞働者と農民階級（廣島定吉譯）セームストヴオに對する追究と自由主義のハンニバル（武藤丸楠譯）外二篇。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| レーニン著 田畑三四郎 武藤丸楠譯 | レーニン全集(4) イスクラ時代 上卷—第四分冊 | 菊判並製 | 75 | 五〇 四 | 白揚社 八月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊— | 菊判函入洋布 | 368 | 二、五〇 一八 | 白揚社 九月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊の一— | 菊判並製 | 78 | 五〇 四 | 白揚社 八月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊の二— | 菊判並製 | 82 | 五〇 四 | 白揚社 八月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊の三— | 菊判並製 | 68 | 五〇 四 | 白揚社 八月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊の四— | 菊判並製 | 63 | 五〇 四 | 白揚社 九月 |
| レーニン著 高山洋吉譯 | レーニン全集(20) 一九一七年 —第二分冊の五— | 菊判並製 | 71 | 五〇 四 | 白揚社 九月 |
| レーニン著 山川菊榮譯 | 背教者カウツキー | 四六判並製 | 168 | 八〇 四 | 白揚社 六月 |
| カウツキー著 文學士 近藤宗男譯 | 基督教の發生と古代無產階級 | 四六判函入上製 | 646 | 二、五〇 一二 | 社會評論社 十一月 |
| プレハーノフ著 外村史郎譯 | プレハーノフ選集(6) わが批判者の批判 | 四六判並製 | 469 | 一、五〇 八 | 叢文閣 五月 |

▲ゼームストヴォに對する追究と自由主義のハンニバル(二)、貴重な告白、恐慌の教訓、賦役地主の活動等四篇。

▲一九一七年四月末より六月初めに至る間に於けるレーニンの論文を收めたもので、ロシア社會民主勞働黨全露四月會議其他。

▲ロシア社會民主勞働黨のペトロラード市部會議の演說及全露四月會議に至る迄の論文廿篇を收む。

▲狂氣染みた資本家か智慧の足りない社會民主主義か？危機の教訓、愚かな嗤笑外十三論文を收む。

▲ロシア社會民主勞働黨全露四月會議(續)、黨綱領修正のための資料、六月初めに至るまでの論文等三章より成る。

▲六月始めに至るまでの論文(續)、フインランドとロシア、民衆はブルジョアの〇〇で如何に恐怖せしめられるか等の諸論文を收む。

▲對外政策の祕密、一人のナポレオンが待望されてゐる、經濟瓦解は迫る、民主主義からのもう一つの逸脫外十八章。

▲ブルジョア民主主義とプロレタリア民主主義、搾取者と被搾取者との間に平等はあり得るか外六章。

▲最も古き歷史と有力なる傳統とを有する基督教に就て其發生の過程を說いたもので、イエスの人物外三篇。

▲プレハーノフ全集十一卷「批判者の批判」の本質的部分をなすエベルンシュタインに對する駁論外二篇を收む。







| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| プハーリン著 スターリン 川波鐵也譯 | 勞働者に答ふ | 四六判並製 | 114 | 四〇 四 | 希望閣 七月 |
| 佐野學 西雅雄編 | スターリンプハーリン著作集(9) プロレタリア革命と文化 | 四六判並製 | 479 | 一、三〇 八 | 白揚社 七月 |
| 佐野學 西雅雄編 | スターリンプハーリン著作集(15) 世界資本主義の現勢 | 四六判並製 | 508 | 一、三〇 八 | 白揚社 一月 |
| レーニン著 プレハーノフ 田畑三四郎譯 | トルストイ主義批判 | 菊判函入洋布 | 229 | 一、五〇 一八 | 白揚社 七月 |
| レーニン著 中野重治 林房雄譯 | インタナショナル | 四六判函入洋布 | 301 | 一、五〇 一二 | 白揚社 二月 |
| 今村保男譯 | インタナショナル叢書(2) コミンテルンと戰爭 | 四六判並製 | 163 | 八〇 四 | 上野書店 四月 |
| 東條俊三譯 | コミンテルン第大宣言根本方針決議 | 四六判並製 | 121 | 六〇 四 | 上野書店 二月 |
| コムミンテルン編 田英 木田緞房譯 | コムミンテルン十年と社會主義の建設 | 四六判並製 | 93 | 四〇 二 | マルクス書房 十月 |
| 產業勞働調査所譯編 | 現下の國際情勢とコミンテルンの戰略・戰術 | 四六判並製 | 311 | 一、〇〇 六 | マルクス書房 十二月 |
| 藤原信孝 | 國際共產黨の話 第三インターナショナル— | 菊半截洋布 | 303 | 五〇 六 | 內外書房 一月 |

▲社會民主黨下勞働者の質問に對するプハーリンの解答及アメリカ勞働組合主義者の質問に對するスターリンの解答を收む。

▲社會主義建設の爲めに如何なる過程を辿らねばならぬかを論じた書で、プロレタリヤ革命と文化其他四篇。

▲マルクス主義的政策の基礎をなすところの具體的な、政治的、經濟的情勢の科學的分析を試みた諸論文が收められてある。

▲トルストイ及びトルストイ主義をマルクス主義の立場より評價したもので、ロシア革命の鏡としてのレフトルスイ外五章。

▲インタナショナルの崩壞(九項)第三インタナショナルの歷史的地位(新聞記者の覺書其他十三篇)

▲コミンテルン前史の諸文書(社會主義インタナショナルの狀勢と任務以下四項)コミンテルンの諸文書(十二項)。

▲全世界のプロレタリアートに對するコミンターンの宣言、コミンターンの根本方針、白色テラーに關する決議其他九篇。(發賣禁止)

▲コミンテルンの鬪爭形態を叙した「コムミンテルン十年史」及鬪爭激化の必要を指示した「社會主義建設の成就と困難」の二篇。

▲—發賣禁止—

▲第一インターナショナルの概要、第二インターナショナル、第三インターナショナル外五章にて說く。



國立國会図書館

文部上野図書

## 勞農ロシヤ研究

スペルトニコフ著 三好信譯 プロレタリア國際知識 四六判並製 288 一、〇〇 上野書店 一月
▲ベルトニコフ竝にスヴエトロフ著、プハーリン監修の「政治教程」の第八章より第十一章に至るまでの全譯。

ケルデエンツエフ著 須田倫譯 ロシヤ共産黨小史 四六判並製 275 一、〇〇 白揚社 九月
▲ロシヤ社會民主勞働黨の誕生、黨の組織、ボリシエヴイーズムは組織される、革命の轉換期に於て外三章。

近藤榮藏譯 露國共産黨內訌錄 四六判並製 395 一、五〇 改造社 十一月
▲中央委員會及中央監督委員會合同協議會と反對派、以下プラヴダ紙に連載された十五篇を收む。附錄ヨフエの自殺に就て。

ロシヤ國立圖書出版所編 廣島定吉譯 ロシヤ大革命史 第一卷 菊判並製 219 一、五〇 南蠻書房 十月
▲一九一七年のロシヤ革命の根源と事件とを記述せるもので、革命の前提諸條件外二部十三章。

ガスラフスキー、カントロヴイチ著 ロシア問題研究所譯 ロシヤ大革命記 —二月革命篇— 四六判並製 390 三、〇〇 ロシア問題研究所 十月
▲二月革命勃發の日、革命とロシアの各地方、革命と軍隊生活、革命の勝利、嵐の前の靜穩、ソヴエト會議、最後の危機の七篇。

ジョン・リード著 樋口弘譯 佐々木元十 世界を震撼させた十日間 四六判並製 417 一、五〇 弘津堂 三月
▲社會主義者リードが心血を濺いだ革命實見記で、背景、來らんとする嵐、驀進、勝利、農民會議外七章。—發賣禁止—

プレハーノフ著 佐々木孝丸譯 プレハーノフ著作集(1) ロシヤ階級鬪爭史概說 四六判並製 267 一、〇〇 白揚社 二月
▲支配階級がその支配を維持する爲に常に用ひる手段の一つたる歷史の曲庇を明快に論破したロシヤ社會思想史の序論の譯。

ピオントコフスキー著 萩原厚生 伊藤好道譯 ソヴエート政權獲得史 四六判並製 251 一、〇〇 南蠻書房 七月
▲佛譯十月革命俗史からの重譯で、ロシヤに於ける革命の諸條件、ロシヤにおける社會階級と戰爭外八章。

ボクロフスキイ著 外村史郎譯 ロシヤ社會史 第一卷 四六判並製 276 一、〇〇 叢文閣 六月
▲ロシヤ史概要の太古より十九世紀末までのもの、譯で、ロシヤ史の初世紀、モスクワ國家の形成外八章。

ボクローフスキイ著 外村史郎譯 ロシヤ社會史 第二部 四六判並製 166 七〇 叢文閣 二月
▲ナロードニキ革命、勞働者運動、マルクス主義者以前にロシア史は如何にまた誰によつて書かれたかの三章。

ルイレンコ著 大竹博吉譯 ソヴエト法竝國家の哲學的基礎 菊判洋入布 225 二、五〇 一八 ロシア問題研究所 三月
▲法學研究の方法、法の根本的性質、國家と法、近代的國家形態、議會主義の本質、プロレタリア國家の原理等七章。

第三インタナショナル編 東邦通信社調査部譯 次の世界戰爭と共産黨の軍事政策 四六判上製 168 一、〇〇 一〇 東邦通信社 六月
▲日米、英米、佛伊等の間に於ける次の世界大戰の切迫を豫言したもので、軍事問題に共産主義者の態度外七章。

久保田榮吉編 世界革命の實現に活躍するロシヤの政治組織 四六倍判並製 97 八〇 八 內外書房 二月
▲ボルシエウイスト獨裁政治が如何にロシア國民を壓迫したか、また現に如何に犧牲になりつゝあるかを圖表を揭げ說明せるもの。

露西亞通信社編 露西亞事情集 第六篇 四六判並製 310 一、〇〇 六 露西亞通信社 三月
▲プロレタリヤ獨裁制度下のサヴエート言論界、各國共産黨員數、ゴーリキー歸國後最初の作品、莫斯科印象記其他七輯。

レオトロツキー著 南黑黎譯 露西亞の眞相 四六判並製 270 一、一〇 八 富士書房 六月
▲ロシヤの眞相—勞働階級及勞働組合の狀態外十一章。スターリン歷史を偽る—公開狀、交書—レーニンの遺言外四章。

ペ・ミユコフ著 大竹博吉監輯 勞農革命の眞相 —ボリシエヴイキ獨裁政治の時代— 四六判洋入布 402 三、〇〇 一二 ロシア問題研究所 十一月
▲ボリシエヴイキはなぜ政權を獲得したか？ボリシエヴイキはなぜ政權を維持したか？外一章にて論述。

ウイリアムス著 前田河廣一郎譯 ソヴエート・ロシア風土記 四六判並製 347 一、〇〇 八 中央公論社 十二月
▲ソヴエート現ロシヤの農村を隈なく遍歷して現狀を掛値なく紹介せるもので、夥な村外十三篇を收む。

産業勞働調査所譯編 勞農ロシア叢書(2) 歸近十年間のソヴエート・ロシアの農村狀態 四六判並製 255 一、〇〇 四 上野書店 二月
▲ソヴエート共和國聯盟の農民の經濟の復興と確立とを通じての新秩序の建設を述べたもので、新しき農村に以下十篇。





# 農村問題



国立国会図書館
支部上野図書館

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 太田利一 | 農村社會に於ける主要問題 | 四六判並製 | 128 | 八〇 |
| | | 中西書房 | 三月 | 四 |
| 稻村隆一 | 日本に於ける農村問題 | 四六判並製 | 256 | 八〇 |
| | | 叢文閣 | 九月 | 六 |
| 法、農學博士 高岡熊雄 | 第二農政問題研究 | 菊判布裝 | 335 | 三、五〇 |
| | | 成美堂 | 十月 | 一八 |
| 鳥取高等農學教授 井森陸平 | 農村社會學 | 四六判並製入 | 170 | 一、三〇 |
| | | 目黑書店 | 十月 | 四 |
| 社會經濟研究會編 | 農業政策綱領（政策綱領大系(1)） | 四六判並製 | 320 | 一、二〇 |
| | | 春秋社 | 二月 | 六 |
| 白揚社編輯部編 | 農民は何故貧乏か | 四六判並製 | 135 | 一、〇〇 |
| | | 白揚社 | 二月 | 六 |
| 木村靖二 | 農民は如何に救はれるか | 四六判並製 | 211 | 一、〇〇 |
| | | 白揚社 | 五月 | 六 |
| 木村靖二 | 日本農民爭闘史 | 菊判函入洋布 | 544 | 三、五〇 |
| | | 白揚社 | 十二月 | 一八 |
| 和田叡三 | 自作農創定と農業問題（政治闘爭パンフレット(1)） | 四六判並製 | 190 | 六〇 |
| | | 上野書店 | 二月 | 四 |
| 産業勞働調査所編譯 | 支那に於ける最近の農民運動と農業問題（農業問題叢書(1)） | 四六判並製 | 260 | 八〇 |
| | | 叢文閣 | 八月 | 四 |

▲農村問題の中心觀點、小作爭議の實際、佛教と農村社會問題、地主としての寺院等四章にて寺院と農村問題の關係を詳述。

▲日本に於ける農村經濟の發展方向を體系的に示した書で、農民經濟の歷史的考察、地主經濟の發展方向外六章。

▲農村問題人口問題に關する論議の囂々たる今日農政學植民學の權威たる著者が農政問題に就き詳述せるもの。

▲農村の衰微は現在大きな社會問題である。本書は現代の農村社會學の全般についての極めて實際的な理論を以て成る。

▲農業政策綱領の基礎研究（農地の所有耕作及收益狀態以下六章）農業政策綱領草案（農地制度の改革以下四章）附錄二篇。

▲平和な村の眞相其他にて農村は何故貧乏かの問題を明細說明し、レーニン及びブハーリンの農村問題のテーゼを收む。

▲農業高度化の概念、農業高度化の必要、農業高度化の範圍、農業高度化の指導、高度農業の機構他二章。

▲農民の支配階級に對する闘爭を解說せるもので、崩壞期封建社會の農民闘爭、資本主義發生期の農民闘爭外三篇。

▲雜誌「農民運動」「マルクス主義」に發表されたものを改訂したもので、自作農創定と貧農以下四章附錄三篇。

▲階級的立場から支那の農業問題、農民運動に關する論文で、支那に於ける農民運動の最新段階外五篇。



# 勞働問題

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| コミンテルン編 稻村順三譯 | 資本の攻勢と農業問題 | 四六判並製 | 199 | 七〇 |
| | | 文藝戰線社出版部 | 五月 | 四 |
| 鐘田研一 | 無產農民の陳營より | 四六判並製 | 178 | 六〇 |
| | | 全國農民藝術聯盟 | 十一月 | 六 |
| ロートシュタイン著 廣島定吉譯 | イギリス勞働運動史論 | 四六判並製 | 267 | 一、〇〇 |
| | | 叢文閣 | 十月 | 六 |
| 水上鐵治郎 | 英國の勞働組合（英國勞働黨叢書(3)） | 四六判並製 | 107 | 五〇 |
| | | 千倉書房 | 十一月 | 四 |
| 田邊忠男 | 勞働組合運動（社會影響叢書(2)） | 新四六判洋布 | 208 | 一、〇〇 |
| | | 日本評論社 | 五月 | 六 |
| 小泉保太郎 | 左翼勞働組合運動 | 四六判並製 | 338 | 一、〇〇 |
| | | マルクス書房 | 五月 | 六 |
| アウグスト・エンデルレ著 益田豐彥譯 | 勞働組合教程 | 四六判並製 | 168 | 五〇 |
| | | 叢文閣 | 二月 | 四 |
| 小浦六助 | 我國に於ける勞働運動戰術の解剖 | 菊判函入洋布 | 401 | 三、五〇 |
| | | 巖松堂 | 七月 | 一八 |
| ヤコブワルヘル著 松山止戈譯 | フォードかマルクスか | 四六判並製 | 236 | 九〇 |
| | | 上野書店 | 四月 | 六 |

▲マルクス主義的立場から近世勞働運動の凡ゆる問題を考究せるもので、チャーティズムの時代外二部より成る。

▲イギリス勞働黨の實質的本體をなせる勞働組合に就て一般的の叙述をなせるもので、英國勞働組合の特質外五章。

▲勞働組合運動の概念竝に生成、改革的要素としての勞働組合運動、革命的要素としての勞働組合運動其他にて詳述。

▲左翼勞働組合の全國的結成問題、左翼勞働組合の行動綱領、いかにして闘爭し組織して行くか外十八篇。

▲勞働組合内の見解と活動とに何等かの關係を持つ重要問題を詳述す。勞働組合運動の歷史と意義其他。

▲勞働組合運動日常戰術の解剖、勞働爭議戰術の解剖、野田勞働爭議勞資戰術の解剖外一編十八章にて論說。

▲フォードの方法竝にその成績、フォード會社に於ける勞働者の狀態、フォードの誤謬とその否定外五章。

## 婦人問題・兩性問題

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| エム・ゴルキック著<br>今村保男譯 | 階級鬪爭パンフレット(7) | 工場へ | 四六判並製 | 186 | 七〇四 | 二月 |
| 協調會勞事<br>町田辰次郎 | | 勞働爭議の解剖 | 四六判並製 | 253 | 一、三〇二二 | 十一月 |
| 大原社會問題研究所編 | | 日本勞働年鑑<br>—昭和四年版— | 菊半截判並製 | 727 | 三、〇〇一八 | 十一月 |
| 協調會調査課編 | | 海外勞働年鑑<br>—一九二八年版— | 四六判並製 | 574 | 一、五〇八 | 四月 |
| 本間久雄 | | 婦人問題十講 | 四六判並製 | 482 | 二、五〇一八 | 九月 |
| ベーベル著<br>山川菊榮譯 | 改造文庫第一部(15) | 婦人論 | 菊半截並製 | 591 | 六〇一三 | 二月 |
| ベーベル著<br>草間平作譯 | 岩波文庫(98—399) | 婦人論<br>下巻 | 菊半截並製 | 223 | 四〇四 | 三月 |
| 各國共産黨編 | 解放叢書(51) | 婦人運動の理論と戰術 | 新四六判並製 | 328 | 一、〇〇六 | 四月 |
| 朝日新聞社編 | 朝日民衆講座(11) | 婦人公民權の話 | 四六判並製 | 96 | 二〇二 | 三月 |

▲再組織工場及び大工場内に於ける勢力、勞働組合への組織とフラクション其他の問題を具體的に述ぶ。（發賣禁止）

▲勞資の無益なる鬪爭を防止せしむべく論述せるもので、勞働爭議の發生、勞働爭議の戰術外三編、附錄六章。

▲勞働者狀態、勞働者運動、勞働施設及對策、社會事業、社會思想家の運動、國際勞働問題及附錄二篇。

▲各國の勞働者團體及び勞働者運動、勞働法制、國際、雜等に分けて收め、最後に一月より十二月迄の勞働日誌を收む。

▲近代婦人運動を思想的方面より取扱つて平易明快に講述せるものに新に「近代劇に描かれた婦人問題」を增補す。—改訂版—

▲ドイツ社會民主黨の創立者として全ヨーロッパの社會主義運動の指導者として著名なベーベルの婦人論の譯。

▲下巻は第三篇國家と社會（階級國家と近代の無產階級以下四章）第四篇社會の社會化（社會の革命外十章）結論。

▲合理化と資本主義初期に於ける婦人勞働、婦人の間に於ける黨の活動、婦人勞働者と共同食堂外廿章。

▲現代婦人の社會的地位と政治（長谷川如是閑）婦人公民權と政治（田川大吉郎）婦人公民權の獲得より行使へ（吉川房枝）。





## 社會諸問題・社會諸相

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 守田有秋 | 解放叢書(33) | 世界革命婦人列傳 | 四六判並製 | 200 | 一、〇〇六 | 二月 |
| 文藝社編輯部編 | 萬有文庫(21) | 結婚の歷史 | 菊半截並製 | 72 | 一五二 | 十一月 |
| 山本宣治 | 山本宣治全集(3) | 性教育 | 四六判上製 | 445 | 一、八〇八 | 五月 |
| 山本宣治 | 山本宣治全集(4) | 性と社會 | 四六判上製 | 464 | 一、八〇八 | 五月 |
| 山本宣治 | 山本宣治全集(5) | 現代の兩性問題 | 四六判上製 | 345 | 一、五〇一〇 | 十二月 |
| 山本宣治 | | 產兒調節論 | 四六判上製 | 350 | 一、五〇一〇 | 九月 |
| 高田保馬 | | 社會雜記 | 四六判並製 | 318 | 一、五〇八 | 十月 |
| シンクレーア著<br>早坂二郎譯 | | 眞鍮の貞操帶符<br>—プラス・チエック— | 四六判並製 | 617 | 一、九〇一三 | 十二月 |
| ジョルシュ・ソレル著<br>西川勉譯 | | 暴力考 | 菊半截上製入函 | 420 | 二、三〇一八 | 十二月 |

▲露西亞革命の風雲ブレシコウスカヤを初めエメリンパンカアスト佛のルイズミッセル其他各國の革命婦人に就て述ぶ。

▲性的關係と結婚（結婚の定義外三項）性的雜婚時代（性的道德外十二項）一婦多夫主義及一夫多妻主義（三つの形式外七項）

▲性教育汎論（性的啓蒙主義の存在理由外六章）對青年の性教育實驗報告（教訓無用論外九章）現代各方面の性教育對策（三章）附錄。

▲兩性問題が如何に社會に重大なる意義を持つかを徹底的に闡明したもので、若い男の性生活、性教育講座其他二篇。

▲兩性問題の本質と現代、性的身分の分類、性的眞正プロレタリア、性的疑似プロレタリア、生物學篇其他。

▲結婚戀愛篇（優生學と結婚、現代式戀愛觀の色々其外四章）產兒調節篇（產兒調節問答、產兒調節と無產階級外六章）

▲社會的事象に就て述べたもので、醒めざる日本、農村の疲弊について、社會問題としての融和問題外五章。

▲資本主義の精銳な武器としてのツヤーナリズムの全面容を暴露せるもので、眞鍮の貞操切符の話外六十五篇。

▲暴力が往昔から社會的に如何なる役割を演じ來たつたかを說いたもので、階級鬪爭と暴力外六章。附錄自力救濟辯護論。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 椎名龍徳 | 病める社會 | 四六判 函入 布装 | 358 | 一、八〇 |
| | | | | 一〇 |
| | | | | 先進社 |
| | | | | 六月 |
| | | | | ▲世にも悲慘な貧しき人々に關する實話集で罪の審判以下十五篇と貧兒の哀れな實狀を述べた「病める社會に惱む特殊兒童に就て」 |
| 村島歸之 | 善き隣人 —方面委員の足跡— | 四六判 函入 布製 | 315 | 一、五〇 |
| | | | | 一二 |
| | | | | 創元社 |
| | | | | 七月 |
| | | | | ▲各種救護取扱を目的とせる大阪府方面委員の制度竝に事業等を述べたもので、方面委員制度の設立外三十八篇。 |
| 鈴木梅四郎 | 醫療の社會化運動 | 四六判 並製 | 224 | 八〇 |
| | | | | 六 |
| | | | | 實生活社 |
| | | | | 十一月 |
| | | | | ▲著者の十數年間惡戰苦闘を續けられてきた醫療社會化運動の歷史大要で、健康保險法と日本醫師會外四章。 |
| 高津正道 | 無產階級と宗教 | 四六判 並製 | 204 | 九〇 |
| | | | | 六 |
| | | | | 大鳳閣 |
| | | | | 十二月 |
| | | | | ▲宗教家を對象に眼前に迫れる諸問題を論じたもので、平和運動もせぬ日本の宗教家、偶像價値外十六章。 |
| 法學士 湯淺一雄 | 世に勝つ 附・新豫言 | 四六判 並製 | 364 | 一、二〇 |
| | | | | 八 |
| | | | | 至誠堂 |
| | | | | 十二月 |
| | | | | ▲世に勝つには如何に處すべきかを說いたもので、知事さまの首を自ら斬つて、負けて勝つ打開策外廿九篇。 |
| 壽木孝哉 | 就職戰術 | 四六判 並製 | 504 | 一、七〇 |
| | | | | 八 |
| | | | | 先進社 |
| | | | | 十二月 |
| | | | | ▲就職準備、銓考委員の採用心理、就職必勝法、有力銀行會社待遇厚薄の見分方と其實例等にて就職戰術を說く。 |
| 早稻田大學人事嘱託 坪谷善四郎 | 知識階級と就職 | 四六判 並製 | 242 | 一、三〇 |
| | | | | 六 |
| | | | | 早稻田大學出版部 |
| | | | | 十月 |
| | | | | ▲方今の就職難を來した原因及び其の實況、特に月給生活に就職せんとする者の爲めに採用試驗を受ける場合等を說く。 |
| 工藤哲郎 | 上京して就職するまで | 四六判 並製 | 290 | 一、五〇 |
| | | | | 八 |
| | | | | 朝香屋書店 |
| | | | | 十月 |
| | | | | ▲上京者の各種就職案內で、上京前の準備、巡査、小學校教員、新聞記者、會社員、外交員、運轉手其他を廿章にて記述す。 |
| 細井和喜藏 | 女工哀史 改造文庫第一部(30) | 菊半截 布装 | 424 | 四〇 |
| | | | | 八 |
| | | | | 改造社 |
| | | | | 二月 |
| | | | | ▲悲慘な女工生活の內面を詳述した書で、女工募集の裏表、彼女を縛る二重の桎梏、女工の心理等十九章附錄女工小唄。 |
| カフエー | | 四六判 並製 | 357 | 一、五〇 |
| | | | | 八 |
| | | | | 文化生活研究會 |
| | | | | 十二月 |
| | | | | ▲カフエーの實情とその內部に織り込まれてゐる社會惡と人間苦の諸相とを描いたもので、カフエーの近代性外十一篇。 |



## 新聞・出版

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 片岡昇 | カメラ社會相 | 四六判 並製 | 405 | 二、五〇 |
| | | | | 一二 |
| | | | | 文藝市場社 |
| | | | | 一月 |
| | | | | ▲大臣にも玄關拂（西園寺公）慨嘆（大倉喜八郎）其他街頭訪問名士百面相學者名人等百五十篇に一々カメラを附して收む。（特製四圓） |
| 和田信義 | 香具師奥義書 改造文庫第一部(3) | 四六判 函入 背革 | 321 | 二、五〇 |
| | | | | 一二 |
| | | | | 文藝市場社 |
| | | | | 十月 |
| | | | | ▲所謂てきやの生活風習商賣等を記述したもので、香具師細見（十六項）一般（卅二項）隱語、思想的活動（十項）戀愛術（十八項） |
| 白石俊夫 | 監獄部屋の眞相 | 四六判 並製 | 394 | 一、六〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 誠山堂 |
| | | | | 十月 |
| | | | | ▲監獄部屋制度の虐待酷遇、人權蹂躙等の問題を取扱つたもので、監獄部屋の組織と其慘狀外二章三十一節。 |
| 時事新報社編 | 我等の燈臺守 | 四六判 函入 布装 | 371 | 二、五〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 斯文書院 |
| | | | | 四月 |
| | | | | ▲海難防止の第一線に働きながらあまりに酬いられない燈臺守の生活を述べ之に代表的燈臺訪問記七篇を收む。 |
| 喜多壯一郎 早大教授 | 新聞展望臺 | 四六判 函入 布装 | 581 | 三、〇〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 春陽堂 |
| | | | | 八月 |
| | | | | ▲新聞紙を對象とし新聞紙を觀照點において述べた論文及び隨筆を收めたもので、新聞紙の進化過程外十三篇。 |
| 宇野木忠 | 時と人を巡りての新聞記者生活 | 四六判 函入 布装 | 404 | 二、二〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 二里木書店 |
| | | | | 六月 |
| | | | | ▲約十年間東京朝日新聞社經濟部に在つて活躍した宇野木氏がその記者生活を叙述した書で入社の交涉以下九十一項。 |
| 下村宏 | 新聞常識 | 四六判 並製 | 343 | 一、八〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 日本評論社 |
| | | | | 二月 |
| | | | | ▲新聞の意義、日本の新聞の歷史、新聞の現在と將來、新聞の經營、新聞と政治、新聞倫理問題、入社試驗等新聞に關する十八篇。 |
| 山崎光次郎 | 新聞道德論 | 四六判 並製 | 314 | 二、〇〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 新時代社 |
| | | | | 十月 |
| | | | | ▲今日の社會は新聞に對して如何なる道德を要求しつゝあるかを論じたもので、新聞と社會外三篇十七章。 |
| 前中央新聞主筆 松陽新報主筆 松井柏軒 | 四十五年記者生活 | 四六判 並製 | 394 | 一、八〇 |
| | | | | 一三 |
| | | | | 博文館 |
| | | | | 九月 |
| | | | | ▲老記者柏軒氏の回顧談で、記者生活の初步博文館の創立、中央新聞時代、伊藤公、桂公漱洲の詩人外廿八篇。 |

| 著者 | 書名 | 形體 | 頁數 | 定價 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京日々新聞社會部長 小野賢一郎 | 明治・大正・昭和 | 四六判 | 598 | 二、八〇 | 萬里閣 | 四月 | ▲過去二十年間の社會相を新聞記者としての著者が取扱つた生活記錄で、明治篇四十九篇、大正篇八十五篇、昭和篇十八篇。附錄年表。 |
| 新聞研究所編 | 日本新聞年鑑 —昭和五年版— | 菊並製 | 369 | 四、〇〇 | 新聞研究所 | 十二月 | ▲全新聞線の高速進展、代表各社經濟事情、府縣別及社別實況、廣告代理業一覽表其他を收む。 |
| 東京書籍商組合編 | 出版年鑑 —昭和四年版— | 菊並製 | 319 | 一、〇〇 | 東京書籍商組合事務所 | 八月 | ▲昭和三年一月より十二月に至る間に發行された重要圖書を神書及宗教、哲學、教育其他九類に分けて收錄せるもの。 |
| 國際思潮社編 | 出版年鑑 | 四六判並製 | 146 | 一、二〇 | 國際思潮社 | 六月 | ▲一九二八年に於ける凡ゆる圖書を全體的に眺められる樣、哲學、宗教、歷史傳記、地理紀行、社會其他十六項に分けて收めるもの。 |
| 東京書籍商組合編 | 東京書籍商組合員圖書總目錄 | 菊洋裝 | 1800 | 八、〇〇 | 東京書籍商組合事務所 | 二月 | ▲五十音別、發行所別、類別、著作者別の四種に分けて二萬餘の圖書を檢出し得る樣編まれたもの。 |
| 圖書研究會編 | 昭和四年上半期新刊書總目錄 | 菊布裝 | 324 | 二、五〇 | 圖書研究會 | 五月 | ▲内務省に納本する毎日の新刊書中より重要なる書目一切を各月に分類蒐錄した圖書總目錄。 |

## 辭典

| 著者 | 書名 | 形體 | 頁數 | 定價 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 杉森孝次郎編 | 社會科學辭典 | 四六判洋布入 | 907 | 三、五〇 | 社會思想研究所 | 十月 | ▲社會科學、社會認識、社會思想、社會問題、社會運動等一切の文獻を引き易い樣に五十音順に收めたもの。 |





# 二、經濟・商業

## 經濟學・經濟史

| 著者 | 書名 | 形體 | 頁數 | 定價 | 發行所 | 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シイニオア著 高橋誠一郎・濱田恒一譯 | 經濟學古典叢書 經濟學 | 菊背革入判 | 457 | 五、八〇 二四 | 岩波書店 | 八月 | ▲經濟學方法論、富の性質、經濟學四基本命題の敘述、富の分配等四篇にて經濟學の諸原理を檢討せるもの。 |
| ジャンバティストセイ著 增井幸雄譯 | 經濟學古典叢書 經濟學 下卷 | 菊背革入判 | 763 | 七、〇〇 二四 | 岩波書店 | 九月 | ▲富の分配及富の消費に就いて講述せるもので、物の價値の基礎に就いて、消費の種類に就いて外廿章。 |
| 法學士 小西憲三 | 初めて學ぶ人の經濟學 | 四六判洋布 | 264 | 一、五〇 一六 | 先進堂 | 四月 | ▲經濟の意義、經濟の價値、財貨の生産、貨幣國民所得等にて初心者にも分る樣經濟學原論を平易に說述す。 |
| エフ・ミハレフスキー著 荒川實藏譯 | 經濟學入門 | 四六判並製 | 407 | 一、五〇 八 | 改造社 | 十一月 | ▲經濟學の理論と實際の兩面を具備せる入門書で、資本家的社會に於ける生産、資本家的蓄積と恐慌外十一章。 |
| 九州帝國大學教授 高田保馬 | 經濟學新講 第一卷 | 洋布入判 | 255 | 二、〇〇 一八 | 岩波書店 | 十一月 | ▲總說（經濟學、經濟學の根本概念、理論經濟學の問題）生産の理論（生産の概念、勞働、生産手段、企業、生産費）。 |
| 岡本利吉 | 規範經濟學 | 菊洋布入判 | 908 | 四、八〇 二四 | 平凡社 | 十月 | ▲人類の物質生活現象に内在する理論を究明せるもので、經濟學の概念、生活現象の原論生活方式と規範外十二章。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高橋龜吉 | 實用經濟學 | 四六判 | 洋 | 函 | 496 | 一、八〇 | 一三 | 千倉書房 | 八月 | ▲經濟原論を出來るだけ具體的に各人の體驗に訴へて說明したもので、交換配給及分配の仕組外二編を收む。 |
| 高橋龜吉 | 經濟學の實際知識 | 改造文庫第一部(27) | 菊半截 | 布 | 216 | 一、〇 | 四 | 改造社 | 二月 | ▲社會現象の基礎に橫はる經濟問題を出來るだけ有機的に綜合的に一讀直ちにその知識を實際に應用し得るやう說明す。 |
| 加田哲二譯 | スマート著 經濟價値概論 | 春秋文庫(30) | 洋 | 布 | 178 | 五〇 | 六 | 春秋社 | 十二月 | ▲經濟學理論の中心問題たる價値論を說いたスマートの「經濟價値概論」及び加田氏の「經濟價値論の史的概觀」を收む。 |
| 堀經夫 | 東北帝國大學教授 リカアドウの價値論及其の批判史 | | 菊 | 函 | 583 | 四、八〇 | 一八 | 岩波書店 | 三月 | ▲價値論及び價格論（四章）勞賃論（二章）の二篇に於て理論經濟學の父たるリカアドウの學說とその批判に就て論述。 |
| 小泉信三 | 慶大教授 リカアドオ研究 | | 菊 | 洋 | 533 | 三、六〇 | 一八 | 鐵塔書院 | 九月 | ▲リカアドオの價値論、地代論、機械論、通貨論に至るまでひろく紹介論評せられた各種雜誌講座に發表した論文集。 |
| アルフレトアモン | 社會科學叢書(25) 正統派經濟學 | | 新四 | 洋 | 204 | 一、〇〇 | 六 | 日本評論社 | 七月 | ▲國富論、リカアドの經濟學原理、リカアドの以後における價値論及び正統學派諸思想系統の發展等五項にて論述。 |
| 荒木光太郎 | 社會科學叢書(17) 埃太利學派經濟學 | | 新四 | 洋 | 222 | 一、〇〇 | 六 | 日本評論社 | 二月 | ▲埃太利學派の發生、歷史學派、正統學派との關係、埃太利學派の體系其他にて埃太利學派の理論の全體系に涉つて說明す。 |
| 山口正太郎 | 大阪商科大學教授 重農派經濟學の人々 | | 四六判 | 上函 | 242 | 一、八〇 | 一〇 | ロゴス書院 | 六月 | ▲佛蘭西重農派の諸人物の傳記を中心として其思想を述べたもので、ケネーと重農思想以下七章。 |
| アー・コーン著 村田正譯 | プロレタリア經濟學の方法論 | | 四六判 | 並製 | 172 | 七〇 | 四 | 叢文閣 | 十月 | ▲理論經濟學の對象、抽象的科學としての理論經濟學、經濟學に於ける唯物論、辯證的科學としてのマルクス主義經濟學の四章。 |
| 出井盛之 | 春秋文庫(2) 經濟學說史 | | 三六判 | 洋 | 200 | 一、五〇 | 四 | 春秋社 | 二月 | ▲廣凡である經濟學の思索の世界を西洋に於ける經濟學の發達を、極めて平易に、簡潔に說述したもの。 |





| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 慶大教授 田中忠夫 | 經濟思想史概說 | 四六判 | 上製 | | 248 | 一、五〇 | 一〇 | 廣文堂 | 三月 | ▲經濟政策上最も必要な經濟思想史の概念を說いたもので、經濟思想史の意義、古代の經濟思想、中世紀の經濟思想其他五篇。 |
| 社會科學叢書(27) 瀧本誠一 | 日本經濟思想史 | 新六判 | 洋 | 布 | 319 | 一、五〇 | 六 | 日本評論社 | 十月 | ▲德川時代に於ける各大家の著作に就きその經濟要旨を夫々紹介論評せるもので、經濟學と政治學外十七章。 |
| 春秋文庫(4) 瀧本誠一 | 日本經濟學史 | 三六判 | 洋 | 布 | 231 | 五〇 | 六 | 春秋社 | 五月 | ▲經濟思想史の歷史上に於ける位置、德川時代に於ける經濟學の意義、佐藤信淵の國家專賣法外九章。 |
| 白柳秀湖 | 日本經濟革命史 | 四六判 | 並製 | | 405 | 一、八〇 | 八 | 千倉書房 | 十一月 | ▲奴隸經濟の時代、奴隸經濟の崩壞竝に莊園經濟の發達、莊園經濟の時代、貨幣經濟の準備時代外二章四十六節。 |
| 住谷悅治 | 春秋文庫(9) 社會主義經濟思想史 | 三六判 | 洋 | 布 | 198 | 五〇 | 六 | 春秋社 | 四月 | ▲後期資本主義と社會主義經濟學說の發展其他二編にて社會的剩餘の取得者が時代及社會編成に依つて異なるを說述す。 |
| 栗栖赳夫 | 中央大學教授 日本國民經濟小史 | | 菊上 | 製 | 100 | 一、〇〇 | 一〇 | 啓明社 | 一月 | ▲日本國民の經濟的發達の過程を示さむが爲の試みである小著。 |
| 德增榮太郎 | 橫濱高等商業學校教授 商學士 ヨーロッパ經濟史 —中世— | | 菊 | 函 | 227 | 二、〇〇 | 一八 | 同文館 | 三月 | ▲ローマ帝國の崩壞とクリスト教の普及、西歐クリスト教世界、教會の社會的位置、修道院と經濟生活其他九章。 |
| ハーバード大學教授 グラス著 加藤繁譯 | 文學博士 綜合經濟史 | | 菊 | 洋 | 402 | 三、三〇 | 一八 | 大鐙閣 | 十二月 | ▲原始人民から現時の最高文明國に亙り其發達の過程を採取經濟、農牧遊動經濟、定住村落經濟外三章にて說述せるもの。 |
| 矢作榮藏編 | 經濟學研究 第一卷—經濟篇 | | 菊 | 函 | 488 | 四、〇〇 | 一八 | 日本評論社 | 四月 | ▲山崎覺次郎博士の還曆祝賀の爲に後進及び門下の人々の論文を集めたもので、第一卷には神戶正雄河合榮治郎外九氏の論文十一篇。 |
| 矢作榮藏編 | 經濟學研究 第二卷—金融篇 | | 菊 | 函 | 528 | 四、〇〇 | 一八 | 日本評論社 | 四月 | ▲第二卷には土方成美河津暹大內兵衞山室宗文本位田祥男明石照男荒木光太郎外三氏の「コール市場に就て」以下十篇。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 瀧本誠一 | 日本經濟學說の要領 | 改造文庫第一部(24) | 菊半截 | 布 | 173 | 二一〇 |
| | 經濟的帝國論 | | | 裝 | | 四 |
| 田口卯吉 | 日本經濟論 | 改造文庫第一部(23) | 菊半截 | 布 | 112 | 一一〇 |
| | | | | 製 | | 二 |
| 岡實 | 社會經濟批判 | | 菊 | 洋 | 1052 | 八、〇〇 |
| | | | 函 | 布 | | 三〇 |
| | | | 入 | 入 | | |
| | | | 判 | 判 | | |
| 井上貞藏（經濟學士） | 一經濟學徒の斷草 | | 四六判 | 上 | 240 | 二、〇〇 |
| | | | 函入 | 製 | | 一二 |
| 高田保馬 | 價格と獨占 | | 菊 | 布 | 384 | 二、三〇 |
| | | | 函 | 裝 | | 一八 |
| | | | 入 | 入 | | |
| | | | 判 | 判 | | |
| ホラン著 永戸俊雄・長野敏夫譯 | 富の原動力 | | 菊 | 洋 | 208 | 二、八〇 |
| | | | 函 | 布 | | 一八 |
| | | | 入 | 入 | | |
| | | | 判 | 判 | | |
| 上山滿之進 | 戰爭と硬貨 | | 四六判 | 布 | 38 | 三、五〇 |
| | | | | 倍 | | 二二 |
| | | | | 裝 | | |
| ダグラス著 岩村忍譯 | 信用機關の社會化 | | 四六判 | 洋 | 163 | 一、二〇 |
| | | | | 函 | | 一三 |
| | | | | 入 | | |
| | | | | 布 | | |
| エンゲルス著 門木平譯 | 強力と經濟 —獨逸帝國建設に際しての強力と經濟— | | 四六判 | 函 | 150 | 八〇 |
| | | | | 入 | | 六 |
| | | | | 洋 | | |
| | | | | 布 | | |
| マルクス著 河上肇譯 | 資本論 第一卷—第五分冊 | 岩波文庫(135) | 菊半截 | 並 | 136 | 二〇 |
| | | | | 製 | | 二 |
| 河上肇譯 | 資本論初版鈔 | 岩波文庫(533—536) | 菊半截 | 並 | 195 | 四〇 |
| | | | | 製 | | 四 |
| 長谷部文雄譯 | マルクス資本論初版以後の第一章及第三章に當る）と卷末の附錄とを收む。 | | | | | |

▲「資本論」第一卷初版本の第一章及二（第二章及第三章に當る）と卷末の附錄とを收む。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本經濟學說の要領（學說と制度の關係外二章）經濟的帝國論（十九世紀後半の二大現象外二章。） | 十二月 | ▲日本經濟學說の要領（學說と制度の關係外二章）經濟的帝國論（十九世紀後半の二大現象外二章。） | | | | |
| 改造社 | 十二月 | ▲經濟學の主意を論ず、萬國交易論、保護稅の害、產物轉換の光景、リカルド氏の說を駁す外三章。 | | | | |
| 改造社 | 十二月 | ▲經濟學の主意を論ず、萬國交易論、保護稅の害、產物轉換の光景、リカルド氏の說を駁す外三章。 | | | | |
| 日本評論社 | 十二月 | ▲經濟問題社會問題財政問題其の外科學としての經濟學と實際との相關理法等を批判論述せるもので、社會問題外十一編。 | | | | |
| 邦光堂 | 三月 | ▲內外社會經濟の諸問題に亘り平易且つ輕妙なる筆致を以て論述批判せるもの。 | | | | |
| 千倉書房 | 三月 | ▲獨占の本質、剩餘價格と資本の蓄積、經濟靜態について、經濟とは何ぞや、歸屬學說について外三篇。 | | | | |
| 春陽堂 | 十月 | ▲米國の產業科學界の有力者達の事業人物特色等を述べたもので、天才を仕上げる人ホイトニー外廿篇。 | | | | |
| 日本評論社 | 八月 | ▲歐洲大戰後に於ける國勢と硬貨との關係を論說した書で、戰後歐米硬貨品彙、歐洲大戰と各國國際信用消長外五節。 | | | | |
| 中央公論社 | 十月 | ▲具體的諸問題及其他の事態を結合して現下文明の存續を脅威しつゝある一般的諸概念を指示せるもので、哲學外二編。 | | | | |
| 上野書店 | 八月 | ▲強力論の理論を建設時代の舊ドイツ帝國史の上で追跡し證明せんとしたるもので、前後二篇より成る。 | | | | |
| 岩波書店 | 六月 | ▲第一卷第五分冊は第三篇第八章勞働日（勞働日の限界以下六項）が收めてある。 | | | | |





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 武藤山治 | 經濟小言 | | 菊判並製 | | 202 | 八〇八 |
| 高城仙次郎 | 增補物價問題研究 | 春秋文庫(25) | 三六判洋布 | | 166 | 五〇四 |
| 丸谷喜市編 | 經濟書誌景氣 | | 菊判洋布 | | 76 | 一、〇〇六 |
| 坂梨春水 | 經濟不安の眞相 | | 四六判並製 | | 148 | 八〇四 |
| 高橋龜吉 | 資本主義頹廢の諸相 | | 四六判上製 | 函入 | 494 | 二、二〇一二 |
| 高橋龜吉 | 日本資本主義發達史 | 增補改訂 | 四六判並製 | | 412 | 一、三〇八 |
| 大熊信行 | マルクスのロビンソン物語 | | 菊判背洋布 | 函入 | 314 | 二、八〇一八 |
| 河上肇譯 | 資本論入門 —第七分冊— | | 四六判並製 | | 77 | 三五四 |
| 河上肇譯 | 資本論入門 第一卷—上册 | | 四六判並製 | | 492 | 九〇六 |
| 長谷部文雄譯 | 資本論初版鈔 | 岩波文庫(533—536) | 菊半截並製 | | 195 | 四〇四 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩波書店 | 七月 | ▲「資本論」第一卷初版本の第一章及二（第二版以後の第一章及第三章に當る）と卷末の附錄とを收む。 | | | | |
| 京都弘文堂 | 五月 | ▲第一卷上册は『資本論』の第一章及び第二章を收めたもので、商品（研究の出發點としての商品外五項）交換過程。 | | | | |
| 京都弘文堂 | 二月 | ▲商品の物神崇拜的性質とその祕密に就いて述べたもので、商品の物神崇拜性はどこから生ずるか？外五項。 | | | | |
| 同文館 | 十月 | ▲マルクスのロビンソン物語（價値法則の背後にあるもの）配分原理、配分學說史考等四章。 | | | | |
| 日本評論社 | 十二月 | ▲幕末に於ける封建制度の倒壞、我が資本制度初期の發達、我國產業革命の進展、我國金融資本の發達外三章。—普及版— | | | | |
| 千倉書房 | 五月 | ▲資本主義の機構及政策、現代の資本家及重役、現代のサラリーマン及知識階級、現代の政治と社會外二編を收む。 | | | | |
| 龍文館 | 四月 | ▲本邦經濟界の斷層、金融景氣抹殺さる、不景氣時代の特徵、經濟力と資本能率、金融界の病的緩漫其他九篇。 | | | | |
| そさえて | 八月 | ▲恐慌、景氣循環、景氣豫測、景氣統計等に分類して景氣研究に關する內外諸家の論文題目を網羅す。 | | | | |
| 春秋社 | 十月 | ▲卸相場と小賣相場の關係、物價の地理平衡物價の季節的變動、物價と貨幣の購買力との關係外一章。 | | | | |
| 改造社 | 九月 | ▲經濟とはどう言ふものであるか、資本とはどう解してよいか、金解禁とはどう言ふことであるか外五章。 | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ダイヤモンド社編 | 經濟座談 | 四六判洋装 | 366 | 一、五〇 | 九月 | ▲鄉誠之助、福澤桃介、松永安左衞門、大川平三郎、矢野恒太、藤原銀次郎其他財界諸名士の座談十篇收載。 |
| ナヒムソン著<br>太田徹夫譯 | 世界經濟論 | 菊判布装入 | 368 | 二、八〇 | 六寶文館 | 四月 | ▲獨逸マルクス經濟學界の偉材ナヒムソンの世界經濟論の譯で、資本の固定化其他八篇。 |
| ヴァルガ著<br>經濟批判會譯 | 世界經濟年報<br>第三輯 | 四六判並製 | 315 | 一、〇〇 | 八叢文閣 | 二月 | ▲一九二八年第一期、資本主義的合理化の危機、支那革命の諸根本問題外二篇、一九二八年第二期農業化と工業化外二篇を收む。 |
| ヴァルガ著<br>經濟批判會譯 | 世界經濟年報<br>第四輯 | 四六判並製 | 361 | 一、〇〇 | 六叢文閣 | 七月 | ▲帝國主義諸對立の尖鋭化と賠償問題、一般的部分、特殊的部分、新ルーマニアの問題其他二部より成る。 |
| ヴァルガ著<br>經濟批判會譯 | 世界經濟年報<br>第五輯—一九二九年第一期四半年— | 四六判並製 | 257 | 八〇 六 | 叢文閣 | 九月 | ▲一九二八年に於ける世界經濟、獨占形成の諸問題、一般的部分、特殊的部分の四部にて論述、附錄統計表其他。 |
| ヴァルガ著<br>經濟批判會譯 | 世界經濟年報<br>第六輯 | 四六判並製 | 191 | 八〇 四 | 叢文閣 | 十一月 | ▲一九二九年第二期四半年（四月十日より七月十五日まで）に於ける經濟及び經濟政策を收めたもので、新農業恐慌其他。 |
| プロフインテルン執行局編<br>兒島猛譯 | 世界經濟の現狀と勞働者階級 | 四六判並製 | 303 | 一、一〇 八 | マルクス書房 | 二月 | ▲一九二八年の春モスコウに開かれたプロフインテルン第三回世界大會の參加者のために當執行局から大會前に出された報告書の譯。 |
| プロフインテルン執行局編<br>兒島猛譯 | 世界經濟の現狀と勞働者階級 | 四六判並製 | 303 | 八〇 六 | マルクス書房 | 八月 | ▲最近の世界經濟、一九二四—一九二七年期に於けるプロレタリアートの經濟狀態外一章—普及版— |
| 奧村愼次 | 現代英國經濟研究 | 四六判洋装入 | 294 | 一、五〇 | 改造社 | 八月 | ▲歐洲大戰後に於ける英國經濟の最も著しき特徵を內外に渡つて檢討せるもので、基礎工業の不振外十六章。 |
| 京城帝國大學法文學會編 | 京大法文學會第一部論集(2)<br>朝鮮經濟の研究 | 菊判並製 | 773 | 四、一〇 二四 | 刀江書院 | 九月 | ▲市場を通じて見たる朝鮮の經濟（四方博）朝鮮に於ける小作問題の發展過程（津曲藏之丞）外三篇。 |





| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大阪每日新聞記者<br>長谷川永義正 | 支那經濟物語 | 四六判並製 | 420 | 二、五〇 二二 | 大阪屋號 | 一月 | ▲支那の社會と經濟、支那の農業問題、華僑問題、支那の關稅問題、支那の紡績業外三篇にて支那の經濟問題を說述す。 |
| 東京日日新聞<br>經濟部編 | 經濟風土記<br>—東海關東の卷— | 四六判並製 | 451 | 二、〇〇 二二 | 刀江書院 | 一月 | ▲愛知、靜岡、山梨、神奈川、千葉、茨城、埼玉、栃木、群馬の九縣に亙り人と物との相關的方面より地方財界の事情を觀察記述す。 |
| 下田將美 | 南島經濟記 | 四六判並製 | 367 | 三、〇〇 二二 | 大阪屋號 | 四月 | ▲孤愁の奄美大島、琉球より何處へ往く、臺灣を觀る、目覺めゆく朝鮮を訪れて、行旅雜感等各地の經濟視察記を收む。 |
| 長谷川光太郎 | 財界盛衰記 | 四六判並製 | 518 | 二、〇〇 二二 | 東洋經濟新報社 | 四月 | ▲明治戊辰から昭和戊辰迄の我が經濟界の進展を述べたもので、創業時代、發育時代、發展時代、沈靜時代其他二章。 |
| 白柳秀湖 | 財界太平記 | 四六判並製 | 500 | 二、〇〇 二二 | 日本評論社 | 二月 | ▲黃金を原動力として進展した明治大正の政權爭奪史で、資本主義經濟の發達と政權の移動とに就き其相關聯する事實を記述す。 |
| 大阪朝日新聞社<br>經濟部編 | 經濟問題の解說 | 四六判並製 | 442 | 二、〇〇 二二 | 一元社 | 七月 | ▲難解な專門語竝に經濟時事問題の通俗的解說を收めたもので、國際關係の問題、財政と金融其他九篇七十一章。 |
| 朝日新聞社編 | 緊縮時代と消費經濟 | 四六判並製 | 142 | 一〇 二 | 朝日新聞社 | 十月 | ▲太平洋時代に於ける日本婦人の使命（鶴見祐輔）經濟の緊縮と婦人の力（安達謙藏）婦人の經濟領域（太田正孝）外二篇。 |
| 朝日新聞經濟部編 | 朝日經濟年史<br>—昭和四年版— | 菊判並製洋装布入 | 430 | 一、八〇 一八 | 朝日新聞社 | 二月 | ▲昭和三年の財界に於けるあらゆる出來事を網羅したもので、財界大觀以下廿九章、附錄金輸出解禁問題外二篇。 |
| 新聞經濟欄<br>後藤勝三（商學士）<br>山地謙一（商學士）編述 | 用語解說 | 四六判並製 | 110 | 五〇 四 | 後藤家 | 三月 | ▲極めて常識的な、通俗的な多數の經濟欄用語を網羅して懇切に解說し、之に「市場取引の實際」を三章收む。 |
| 豐國千珊 | 富は自分の頭にある | 四六判上製 | 262 | 一、三〇 一二 | 騷人社 | 十二月 | ▲金貨銀貨の雨、富は各人の頭の中にある、政界財界は癌に罹つてゐる、乞食政治家を救ふの法外九章。 |

# 金解禁問題

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大藏大臣 井上準之助 | 金解禁 —全日本に叫ぶ— | 四六判並製 | 204 | 一、〇〇 六 | 先進社 | 九月 | ▲我が國民生活に極めて密接な關係を有してゐる金解禁に就て平易に說明せるもので、日本經濟の建直しと金解禁其他。 |
| 商學士 中村守雄 | 金解禁の理論 | 四六判並製 | 74 | 一五 二 | 東京旭印刷會社出版部 | 十一月 | ▲我國家にとつて經濟上の一大事であるところの金解禁問題に就いて分り易く述べたもので、金解禁の必要外十五章。 |
| 報知新聞經濟記者 野田兵一 | 金解禁の話 | 四六判並製 | 72 | 二〇 三 | 第一出版社 | 九月 | ▲日常生活に金解禁問題がどれだけ深い關係を持つかを極めて解りやすく說いたもので、金輸出禁止の意味外十七章。 |
| 野村證券株式會社調査部長 勝田貞次 | 金解禁直後の財界 | 菊判並製 | 342 | 一、〇〇 三 | 春陽堂 | 十二月 | ▲金解禁直後に於ける財界の影響を說述せるもので、金解禁の意義、金解禁と財界合理化金解禁と日本企業外十二章。 |
| 安田與四郎 | 金解禁前後の財界 | 四六判洋裝布入 | 254 | 一、六〇 三 | ダイヤモンド社 | 九月 | ▲金解禁の實行後二三年にして現はれ初める重大なる直接影響に就て說いたもので、金輸出禁止と其解除外九章。 |
| 東洋經濟新報主幹 石橋湛山 | 金解禁の影響と對策 —新平價金解禁の提唱— | 四六判洋裝布入 | 325 | 二、〇〇 三 | 東洋經濟新報社 | 七月 | ▲金輸出解禁問題の經過と其批評、爲替安定の應急策と永久策、爲替低落と物價低落其他十五章にて論述。 |
| 前大藏大臣 三土忠造 | 金解禁と緊縮政策の批判 附—金解禁と農村— | 四六判並製 | 98 | 三〇 二 | 實文館 | 十一月 | ▲金解禁を中心とする經濟政策に就ての政府の宣傳の根據となるべき事實を財政緊縮の眞相外三章にて批判す。 |
| 辯護士 久保田治 | 金解禁亡國論 | 四六判並製 | 241 | 一、〇〇 六 | 久保法制經濟研究所 | 十月 | ▲經濟現象に對する根本概念、輸出入額增減の法則、我經濟國難の原因に關する錯誤、物價問題に對する錯誤外十二章。 |
| 藤田廣 | 金輸出解禁論 | 四六判並製 | 170 | 一、〇〇 四 | 育英館 | 一月 | ▲各國に於ける金の輸出禁止及金解禁の目的と方法、我國の諸條件を述べ、終りに各國で採りし諸方策と其結果とを詳にす。 |





| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 楠見一正 | 金輸出解禁問題 —その經過と影響— | 菊判並製 | 288 | 二、〇〇 一二 | 大阪商科大學經濟研究所 | 十月 | ▲金輸出解禁問題の經過と其及ぼすべき影響とを取扱つたもので、金輸出解禁に及ぼすべき影響竝に其の準備對策外一編六章。 |
| 山崎靖純 | 金輸出解禁問題 | 四六判洋裝布入 | 173 | 一、二〇 二 | 立命館大學出版部 | 三月 | ▲日本の財界に於て最も中心的な大問題たる金輸出解禁問題に就て問題の性質より解禁後の對策迄を論述す。 |
| 財政經濟時報社編 | 金輸出解禁問題 | 菊判並製 | 90 | 五〇 四 | 財政經濟時報社 | 八月 | ▲世界戰爭後通貨整理の方向、我國の金解禁に關する論爭、金解禁に伴ふ通貨政策、經濟界の大勢と金解禁、雜錄。 |
| 深井英五 | 通貨問題としての金解禁 | 菊判洋裝布入 | 210 | 一、六〇 一八 | 日本評論社 | 十月 | ▲日本の經濟界の現狀、金輸出禁止と我が經濟界、國難打破は國民の共同責任、理由なき非難は當らず外八章。 |
| 大藏大臣 井上準之助 | 經濟國難と國民の覺悟 | 四六判並製 | 44 | 一〇 二 | 社會教育協會 | 九月 | |
| 大藏大臣 井上準之助 | 國民經濟の立直しと金解禁 | 四六判並製 | 90 | 三〇 四 | 千倉書房 | 九月 | ▲井上藏相の「國民經濟の金解禁の決行に就て國民に訴ふ」大藏參與官勝正憲氏の「金解禁問題の解說」の二篇。 |
| 大藏大臣 井上準之助 | 國策經濟を語る | 四六判並製布裝 | 375 | 一、五〇 二二 | 實業之日本社 | 十二月 | ▲日本財界十有三年間の癌と言はれた金解禁を斷行した井上藏相の今後に於ける方策其他を論述せるもの。 |
| 時事新報經濟記者 山崎靖純 | 國民經濟の立直しか破壞か | 四六判並製 | 129 | 一〇 四 | 秀文閣 | 十月 | ▲民政黨內閣の金解禁政策に就いて平易に解說せるもので、眞に憂ふべき現政策の影響、外三章卅七項。 |
| 實業之世界社取締役 野依秀一編著 | 井上藏相の正體 | 四六判並製 | 133 | 三〇 四 | 實業之世界社 | 九月 | ▲我國當面の大問題たる金解禁を斷行せんとする大藏大臣井上準之助氏を「井上の胡魔化し振り」其他にて解剖したもの。 |
| 今井龍三郎 | 恐慌來の國民經濟 | 四六判並製 | 71 | 一〇 二 | 經濟評論社 | 十一月 | ▲盲目的な緊縮政策、捉はれた公債政策、無謀極まる金解禁方策等現政府の經濟政策を批判せるもの。 |



国立国会図書館
支部上野図書館

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 高橋龜吉 | 經濟國難來 ―その眞相と對策― | 四六判 並製 | 373 | 一、五〇 一〇 | 千倉書房 十二月 |

▲緊縮策の正論と謬論、緊縮・金解禁の影響我が經濟大患の病狀・病根・對策、金解禁斷行と今後外二編にて論說。

## 貨幣・金融・信託

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 經濟學博士 牧野輝智 | 貨幣學の實證的研究 | 菊判 函入 洋布 | 508 | 二、〇〇 一八 | 日本評論社 七月 |

▲歐洲大戰中及び大戰後に於ける貨幣上の實際現象を主材とせる論究で、貨幣本質の研究貨幣價値の研究外三編。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 山崎覺次郎 | 貨幣概論 | 菊判 函入 洋布 | 209 | 一、八〇 一八 | 日本評論社 四月 |

▲貨幣の概念種類及び特質、貨幣の職能、貨幣制度、貨幣の數量、貨幣の價値、貨幣の對外價値等六章。附錄法規外二章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 瀧本誠一 | 春秋文庫(23) 日本貨幣史 | 三六判 洋布 | 172 | 一、八〇 四 | 春秋社 九月 |

▲上古及中世に於ける貨幣の變遷、德川時代に於ける貨幣の沿革外一章にて本邦幣制の沿革の大要を說く。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 經濟學博士 服部文四郎 | 貨幣銀行及爲替論 | 菊判 函入 洋布 | 605 | 四、八〇 一八 | 明善社 十月 |

▲貨幣、銀行並に爲替に關する一般的理論を論說せるもので、貨幣の本質、銀行の意義、爲替と銀行との關係外卅四章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大阪每日新聞社 東京日日新聞社 エコノミスト部編 | エコノミスト叢書(1) 日本金融資本論 | 四六判 函入 洋布 | 493 | 二、〇〇 一二 | 日本評論社 九月 |

▲金融資本の成立、企業の集中、金融資本の統制、三大主體の統制、金融資本の政策の五編廿二章にて論述。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小島精一 | 日本金融資本論 | 菊判 並製 | 430 | 二、五〇 一二 | 千倉書房 六月 |

▲大金融業を始めとし炭鑛、銅、石油、鐵鋼、製絲業其他に亙つて記述したもので、金融業炭鑛業外十章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 猪俣津南雄 | 改造文庫第一部(21) 金融資本論 | 菊半截 布裝 | 418 | 四〇 八 | 改造社 二月 |

▲貨幣資本信用（貨幣以下四章）金融資本（會社企業と株式資本以下六章）金融資本の政策（貿易政策以下五章）。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ヒルファディング著 林要譯 | 改造文庫第一部(43) 全譯 金融資本論 | 菊半截 布裝 | 724 | 七〇 一四 | 改造社 十一月 |

▲資本主義發展上における經濟的諸現象を科學的に把握せるもので、貨幣と信用、資本の動員外三編廿五章。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 中央大學醫師 法學士 栗栖赳夫 | 日本金融制度發達の研究 | 菊判 函入 布裝 | 218 | 一、七〇 一八 | 啓明社 三月 |

▲出擧の制度、質及抵當の制度、無盡又は賴母子の制度、兩替商の研究、札差商の研究、銀行、信託會社等七章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 高城仙次郎 | 金利概論 | 菊判 並製 | 158 | 一、三〇 八 | 巖松堂 三月 |

▲資金の需用、資金の供給、實際步合の決定融通の性質と金利步合との關係、金利の平衡等に就て說述す。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 神長倉眞民 | 米國の金融市場 | 四六判 函入 布裝 | 318 | 一、六〇 一二 | ダイヤモンド社 八月 |

▲聯邦準備制度、銀行準備の變更、準備制度と通貨、紐育金融市場、手形市場、金融市場の諸變動外八章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 木村禧八郎 | 信託の話 | 四六判 並製 | 157 | 五〇 六 | 東洋經濟出版部 十一月 |

▲信託の由來、驚嘆に値する五ヶ年の發展振り、信託の意義、信託と財產差押へ、信託の利息は何故に割がいゝか外廿六章。

## 組合

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 北海道大富產業組合長 北海道產業組合聯合會囑託 佐藤藤七 | 產業組合の原理に對する批判 附―產業組合の根本義 | 四六判 函入 洋布 | 190 | 一、二〇 一〇 | 二松堂 十一月 |

▲ロバートオーエンの產業組合主義、フーリエの原則、キングの原則其他の產業組合に就いての批判を收めるもの。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 本位田祥男 | 社會科學叢書(23) 協同組合論 | 新四六判 洋布 | 224 | 一、〇〇 六 | 日本評論社 十月 |

▲協同組合發生の理由、協同組合の目的、協同組合の組織、協同組合の種類、生產者組合消費組合外五章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| シヤールヂード著 久我貞三郎譯 | 內外經濟學名著(5) 消費組合論 | 四六判 函入 洋布 | 524 | 三、二〇 一二 | 同文館 三月 |

▲特殊制度たる消費組合の專門的研究で、消費組合の目的以下十七章、附錄本邦消費組合運動（緒方淸氏稿）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ポポフ著 岡村貞三譯 | 勞農ロシア叢書(5) ソヴエート・ユニオンの消費組合 | 四六判 並製 | 115 | 五〇 四 | 上野書店 三月 |

▲千二百萬の勞農消費組合員を擁するソヴエート・ユニオンの消費組合運動を說いた書で歷史的概觀以下十章。

## 人口・食糧・統計

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 慶應義塾大學教授 清水靜文 | 人口問題の研究 | 菊判 函入 洋布 | 287 | 二、〇〇 一八 | 文啓社 六月 |
| 經濟學博士 永井亨 | 日本人口論 | 菊判 函入 洋布 | 424 | 三、五〇 一八 | 巖松堂 一月 |
| 伊藤秀一 寺尾琢磨譯 | 經濟學古典叢書 マルサス人口論 上卷—第六版 | 菊判 函入 背革 | 603 | 六、五〇 三〇 | 岩波書店 十一月 |
| 長崎高等商業學校教授 伊藤久秋 | マルサス人口論の研究 | 菊判 洋布 | 407 | 三、三〇 一八 | 丸善株式會社 一月 |
| ゼ・ラツセル・スミス著 賀川豐彦 藤田秀夫譯 | 世界食糧資源論 | 四六判 函入 洋布 | 664 | 二、三〇 一四 | 新潮社 七月 |
| 矢野恒太編 | 日本國勢圖會 —昭和四年版— | 菊判 並製 | 424 | 一、〇〇 一〇 | 日本評論社 六月 |

▲政治外交經濟社會其他に關する諸問題の根底に横はる人口問題の對策に就て論述せるもので、人口の變動外五篇。

▲社會組織を改革することにより生産力の發展分配の更生を期しようとする社會政策的人口對策を重點として論及したもの。

▲人口に對する一般的障碍竝びにその作用する樣式に就て、諸威に於ける人口に對する障碍に就て外廿五章。

▲人口論の解釋と當時の反響の觀察に二分し主としてマルサス人口論の其の時代の反映に就き論述す。

▲小麥地域と生産、小麥貿易比較と前途、溫帶の小粒穀物、米、玉蜀黍とその代用物、食物と人間の分布外廿三章。

▲世界は狹い、國の等級と黨派、國富と國民所得、食料の不足其他八十七篇を圖表と統計表を入れて說く。

## 財政・租税・豫算

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 鈴木憲久 | 最近日本財政史 | 菊判 函入 洋布 | 1083 | 六、五〇 二四 | 東洋經濟新報社 二月 |
| 四方田敏郎編譯 | マルクス主義財政 特に租税論 | 四六判 並製 | 197 | 八〇 六 | 叢文閣 十月 |
| 衆議院議員 前東京税務監督局長 勝正憲 | 税の話 | 四六判 函入 布裝 | 364 | 一、五〇 一二 | 千倉書房 四月 |

▲大戰前後に亙る我國の財政經濟狀況、華盛頓會議、加藤友三郎內閣の行政及財政整理、關東震災以下五章より成る。

▲マルクス、レーニン、バルガ、ノイバウエル、クニーク、レンツ等執筆の租税に關するマルクス主義の主要文献の譯。

▲出來るだけ通俗平易に租税に關して說いたもので、我等の費用は我等の負擔、租税とはどんなものか外二十二章。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京税務監督局 宇佐美邦雄 | 相續税の課税と手續 | 菊判 函入 洋布 | 328 | 二、五〇 一八 | 寶文館 十二月 |
| 時事新報記者 西野喜與作 | 減税の解說 | 四六判 並製 | 156 | 一、〇〇 四 | 秀文閣 十二月 |
| 松田雪堂 | 教育費負擔金增額と豫算問題 | 四六判 函入 布裝 | 205 | 一、〇〇 八 | 財政經濟時報社 十二月 |

▲現行相續税法を理論實際の兩方面より通俗平易に解說せるもので、課税の要件、課税相續財産外十章。

▲不景氣打破の應急策としての減税問題を說述せるもので、我國の税制、間接税のいろいろ、地方の税制外六章。

▲小學校教員の俸給補助額增額と豫算問題に就いて批評し論議し解說せるもので、教育費全額負擔放棄論外五章。

## 交通

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 經濟學博士 本庄榮治郎編 | 京都經濟史研究會紀要(1) 日本交通史の研究 | 菊判 函入 洋布 | 529 | 三、五〇 二四 | 改造社 九月 |
| 早稻田大學教授 島田孝一 | 交通經濟學概論 | 菊判 函入 布裝 | 595 | 四、五〇 二四 | 泰文社 一月 |
| 京都帝國大學教授 經濟學博士 小島昌太郎 | 海運經濟要論 | 菊判 函入 洋布 | 358 | 二、五〇 一八 | 千倉書房 十一月 |
| 時事新報鐵道記者 法學士 經濟學士 松村金助 | 鐵道功罪物語 | 四六判 函入 布裝 | 405 | 二、〇〇 一二 | 大阪屋號 十月 |

▲德川時代の交通概說（本庄榮治郎）助鄕と農民の生活（大山敷太郎）明治政府の助鄕政策（黑羽兵治郎）外六章。

▲國民經濟的竝びに私經濟的から交通を主として論說せるもので、第一編總論にて交通の概念及意義等を述べ海運論鐵道論を詳述。

▲海運と經濟、海運事業の發達、海運事業の經營、海運市場、海運に於ける競爭、海運に於ける獨占外四章。

▲鐵道及び鐵道政策に就いて說述せるもので日本鐵道發達史の展望、歷代內閣の鐵道功罪史外二篇廿五章。

## 産業・商業一般

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 時事新報經濟部編 | 日本産業の合理化 | 四六判 函入 布裝 | 605 | 二、五〇 一二 | 東洋經濟新報社 一月 |

▲時事新報紙上に百數十日に亙り具體的考察を連載したもので、我産業界の實情に對して一般的觀察が試みられる樣說述す。









国立国会図書館

支部上野図書館

## 經營經濟

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 松永安左衞門 | 産業改造への途 附歐米經濟事情 | 四六判並製 | 215 | 八〇 | 六 | 千倉書房 | 十一月 | ▲社會の自由と協調に基く産業合理化、不景氣の檢討と打開對策、政治の産業化外五章。附錄米國産業繁榮の基礎觀念紹介。 |
| 高橋龜吉 | 明治大正産業發達史 | 菊判背革 | 763 | 六、〇〇 | 二四 | 改造社 | 二月 | ▲總論、經濟制度の革命時代、維新革命の整理と發展準備の時代外三編にて事象の原因結末を綜合的に研究せる書。附錄年表參考要目 |
| ヘンリー・フォード著 井草住雄譯 | 予の産業哲學 | 新六判並製 | 96 | 七〇 | 四 | 大森書房 | 六月 | ▲機械・新時代の救世主・予の産業哲學・成功論、予は何故に進歩を信ずるか等四篇より成る。―普及版― |
| マネジメント社編 | フォードの事業哲學（マネジメント研究資料16） | 四六判並製 | 102 | 八〇 | 四 | マネジメント社 | 六月 | ▲フォードの近著「マイ・ライフ・アイ・オブ・インダストリー」の譯で新救世主としての機械、成功外二篇。 |
| 横井時冬 | 日本商業史（改造文庫第一部(25)） | 菊半截布裝 | 430 | 四〇 | 八 | 改造社 | 五月 | ▲故横井博士の多くの著作中最も學界に裨益したことの多い代表的著作で、太古より寧樂期の末に至る以下六篇。 |
| 岩崎穗一 | 明治煙草業史 | 四六判並製 | 218 | 二、五〇 | 一二 | 世界社 | 五月 | ▲明治年間の煙草業に關する研究で、明治初期の煙草業、卷煙草製造業とサンライス、稅則改正論の勃興外十七章。 |
| 經營經濟研究所編輯 | 經營經濟研究 第三册 | 菊判並製 | 143 | 八〇 | 六 | 同文館 | 八月 | ▲工業經營の規模及構造（上田貞次郎）産業經營學に於ける資本概念に就いて（馬場敬治）外二篇を收む。 |
| 經營經濟研究所編輯 | 經營經濟研究 第二册 | 菊判並製 | 118 | 八〇 | 四 | 同文館 | 四月 | ▲近世技術の進化に於けるテイラーシステムの意義―中西寅雄、所謂「予算統制の價値」―村本福松其他二篇を收む。 |
| 池內信行 | 經營經濟學の本質 | 菊判布裝入 | 482 | 三、五〇 | 二四 | 同文館 | 九月 | ▲經營經濟學發達の徑路、經營經濟學の成立、經營經濟學の體系其他十八章にて論述。 |

## 銀行・會社・保險

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 村本福松 | 商工經營經濟論 | 菊判洋入 | 609 | 三、五〇 | 一八 | 文雅堂 | 十二月 | ▲新經營主義、新經營態度、サイエンティック・マネジメントと勞務者、生産經濟への標準化の寄與外六章、附錄二章。 |
| 上野陽一編 | 事業統制圖表 ―ソノ作リ方ト應用― | 菊判洋入 | 268 | 三、二〇 | 一八 | 同文館 | 七月 | ▲科學的管理法とガント、ガント表の原理、事業及びその管理法一班、事業統制の要旨及び方法其他九章。 |
| マネジメント社調査部編 | 生産管理（マネジメント研究資料(17)） | 四六判並製 | 72 | 七〇 | 四 | マネジメント社 | 十二月 | ▲各種工場に適用さるべき生産管理の實際的方法を述べたもので、生産管理部の組織、管理施設の運用其他。 |
| 慶應義塾教授 向井鹿松 | 新經營者學 | 菊判並製 | 218 | 一、〇〇 | 八 | 日本評論社 | 十月 | ▲新時代に於ける事業と其の經營法を說けるもので、事業と營業、事業の獨立性、個人事業の獨立性外十八章。 |
| 東京商大助教授 增地庸治郎 | 經營要論 | 菊判布裝 | 220 | 一、八〇 | 一二 | 巖松堂 | 四月 | ▲總論、外部機構論、內部組織論の三編に分ち最も新なる機構を傾盡し斯學の全體系を論述す。 |
| 中央大學講師 法學士 栗栖赳夫 | 會社財政及其整理論（社債を中心とする） | 菊判布裝入 | 281 | 二、七〇 | 一八 | 啓明社 | 一月 | ▲法律的竝に經濟的見地から社債を中心とする株式會社の觀察の一班で、第一篇社債の一般的研究、第二篇社債の特殊研究外二篇。 |
| 安田與四郎 | 我國會社企業の實績 | 洋菊判布入 | 394 | 二、八〇 | 一八 | 白揚社 | 一月 | ▲資本主義の末期とは何を指すか、我國の金利と企業利得外十六章にて我財界の實相に及び說述す。 |
| ダイヤモンド社編 | 銀行會社年鑑 | 四六倍判背革入 | 832 | 七、〇〇 | 三〇 | ダイヤモンド社 | 五月 | ▲紡績、雜纖維工業、製糖、食料品工業、鑛業、造船船渠、製作工業、製紙、肥料、電燈電力其他の諸會社の營業狀態を示す。 |
| 第三十五回全國公債社債明細表 ―昭和三年十二月卅一日現在― | 日本興業銀行調査 | 菊倍判並製 | 140 | 一、〇〇 | 一〇 | 東洋經濟新報社 | 五月 | ▲公債社債に關する資料を網羅したもので、全國公債社債現在高一覽表、國債、府縣債、市債、社債其他六篇。 |







国立国会図書館

| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 價 | 出版 | 年 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 渡部寅二 | 決算報告書の分析的觀察法 | 菊判 | 347 | 三、〇〇 | 同文館 | 三 | 月 | ▲貸借對照表、分析的觀察法概論、單一貸借對照表の分析的觀察法、連續貸借對照表の比較觀察、趨勢法其他十一章。 |
| ワックスウェール著 足立北鷗譯 | 利益分配論 | 四六判 | 448 | 三、六〇 | 名著刊行會 | 二 | 月 | ▲事實上經濟學上法律學上等より觀察したる利益分配論で、利益分配の組織、實施の效果、反對說に付ての研究其他に付て詳述。 |
| 三角社編 | 英文 東京内外人貿易會社商館錄 附—東京案内記 | 四六判 | 57 | 一、二〇 | 三角社 | 十 | 月 | ▲東京各國大公使領事館、東京諸官廳、東京内外銀行、東京内外人諸團體、外人貿易商館邦人貿易業者其他を英文で紹介せるもの。 |
| 脇坂虎雄 | 保險宵話 | 四六判 | 186 | 七〇 | ダイヤモンド社 | 三 | 月 | ▲保險一般に關する解說書で、誤解された保險、保險會社の見方と擇び方、保險料計算の實例、保險界の現狀其他七項。 |
| 社會局事務官 法學士 熊谷憲一 | 疾病保險論 | 菊判 | 421 | 三、五〇 | 巖松堂 | 十 | 月 | ▲社會保險の概念沿革及各國に於ける立法例及び各國に於ける疾病保險制度の狀況等を二篇十二章に亙つて說述。 |

## 證券・株式・相場

| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 價 | 出版 | 年 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中央大學醫師 マスター・オブ・アーツ 島田德 | 證券と投資 | 四六判 | 325 | 一、八〇 | 大阪屋號 | 一 | 月 | ▲第一編證券論（五章）第二篇投資の理論（六章）第三篇投資の手續（七章）にて證券及投資に關する學理と實際との綱要を解說す。 |
| 法學士 高平隆雄 | 英米の投資銀行と投資證券 | 菊判 | 282 | 二、五〇 | 改造社 | 六 | 月 | ▲英米の起債市場の實際を說明すると共に英米の投資銀行が長期金融に際し一般各種公市法人其他に對する投資態度の概要を示す。 |
| 文藝社編著 | 萬有文庫(12) 株式取引の話 —株式用語辭典— | 菊半截 | 89 | 一五 | 文藝社 | 十 | 月 | ▲株式賣買に關するあらゆる實際の知識を網羅せるもので、取引所の機能、上場株外廿二章。株式市場用語集を附す。 |
| 安田與四郎 | 株式罫線の見方 | 四六倍判 | 34圖 | 三、〇〇 | ダイヤモンド社 | 十 | 月 | ▲東株陰陽引月足、新東株陰陽引日足、鐘淵紡績株陰陽引週間足、生絲先物陰陽引日足、期米先物陰陽引日足外卅九圖を收む。 |





| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 價 | 出版 | 年 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東洋經濟新報社編 | 東京短期取引開始以來 短期新東日々表 | 四六判 | 69 | 五〇 | 東洋經濟新報社 | 十一 | 月 | ▲自大正十年六月至本年十月迄の短期新東前場及後場相場、翌日への繰延高、賣買高、受渡高及繰延料を精密に記錄す。 |
| 大阪毎日新聞記者 佐藤善郎 | 株屋町五十年と算盤哲學 | 四六判 | 284 | 一、五〇 | 大阪屋號 | 二 | 月 | ▲株屋町五十年（儲け頭は三井家其他）及貨殖の道に勵みつゝある乾新兵衛、寺田甚與茂兩老に就て述ぶ。 |
| 茂木繁 | 米相場物語 | 四六判 | 128 | 六〇 | 龍文館 | 五 | 月 | ▲我國民經濟に影響を及ぼす米相場の變動に就いて述べたもので、米穀の取引、需要と給供外三章。附錄米價調節史外三章。 |
| 國民新聞社經濟部編 | 相場街祕聞 —財界の動きと相場の氣合— | 四六判 | 337 | 一、八〇 | 正和堂 | 八 | 月 | ▲兜町及蠣殼町の取引所を中心にその表裏の一部分及び相場とはどんなものかを誰にも分るやうに平易に說く。 |
| 大阪朝日新聞經濟學部記者 狩野正夫 | 商戰祕話 | 四六判 | 275 | 一、五〇 | 一元社 | 十 | 月 | ▲株式編（參宮鐵道買占事件外十四篇）米穀編（松辰と天一坊の提携外八篇）綿絲編（伊豫木綿會社の買占外九篇） |

## 倉庫・商品・市場

| 著者 | 書名 | 版 | 頁 | 價 | 出版 | 年 | 月 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 名古屋高商教授 前馬治一 | 倉庫原論 | 菊判 | 186 | 一、五〇 | 巖松堂 | 十 | 月 | ▲寄託論、倉庫營業論の二編につき其範圍に於ける法律的經濟的諸問題を論明し併せて我邦及歐米の斯業一般を說く。 |
| 廣島高等工業學校教授 井口豐八郎 松本商業學校教諭 和田操一郎 | 最新實際商品學 | 菊判 | 899 | 七、五〇 | 太陽堂 | 十一 | 月 | ▲日常生活と不離の立場にある多數の商品に就き衣食住の三篇に大別して簡明に實際的知識を說述せるもの。 |
| 東京朝日新聞社經濟部編 | 商品盛衰記 | 三六判 | 218 | 六〇 | 朝日新聞社 | 二 | 月 | ▲自足を嘆く、大麥の沒落、多難な染料其他七十篇にて商品の衰殘興隆の跡をたどつて價格經濟の實相を示した書。 |
| 文學士 野口保市郎 | 經濟地理學概論 | 菊判 | 401 | 三、〇〇 | 泰文社 | 四 | 月 | ▲經濟地理學の意義、商品の生成と分布、商品の移動と交通、商品の市場と交換等にて理論と事實とを共に說述。 |

## 商店・廣告

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 法學博士 内池廉吉 | 市場要論 | 菊判 並製 | 204 | 一、五〇 一二 |
| | 嚴松堂 | | | 五月 |

▲現代市場、生鮮品市場、穀物市場、製造品市場に分ち之を構成する各種機關の機能を系統的に叙す。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 加藤三郎譯補 | マーシャルフイールドと世界一の大商店 | 四六判 並製 | 342 | 一、五〇 八 |
| | 改造社 | | | 十一月 |

▲現代式デパートメントストーアの始祖としてジョンワナメーカと對立せるマーシャルフイールドの傳記。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 有川治助 | ジョン・ワナメーカ —人及びその事業— | 四六判 並製 | 405 | 一、五〇 六 |
| | 改造社 | | | 十月 |

▲小僧から賣子となり薄資をもつて小賣店を開き終に世界の小賣商王となつたジョン・ワナメーカの人と事業を說く。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 下澤瑞世 | 新商業叢書(9) 顧客の眞理と扱法 | 四六判 洋布入 | 302 | 一、五〇 二二 |
| | 博文館 | | | 六月 |

▲商業經營の理論的研究を基礎とし仕事能率の增進及び新廣告法を記述したもので、店を氣持よくする方法外十八章。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 枡本卯平 | 百貨店をどう見るか | 四六判 並製 | 123 | 三〇 四 |
| | 東京新聞社 | | | 九月 |

▲大百貨店、番頭の代りは何所へ、ロハ自動車、何所までも人喰ひ、百貨店の不當廉賣外廿三項に論述す。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 室田久良三 | 廣告レイアウトの實際 | 新菊判 洋布入 | 376 | 三、〇〇 一八 |
| | 商店界社 | | | 十二月 |

▲廣告原稿の作製上最も主要な基礎知識とも言ふべきレイアウトの研究で、廣告レイアウトの意義外十二章。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 新聞研究所編 | 廣告戰策 附・生きた廣告 | 四六倍判 並製 | 100 | 六〇 四 |
| | 新聞研究所 | | | 九月 |

▲新聞廣告第一主義、廣告揭載紙の選擇、揭載紙選擇の六則、地方一流紙の實力、大廣告主の廣告戰術其他七章。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大塚政晨 日本大學前學部講師 廣告販賣能率顧問 | 販賣增進 廣告政策 | 菊判 洋布入 | 501 | 四、〇〇 一八 |
| | 光學堂 | | | 六月 |

▲廣告をなすべき最重要素たる商品の需要關係販賣通路廣告費廣告政策廣告の效果等に就て詳述せるもの。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 小林愛雄 文學士 | 商業美學 | 菊判 並製 | 一〇〇 六 | 振興館 |
| | | | | 四月 |

▲美の本質、建築美、彫刻美、色彩美、陳列美、廣告美、照明美、音樂美、店員美等商業に關する美學に就いて說いたもの。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 法學博士 内池廉吉 | 市場要論 | 菊判 並製 | 204 | 一、五〇 一二 |
| | 嚴松堂 | | | 五月 |

▲現代市場、生鮮品市場、穀物市場、製造品市場に分ち之を構成する各種機關の機能を系統的に叙す。





## 金儲・貯金・其他

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 商學士 金原一郎 | 實地應用 金儲けと金策 | 四六判 洋布入 | 378 | 二、〇〇 一二 |
| | 博文館 | | | 十月 |

▲金策の注意點を出來るだけ實例に徵して說述せるもので、金策の種々相、資金の運轉法金策の書式一般外五章。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 谷孫六 | 金儲け實際談 岡辰押切帳 | 四六判 函入 布裝 | 292 | 一、八〇 一二 |
| | 大日本雄辯會 | | | 二月 |

▲金の働きを尤も巧妙に誰にもすぐ應用出來る樣、立志傳や成功談を緯とした著者一流のユーモアに富んだ物語。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 杉一郎 | 金儲實話 | 四六判 並製 | 449 | 一、六〇 一〇 |
| | 先進社 | | | 十二月 |

▲小商賣祕帳、家作の儲け祕法、高利貸祕話、陸屋主人押切帳、小資本開業祕傳、雜誌王となるまで其他金儲實話十九篇。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 日米通信社長 澁谷保之編著 | ニコ〳〵貯金美談 | 四六判 並製 | 341 | 一、〇〇 六 |
| | 大黑屋 | | | 四月 |

▲不動貯金銀行を中心とする預金者の體驗談を收めたもので、貯金を始めた動機、貯金小說、貯金談叢等數篇の實例を收む。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 主婦之友社編輯部編 | 金滿家になる祕訣百ケ條 | 袖珍 並製 | 112 | 二五 二 |
| | 主婦之友社 | | | 六月 |

▲自分は貧しい者だと思ふ考へを止めよ、貧のドン底も金滿家への第一步と思へ、一錢を浪費する者は一錢の金にも窮す外九十七項。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時事新報社經濟部編 | 商賣打明話 —家庭の經濟知識— | 四六判 上製 | 357 | 一、八〇 一二 |
| | 寶文館 | | | 九月 |

▲各種商賣の內幕を曝け出した商賣打明話（小賣店廿項、月賦店、露店の祕密）及利殖方法を說いた利殖の實際智識六項を收む。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 商學士 金原一郎 | 實地應用 金儲けと金策 | 四六判 洋布入 | 378 | 二、〇〇 一二 |
| | 博文館 | | | 十月 |

▲金策の注意點を出來るだけ實例に徵して說述せるもので、金策の種々相、資金の運轉法金策の書式一般外五章。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 野澤秀雄編著 | 文字と畫の圖案化資料 | 四六倍判 函入 布裝 | 100 | 三、五〇 一八 |
| | 富文館 | | | 二月 |

▲各方面の廣告圖案として實際に應用出來、しかも素人にも描き得る樣研究されたもので文字及び圖案畫を收む。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 廣告界編 | 商店圖案選集 第一輯 | 菊判 並製 | 50枚 | 一、八〇 一八 |
| | 商店界社 | | | 一月 |

▲雜誌「廣告界」誌上で發表した作品の中、實際に利用して效果のあつたものを撰めたもので、陳列窓背景、チラシ、ショーカード、案內狀、カタログ、ポスター、廣告塔の各種を多色刷りしたもので、各商店一樣に利用出來る樣に網羅されてある。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 廣告界編 | 商店圖案選集 第二輯 | 菊判 並製 | 50枚 | 一、八〇 一八 |
| | 商店界社 | | | 一月 |

# 二二、農業

## 農業。農學一般

| 著者 | 書名 | 形體裝幀 | 頁數 | 定價錢 送料錢 | 發行所 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 農學博士 那須皓 | 日本農業論 | 菊判 洋函入布 | 332 | 二、五〇 一八 | 千倉書房 四月 | ▲國民經濟的見地より現代日本の農業を大觀したものであつて、我が農業の國民經濟的地位、本邦農業の特質其他四章。 |
| 法學士 岩井尊人 | 最近のデンマークと農業の合理的共同經營 | 菊判 布裝 | 333 | 二、五〇 一二 | 有斐閣 十月 | ▲第一部に最近丁抹の國情を第二部に同國の農産組合の發達、沿革、現況を述べられたもの。 |
| チウネン著 農學士 近藤康男譯 | 孤立國 | 菊判 布裝 | 538 | 四、五〇 二七 | 成美堂 十月 | ▲十九世紀の初頭ドイツに於て生れたもので雄大なる理論的構想の努力によつて成し遂げられた名著。 |
| 加藤惠造 | 農學實驗 | 菊判 布裝 | 300 | 二、〇〇 一八 | 成美堂 一月 | ▲實驗器械の取扱手入より實驗の術式方法を說くこと頗る用意周到で又敎育に立脚して學術と實地とを按配す。 |
| 東京府農事試驗場技師 農學士 淺井實 | 實驗農業機械講義 上卷 | 菊判 布裝 | 450 | 四、八〇 二七 | 養賢堂 十月 | ▲農業園藝上「どの機械はどんな原理・構造で其組立・運轉・巧程並に經濟上はどうかと」。此問題に徹底的解答を與へたもの。 |
| 内田郁太著 野口德三改訂 | 農用藥劑學 | 菊判 洋函入布 | 682 | 五、五〇 三六 | 明文堂 二月 | ▲農・園藝に於ける病蟲害豫防上現今取扱はれてゐる約二百六十餘種の農用藥劑の性狀、調製法、使用法等を詳述。 |







| 著者 | 書名 | 形體裝幀 | 頁數 | 定價錢 送料錢 | 發行所 發行月 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 桝本卯平 | 小賣業者は何故苦しむか | 四六判 並製 | 37 | 二〇 二 | 東京新聞社 一月 | ▲便利のよしあし、文明の利器、苦の轉嫁、東京市の道路、經濟戰外二十項にて小賣業者の立場を說く。 |
| 桝本卯平 | 小賣業者は何處へ行く | 四六判 並製 | 44 | 一五 二 | 東京新聞社 三月 | ▲場末のたばこ店、世の變遷、店の强味、この後が心配だ外十四項にて、如何にすれば小賣業者の地位は安定するかを說く。 |
| 山下實治 | 月給取より商人へ | 四六判 洋函入布 | 298 | 一、五〇 一二 | 商店界社 一月 | ▲官吏、銀行、會社員が月給取生活を捨てゝ商賣人に鞍替をした積りになつて商賣の面白味面白くない點をありのまゝに書いた書。 |
| 大阪朝日新聞經濟部編 | 商賣うらおもて | 四六判 洋函入布 | 288 | 一、五〇 一二 | 日本評論社 十一月 | ▲騙す者と騙される者、マトモに見られぬ醬油工場、一家團欒の團扇製造、垂涎されるお師匠外百六十七篇。—增補縮册版— |





国立国会図書館
文部省上野図書館

## 米麥・蔬菜・果樹

| 著者 | 書名 | 版本 | 定價 | 出版 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 農學士 武田總七郎 | 實驗麥作新說 | 菊判 函入 洋布 | 868 | 六、五〇 三六 | 明文堂 九月 |
| 理・農學博士 田所哲太郎 | 米之研究 第一輯 | 菊判 布裝 | 728 | 七、〇〇 二七 | 成美堂 六月 |
| 三重縣西拓殖補習學校教諭 中山文一 | 蔬菜栽培要訣 | 四六判 函入 布裝 | 215 | 一、〇〇 一〇 | 泰文館 三月 |
| 宮田孝次郎 | 野菜の栽培調理 上卷 | 四六判 函入 布裝 | 395 | 一、五〇 一二 | 萬里閣 三月 |
| 宮田孝次郎 | 野菜の栽培・調理 下卷 | 四六判 函入 布裝 | 514 | 二、〇〇 一二 | 萬里閣 六月 |
| 大橋昌夫 | 美しい實用的な蔬菜園の作り方 | 四六判 上製 | 331 | 一、五〇 六 | 資文堂 二月 |
| 高橋獎 | 圖解園藝害蟲驅除豫防法 | 四六判 函入 洋布 | 371 | 二、五〇 一八 | 明文堂 五月 |
| 東京府技師 阿部元作 | 實地目黑式孟宗筍栽培法 | 四六判 函入 洋布 | 278 | 二、〇〇 一八 | 明文堂 八月 |
| 米田義一 角田榮藏 | 實驗西瓜栽培法 | 四六判 函入 洋布 | 461 | 二、八〇 二七 | 明文堂 六月 |
| 地方農林技師 杉山昌治 | 實驗櫻桃栽培法 | 菊判 函入 洋布 | 532 | 五、五〇 二七 | 明文堂 三月 |
| 岐阜高等農林學校長 草場榮喜 | 果樹園藝學講義 中卷 | 菊判 函入 洋布 | 634 | 六、〇〇 一八 | 六盟館 六月 |
| 農學博士 佐藤寛次 海野隆之進 著 | 木蔭の花と實 | 菊判 布裝 | 180 | 一、八〇 一八 | 成美堂 一月 |

▲既往の實驗に基き氣候と麥の生活現象を觀察し栽培諸般の事項を詳述せるもので併せて畑作栽培の學理實際に及ぶ。

▲過去十年間の獻身的努力を捧げて得たる研究を集め第一輯として刊行せるもの。

▲馬鈴薯、甘藷、蘿蔔、牛蒡、大根、蕪菁、薯蕷、芋、薑、百合其他廿六章にて蔬菜栽培の實際を述ぶ。

▲日常多く用ひらるる各種野菜の沿革、性狀用途、效用、氣候土質、品種、栽培法、收穫貯藏、病蟲害、調理法等を詳述す。

▲野菜の栽培法と調理法を說述した書で、だいこん、にんぢん、さつまいも、れんこん、ねぎ、しやうが外廿七篇。

▲家庭蔬菜園は庭園の延長であつて實用的であると共に美化せねばならぬといふ事を理想とし十三章にて平易に詳述。

▲各害蟲毎に形態加害の精巧な圖を入れて判別に便す、蔬菜の害蟲果樹の害蟲百二十餘種の形態習性驅除豫防法を詳述。

▲孟宗竹の培養、孟宗筍の作り方、孟宗筍の促成、利用特に海苔ひゞに就て述べ母竹養成法をも詳述す。

▲四季の清涼果たる西瓜栽培に付き大和西瓜の栽培を標準として詳述されたもので收支計算、販賣事情をも述ぶ。





## 花卉園藝・庭園

| 著者 | 書名 | 版本 | 定價 | 出版 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 農學士 佐々木祐太郎 | 增訂花卉園藝 上卷 | 菊判 布裝 | 540 | 五、八〇 二七 | 成美堂 九月 |
| 大橋昌夫 | 年中花の絕えない美しい花壇 | 四六判 函入 布裝 | 267 | 二、五〇 一二 | 資文堂 五月 |
| 旭花園主 鳥影左近 | 一坪で出來る和洋草花の作り方 | 四六判 上製 | 298 | 一、五〇 八 | カオリ社 五月 |
| 川村秀雄 | 最も新しい趣味の草花園藝 | 四六判 函入 洋布 | 260 | 一、六〇 一二 | 二松堂 三月 |
| 安西義正 | 趣味と實益叢書(1) 花卉園藝の手引 —露地の卷— | 四六判 背布 | 259 | 一、六〇 六 | 資文堂 六月 |
| 羽島蓁 | 花卉叢書(3) 花卉裝飾の話 | 四六判 洋布 | 190 | 一、二〇 八 | 大阪毎日新聞社 二月 |

▲通論と球根類とより成り五百餘頁の本文と十四頁の索引を附し寫眞版木版着色版等數多挿入。

▲絕えず美しい眺めを保つには、何時蒔くべきか、花園に關するいろいろの事柄其他七章にて詳述す。植栽圖案。

▲新しい學說と實驗とに基いて花の栽培を說いた書で、花に適當した土の選び方、一般に使用さるゝ肥料の價値外十三章。

▲土の香、草花の分類、三色菫、デージー、水仙其他にて一般的事柄、一二年生草花、多年生草花、球根草花等に分けて收む。

▲花卉概念、露地草花の作方汎論、主なる草花の研究、主なる花木類の研究、栽培法の特別研究其他六章。

▲植物裝飾の意義と範圍、室内裝飾、花卉裝飾、花卉水揚法其他にて生活に伴ふ濕ひと云ふ愉快さが植物裝飾にあるを說く。



国立国会図書館

支部上野図書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 吉津良恭 | 花卉叢書(4) | 草花栽培の話 | 四六判 | 洋布 | 195 | 一、三〇 八 |
| 野崎信夫 | 野崎園藝叢書(1) 培養秘訣 | 趣味の觀賞植物 | 四六判 | 洋函入布 | 429 | 二、六〇 一八 |
| 畑中養一郎 農學士 | | 皐月栽培法 | 四六判 | 布裝 | 122 | 八〇 六 |
| 岩崎浩 花作り | | サツキとアザレア | 四六判 | 上函製 | 157 | 一、三〇 一〇 |
| 石井勇義 實際園藝主幹 | | 最新菊の作り方 | 四六判 | 洋函入布 | 312 | 一、五〇 一二 |
| 石井勇義編 | | 菊花栽培祕訣 | 四六倍判 | 洋函入布 | 180 | 一、六〇 一八 |
| 東京重陽會 | | 菊の栽培十二ヶ月 | 四六判 | 洋函入布 | 339 | 二、五〇 一二 |
| 石井勇義 實際園藝主幹 | | 新しいバラの作り方 | 四六判 | 洋函入布 | 270 | 一、五〇 一二 |
| 大塚春雄 | | 仙人掌の種類と栽培 | 四六判 | 洋函入布 | 310 | 二、〇〇 一二 |
| 村井作次郎 東京高等造園學校講師 駒 | 實用庭園叢書(2) | 庭園植物の病蟲害 | 四六判 | 布裝 | 391 | 二、八〇 一八 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大阪毎日新聞社 | 五月 | ▲草花を作る初心者の爲に基礎となる個條を選んで說明を加へたもので、土の話、苗床と花園外四十七篇。附錄七篇。 |
| 春陽堂 | 十月 | ▲露地で作れる趣味の觀賞植物百數十種に就いて各植物の性狀と品種とを述べ特に其培養法の祕訣を說いたもの。 |
| 華陽書院 | 八月 | ▲近來盆栽用植物として都鄙を問はず各方面に流行し愛翫せらるゝ皐月の栽培法を三編に說いたもの。 |
| 資文堂 | 五月 | ▲さつきと洋種躑躅に就て詳述した書で、皐月（繁殖法、接木法外廿七項）洋種躑躅（移殖法、外廿項） |
| 誠文堂 | 十一月 | ▲日本の觀賞園藝史上に古い歷史を持つ菊の栽培に就いて述べたもので、菊の基礎知識、大菊の作り方外三篇。 |
| 誠文堂 | 九月 | ▲菊花御紋章の由來（沼田賴輔）菊花の遲速調節法（曾根安輔）其他各方面の權威四十三氏の說を網羅す。—改版— |
| 太陽堂 | 十月 | ▲多年に亙つての培菊上の諸種の實驗より菊の栽培法を說いたもので、菊の歷史、菊の種類、培養上の調製外十六章。 |
| 誠文堂 | 十二月 | ▲バラ栽培の流行、バラの性狀と分類、新發見の合接法、バラ園の設計法、バラの園藝品種名外十三章。 |
| 誠文堂 | 九月 | ▲年と共に流行して來た仙人掌の種類と栽培法を述べたもので、仙人掌類栽培の趣味、栽培法外十三章。 |
| 鈴木書店 | 十一月 | ▲學理を避け實用を主とした庭園樹木の病蟲害の豫防、驅除法を詳述、寫眞、圖面多數挿入す。 |





## 蠶業

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 深山晃 | 中流住宅 | 庭園の造り方と庭木の知識 | 四六判 | 布裝 | 266 | 一、八〇 六 |
| 林學博士 上原敬二 | 誰にも出來る | 和洋風庭園の作り方 | 四六判 | 布函入裝 | 361 | 三、〇〇 一二 |
| 林學博士 田村剛 | | 世界造園圖集 | 四六倍判 | 布函入裝 | 337 | 六、〇〇 二四 |
| 齋藤勝雄 | | 日本庭園の手法 | 四六判 | 布裝 | 316 | 二、二〇 一八 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 鈴木書店 | 二月 | ▲庭園の種類、花壇、庭園建造物、蔓性植物園の小道其他にて中流住宅にふさはしき庭園の造り方と庭木に就て述べたもの。 |
| 資文堂 | 三月 | ▲庭園に就ての言葉、材料、樹木、庭園設計、庭園細部構造等五章にて庭園の各種の方面をとり入れて作り方を說明す。 |
| 嵩山房 | 六月 | ▲世界各國の造園資料たるべき多數の寫眞若くしは平面圖を輯め、之を庭園公園・天然造園の三部に分ち收む。 |
| 成美堂 | 八月 | ▲實際家たる著者が從來腕から腕へのみ傳承された手法を文章圖解に飜譯して得たものである。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 上田蠶絲專門學校同窓會 | 編 | 蠶絲科學講演集 第二輯 | 菊判 | 洋布 | 258 | 二、五〇 一八 |
| 早川卓郎 | | 養蠶成就の道 | 四六判 | 並函入製 | 400 | 二、〇〇 一八 |
| 明文堂編輯部 | 學生參考叢書 | 養蠶 | 菊半截 | 並製 | 110 | 三五 二 |
| 農村黎明會 | 農村經濟叢書(5) | 生絲經濟の話 | 四六判 | 上製 | 180 | 八〇 六 |
| 田中貢 | 商學博士 | 繭生絲の將來 | 菊判 | 布函入裝 | 331 | 二、五〇 一八 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 栗田書店 | 二月 | ▲蠶絲業の現狀、蠶絲業の將來、人造絹絲工業と支那蠶絲業の四章十六節にて繭生絲當面の問題に關し具體的に將來の對策を說く。 |
| 文教書院 | 七月 | ▲世界に於ける我國の經濟的地位を確保する生絲に就てその現狀及び今後の對策等を說いたもの。 |
| 明文堂 | 一月 | ▲主として實地當業者の爲に「蠶」と「蠶の飼ひ方」に關する必須の事項を網羅して平易に詳述せるもの。 |
| 明文堂 | 十月 | ▲學生の自習參考用として養蠶技術を平易簡潔に說述せるもので、夏秋蠶の爲には特に一章を設く。 |
| 明文堂 | 五月 | ▲細胞學上よりみたる蠶の單性生殖、絹絲と絹織物に就て、米國の絹業と生絲取引實情、桑樹の生理學的研究其他。 |



国立国会図書館
農業上野図書館

国立国会図書館

小山清 製絲現業便覽 菊半截 洋布 169 九〇 明文堂 十一月
▲製絲現業員の掌中參考書として原料繭の形質、選繭煮繭、繰絲等よりセリプレーン、生絲整理法迄記載。

地方農林技師 野中幸兵衛 田口惣一郎 氣象應用 屋外條桑育蠶法 菊判 並製 144 一、二五 明文堂 五月
▲自然の氣象を巧みに利用して屋外に養蠶し良繭を多穫しうる條桑育の詳細を平易に説いたもの。

農學博士 横山桐郎 最新 日本蠶業害蟲全書 菊判 洋裝函入 582 五、八〇 明文堂 五月
▲日本全領土に生棲する桑樹、生絲、繭、蠶兒等の害蟲を悉く網羅し、其形態、習性、驅除豫防法を詳述。

地方農林技師 三谷賢三郎 蠶病學 中卷 菊判 洋裝函入 509 四、五〇 明文堂 十月
▲養蠶、蠶種製造上被害最も多き蠶の微粒子病、白疆病、絲疆病其他の硬化病の詳細なる研究と其驅除豫防法を説述。

遠藤保太郎 樋口琢磨著 日本桑樹栽培論 菊判 洋裝函入 856 六、五〇 明文堂 二月
▲總論、桑樹種類篇、桑樹繁殖篇、桑樹仕立篇、桑樹培養篇、桑樹收穫篇、桑樹收量篇、桑園經營。

地方農林技師 西川砂 最新 桑樹萎縮病論 菊判 並製 240 一、八〇 明文堂 二月
▲多年の實驗研究により桑樹萎縮病の原因、誘因を探究し桑樹の生理を説いて其の合理的治療法及び豫防法を詳述。

假田蠶業試驗場長 清水市平 桑園改良 理想的桑の作り方 四六判 並製 397 二、〇〇 明文堂 四月
▲桑葉の生産費を節減し良質の桑葉を多收穫せんとして最も理想的な桑の作り方を詳述。

## 畜産・農産製造

農林省畜産試驗場技師 芝田清吾 畜産學講義 菊判 洋裝函入 243 二、五〇 明文堂 五月
▲畜産の價値、家畜の歷史、組成、生殖生理、遺傳、蕃殖、審査、品種、飼養、管理等に亘り各家畜に付て詳述。

山井映三 乳牛の經營 菊判 洋裝函入 578 三、八〇 晴文堂 二月
▲我國に於ける乳用種牛の現況、土地の選定、牛舍、管理法、飼料の組成其他にて乳牛の經營上必須なる諸般の事項を網羅。





高橋虎雄 益田甫 良犬を得る秘訣 四六判 並製 216 二、〇〇 文化生活研究會 七月
▲畜犬趣味、良い犬を育てる秘訣、畜犬の衣食住問題、畜犬の四季の衛生、犬の病氣と家庭療法外三篇。附錄副業としての飼犬。

農學士 成田繁 農學士 鶴田祥平 農産物及畜産物の販賣事情 菊判 並製 208 二、三〇 養賢堂 八月
▲著者獨創の販賣改善法を實際調査に基き農産物・畜産物の需給關係—價格の變動・取引の組織及其方法其他。

明文堂編輯部編 學生參考叢書 農産製造學 菊半截 並製 90 三五 明文堂 九月
▲農産物加工品中農家の副業となしうる範圍内に於て穀粉澱粉麵類麥稈植物纖維木蠟葉煙草より味噌納豆乳製品等に及ぶ。

## 養鷄・養蜂

平山美佐男 是から一の新しい養鷄法 菊判 並製 286 一、二〇 磯部甲陽堂 三月
▲最新有利の經營とされる養鷄を始める人の手引書で、鷄種篇、衞生篇、建築篇、種禽篇、孵育篇等八編にて説述。

主婦之友社編輯部編 主婦之友實用百科叢書(38) 蜜蜂の有利な飼ひ方 三六判 上製 154 六〇 主婦之友社 三月
▲蜜蜂の飼養は收益多く趣味あるもの、蜂種の選擇と養蜂着手の好時期、器具其他九章にて副業としての養蜂を説述。

# 一三、工業

## 工業政策・工場經營

| 著者 | 書名 | 形體裝幀 | 頁數 | 定價 送料 | 發行所 | 月發行 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 商學博士 田中貢 | 日本工業政策 | 菊判 函入 | 376 | 二、八〇 一八 | 栗田書店 | 二月 | ▲我國工業の適否を選別し、工業國策樹立の急務を說いたもので、工業政策概說、生產政策、分配政策の三章十六節。 |
| 川崎造船所業務部監査課長 神馬新七郎 | 工場經營と會計 —材料編— | 菊判 函入 | 194 | 二、〇〇 一八 | 共立社 | 三月 | ▲材料の購買、材料管理、購賣材料代金支拂手續、倉庫課獨立會計、材料管理と國民經濟との關係にて等六章。 |

## 土木・建築

| 著者 | 書名 | 形體裝幀 | 頁數 | 定價 送料 | 發行所 | 月發行 | 内容大意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 工學士 相澤時正 | 地下道と地下室 | 菊判 | 264 | 三、三〇 一八 | 大倉書店 | 九月 | ▲總說、基礎工、鐵筋混凝土支柱の理論、土桁の理論、壁、石透水性混凝土等十四章。 |
| 工學士 相澤時正 | 混凝土用型枠 附—實用表— | 四六判 | 249 | 二、〇〇 一八 | 大倉書店 | 十月 | ▲コンクリート工事の重要部を占むる型枠の製作、取付、取外し、費用その他に就き歐米の模範的型枠に例を取り說述す。 |
| 東京市役所編 | 下水道設計標準圖 | 菊倍判 函入 洋布 | 119 | 三、〇〇 二八 | 東京市役所 | 六月 | ▲下水道設計標準圖（合流法による敷設一般圖外九十圖）下水道設計標準構造材料表（圖形管敷設材料表外廿七圖）。 |




# 内容本位の德文堂發行最良書

▼免許證の獲得・操縱の技能・車の壽命・消耗品の經濟・何れも書籍の力!!

| | | | 定價 | 送料 |
|---|---|---|---|---|
| 奥泉 欽次郎 | 圖解 新本位 A型 | フォード車取扱講義 | 2.50 | 18 |
| 巽 清治 | 最新 新舊 | フォード自動車圖解 | 2.30 | 18 |
| 同 | 受驗必携 新舊 | フォード自動車の知識 | 1.50 | 16 |
| 同 | 受驗必携 新舊 | シボレー自動車の知識 | 1.50 | 18 |
| 同 | 受驗圖解 參考本位 | 新型各種實用自動車詳解 | 2.30 | 18 |
| 奥泉 欽次郎 | 最新圖解 知識本位 | 一般自動車講義 | 5.00 | 27 |
| 同 | 最新 | 自動車點燈 始動 點火 電氣裝置講義 | 3.80 | 27 |
| 同 | 最近 | 自動車運轉手試驗の研究 全國標準問題と答案の書方 | 1.70 | 16 |
| 岡高 博 | 警視廳及各府縣 自動車試驗問答 | 最新式 カード式 勉強法 | 90 | 4 |
| 築瀨 幸三郎 | 受驗圖解 速成本位 最近 | 自動車試驗問答全集 | 2.00 | 16 |
| 鈴木 且美 | 英和對譯 | 最新自動車用語解說 | 80 | 4 |
| 奥泉 欽次郎 | 圖解本位 獨習用 | 最新オートバイ全書 | 2.50 | 18 |
| 岡高 博 | 最新圖解 | オートバイの實際知識 | 3.00 | 18 |
| 警視廳 笠木嘉一 | | 自動車の取締標準 | 60 | 4 |
| 受驗モーター社編 | | 實地試驗の受方と其練習法 | 40 | 2 |
| 德文堂編輯部 | 最近改正 | 自動車取締法規集 | ポケット 35 カナ付 50 | 4 4 |

内容 警視廳・内務省・神奈川・千葉・埼玉・群馬・茨城・栃木・福島・靜岡・願書々式・乘車基本料金・稅率表・警察犯處罰令全部

▼此の他自動車の參考書なら何んでもある（どうか皆樣の書籍店として多少に拘らず是非御用命を賜りたう存じます。）【カタログ無代進呈】確實、迅速、親切。

發兌 東京市芝區三田通り一ノ二（三田警察署際）
振替東京34160番 電話高輪7129番 德文堂書店

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 京都帝國大學教授 工學博士 三浦耀 | 剛節構理論 | 菊判 洋布 | 300 | 四、五〇 二七 | 丸善株式會社 六月 |
| 工學博士 鷹部屋福平 | 高級桁梁論 | 菊判 函入 洋布 | 456 | 六、〇〇 一八 | 岩波書店 六月 |
| 鐵道技師 渡邊寛治 | 隧道施工法 | 菊判 洋布 | 332 | 三、八〇 二七 | 大倉書店 十月 |
| 畑中健三 | 名橋巡ぐり | 四六判 函入 洋布 | 284 | 二、五〇 一二 | 太陽堂 九月 |
| 工學士 瓜生康一 | 實用を主としたる材料强弱論 | 四六判 上製 | 218 | 二、〇〇 一八 | 丸善株式會社 五月 |
| 建築技師 久恒治助 | 改訂建築工事仕樣及積算法 —下卷、積算法之部— | 菊判 洋裝 | 517 | 五、五〇 二七 | 鈴木書店 四月 |
| ル・コルビュジエ著 工學士 宮崎謙三譯 | 建築藝術へ | 菊判 函入 洋布 | 289 | 三、八〇 一八 | 構成社 九月 |
| 國際建築協會編 | ル・コルビュジエ | 四六倍判 上製 | 249 | 二、八〇 一八 | 國際建築協會 八月 |
| 吉田鐵郎編 | 世界の現代建築 第二輯—デンマルク | 菊判 並製 | 16 | 二五 四 | 洪洋社 十月 |
| 伊藤清造 | 支那の建築 | 四六判 函入 布裝 | 617 | 四、五〇 一八 | 大阪屋號 十月 |

▲鐵筋混凝土の發達に伴つて著しく唱導されてきた剛節構造に就て撓角法と定點法の二方法、矩形構等を說述せるもの。

▲連續桁理論、固定桁理論、完全固定桁竝に不完全固定桁理論、彈床上の桁に關する理論水平結構理論外一章。

▲技術方面の說明は勿論從來此種の著者が看過せる經營經濟方面にも力を注ぎ、且つ長大隧道の工事方法を詳述してある。

▲東西古今の橋梁を解說せるもので、本朝三大橋、廢絕したる三大橋、海道の名橋、日本三奇橋其他十七章。

▲材料論、曲能率、梁の計算、柱の計算、トラスの計算、リベットの計算、架構桁等にて實用を主として說いたもの。

▲仕樣及積算法全四卷中の積算法之部なり、數十の圖面と共に建築工事の見積法を詳說せるもの。

▲技術家の美學と建築、建築家に對する三つの注意、設計規格、見ざる眼、建築藝術、連續生產の家屋外一章。

▲傑れた建築家コルビュジエに關する谷口吉郎以下十四氏の研究印象感想十五篇及七氏譯の文獻十一篇と作品多數を揭ぐ。

▲デンマルクに於ける現代建築の最も著しい特質を有してゐる建築物の圖を收めたものでコーペンハーゲンの警視廳外十五圖。

▲世界的な驚異とされてゐる支那古代建築に就いて說いたもので、漢宮の裝飾、神仙の宅推論時代の建築外廿九章挿畫一一六。





| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 伊藤清造編 | 奉天宮殿建築圖集 | 四六倍判 函入 並製 | 65枚 | 三、五〇 一八 | 洪洋社 七月 |
| 三桂會編 | 陸軍軍醫學校 牛込恩賜財團濟生會病院 | 四六倍判 上製 | 108 | 三、八〇 一八 | 洪洋社 六月 |
| 佐藤彰美 | 和洋建築常識 | 四六判 洋布 | 313 | 一、八〇 八 | 大倉書店 四月 |
| 工學博士 內藤多仲 外八工學士著 | 建築構造要覽 上卷 | 菊判 函入 布裝 | 703 | 五、五〇 一八 | 早稻田大學出版部 六月 |
| 工學士 太田信市 | 基本二百問題と其回答 初步建築學 | 四六判 上製 | 232 | 一、五〇 八 | 潮文閣 四月 |
| 建築技師 山本悟郎 | 誰にでも解る直ぐ役に立つ建築の實際知識 | 四六判 函入 洋布 | 616 | 四、五〇 特三、五〇 一二 | 二松堂 九月 |
| 主婦之友社編輯部編 | 中流和洋住宅集 | 菊判 上製 | 82 | 九〇 六 | 主婦之友社 三月 |
| 朝日新聞社編 | 朝日住宅圖案集 —懸賞中小住宅八十五案— | 四六倍判 函入 背布 | 381 | 三、〇〇 二四 | 朝日新聞社 六月 |
| 芹澤英二 | 新意匠の小住宅 | 菊判 函入 洋布 | 316 | 二、八〇 一八 | アルス 五月 |
| 構成社編 | 建築細部集 第一輯—グリル | 四六倍判 函入 | 20葉 | 一、〇〇 一二 | 構成社 十月 |

▲奉天舊城內に殘つてゐる宮殿の各建物の寫眞と實測圖とを收めたもので、崇政殿簷柱實測圖以下六十五圖。

▲大正十二年の大震災に震害を被り以來移轉改增中の陸軍々醫學校竝に牛込恩賜財團濟生會病院の建築寫眞集。

▲土地選擇に付き注意すべき要點、基礎工事、木材、大工々事、間取心得、建具工事外四十二章にて極く解り易く述ぶ。

▲建築の構造方面に關與する人々に必要な資料を集錄詳述した書で、設計資料附木造計算（森泰治）外十篇。

▲力の單位とは如何、力の合成とは如何其他和洋兩式上重要なる問題を揭げ初學者の爲に圖解及挿繪を挿入して說く。

▲建築構造の種類、準備事業、基礎工事、外壁、木骨壁、洋式軸組、和式軸組、木骨壁の仕上げ其他にて詳述。

▲便利な二間の小住宅以下十五項にて中流生活者に手頃な和洋住宅設計圖及びその詳細を說明した書。

▲朝日新聞社の新時代の中小住宅圖案の懸賞應募五百案中より嚴選した小川光三外八十四氏の圖案を輯めたもの。

▲千五百圓で建てた健康の家其他卅一項にて設計圖を揭げて詳細解說したもの。總說新日本住家への一提案。

▲鍛鐵格子二種、窓と格子及鍛鐵格子、鍛鐵露臺及び鍛鐵格子、鍛鐵グリルと鍛鐵欄干、窓と格子外十五圖。